休刊シタルトキ

二　雜誌ニ在リテハ一回以上休刊シタルトキ

前項ノ取扱ヲ受ケタルモノニ對シテハ復後三月以上繼續發行スルニ非ザレバ無賃乘車證ノ交付ヲ爲サズ

第十九條ノ二　軍人傷痍記章ヲ授與セラレタル者ニハ左ノ區別ニ依リ通用期間十五日以內ノ無賃乘車證ヲ交付スルコトヲ得但シ現ニ軍人傷痍記章ヲ佩用シ且傷痍記章授與證書ヲ携帶スル者ニ限ル

一　恩給法別表第二號表特別項、第一項乃至第四項該當者　　每年十二回以內

二　恩給法別表第二號表第五項及第六項該當者　　每年四回以內

三　恩給法別表第三號表第一款乃至第四款該當者　　每年二回以內

第十九條ノ三　軍人傷痍記章ヲ有シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ附添人一名ヲ限リ無賃乘車ノ取扱ヲ爲スコトヲ得

一　恩給法別表第二號表特別項、第一項及第二項ニ該當スル者

二　恩給法別表第二號表第三項乃至第六項又ハ同第三號表第一款乃至第四款該當者ニシテ同第二號表特別項、第一項又ハ第二項ト同等ノ機能障害ヲ貽ス者單獨ニテ旅行スルコト能ハサル場合

第十九條ノ四　第十九條ノ二及第十九條ノ三ニ依ル無賃乘車證ノ等級ハ准士官以上及其ノ附添人ハ貳等其ノ他ハ參等トス

第十九條ノ五　軍人傷痍記章ヲ授與セラレタル者無賃乘車證ノ交付ヲ受ケントスルトキハ左ノ樣式ニ依ル無賃乘車證交付願ヲ提出スヘシ

樣式

（用紙半紙）

無賃乘車證交付願

本籍地
現住所
（兵籍ニアリタル官等級）　　氏　名　　生年月日

傷痍記章授與證書番號　種別　號　　附添人　氏　名

自　年　月　日
至　年　月　日　無賃乘車證交付相成度候也

年　月　日

右　氏　名㊞

鐵道事務所長　殿

（棒注）

第十九條ノ六　第十九條ノ三第二號ニ依リ附添人ヲ要スル者ニ在リテハ前條ニ依ルノ外陸海軍醫官又ハ鐵道囑託醫ノ現症證明書ヲ添附スルヲ要ス但シ第二回以後交付願提出ノ場合ハ此限ニ在ラス

第三章　鐵道部內無賃乘車證

第二十條　公暇ヲ利用シテ旅行スル職員ニ對シテ交付スル無賃乘車證ハ一ケ月二回ヲ限度トス但シ徵兵檢查、點呼又ハ兵役召集、官公衙ノ召喚、鐵道部內ノ試驗ニ應スル場合又ハ看護歸省其他已ムヲ得サル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條　職員又ハ其ノ家族ニシテ鐵道囑託醫ノ診療ヲ受ケ引續キ通院ヲ要スル旨ノ診斷書若クハ證明書アル者ニ對シテハ最近鐵道囑託醫

（棒注）

所在地迄臨時乘車證第一種ヲ交付スルコトヲ得

鐵道囑託醫以外ノ專門醫ニ通院スルトキハ前項ニ準シ之ヲ交付スルコトヲ得

第二十二條　職員又ハ其ノ家族ニシテ診療用乘車證ノ交付ヲ受ケタルトキハ診療ノ證トシテ其ノ裏面ニ左記ニ依リ證印ヲ受クヘシ

囑託醫ノ診療ヲ受ケタル者ハ當該囑託醫ノ認印又ハ院名印

開業醫ノ診療ヲ受ケタル者ハ當該醫師ノ認印

第二十三條　鐵道沿線ニ居住スル職員ノ子弟ニシテ列車ニヨリ小學校、中學校若ハ之ト同程度ノ學校ニ通學スルモノハ學校長ノ在學證明書ヲ添付シ其ノ區間ニ對シ無賃乘車證ヲ交付スルコトヲ得

本條ノ等級ハ三等トス

第二十四條　通學乘車證ハ總テ定期トシ其ノ期間ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル一ケ年ヲ限度トス

第二十五條　職員ノ家族ニシテ現ニ同居スル者ニ對シテハ每月一回五日以內本人乘車證ト同等級ノ臨時第一種乘車證ヲ交付スルコトヲ得

第二十六條　家族無賃乘車證ニハ必ス本人ノ勤務場所官職氏名及其ノ家族トノ續柄並年齡ヲ明記スヘシ

第二十七條　赴任又ハ轉勤ヲ命セラレタル職員ニシテ勤務地ヘ家族若ハ從來使用セル僕婢ヲ伴フ場合ハ該職員ノ舊居住地ヨリ新居住地ニ至ル區間片路一回ヲ限リ本人ト同等級ノ臨時第一種無賃乘車證ヲ交付スルコトヲ得

第二十八條　職員在職中死亡シタルトキハ無賃ニテ其ノ遺骸ヲ運送シ且ツ其ノ遺族引取及歸鄉ノ爲旅行スル遺族ニ對シテ一回限リ臨時第一種無賃乘車證ヲ交付スルコトヲ得

第二十九條　職員又ハ其ノ家族ニシテ鐵道囑託醫ノ診療ヲ受ケ引續キ通院ヲ要スル旨ノ診斷書若クハ證明書アル者ニ對シテハ最近鐵道囑託醫

（棒注）

無賃乘車證ヲ交付スルコトヲ得

職員公務執行上負傷シタル場合ニ其ノ附添人又ハ看護ノ爲旅行スル家族ニ對シ亦同シ但シ回數ハ醫師ノ證明ニヨリ前項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第二十九條　職員刑事裁判又ハ懲戒處分ニ據ルニ在ラスシテ退官、退職又ハ休職ヲ命セラレタルニヨリ歸鄉スルトキハ本人及其ノ同伴家族ニ對シ片路一回臨時第二種無賃乘車證ヲ發行スルコトヲ得

第四章　發行及整理

第三十條　無賃乘車證ハ鐵道事務所長ノ命ヲ承ケ庶務係長之ヲ發行スルモノトス但シ必要アルトキハ鐵道事務所長ハ其ノ發行方ヲ他ニ命スルコトヲ得

第三十一條　各驛長、機關庫主任、車掌監督ハ所屬職員ニ對シ臨時第一種無賃乘車證ヲ鐵道部內ノ職員ニ限リ之ヲ發行スルコトヲ得

事務所々在地以外ニ勤務スル保線從事員又ハ其ノ他職員ニ對シテハ最寄ノ驛長前項ニヨリ之ヲ發行ス

第三十二條　職員ニシテ家族乘車證ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ第三號樣式ニヨル無賃乘車證下附願ヲ提出スヘシ

第三十三條　各驛長、機關庫主任、車掌監督ハ使用濟乘車證ヲ運滯ナク回收シ庶務係長ニ提出スヘシ但シ自驛所ニテ發行シタル臨時無賃乘車證ニ在リテハ原簿ニ貼付シ置キ百枚綴一冊使用後ニ提出スヘシ

第三十四條　各驛長、機關庫主任、車掌監督ハ第三十二條ニヨリ發行シタル乘車證ノ發行交付數ヲ第四號樣式ニヨリ翌月五日迄ニ鐵道事務所長ニ報告スヘシ

附　則

明治四十年八月訓令第百十七號ハ之ヲ廢止ス

本令ハ大正十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和二年訓令第四百三十四號）

本令ハ昭和二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前發行シタル無賃乘車證ニ付テハ猶從前ノ規定ニ依ル

第一號樣式

荷主待遇無賃乘車證交付願（半紙半截）

左記三ヶ月ニ於ケル託送荷物運賃ニ對シ左ノ通無賃乘車證交付相成度

年　月　日

社長、店主、支配人

鐵道事務所長殿

左記

荷物運賃會社店主名		
月分	記名者資格	
合計　圓	姓名、年齡	
	託送驛長證印	

第二號樣式（削除）

第三號樣式

家族乘車證下付願（半紙半截）

本人トノ續柄　名歲

乘車スヘキ期間　自大正　年　月　日　至　年　月　日

區間　自　至

右同一世帶ノ家族ニ有之現ニ同居致居ル者ニ相違無之候ニ付家族乘車證下附相成度

年　月　日　勤務簡所　官職　氏　名

第四號樣式

所長　庶務係長　驛長

月分無賃乘車證

種別	發行番號	發行枚數	未發行枚數	未回收數
		二等　三等	二等　三等	
職務用	自			
	至			
待遇用	自			
	至			

●專用線作業契約準則

大正十四年九月三十日
訓令第二百二號

改正　昭五年三月訓令七七號、六年六月一四二號

鐵道事務所

專用線作業契約準則

第一條　專用鐵道及特定貨主ノ專用ニ供スル側線（以下併セテ專用線ト稱ス）ニ對スル作業契約ハ本準則ニ依リ鐵道事務所長之ヲ締結スヘシ但シ本則ニ依リ難キモノハ理由ヲ附シ認可ヲ受クヘシ

第二條　專用線ニ依リ取扱フ貨物ハ第二十條ノ場合ヲ除クノ外聯絡線又ハ連帶線ニ亙リ運送セラルル貨切扱ノモノニ限ル

【棒法】

第三條　手押ニ依リ專用線ニ貨車ノ出入ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ作業ハ相手方ノ負擔トス

前項ノ作業ニ關シテハ相手方ハ接續驛長又ハ所管驛長ノ指揮ニ從フモノトス

第四條　機關車ニ依リ專用線ニ貨車ノ出入ヲ爲ス場合ニ於テハ廳ノ定ムル運轉方法及運轉時刻ニ依ルモノトス

第五條　廳ニ於テ專用鐵道ノ運轉管理ヲ爲ス場合ニ於テハ車輛附屬品及取扱人ヲ提供ス

第六條　專用鐵道所有者ハ常ニ其ノ線路ヲ列車運轉ニ支障ナキ狀態ニ置クモノトス廳ニ於テ專用鐵道線カ列車運轉ニ支障アリト認メタルトキハ其ノ運轉ヲ中止スルコトヲ得

第七條　專用線作業粁程ハ左ノ各號ニ依リ廳ニ於テ之ヲ測定ス

一　驛構內ヨリ分岐スル專用線

分岐點ヨリ專用線最長終端ニ至ル粁程

二　驛構內側線ヨリ分岐スル專用線

當該側線ノ分岐點ヨリ專用線最長終端ニ至ル粁程

三　本線途中ヨリ分岐スル專用線

所管驛ヨリ分岐點ニ至ル粁程ト分岐點ヨリ專用線最長終端ニ至ル粁程トノ併算粁程

四　專用線ヨリ更ニ分岐スル專用線

基本專用線ノ分岐點ヨリ分派專用線ノ一部ト看做シ前各號ニ準ス

配線ノ狀態等ニ依リ前項ニ依リ難キ專用線作業粁程ハ廳ニ於テ實狀ヲ參酌シ之ヲ決定スルモノトス

前二項ニ依リ作業粁程ヲ測定スル場合ニ於テハ一・六粁未滿ハ之ヲ一・六粁ニ切上クルモノトス

第八條　貨物及貨車ノ受授ハ接續驛又ハ所管驛構內ニ於テ之ヲ爲シ其ノ地點ハ當該驛長之ヲ定ムルモノトス

第九條　廳有機關車ヲ以テ專用線出入作業ヲ爲ス場合ニ於テ專用線ニ廻入スル貨車ハ接續票又ハ所管驛發時刻ヨリ起算シ片道積載ノトキハ六時間、往復共貨物積載ノトキハ十二時間以內ニ貨物ノ積卸ヲ終了スヘキモノトス相手方ニ於テ專用線出入作業ヲ爲ス場合ニ於テ專用線ニ廻入スル貨車ハ前條ノ受授時刻ヨリ起算シ前項ノ制限時間內ニ接續驛迄返還スヘキモノトス

前二項ノ規定ハ私有貨車ニ對シテハ之ヲ適用セス

第十條　專用線ニ出入スル貨車ニ對シテハ貨車使用料トシテ作業粁程片道一・六粁貨車一車ニ付左ノ料金ヲ收受ス

專用鐵道線

一　大ナル標記廻數十四廻以下ノ貨車　四錢

一　大ナル標記廻數十五廻以上ノ貨車　六錢

特定貨主ノ專用ニ供スル側線

一　大ナル標記廻數十四廻以下ノ貨車　八錢

一　大ナル標記廻數十五廻以上ノ貨車　十二錢

前項ノ貨車使用料ハ空貨車及私有貨車ニ對シテハ之ヲ收受セス

第十一條　廳有機關車ニ依リ出入作業ヲ爲ス場合ニ於テハ運轉料トシテ專用線作業粁程一・六粁ニツキ往復各一圓五十錢ヲ收受ス

接續驛又ハ所管驛以外ノ驛ヨリ特ニ機關車ヲ廻送スル場合ニ於テハ其

【棒法】

ノ廻送粁程一・六粁又ハ其ノ未滿ニ付往復各一圓五十錢ヲ收受ス

第一項ノ運轉料ハ廳鐵道用品積載用貨車ト其ノ他ノ貨車トヲ併結運轉ノ場合ニ於テハ其ノ車數ニ依リ按分シ運轉料金率ニ低減ス此ノ場合ニ於テ錢未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

第十二條　專用線ノ全部又ハ大部分カ停車場本來ノ構內ニ敷設セラレタルモノニ對シテハ前二條ノ料金ハ之ヲ收受セサルモノトス但シ出入作業ニ對シ特ニ機關車ノ使用ヲ要求スルモノニ對シテハ前條ノ料金ヲ收受スルモノトス

第十三條　第九條ニ定メタル制限時間內ニ貨物ノ積卸ヲ終ラサルトキ又ハ貨車ノ返還ヲ爲ササルトキハ以後ノ時間ニ對シ棒太廳鐵道貨物運送規程ニ定ムル貨車留置料ヲ收受ス但シ廳ノ都合ニ依リ遲延シタル時間ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

貨車廻入後其ノ使用ヲ取消シタルトキハ棒太廳鐵道貨物運送規程ニ定ムル處分手數料及貨車留置料ヲ收受ス

第十四條　專用線貨車出入ノ爲特ニ踏切看守ノ配置ヲ要スル場合專用線連絡ノ爲特ニ信號所ノ設置ヲ要スル場合竝專用線內ニ於ケル貨物取扱及構內作業ノ爲特ニ係員ノ增加ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ經常費ヲ收受ス

前項ノ經常費ハ年額ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

第十五條　專用鐵道線內列車運轉ノ爲特ニ廳ヨリ貨物緩急車ヲ提供シタルトキハ車輛使用料トシテ一車一日又ハ其ノ未滿ニ付三圓ヲ收受ス

第十六條　專用線內ニ於テ發生シタル貨物車輛其ノ他ニ對スル損害ハ相手方ノ負擔トス但シ廳ノ責ニ歸スヘキ事由ニ依リ發生シタルモノニ付

テハ此ノ限リニ在ラス前項ノ規定ハ相手カ專用線ニ非サル線路ニ於テ作業ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

相手方ノ負擔ニ屬スヘキ廳有車輛ノ破損箇所修理ハ廳ニ於テ之ヲ爲シ其ノ費用ヲ相手方ヨリ收受スルモノトス

第十七條　廳ハ運輸上必要アルトキハ自己ノ爲專用線ヲ使用スルコトヲ得ルモノトス

第十八條　相手方カ第三者ニ對シ專用線ノ使用ヲ爲サシメムトスルトキハ廳ノ承認ヲ受クヘキモノトス

前項ノ場合ニ於テハ本準則ヲ適用シ相手方及第三者ハ廳ニ對シ連帶シテ其ノ責ニ任スルモノトス

第十九條　相連絡スル二箇以上ノ專用線ニ對シ作業契約ヲ締結スル場合ニ於テハ廳ヲ當事者ノ一方トシ他ノ當事者ヲ併セ當事者ノ一方トス此ノ場合ニ於テハ當該當事者ハ廳ニ對シ連帶シテ責任ヲ負擔シ且單獨ニ行爲スルコトヲ得サルモノトス

第二十條　相手方カ其ノ專用線內專用線ト其ノ接續驛間又ハ同一驛ニ接續スル二專用線間ニ於テ貨物運送ノ爲廳有貨車ヲ使用セムトスルトキハ廳ノ承諾ヲ得テ之カ貸渡ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

前項ノ場合ハ左ノ料金ヲ收受ス

一　大ナル標記廻數十四廻以下ノ貨車一車一日ニ付　三圓

一　大ナル標記廻數十五廻以上ノ貨車一車一日ニ付　四圓五十錢

專用線ト其ノ接續驛間又ハ同一驛ニ接續スル二專用線間ニ於テ前項ニ

〔棒法〕

依リ貸渡シタル貨車又ハ相手方所有ノ貨車ヲ運轉セシメタルトキハ其ノ接續驛發著又ハ通過ニ對シ一發著又ハ一通過毎ニ貨車發著手數料トシテ左ノ料金ヲ收受ス

貨車ノ大ナル標記廻數一廻ニ付　三十錢

專用線內ニ於テ第一項ニ依リ貸渡シタル貨車又ハ相手方所有ノ貨車運轉ノ爲廳有機關車ヲ使用シタルトキハ第十一條ノ運轉料ヲ收受ス

第二十一條　第十條、第十一條、第十三條、第十四條、第十五條及第二十條ノ料金ハ廳ノ指定ニ隨ヒ納入スルモノトス

第二十二條　本準則ニ依ル契約ハ双方三箇月前ノ豫告ヲ以テ之ヲ解除スルコトヲ隨ルモノトス

廳ハ一ヶ月前ノ豫告ヲ以テ料金及取扱條項ノ變更ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

相手方ニ於テ契約違反ノ行爲アリタルトキハ廳ハ何時ニテモ車輛ノ出入ヲ停止シ又ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第二十三條　本準則ニ依ル契約ノ期間ハ會計年度ヲ超ユルコトヲ得ス但シ期間ノ末日一箇月前迄ニ双方ヨリ何等ノ申出ナキトキハ契約ヲ次ノ一箇年間繼續スルコトヲ得以後期間ニ付亦同シ

附　則

第二十四條　本準則ハ大正十四年十一月一日ヨリ施行ス

第二十五條　本準則ニ依ル施行細則ハ鐵道事務所長ニ於テ之ヲ定ムルモノトス

第二十六條　本準則ハ廳有砂利線內ニ於テ貨物積卸ノタメ貨車ヲ出入セシムル場合ニ之ヲ準用ス但シ第十條ノ貨車使用ハ作業粁程片道一・六粁積載貨物一廻ニ付八錢トス

前項ノ場合ニ於テ該貨物ノ運送區間カ廳有砂利線內ニ止マルトキハ貨車使用料ノ最低額ハ一車ニ付六圓トス

〔棒法〕

●貨物取扱人構內入場規程

昭和三年十一月七日
告示第二百二十九號

貨物取扱人構內入場規程左ノ通定ム

貨物取扱人構內入場規程

第一條　本規程ニ於テ貨物取扱人ト稱スルハ停車場構內貨物庫及積卸場ニ立入リ貨物ノ取扱ニ從事スル者ヲ謂フ

第二條　貨物取扱人ハ棒太廳鐵道ニ關スル諸規則ヲ遵守スルノ外總テ驛長ノ指揮ニ從フヘシ

第三條　貨物取扱人ハ鐵道構內ニ於テ喫煙及焚火等ヲ爲スヘカラス

第四條　貨物取扱人入場中當廳ニ損害ヲ及ホシタルトキハ其ノ所屬貨主、運送店主等ニ於テ之カ賠償ノ責ニ任スルモノトス

第五條　棒太廳鐵道事務所長ノ指定セル驛又ハ荷客扱所ニ在リテハ貨物取扱人ハ本規程ニ定ムル入場鑑札ヲ携帶スルコトヲ要ス

第六條　入場鑑札ハ其ノ取扱人ノ屬スル貨主、運送店主等ノ請求ニ依リ所管驛長之ヲ交付スルモノトス

第七條　入場鑑札ノ再交付ヲ求ムルトキハ手數料トシテ一枚ニ付金二十

錢ヲ納付スルモノトス

第八條　入場鑑札ハ木札トシ樺太廳鐵道事務所ニ於テ之ヲ調製ス其ノ樣式左ノ如シ

表面

幅一寸八分

何驛第　號
又ハ所
入場鑑札
何運送店又ハ何組
番號

縱三寸

厚三分

裏面

樺太廳鐵道事務所

烙印

附則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●樺太廳鐵道營業粁程

昭和五年三月十六日
告示第二十九號

改正　昭五年六月告示九八號、一〇月一八八號、二〇八號、一一月二一二號、二一九號、六年三月四四號、七年八月二一一號、八年一月七號、一一月二一八號、一二月二五三號

樺太廳鐵道營業粁程左ノ通定メ昭和五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

樺太廳鐵道營業粁程

東海岸線

驛名	區間粁
大泊港	0
榮町	1.4
大泊	1.2
楠溪町	1.3
一ノ澤	3.5
二ノ澤	1.1
三ノ澤	2.2
貝塚	3.6
新場	3.4
中里	5.7
豐南	8.1
大澤	6.0
豐原	4.1
北豐原	2.2
草野	3.7
小沼	5.0
富岡	8.9
深雪	5.3
大谷	7.1
小谷	4.9
落合	6.1
榮濱	10.3

榮濱海岸支線

驛名	區間粁
榮濱	0
榮濱海岸支線	1.8

川上線

驛名	區間粁
小沼	0
川上	5.6
川上溫泉	5.3
奥川上	2.2
中山	5.6
川上炭山	3.2

豐眞線

驛名	區間粁
豐原	0
西久保	5.2
鈴谷	4.7
奥鈴谷	6.3
瀧ノ澤	13.4
中野	12.9
清水	5.3
逢坂	4.8
二股	7.4
寶臺	9.1
池ノ端	9.2
手井	5.5

西海岸線

驛名	區間粁
本斗	0
遠節	4.3
阿幸	7.0
麻內	5.1
知根平	5.0
多蘭泊	4.0
大穗泊	5.6
廣地	3.6
明牛	5.3
湯ノ澤	1.0
手井	3.3
眞岡	3.1
北眞岡	2.9
幌泊	5.7
樂磨	4.1
蘭泊	2.7
藻白帆	3.8
羽母舞	7.0
小能登呂	6.1
仁多須	7.0
登富津	3.2
野田	5.1
久良志	5.3
小岬	10.0
追手	11.0
杜門	7.6
泊居	8.4

眞岡海岸支線

驛名	區間粁
眞岡	0
眞岡海岸支線	1.8

本斗海岸支線

驛名	區間粁
本斗	0
本斗海岸支線	1.3

附則

昭和三年八月樺太廳告示第百七十七號ハ昭和五年三月三十一日限リ之ヲ廢止ス

●北豐原信號場貨物取扱竝營業哩

大正十四年十月三十日
訓令第二百十九號

改正　昭三年五月訓令三二七號

鐵道事務所

北豐原信號場ニ於テ同所ヨリ分岐スル王子專用線及遠藤側線ニ發著ノ貨物ニシテ鐵道事務所長ニ於テ專用線作業契約準則ニ據リ契約シタルモノニ限リ貨物ノ取扱ヲ爲ス但シ貨物營業哩程ハ營業哩程ニ十八割ヲ乘ジ算出シタルモノトス

●樺太廳鐵道傭人規則

昭和七年六月二十六日
訓令第百四十七號

樺太廳鐵道傭人規則左ノ通改正ス

樺太廳鐵道傭人規則

第一章　通則

第一條　本令ニ於テ傭人トハ樺太廳鐵道部內傭人職名ニ依ル第一種傭人、第二種傭人及第三種傭人ヲ謂フ

第二章　採用

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ傭人ニ採用スルコトヲ得ス

一　罰金以上ノ刑（過失犯ヲ除ク）ニ處セラレタル者

二　禁治產者及準禁治產者

三　家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ未タ復權セサル者
四　官私ヲ問ハス奉職中不都合ノ所爲アリタル者
五　年齢四十六年以上ノ者但シ特別ノ學術技能ヲ有スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　傭人ハ左ノ資格ノ一ヲ有シ鐵道囑託醫ノ身體檢査ニ合格シタル者ヨリ採用ス
一　尋常小學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スト認ムル者
二　鐵道省ニ於テ傭人以上ノ職ニ在リタル者
三　地方鐵道又ハ軌道ニ於テ傭人以上ニ相當スル職ニ在リタル者

第四條　傭人ヲ採用スルトキハ履歷書、戸籍謄本、身分證明書、身體檢査書及保證書ヲ差出サシム

第五條　身分證明書ハ第二條第一號乃至第三號ニ該當セサルコト及兵役ノ關係ヲ證明スルモノトス

第六條　保證書ニハ身元保證人ヲ要ス
保證人ハ本島ニ居住スル者二名トシ各獨立ノ生計ヲ營ム成年者トス
保證人死亡シタルトキ又ハ其ノ資格ヲ失ヒタルトキハ更ニ保證人ヲ定メ速ニ屆出ツヘシ其ノ住所ヲ變更シタルトキ亦同シ

第三章　使役及給與

第七條　給與ニ關シ本令ニ別段ノ定メナキモノハ明治四十年四月樺太廳訓令第七號囑託員雇員傭人給與規則ニ依ル

第八條　第一種傭人ノ勤務時間ハ鐵道事務所長業務ノ繁閑ヲ考量シテ之ヲ指定ス

第九條　第二種傭人ノ勤務時間ハ左ノ如シ

自十一月至二月	毎日	九時間
三、四、九、十月	毎日	十時間
自五月　至八月	毎日	十一時間

第十條　第二種傭人ヲシテ定時間外勤務セシメタル場合ニ於テハ一時間ヲ超過シタル勤務ニ對シ一時間ニ付日給額ノ百分ノ十ノ割合ヲ以テ增務給ヲ支給ス但シ定時間外勤務ニシテ引續キ午後八時後迄勤務セシメタル場合ニ於テハ最初ノ一時間ヲモ併算ス

第十一條　第二種傭人ヲシテ午前五時前又ハ午後八時後ニ勤務セシメタル場合ニ於テハ該勤務カ定時間外勤務ナルトキハ一時間ニ付日給額ノ百分ノ十三ノ割合ヲ以テ增務給ヲ支給ス

第十二條　第二種傭人ニ對スル增務給ハ給料計算期間ニ於ケル各定時間外勤務時數ニ依リ各別ニ算出シテ之ヲ通算シ厘以下ノ端數ヲ切捨テ本給ニ加算シテ支給スルモノトス

第十三條　第三種傭人ノ勤務時間左ノ如シ

一、二月	毎日	八時間
三、四、十一、十二月	毎日	九時間
自五月至十月	毎日	十時間

第十四條　第三種傭人ノ給料ハ日給額ニ對スル勤務定時間ヲ以テ一人トシ定時間內勤務時間數ニ應ジ人員ニ換算シテ之ヲ支給ス但シ其ノ換算ハ四捨五入ヲ以テ厘位ニ止ム

第十五條　第三種傭人ヲシテ定時間外勤務セシメタル場合ニ於テハ勤務一時間ヲ一歩ノ割合ニテ人員ニ換算ス

第十六條　第三種傭人ヲシテ午前五時前又ハ午後八時後ニ於テ勤務セシメタル場合ニ於テ該勤務カ定時間外勤務ナルトキハ一時間ニ付日給額ノ百分ノ三ノ割合ヲ以テ歩增給ヲ支給ス

第十七條　第二種傭人ニ對スル增務給並第三種傭人ノ定時間外勤務ニ對スル給料及歩增給ハ出張旅費ノ支給ヲ受クルトキハ之ヲ支給セス但シ風水火震害災害等ノ災厄ニ基ク應急工事其ノ他ノ場合ニシテ鐵道事務所長ニ於テ特ニ必要ト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル日數ハ之ヲ勤務日數ニ算入ス但シ病氣又ハ私事ノ故障ニ因リ當該日ノ前後引續キ缺勤シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
一　樺太廳鐵道傭人公暇規程ニ依ル公暇日
二　職務上ノ傷痍疾病ニ因ル缺勤
三　父母ノ祭日又ハ服忌ヲ受クル日
四　出張中ノ病氣缺勤
五　傳染病ノ爲交通遮斷又ハ隔離法施行中ノ缺勤
六　徵兵檢査又ハ簡閲點呼當日ノ缺勤並轉勤ノ爲已ムヲ得ス舊任地ニ於テ徵兵檢査又ハ簡閲點呼ヲ受クル者ニ對シテハ往復ニ要スル最少限度ノ日數
七　未敎育補充兵ニシテ聯隊區司令官ノ通牒ニ基キ發セラレタル市町村長ノ通知ニ依リ參集シタル當日ノ缺勤
八　水火災其ノ他非常罹災ニ因ル三日以內ノ缺勤
九　職務上ニ係ル事件ニ付證人、參考人又ハ鑑定人トシテ裁判所ニ召喚セラレタル當日ノ缺勤
十　故意怠慢ノ顯著ナル場合ヲ除キ鐵道事故ノ爲被疑者トナリ裁判所、檢事局又ハ警察署ニ召喚セラレタル當日ノ缺勤

第十九條　勤務ニ當番非番アル者ニ對シ定員中缺員出張又ハ缺勤ノ爲若ハ臨時ノ必要上非番ノ日ニ出勤セシメタルトキハ更ニ當日ノ日給ノ全額又ハ一部ヲ加給スルコトヲ得

第二十條　第三種傭人ニシテ公暇日當日臨時ノ必要上出勤ヲ命シタルトキハ更ニ當日ノ日給全額又ハ勤務時數ニ應シ其ノ一部ヲ加給スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
樺太廳鐵道工場傭人採用規程ハ之ヲ廢止ス

（履歷書樣式）（用紙美濃紙）

履歷書

本籍
現住所　氏名　生年月日

學事
一　何年何月何日　何學校入學
一　何年何月何日　何學校卒業

職業
一　何年何月何日　何官廳何職ヲ命ス（給料何程）
一　何年何月何日　何々ニヨリ辭職又ハ免職

賞　罰

一　何年何月何日　何々ニヨリ何々ノ賞又ハ罰ヲ受ク

右之通相違無之候也

年　月　日

右　氏　名　印

（保證書樣式）（用紙美濃紙）

保　證　書

參錢收入印紙　印

本　籍
現住所
氏　名　生年月日

右ノ者御所奉職中身上ニ關スル一切ノ件據者共ニ於テ引受ケ迷惑相掛申間敷殊ニ御所ニ對スル損害ニ付賠償ヲ命セラレ本人其ノ義務ヲ履行セサルトキハ據者共ニ於テ連帶辨償ノ責ニ任スヘク候依テ保證書如斯候也

年　月　日

本　籍
現住所　職業
保證人　氏　名　印
本　籍
現住所　職業

樺太廳鐵道事務所長殿

保證人　氏　名　印

●樺太國有鐵道運轉事故報告規程

大正十四年十一月十一日
訓令第二百二十三號

改正　昭五年一〇月訓令三七四號、七年五月一四號、八年四月二四號

鐵道事務所

樺太國有鐵道運轉事故報告規程左ノ通定ム

樺太國有鐵道運轉事故報告規程

第一條　運轉ニ關スル事故（以下單ニ事故ト稱ス）ハ總テ本規程ニヨリ報告スヘシ

第二條　事故ノ種別左ノ如シ但シ數種ノ事故併發シタル場合ニ於テハ左ノ各號ノ順位ニ從ヒ其ノ先位ノモノニ依ル

一　衝　突　同一線路上ニ於テ列車相互又ハ列車ト車輛若ハ「トロリー」トノ場合ニ限ル

二　列車接觸　異線間ニ於テ列車相互又ハ列車ト車輛若ハ「トロリー」トノ場合ニ限ル

三　車止衝撃　列車ノ場合ニ限ル

四　列車脫線

五　車輛接觸　異線間ニ於テ車輛相互又ハ車輛ト「トロリー」トノ場合ニ限ル

【縱法】

六　車輛脫線

七　激　突　車輛相互又ハ車輛ト車止トノ場合ニシテ死傷者又ハ車輛其ノ他ニ損害アリタルモノニ限ル

八　異線進入　列車ノ場合ニ限リ且異線運轉ヲ含ム

九　列車分離

一〇　車輛遺留

一一　車輛逸走　動力車ノ場合ニ在リテハ全部其ノ他ノ車輛ノ場合ニ在リテハ停車場外ニ出テタルトキニ限ル

一二　無閉塞運轉

一三　閉塞器誤扱

一四　票券誤扱　票券喪失及指導者誤乘

一五　閉塞器故障

一六　信號機故障

一七　線路故障　天災的障害物ニ因ル支障ヲ含ム

一八　列車障害　列車ト諸車馬類ト衝突ヲ謂シタル場合

一九　列車妨害　列車ニ對シ投石發砲シ又ハ線路ニ障碍物ヲ置キ若ハ信號機、轉轍器等運轉ニ關スル諸設備ヲ毀損シタルカ如キ場合

二〇　列車火災

二一　沿線火災　車輛火災ヲ含ム

二二　機關車故障　蒸汽不昇騰、空轉及炭水、砂缺乏ヲ含ム

二三　客車故障

二四　貨車故障

二五　信號機外停車　他ノ列車又ハ事故ニ依リ影響ヲ受ケタルモノヲ除ク

二六　列車遲延　同上

二七　死　傷

二八　其　ノ　他　前各號ニ屬セサル事故

第三條　前條各號ノ事故發生シタルトキハ其ノ輕重ヲ問ハス左ノ各號ニ依リ直ニ電報ニテ通報スヘシ

一　停車場內ニ於ケル事故ハ驛長ニ於テ鐵道事務所長ニ電報ニテ報告スヘシ

二　停車場外ノ列車ニ在リテハ主任車掌機關手ニ於テ前項ニ依リ處理スヘシ

三　前二號ニ屬セサル場合ハ現場關係ノ高級古參者ニ於テ第一號ニ準シ處理スヘシ

第四條　前條ニ依ル電報ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ即時判明セサルモノハ概報ノ後詳報スヘシ

一　發生時刻及天候（必要ニ依リ風位、風力）

二　場所（場所名、區間ニアリテハ兩端場所名及起點ヨリノ距離）

三　列車名（種類及番號、必要ニ應シ機關車番號、連結現車數及換算輛數、客貨車記號及番號竝保安設備ノ有無）

四　狀況及損害ノ程度

五　原因

六　死傷者（員數、負傷程度、職員、旅客、公衆ノ別）

七　處置

【縱法】

八　線路ヲ支障シタルモノニ在リテハ開通豫定時分但シ開通後ハ別ニ其ノ日時

第五條　鐵道運轉事故報告ハ提出者記名捺印シ關係係長及運輸係長經由ノ上三日以內ニ事務所長ニ報告スヘシ

（別紙樣式甲號）

第六條　前條ノ報告ハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス但シ文書ノミヲ以テ判明セシメ難キモノハ圖面又ハ寫眞ヲ添付スヘシ

一　事故ノ種別

二　發生日時及天候（必要ニ應シ風位及風力）

三　場所（線名、場所名、區間ニアリテハ起點ヨリノ距離）

四　列車又ハ車輛（列車上下ノ別種類、番號、機關車番號、換算、輛數及補助機關車連結位置）

五　狀況及損害ノ程度

六　死傷者（員數、負傷程度、全治豫定日數、男女ノ別並旅客ニ在リテハ乘車券ノ等級、區間、住所、職業、氏名及年齡、職員ニ在リテハ職氏名及年齡但シ年齡判明セサル場合ニ於テハ推定年齡）

七　線路支障時間（線路開通迄ニ要セシ時間）

八　原因

九　處置（事故ノ處理及死傷者ノ手當等）

一〇　關係者職氏名

一一　其ノ他必要ト認メタル事項

一二　監督者當該事故原因及責任所在ニ關スル意見並必要ニ依リ將來事故防止ノ意見

第七條　事故報告提出者ヲ左ノ通トス

驛長、車掌所主任、機關車主任、保線區主任、電氣區主任

第八條　事故報告ハ事故ノ區別ニ依リ更ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　轉轍器ニ關係アル事故

イ、其ノ種類（第何種聯動裝置、鎖錠付鍾柄双動ノ別等）

ロ、轉轍器番號及標識ノ有無

二　列車分離

イ、線路ノ勾配及曲線ノ半徑

ロ、分離箇所（前部ヨリ何輛目ノ前方又ハ後方並故障車輛ノ記號及番號）

ハ、故障箇所並連結器又ハ牽引裝置ニ在リテハ其ノ種類及故障部分（鉤桿鎖糸部ノ別）

ニ、故障部分ノ材質ノ良否及古玆ノ有無

三　車輛逸走

イ、風位及風力

ロ、線路ノ勾配

ハ、車輛停止中ノモノニ在リテハ轉動防護方法

四　車輛ノ故障ニ因ル事故

イ、車輛ノ記號及番號並盈空ノ別

ロ、故障部分最終檢查ノ場所、年月日及檢查ノ種類但シ列車檢查ヲ除ク

ハ、材質ノ良否及古玆ノ有無（必要ニ應シ製造所名及製造年月）

【裏面】

五　列車障害

イ、踏切道設備ノ有無並保安設備ノ有無

ロ、踏切番常置ノ有無（執務時間何時ヨリ何時迄等）及當時執務ノ狀況

ハ、線路ノ狀態及見透ノ難易

ニ、制動機ノ種類及乘務員ノ停止手配

ホ、停止後列車ノ前頭ト現場トノ間隔

六　沿線火災

イ、罹災者（住所、職業及氏名）

ロ、出火日時、天候、風位及風力

ハ、罹災物件ノ位置（線路ノ勾配、線路中心ト發火點トノ距離及地形並必要ニ應シ圖面添付）

ニ、罹災物件ノ種類（建物ニ在リテハ瓦板茅葺等ノ區別）

ホ、損害見積額（建物其ノ他ノ物件別）

ヘ、罹災者生活程度

ト、地方人情等參考トナルヘキ事項

チ、關係列車及機關車等（列車上下ノ別種類番號、機關車番號、所屬庫、牽引換算輛數、機關車乘務員職氏名及當該箇所通過時刻）

リ、機關車狀態及取扱方（火粉止裝置及風戶裝置ノ狀態加減弁及風戶裝置ノ取扱並投炭ノ有無等）

燃料ノ種類及性質（產地、炭名、塊粉ノ別、混合割合散火多寡等）

第九條　線路又ハ車輛ニ關スル運轉事故ニシテ其ノ原因カ材料ノ品質若ハ古玆等ニアリト認ムルトキハ其ノ局部ヲ少クトモ十日間保存スヘシ急速再用ノ要アルモノハ事務所長ニ經伺ノ上處理スヘシ

第十條　運輸係長ハ事故發生シタルトキハ速ニ調查ヲ遂ケ關係者ノ事故報告及當該責任者ノ手續書ヲ取纏メ審議ノ上一件毎ニ意見ヲ付シ七日以內ニ事務所長ニ提出スヘシ

第十一條　事務所長ハ重大ナル事故ニ對シテハ卽時別紙樣式乙號ニ依リ長官ニ報告スヘシ

第十二條　運輸係長ハ總テノ事故ヲ一箇月分取纏メ翌月中ニ別紙樣式丙、丁號ニ依リ事務所長ニ報告スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年八月訓第百十八號ハ之ヲ廢止ス

樣式甲號

所長	主事	係長	報告者職氏名
			官
			大正　年　月　日

事故報告書

事故ノ種別			
發生日時	大正　年　月　日午前後	時	分
終了日時	大正　年　月　日午前後	時	分
發生場所			

當該列車又ハ機關車若ハ車輛	列車進行停止時分	死傷者	事故ノ原因	現場ノ狀況	損害及ノ有無	當時ノ處置	關係者氏名	其ノ他ノ記事	監督者ノ意見

樺太廳鐵道事務所

樣式乙號

樺太廳長官　　　殿

鐵道事務所長

事故報告書

事故ノ種別	
發生日時	大正　年　月　日午前後　時　分
終了日時	大正　年　月　日午前後　時　分

發生場所	當該列車又ハ機關車若クハ車輛	列車進行停止時分	死傷者	事故ノ原因	現場ノ狀況	損害及ノ有無	當時ノ處置	關係者氏名	其ノ他ノ記事	監督者ノ意見

樺太廳鐵道事務所

樣式丙號

合計	其ノ他	列車遲延	信號機外停車	車輛故障			客車

〔樺法〕

運轉事故件數表　　大正　年　月分

事故ノ種別	件數 甲	件數 乙	件數 丙	件數 計	本年度累計 甲	本年度累計 乙	本年度累計 丙	本年度累計 計	前年同月比較増減 甲	前年同月比較増減 乙	前年同月比較増減 丙	前年同月比較増減 計
衝突												
列車接觸												
車止衝擊												
列車脫線												
車輛接觸												
車輛脫線												
激突												
異線進入												
列車分離												
車輛遺留												
車輛逸走												
無閉塞運轉												
閉塞器誤扱												
票券誤扱												
信號機故障												
線路故障												
送電故障												
列車障碍												
列車妨害												
火災 列車												
火災 沿線												
車 機關車												
車 貨車												

備考　甲トハ樣式甲號乙トハ樣式乙號ニ依リ報告シタルモノ
　　　丙トハ其ノ他ノ事故ヲ謂フ

記號	原因類別
A	機械、軌道、材料、其ノ他諸設備ノ缺點
B	規定ノ不備
C	犧牲的行爲
D	職員怠慢、未熟、過失
E	旅客、公衆、過失
F	故意的行爲
G	火災
H	其ノ他
K	不止得モノ
N	不明

一、本表ハ運轉事故死傷事故共通トス

二、事故件數字ニ當符號ヲ付シテ原因類別ノ便ニ供ス

三、原因類別數種ニ亙ルモノハ主因ニ依リ主副等差ナキモノハ上位ニ依ルモノトス

〔樺法〕

樣式丁號

準職員								合計		
事故		過失		自殺		不詳				
死	傷	死	傷	死	傷	死	傷	死	傷	計

職員トス

表　員人傷死轉運　　分月　年　正大

種別		職員 事故死	職員 故傷	職員 過失死	職員 失傷	職員 自殺死	職員 自殺傷	職員 不詳死	職員 不詳傷	衆公 事故死	衆公 故傷	衆公 過失死	衆公 失傷	衆公 自殺死	衆公 自殺傷	衆公 不詳死	衆公 不詳傷	旅客 事故死	旅客 故傷	旅客 過失死	旅客 失傷	旅客 自殺死	旅客 自殺傷	旅客 不詳死	旅客 不詳傷
人員 本年度累計	男																								
	女																								
	計																								
前年度比較増減	男																								
	女																								
	計																								

備考　一、旅客送迎者、牛馬附添人等ハ旅客トス
　　二、人夫等特種契約ノ下ニ乘車又ハ仕業中ノ者ハ便宜ヲ之ヲ準ス

●驛長以下貸與時計修理ノ件

明治四十年十月十七日
訓令第百五十三號

改正　昭八年訓九七號

長官官房（第一部）鐵道事務所

驛長以下職員貸與袖時計其破損修理ヲ要スル原因保管者取扱疎漏ヨリ生ジスルモノト認ムルトキハ自費ヲ以テ修理ヲナサシムヘシ

附　則　〔昭和八年訓九十七號〕

本令ハ昭和八年六月十日ヨリ之ヲ施行ス

●樺太廳鐵道廣告揭出規程

昭和二年十一月二日
告示第百九十五號

改正　昭五年一一月告示二二〇號、六年三月四九號

樺太廳鐵道廣告揭出規程左ノ通定ム

樺太廳鐵道廣告揭出規程

第一條　樺太廳鐵道建造物又ハ車輛ニシテ業務上支障ナキ箇所ニハ廣告物ヲ揭出セシムルコトヲ得

前項ノ廣告物ヲ揭出セムトスル者ハ鐵道事務所長ノ承認ヲ受クヘシ

第二條　前條ノ廣告ハ有料トス但シ官廳、公共團體又ハ連帶運輸會社ノ廣告ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　（削除）

〔樺法〕

第四條　廣告ノ料金並取扱手續ハ鐵道事務所長之ヲ定ム

附　則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

現ニ揭出中ノ廣告物ハ其ノ承認期間猶舊規定ニ依ル

●樺太廳鐵道停車場構內營業人規則

大正十三年四月十三日
廳令第十五號

改正　昭五年一〇月廳令三六號

樺太廳鐵道停車場構內營業人規則

第一章　出願手續

第一條　停車場構內營業ヲ出願セムトスルモノハ所在地驛長ヲ經由シ鐵道事務所長宛願書ヲ提出シ其ノ許可ヲ受クヘシ營業ノ繼續變更及廢業ニ就キ亦同シ

第二條　左記各號ノ一ニ該當スルモノハ停車場構內營業ヲ出願スルヲ得ス

一　未成年者、準禁治產者、禁治產者

二　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノ

第三條　樺太廳鐵道職員並ニ前記各號ノ一ニ該當スルモノハ保證人トナルコトヲ得ス

第四條　停車場構內營業ヲ出願繼續、變更廢業セムトスルモノハ左記樣式ノ營業人志願書ニ原籍市區町村長ノ證明ニ係ル出願人並ニ保證人ノ身元證明書ヲ添附提出スヘシ

〔樺法〕

營業人志願書書式

第一號書式（用紙半紙全紙以下同シ）

立賣營業（繼續）願

一　營業場所　何驛構內
一　營業期間　自　年　月　日　至　年　月　日
一　資子數　何　人
一　販賣品目　別紙ノ通

右營業（繼續）致シ度候間御許可被下度御許可ノ上ハ御所ノ御命令ニ從ヒ誠實ニ營業可致萬一御命令ニ違背シタル場合ハ御所ノ御都合ニテ何時御許可御取消相成候トモ異議申立間敷又御所ニ對シ損害ヲ及ホシタルトキハ保證人ト連帶ニテ辨償義務履行可致保證人連署此段及出願候也

年　月　日

原籍
現住所　本人氏　名印

原籍
現住所　保證人氏　名印

鐵道事務所長宛

（別紙）

販賣品目

品目	外裝形狀	單位	價格	記事
		個口	圓	

第二號書式

待合(旅館)營業(繼續)願

一營業場　何驛構內(何個所)
一營業期間　自年月日至年月日
一賣子數　出店何人立賣何人
一販賣品目　別紙ノ通
一出店建設物敷地　何箇所何坪何合何勺何才
右營業(繼續)……(第一號書式ニ同シ)
(別紙)
出店販賣品目　(第一號書式ニ同シ)
立賣販賣品目　(第一號書式ニ同シ)

第三號書式

出店營業(繼續)願

一營業場所　何驛構內、乘降場又何等室待合室
一營業期間　自年月日至年月日
一販賣品目　別紙ノ通
一建設物敷地　何箇所何坪何合何勺何才
右營業(繼續)……(第一號書式ニ同シ)
(別紙)　第一號書式ニ同シ

第四號書式

出店兼立賣營業(繼續)願

一營業場所　出店　何驛乘降場又ハ何等待合室
　　立賣　何驛構內
一營業期間　自年月日至年月日
一賣子數　出店何人立賣何人
一販賣品目　別紙ノ通
一出店建設物敷地　何箇所何坪何合何勺何才
右營業(繼續)……(第一號書式ニ同シ)
(別紙)
出店販賣品目　(第一號書式ニ同シ)
立賣販賣品目　(第一號書式ニ同シ)

第五號書式

列車內食堂營業(繼續)願

一營業期間　自年月日至年月日
一乘込列車及區間　御指定ノ通
一乘込人數　氏名年齡別紙ノ通
一販賣品目　別紙ノ通
右營業(繼續)……(第一號書式ニ同シ)
(別紙)
販賣品目　(第一號書式ニ同シ)
列車食堂營業使用人氏名

監督者	料理人	給仕
氏名 年齡	氏名 年齡	氏名 年齡
計 何人	計 何人	計 何人

〔裏面ニ續ク〕

第六號書式

手荷物運搬營業(繼續)願

一營業場所　何驛構內
一營業期間　自年月日至年月日
一運搬人數　何人(氏名年齡)
右營業(繼續)……(第一號書式ニ同シ)

第七號書式

人力車營業(繼續)願

一營業場所　何驛構內
一營業期間　自年月日至年月日
一輛數　何輛
一賃金　別紙賃金表ノ通
右營業(繼續)……(第一號書式ニ同シ)

第八號書式

乘合馬車(自動車)營業(繼續)願

一營業場所　何驛構內
一營業期間　自年月日至年月日
一輛數　何輛(一輛定員何人乘)
一賃金　別紙賃金表ノ通
右營業(繼續)……(第一號書式ニ同シ)

第九號書式

販賣品追加營業願

一追加品目　(品名外裝形狀ヲ單價詳記スヘシ)

第十九類　交通　第二章　鐵道　軌道

第十一號書式

販賣品價格變更願

年　月　日願出第　號命令書ヲ以テ御許可相成候何驛構內(立賣出店待合又ハ列車內ノ食堂)販賣品中ニ前記ノ通追加營業致度候間御許可被成下度此段保證人連署及出願候也

年　月　日

現住所
本人氏　名印

現住所
保證人氏　名印

鐵道事務所長宛

年　月　日願出第　號ヲ以テ何驛構內ニ於テ何何營業許可相成營業罷在候處今般何何ノ都合ニ依リ來ル　年　月　日限廢業致度候間此段及御屆候也

年　月　日

現住所
本人氏　名印

現住所
保證人氏　名印

鐵道事務所長宛

〔裏面ニ續ク〕

販賣品目	價格	外裝内容
何々	舊價格金　錢	
何々	新價格金　錢	

年　月　日鐵庶第　號許可書ヲ以テ御許可相成候何驛構内（立賣、出店、待合所又ハ列車食堂）販賣品中左記事由ニ依リ願書ノ通價格變更致候間御許可被下度此段保證人連署奉願候也

記

事由

年　月　日

現住所
本人氏　名印
現住所
保證人氏　名印

鐵道事務所長宛

第二章　販賣品及調理場

第五條　旅客ニ販賣スル物品ハ品質良好ナルモノニ限リ特ニ飲食物ニ對シテハ材料ノ撰擇竝調理方ニ關シ衞生及嗜好上ノ注意ヲ怠ルヘカラス

第六條　販賣品ハ價格ノ一定セルモノヲ除キ包裝又ハ表面見易キ箇所ニ必ス其ノ賣價ヲ記入又ハ貼付スヘシ

第七條　辨當、飴、飲類、「サンドウイッチ」餅、饅頭、煎餅、等調製後時日ノ經過ニ從ヒ腐敗變味又ハ濕潤シ易キ食料品ニハ其調製月日及時刻ヲ表示スヘシ

第八條　總テ同一販賣品ニシテ其ノ價格ニ高下アルモノヲ旅客ヨリ需メラレタル場合ハ必ス低價品ヨリ順次ニ提供シテ其ノ選擇ヲ待チ決シテ高價品ヲ先ニスヘカラス

第九條　販賣品中飲食料品ハ毎日驛長ノ檢閲ヲ受クヘシ

第十條　飲料類茶壜折箱并類等ニハ容器ノ外部適當ノ箇所ニ不體裁ナラサル左記文案ノ注意紙ヲ貼付スヘシ
但シ瓶物等ニ對シテハ同一字句ヲ白色ノ「カード」ニ赤文字ニテ印刷シ白絲ニテ適宜ノ箇所ニ取付クルモ差支ナシ

一寸五分

空瓶折箱等は腰掛の下にお置き下さい
窓から投げると人に怪我をさせる處がありますから

二寸五分

第十一條　折箱茶瓶等ハ清潔ナル場所ニ保管シ使用前一應熱湯ヲ以テ拂拭若ハ洗滌スヘシ

第十二條　菓子、果物類ハ孰レモ塵埃又ハ蟲類ノ侵シ難キ場所ニ保管スヘシ

第十三條　食品ノ調理場ハ常ニ清潔ヲ保チ通水、通風、光線ノ射入等ニ注意シ其ノ他防蠅具ノ設備ヲ完全ニスヘシ

第十四條　上等辨當ハ必ス竝辨當ト共ニ携帶スルニ非サレハ販賣スルコトヲ得ス

第十五條　辨當、飴等ニハ縱五寸横二寸ノ紙片ニ左記各號ニ依リ印刷シタル「レッテル」添附スヘシ
上ノ部
一種類、代價、製造店名

〔裏面に續く〕

下ノ部
左ノ文案ヲ二度訓若ハ書體ヲ異ニセシメテ目立ツ樣印刷ノコト
「空箱は腰掛の下へお置き下さい」
二調製日時欄ヲ設クルコト

第十六條　鐵道荷札ハ鐵道事務所ニ於テ指定スルモノ外之ヲ販賣スヘカラス

第十七條　麥酒及清涼飲料類ハ夏期中適宜ノ方法ヲ以テ冷却シタル上販賣スヘシ

第十八條　酒類、清涼飲料類ノ立賣人ハ必ス栓拔ヲ携帶スヘシ

第十九條　牛乳容器ハ必ス無色透明ノ硝子壜ヲ用ユヘシ

第二十條　茶容器ハ一合七勺入硝子壜（コップ一個ヲ添フ）ヲ使用シ賣價驛名及屋號等ハ防熱紙ノ餘白ニ表示シ茶ハ豫メ適當ナル濃度ニ容出セルモノヲ壜詰トシ相當溫度ヲ保タシメ販賣スヘシ

第二十一條　茶ハ主トシテ辨當ニ附隨販賣セシムヘキモノニ付手不足又ハ品切レ等ノ理由ノ下ニ販賣セサルカ如キコトアルヘカラス

第二十二條　新聞紙中朝夕二回刊行ノモノハ之ヲ併セ販賣スルモノトス但シ朝夕刊ヲ併セ販賣シ得サル場合ニアリテハ必ス各社所定ノ賣價ヲ護讀印ヲ以テ標題ノ上部餘白ニ押捺スヘシ

第二十三條　販賣品ノ賣價ハ總テ各驛所在地ノ市價ヲ標準トシ之ヲ超過セサル範圍ニ於テ鐵道事務所長ノ承認ヲ受クヘシ

第三章　營業人從業心得

第二十四條　構内各種ノ營業ハ總テ旅客ノ便利ヲ圖ル爲メ之ヲ許可シタルモノニ付營業人ハ所定ノ營業時間内業務ヲ怠ルヘカラス

第二十五條　營業人ハ法規命令ヲ遵守スヘキハ勿論營業ニ就テハ驛長ノ指揮ニ從フヘシ

第二十六條　營業人ハ納付金其ノ他ノ義務ヲ確實ニ履行スヘシ

營業料金ハ鐵道事務所長別ニ之ヲ定ムヘシ

第二十七條　營業人（店員及立賣人ヲ含ム）ハ常ニ服裝ニ注意シ不體裁若ハ不潔ナル服裝ニテ旅客ニ應接スヘカラス但シ立賣人ニハ別紙甲圖ノ如キ制服制帽ヲ著用セシムヘシ

第二十八條　營業人（店員及立賣人ヲ含ム）ハ常ニ衞生ヲ重シ傳染性又ハ嫌忌スヘキ疾患アルモノハ從業セシムヘカラス

第二十九條　營業人ハ年齡十六歲以上ノ男子ニアラサレハ立賣ニ從業セシムヘカラス

第三十條　營業人（店員及立賣人ヲ含ム）ハ旅客ニ對シ懇切叮嚀ヲ旨トシ乘換行先等ニ付テ曖昧ナル應答ヲナシ旅客ニ迷惑ヲ掛ケサル樣注意スヘシ

第三十一條　立賣人ハ列車出發合圖後ハ假令乘客ノ需メアルモ物品ヲ販賣スヘカラス

第三十二條　立賣人ハ待合所旅客用腰掛ニ其營業品ヲ竝列販賣シ又ハ是ニ休憩シ旅客ニ迷惑ヲ掛クルコトアルヘカラス

第三十三條　營業人ハ鐵道係員ニ對シ掛賣ヲ爲スヘカラス

第三十四條　營業人ハ營業帳簿ヲ備ヘ置キ其ノ收支ヲ明瞭ニ記載シ販賣品種毎ニ日日ノ賣上高ヲ每一ケ月分ヲ日割ニ取纏メ翌月十日迄ニ當該驛長經由鐵道事務所長ニ報告スヘシ

第三十五條　營業人ハ營業權ヲ賣買讓渡シ又ハ下受等ノ名義ニ依リ他人ヲシテ營業セシムヘカラス

〔裏面に續く〕

第三十六條　手荷物運搬人ハ鐵道ニ關スル諸規則命令ヲ遵守スヘキハ勿論取締ニ就テハ總テ驛長ノ指揮ニ從フヘシ

第三十七條　運搬人ハ旅客ノ依頼ニ應シ停車場構内ニ於テ手荷物運搬其他ノ勞務ニ從事スルモノトス

第三十八條　運搬人ハ前項ノ外驛長ノ指圖ナクシテ一切他用ヲ辨スヘカラス

第三十九條　運搬人ハ定額ノ運賃料ノ外金錢ヲ要求スヘカラス

第四十條　運搬人ハ常ニ衞生ヲ重シ傳染性又ハ嫌惡スヘキ疾患ニ罹リタル場合ハ從業スルコトヲ得ス

第四十一條　運搬人ハ年齡十八歳以上五十歳未滿ノ男子ニシテ正直壯健地方ノ地理ニ精通スル者タルヘシ

第四十二條　運搬人ニハ別紙雛形ノ制服、制帽ヲ著用セシムヘシ

第四十三條　運搬人ハ夜間又ハ風雨ノ日ト雖旅客列車ノ運轉時間中ハ必ス停車場ニ出場スヘシ

第四十四條　運搬人ハ旅客ニ對シ懇切叮嚀ヲ旨トシ疎漏怠慢ノ擧動アルヘカラス

第四十五條　運搬人ハ旅客ノ要求アリタル場合ト雖モ車室内ヲ塞ク（キ）ハ高又ハ多數ノ荷物ヲ運ヒ得サルハ勿論持込取卸ノタメ客車内ニ立入ルヘカラス

附　則

本規則ハ大正十三年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

（甲圖）立賣人服裝略圖

（一）洋服

イ、上衣　折襟青羅仕立、紺又ハ黒色毛織物トシ釦ハ黒色ニシテ

右襟部ニ屋號左襟部ニ番號ヲ附ス但シ屋號及番號ハ金色トス

ロ、袴　色及地質ハ上衣ト同一ノ半袴ト雖シ脚部ハ長靴下ヲ以テ覆フコト但シ冬期間ハ半袴ヲ乘馬袴型ト爲スコトヲ得

（二）履物　靴

（三）帽子　青羅紗製青色小判型トス

一、帽子ノ正面ニハ屋號又ハ姓ヲ表示スルコト

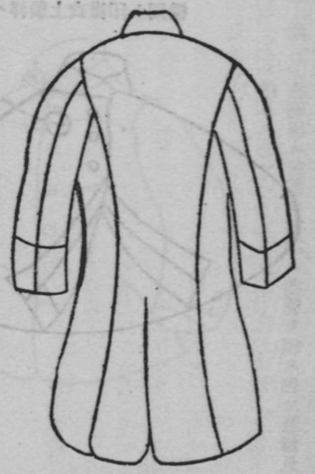
二、文字ハ白機頭縫トスルコト

（四）雨衣　防水又ハ油紙製

（五）外套　羅紗製屋號及番號ハ洋服上着襟印ト同樣トス

前

後



（乙圖）手荷物運搬人服裝略圖
上衣背廣又ハ黑色毛織物ニ限ル卸ハ黑色水牛製ニ限ル
左ノ胸ニ番號ヲ附スヘシ

帽小判形赤色
正面ニ手荷物運搬人ノ六字ヲ附ス

半袴
色及地質ハ上衣ニ同シ
足袋ハ脚袴及足袋又ハ靴ヲ穿ツヘシ

數字金色　帽子徽章白饅頭縫

0123 手荷物運搬人

●樺太廳鐵道機關庫、同分庫ノ名稱及位置

昭和八年三月二十八日
訓第三十九號

鐵道事務所

樺太廳鐵道機關庫、同分庫ノ名稱及位置左ノ通定ム

樺太廳鐵道機關庫、同分庫ノ名稱及位置

名稱	位置
豐原機關庫	豐原郡豐原町
豐原機關庫大泊分庫	大泊郡大泊町
豐原機關庫榮濱分庫	榮濱郡榮濱村
眞岡機關庫	眞岡郡眞岡町
眞岡機關庫本斗分庫	本斗郡本斗町
眞岡機關庫泊居分庫	泊居郡泊居町

附則

本令ハ昭和八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

樺太廳鐵道機關庫、給炭水所、車掌所、詰所、棧橋、工場、倉庫、變電所及保線區等ノ名稱、位置竝區域ハ之ヲ廢止ス

●樺太廳鐵道車掌所ノ名稱及位置

昭和八年三月二十八日
訓第四十二號　鐵道事務所

樺太廳鐵道車掌所ノ名稱及位置左ノ通定ム

樺太廳鐵道車掌所ノ名稱及位置

名稱	位置
豐原車掌所	豐原驛構內
眞岡車掌所	北眞岡驛構內

附則

本令ハ昭和八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●樺太廳鐵道棧橋、工場、倉庫ノ名稱及位置

昭和八年三月二十八日
訓第四十號　鐵道事務所

樺太廳鐵道棧橋、工場、倉庫ノ名稱及位置左ノ通定ム

樺太廳鐵道棧橋、工場、倉庫ノ名稱及位置

名稱	位置
大泊棧橋	大泊港驛構內
豐原工場	豐原郡豐原町
豐原倉庫	豐原郡豐原町

附則

本令ハ昭和八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●樺太廳鐵道保線區ノ名稱、位置及擔當區域

昭和八年三月二十八日
訓第三十八號　鐵道事務所

改正　昭九年三月訓九號

樺太廳鐵道保線區ノ名稱、位置及擔當區域左ノ通定ム

樺太廳鐵道保線區ノ名稱、位置及擔當區域

名稱	位置
豐原保線區	豐原郡豐原町
眞岡保線區	眞岡郡眞岡町

擔當區域

保線區名	保線區所管區域
豐原保	東海岸線 川上線 豐眞線　自〇粁〇〇〇米　至四〇粁五〇〇米

在勤地	丁場名	起點	丁場擔當區域
大泊	大泊	大泊港	自〇粁〇〇〇米　至五粁〇〇〇米　東海岸線
	三ノ澤	同	自五粁〇〇〇米　至一一粁〇〇〇米　同
	貝塚	同	自一一粁〇〇〇米　至一六粁〇〇〇米　同
	新場	同	自一六粁〇〇〇米　至二二粁〇〇〇米　同
豐原	中里	同	自二二粁〇〇〇米　至二八粁〇〇〇米　同
	豐南	同	自二八粁〇〇〇米　至三四粁〇〇〇米　同
	大澤	同	自三四粁〇〇〇米　至四〇粁〇〇〇米　同
	豐原	同	自四〇粁〇〇〇米　至四二粁〇〇〇米　同
		豐原	自〇粁〇〇〇米　至二粁〇〇〇米　豐眞線
	北豐原	大泊港	自四二粁〇〇〇米　至四六粁〇〇〇米　東海岸線
小沼	草野	同	自四六粁〇〇〇米　至五一粁〇〇〇米　同
	小沼	同	自五一粁〇〇〇米　至五六粁〇〇〇米　同
		小沼	自〇粁〇〇〇米　至一粁五〇〇米　川上線
	富岡	大泊港	自五六粁〇〇〇米　至六二粁〇〇〇米　東海岸線
	深雪	同	自六二粁〇〇〇米　至六八粁〇〇〇米　同
	大谷	同	自六八粁〇〇〇米　至七四粁〇〇〇米　同

線區					
落合	小谷	同	同	自七四・〇〇〇	至八一・〇〇〇
	落合	同	同	自八一・〇〇〇	至八九・〇〇〇
	榮濱	同	同	自八九・〇〇〇	至九四・二二〇
川上炭山	川上	小沼	川上線	自一・五〇〇	至七・〇〇〇
	川上溫泉	同	同	自七・〇〇〇	至一二・〇〇〇
	奧川上	同	同	自一二・〇〇〇	至一七・〇〇〇
	川上炭山	同	同	自一七・〇〇〇	至二一・七三〇
鈴谷	西久保	豐原	豐眞線	自二・〇〇〇	至七・〇〇〇
	鈴谷	同	同	自七・〇〇〇	至一二・五〇〇
	奧鈴谷	同	同	自一二・五〇〇	至一八・〇〇〇
	三谷	同	同	自一八・〇〇〇	至二三・四〇〇
瀧ノ澤	曲坂	同	同	自二三・四〇〇	至二九・〇〇〇
	瀧ノ澤	同	同	自二九・〇〇〇	至三六・〇〇〇
	奧中野	同	同	自三六・〇〇〇	至四〇・五〇〇

豐眞線自四〇粁五〇〇米至一三六粁〇三〇米　西海岸線					
中野	中野	同	同	自四〇・五〇〇	至四五・五〇〇
	清水	同	同	自四五・五〇〇	至五〇・五〇〇
	逢坂	同	同	自五〇・五〇〇	至五六・〇〇〇
	二股	同	同	自五六・〇〇〇	至六一・〇〇〇

〔樺法〕

眞岡保					
寶臺	山中	同	同	自六一・〇〇〇	至六六・〇〇〇
	寶臺	同	同	自六六・〇〇〇	至七一・三〇〇
	峠下	同	同	自七一・三〇〇	至七六・五〇〇
	池ノ端	同	同	自七六・五〇〇	至八二・〇〇〇
本斗	本斗	本斗	西海岸線	自〇・〇〇〇	至六・〇〇〇
	阿幸	同	同	自六・〇〇〇	至一二・〇〇〇
	麻内	同	同	自一二・〇〇〇	至一七・五〇〇
	知根平	同	同	自一七・五〇〇	至二三・五〇〇
大穗泊	多蘭泊	同	同	自二三・五〇〇	至二九・〇〇〇
	大穗泊	同	同	自二九・〇〇〇	至三四・〇〇〇
	廣地	同	同	自三四・〇〇〇	至四〇・〇〇〇
	手井	同	同	自四〇・〇〇〇	至四六・〇〇〇
		豐原	豐眞線	自八二・〇〇〇	至八三・二一〇
眞岡	眞岡	本斗	西海岸線	自四六・〇〇〇	至五二・〇〇〇
	幌泊	同	同	自五二・〇〇〇	至五七・五〇〇
	榮磨	同	同	自五七・五〇〇	至六三・五〇〇
	藻白帆	同	同	自六三・五〇〇	至六九・五〇〇
	羽母舞	同	同	自六九・五〇〇	至七五・五〇〇

〔樺法〕

線	區				
羽母舞	小能登呂	同	自 同	七五	五〇〇
			至 同	八一	〇〇〇
	仁多須	同	自 同	八一	〇〇〇
			至 同	八七	〇〇〇
	登富津	同	自 同	八七	〇〇〇
			至 同	九二	〇〇〇
野田	野田	同	自 同	九二	〇〇〇
			至 同	九七	〇〇〇
	久良志	同	自 同	九七	〇〇〇
			至 同	一〇二	五〇〇
	亞牛	同	自 同	一〇二	五〇〇
			至 同	一〇八	〇〇〇
	小岬	同	自 同	一〇八	〇〇〇
			至 同	一一四	〇〇〇
泊居	鵜巣	同	自 同	一一四	〇〇〇
			至 同	一一九	五〇〇
	追手	同	自 同	一一九	五〇〇
			至 同	一二五	〇〇〇
	杜門	同	自 同	一二五	〇〇〇
			至 同	一三一	〇〇〇
	泊居	同	自 同	一三一	〇〇〇
			至 同	一三六	〇三〇

附則

本令ハ昭和八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔樺法〕

●樺太廳鐵道電氣區、同車電所、同通信所、同變電所、同修繕場ノ名稱及位置

昭和八年三月二十八日
訓第三十七號

鐵道事務所

樺太廳鐵道電氣區、同車電所、同通信所、同變電所、同修繕場ノ名稱及位置左ノ通定ム

樺太廳鐵道電氣區、同車電所、同通信所、同變電所、同修繕場ノ名稱及位置

名稱	位置
豐原電氣區	豐原郡豐原町
豐原電氣區豐原車電所	豐原驛構內
豐原電氣區眞岡車電所	北眞岡驛構內
豐原電氣區豐原通信所	豐原郡豐原町
豐原電氣區眞岡通信所	北眞岡驛構內
豐原電氣區豐原變電所	豐原工場內
豐原電氣區大泊變電所	大泊驛構內
豐原電氣區大泊港變電所	大泊港驛構內
豐原電氣區修繕場	豐原郡豐原町

附則

本令ハ昭和八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●樺太地方鐵道營業規則

大正十五年六月二日
廳令第十四號

樺太地方鐵道營業規則左ノ通定ム

樺太地方鐵道營業規則

第一條　地方鐵道事業ノ經營ハ本令ニ定ムルモノノ外樺太廳鐵道令ニ依ルヘシ

第二條　地方鐵道係員ノ職制ハ別ニ之ヲ定ム

第三條　地方鐵道業者ハ鐵道係員ノ服務規程及懲戒規程ヲ定メ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

懲戒ヲ爲スヘキ場合ニ於テ地方鐵道業者之ヲ爲サヽルトキハ七十圓以下ノ科料ニ處ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔樺法〕

●樺太地方鐵道係員職制

大正十五年六月二日
廳令第十五號

樺太地方鐵道係員職制左ノ通定ム

樺太地方鐵道係員職制

第一條　樺太地方鐵道ニハ左ノ係員ヲ置ク

運輸係長
保線係長
驛長
助役
車掌
出札掛

改札掛
貨物掛
電信掛
操車掛
信號掛
轉轍手
制動手
驛　夫
機關車主任
機關手
火　夫
檢車手
注油夫
合圖手
保線手
保線工夫
電氣工夫
隧道番
橋梁番
踏切番

第二條　前條ノ係員ハ左ノ事務ヲ掌ル

運輸係長

一　所屬係員ノ監督ニ關スルコト
二　運輸及鐵道用電氣通信竝信號ニ關スルコト
三　車輛ノ運轉竝其ノ保存及修理ニ關スルコト

保線係長

一　所屬係員ノ監督ニ關スルコト
二　線路竝建造物ノ改築ニ關スルコト
三　線路竝建造物ノ保存及修理ニ關スルコト
四　電線路及之ニ附帶スル器機ノ修理及保存ニ關スルコト

驛　長

運輸係長ノ指揮ヲ承ケ驛務ヲ處理シ驛員ヲ監督ス

助　役

驛長ヲ補佐シ驛長事故アルトキハ其ノ職務ヲ行フ

車　掌

運輸係長ノ指揮ヲ承ケ左ノ事務ニ從事ス但シ列車カ停車場內ニ在ルキトハ驛長ノ指示ヲ承クヘシ

一　列車ノ運轉及輸送ニ關スルコト
二　車內ノ秩序ヲ保持スル爲メ必要ト認メタル場合ニ於テハ旅客ニ對シ相當ノ指圖ヲ爲スコト

出札掛

驛長ノ指揮ヲ承ケ乘車券ノ發賣ニ從事ス

改札掛

驛長ノ指揮ヲ承ケ乘車券ノ檢査及集收ニ從事ス

貨物掛

驛長ノ指揮ヲ承ケ貨物ノ授受保管ニ從事ス

〔轉法〕

電信掛

驛長ノ指揮ヲ承ケ電氣通信ニ從事ス

操車掛

驛長ノ指揮ヲ承ケ車輛ノ入換及操配ニ從事ス

信號手

驛長ノ指揮ヲ承ケ信號ノ取扱ニ從事ス

轉轍手

驛長ノ指揮ヲ承ケ轉轍器ノ取扱ニ從事ス

制動手

列車ニ乘務シ車掌ヲ補佐シ列車運轉中制動機ノ取扱ニ從事ス

驛　夫

驛長ノ指揮ヲ承ケ雜務ニ從事ス

機關車主任

運輸係長ノ指揮ヲ承ケ機關車ニ關スル事務ヲ處理シ所屬員ヲ監督ス

機關手

機關車主任ノ指揮ヲ承ケ機關車運轉ニ從事ス但シ列車運轉中ニ在リテハ車掌、停車場ニ在リテハ驛長ノ指示ヲ承クルモノトス

火　夫

機關車主任ノ指揮ヲ承ケ其ノ職務ニ從事ス但シ乘務中ニ在リテハ機關手ノ指示ヲ承クルモノトス

檢車手

機關車主任ノ指揮ヲ承ケ車輛ノ檢查ニ從事ス

注油夫

機關車主任ノ指揮ヲ承ケ車輛ノ注油ニ從事ス

合圖手

機關車主任ノ指揮ヲ承ケ機關車專屬線路內ノ合圖及轉轍器ノ取扱ニ從事ス

保線手

保線係長ノ指揮ヲ承ケ線路及鐵道附屬建造物竝電線路及之ニ附帶スル器機ノ修理及保存ニ從事ス

保線工夫

保線手ノ指揮ヲ承ケ其ノ職務ニ從事ス

電氣工夫

保線手ノ指揮ヲ承ケ電線路ノ監守及設備、修理等ノ工事ニ從事ス

隧道番、橋梁番、踏切番

保線手ノ指揮ヲ承ケ各其ノ看守ニ從事ス但シ停車場附近ニ在リテハ驛長ノ指揮ヲ承クルモノトス

第三條　鐵道ハ其ノ狀況ニ依リ本令ニ定メタル係員ノ職務ヲ分チ若ハ二以上ノ係員ノ職務ヲ兼ネシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ其ノ職制ヲ定メ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔轉法〕

●軌道法

大正十年四月十四日
法律第七十六號

改正　昭四年四月法律六一號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル軌道法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（樞、內、儀、大臣副署）

軌道法

第一條　本法ハ一般交通ノ用ニ供スル爲敷設スル軌道ニ之ヲ適用ス

第二條　軌道ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ道路ニ敷設スヘシ

第三條　軌道ヲ敷設シテ運輸事業ヲ經營セムトスル者ハ主務大臣ノ特許ヲ受クヘシ

第四條　前條ノ規定ニ依リ特許ヲ受ケタル軌道經營者ハ軌道敷設ニ要スル道路ノ占用ニ付道路管理者ノ許可又ハ承認ヲ受ケタルモノト看做ス

此ノ場合ニ於ケル道路ノ占用料ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第五條　軌道經營者ハ主務大臣ノ指定スル期間內ニ工事施行ノ認可ヲ申請スルコトヲ得

天災事變其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ前項ノ期間內ニ工事施行ノ認可ヲ申請スルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ期間ノ伸長ヲ申請スルコトヲ得

第六條　軌道經營者工事施行ノ認可ヲ受ケタルトキハ道路ニ關スル工事ニ付道路管理者ノ許可又ハ承認ヲ受ケタルモノト看做ス河川法、砂防法及之ニ基キテ發スル命令ニ依ル許可又ハ認可ニ付亦同シ

第七條　軌道經營者工事施行ノ認可ヲ受ケタルトキハ主務大臣ノ指定スル期間內ニ工事ニ著手シ之ヲ竣功セシムヘシ

第五條第二項ノ規定ハ前項ノ期間ニ付之ヲ準用ス

第八條　地方長官必要アリト認ムルトキハ道路管理者ヲシテ道路ニ敷設スル軌道工事及之カ爲必要ヲ生シタル道路ニ關スル工事ノ全部又ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル工事ニ要スル費用ノ負擔ニ付道路管理者及軌道經營者ノ協議調ハサルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス

第九條　道路管理者道路ノ新設又ハ改築ノ爲必要アリト認ムルトキハ軌道經營者ノ新設シタル軌道敷地ヲ無償ニテ道路敷地ト爲スコトヲ得

第十條　軌道經營者ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ運輸ヲ開始スルコトヲ得ス

第十一條　軌道經營者ハ旅客及荷物ノ運賃其ノ他運輸ニ關スル料金竝運轉速度及度數ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ運賃、料金、運轉速度、度數又ハ發著時刻ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十二條　軌道經營者ハ軌條間ノ全部及其ノ左右各二尺ヲ限リ道路ノ維持及修繕ヲ爲スヘシ

地方長官必要アリト認ムルトキハ道路管理者ヲシテ前項ノ維持及修繕ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル費用ノ負擔ニ付テハ第八條第二項ノ規定ヲ準用ス

第九條ノ規定ニ依リ道路敷地ト爲シタルモノニ付テハ第一項ノ維持及修繕ハ道路管理者之ヲ爲スヘシ

第十三條　主務大臣又ハ地方長官ハ監督上必要アリト認ムルトキハ軌道經營者ヲシテ帳簿、書類及圖面ヲ提出セシメ又ハ監査員ヲ派遣シテ軌道ノ設備、事業ノ狀況竝會計及財產ノ實況ヲ監査セシムルコトヲ得

第十四條　軌道ノ建設、運輸、運轉、係員及會計ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條　軌道經營者ハ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ニ限リ特許ニ因リテ生スル權利義務ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得

第十六條　軌道經營者ハ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ニ限リ軌道ノ讓渡又ハ事業若ハ運轉ノ管理ノ委託若ハ受託ヲ爲スコトヲ得

前項ノ管理ノ委託ヲ受ケタル者ハ其ノ管理ニ付主務大臣ニ對シ委託ヲ爲シタル者ト共ニ其ノ責ニ任ス

第十七條　公共團體ニ於テ公益上ノ必要ニ因リ軌道（未タ運輸開始ニ至ラサル線路ヲ含ム）ノ全部又ハ一部及其ノ附屬物件ヲ買收セムトスルトキハ軌道經營者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リテ一部買收セラレタル爲殘存線路ノミニ付事業ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキハ軌道經營者ハ殘存開業線路ニ付テハ該線路及其ノ附屬物件ノ買收ヲ求メ未タ運輸開始ニ至ラサル殘存線路ニ付テハ其ノ事業廢止ニ因リテ生スル損失ノ補償ヲ求ムルコトヲ得

第十八條　公共團體ニ於テ前條ノ規定ニ依ル買收ヲ爲サムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

公共團體ニ於テ前條ノ規定ニ依ル買收ヲ爲シタルトキハ特許ニ因リテ生スル權利義務ヲ承繼ス

第十九條　公共團體カ第十七條ノ規定ニ依ル買收又ハ補償ヲ爲ス場合ニ於テハ買收價額又ハ補償金額ハ協定ニ依ル協議調ハサルトキハ申請ニ因リ地方鐵道法第三十一條乃至第三十三條ノ二又ハ第三十六條ノ二ノ規定ニ準シ算出シタル金額ヲ標準トシテ主務大臣之ヲ裁定ス

第二十條　公共團體カ第十七條ノ規定ニ依ル買收ヲ爲ス場合ニ於テ公益上ノ必要ニ因リ衆業ニ屬スル資產及軌道經營ニ必要ナル貯藏物品ヲ買收セムトスルトキハ軌道經營者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

公共團體カ第十七條ノ規定ニ依ル買收ヲ爲ス場合ニ於テハ軌道經營者ハ衆業ニ屬スル資產及軌道經營ニ必要ナル貯藏物品ノ買收ヲ求ムルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ買收價額ニ付協議調ハサルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス

第二十一條　軌道會社ノ株金ノ第一回拂込金額ハ株金ノ十分ノ一ヲ下ルコトヲ得

軌道會社ハ株金全額拂込前ト雖主務大臣ノ認可ヲ受ケ線路ノ延長又ハ改良ノ費用ニ充ツル爲其ノ資本ヲ增加スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ地方鐵道會社ニ非サル會社カ衆業トシテ軌道ヲ敷設スル場合ニハ之ヲ適用セス

第二十二條　軌道會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ合併ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條　左ノ場合ニ於テハ特許ハ其ノ效力ヲ失フ

一　工事施行ノ認可申請期間內ニ認可ヲ申請セサルトキ

二　工事施行ノ認可ヲ受ケサルトキ

三　事業廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ

第十九條　交通　第二章　鐵道　軌道

四　特許ヲ受ケタル者會社ノ發起人ナルトキハ工事施行ノ認可申請期間内ニ會社設立ノ登記ヲ爲ササルトキ

第二十四條　軌道經營者軌道ニ關スル工作物ノ使用ヲ廢止シタルトキハ地方長官ノ指示スル所ニ從ヒ道路ヲ原狀ニ回復スヘシ

地方長官必要アリト認ムルトキハ軌道經營者ノ負擔ニ於テ道路管理者ヲシテ前項ノ規定ニ依ル工事ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十五條　本法ニ規定スル主務大臣ノ職權ノ一部ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第二十六條　地方鐵道法第六條ノ二乃至第八條、第十條第二項、第十一條、第十五條、第十七條、第十九條第二項、第二十三條第二項第三項、第二十五條、第二十七條、第三十條乃至第三十六條ノ二、第三十六條ノ四及第三十六條ノ五ノ規定ハ軌道ニ之ヲ準用ス但シ地方鐵道法第七條第二項及第八條中鐵道抵當法トアルハ明治四十二年法律第二十八號トス

第二十七條　軌道經營者カ法令若ハ法令ニ基キテ爲ス命令又ハ特許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　取締役其ノ他ノ役員ヲ解任スルコト

二　他人ヲシテ軌道經營者ノ計算ニ於テ必要ナル施設又ハ事業ノ管理ヲ爲サシムルコト

三　特許ノ全部又ハ一部ヲ取消スコト

前項ノ規定ニ依リテ解任セラレタル取締役其ノ他ノ役員ハ再任セラルルコトヲ得ス

第一項第二號ノ規定ニ依リ事業ノ管理ヲ爲ス者ハ其ノ管理ニ付主務大臣ニ對シ當該軌道經營者ト共ニ其ノ責ニ任ス

第二十八條　特許ヲ受ケスシテ軌道ヲ敷設シ又ハ認可ヲ受ケスシテ運輸ヲ開始シタル者ハ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條　左ノ場合ニ於テハ軌道經營者又ハ其ノ役員若ハ使用人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一　前條ノ場合ヲ除クノ外本法ニ依リ許可又ハ認可ヲ受クヘキ事項ヲ許可又ハ認可ヲ受ケスシテ爲シタルトキ

二　法令ニ基キテ爲シタル命令又ハ特許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ基キテ爲シタル命令ニ違反シタルトキ

三　監査員ノ職務ノ執行ヲ妨ケタルトキ

四　法令又ハ法令ニ基キテ爲ス命令ニ依リテ爲スヘキ屆出、報告其ノ他ノ書類圖面ノ提出若ハ謄製ヲ怠リ又ハ虛僞ノ屆出、報告若ハ記載ヲ爲シタルトキ

五　第二十六條ニ於テ準用スル地方鐵道法第六條ノ四第一項ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ同條第二項ノ規定ニ違反シテ後配株主ニ不利益ヲ及ホシタルトキ

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第三十條　前二條ノ規定ハ公共團體カ軌道ヲ經營スル場合ニ之ヲ適用セス

第三十一條　本法ハ一般交通ノ用ニ供スル軌道ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス

〔樺法〕

前項ノ軌道ニ準スヘキモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條　國ニ於テ軌道ヲ敷設シテ運輸事業ヲ經營セムトスルトキハ當該官廳ハ主務大臣ニ協議ヲ爲スヘシ其ノ工事施行ニ付亦同シ

國ニ於テ經營スル軌道ニ付テハ第二條、第十二條第一項、第十四條及第二十四條第一項ノ規定ヲ除クノ外本法ヲ適用セス但シ第十四條中軌道ノ係員及會計ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第一項ノ規定ニ依リ主務大臣ニ協議ヲ了シタルトキハ第四條及第六條ノ規定ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム　（大正十二年十二月勅令第五百八號ヲ以テ十三年一月一日ヨリ施行）

軌道條例ハ之ヲ廢止ス

舊法ニ依リテ爲シタル特許、認可、處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ其ノ特許、認可其ノ他ノ處分ニ附シタル條件ニシテ本法ニ牴觸スルモノハ其ノ效力ヲ失フ

他ノ法令中軌道條例トアルハ軌道法トス

附　則　（昭和四年四月法律第六十一號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和四年十二月勅令第三百三十七號ヲ以テ同年十二月五日ヨリ施行）

●樺太ニ於ケル軌道法施行ニ關スル件

昭和六年十月三十日
拓務省令第四號

樺太ニ於ケル軌道法施行ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　軌道ノ特許申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附シ申請者又ハ其ノ代理人記名捺印スヘシ但シ代理人ニ於テ記名捺印スルトキハ代理權ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

一　起業目論見書

二　線路豫測圖

三　建設費概算書（第一號樣式）

四　運輸事業ノ收支概算書（第二號樣式）

五　組合事業ニ在リテハ其ノ組合ニ關スル契約書謄本

六　會社ヲ設立セムトスルモノニ在リテハ定款ノ謄本

七　既設ノ會社ニ在リテハ軌道ノ營業ヲ目的トスルモノヲ除クノ外其ノ登記謄本及定款謄本

八　公共團體ニ在リテハ軌道經營ニ關スル決議書

九　軌道ヲ道路ニ敷設スルコトヲ得ザル場合ニ在リテハ其ノ事由書

前項ノ特許申請書ハ樺太廳長官ヲ經由スヘシ

第二條　起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　目的（旅客運送、荷物運送ノ別）

二　商號又ハ名稱、主タル事務所ノ設置地

三　軌道事業ニ要スル資金ノ總額及其ノ出資方法

〔樺法〕

四　線路ノ起終點及併用軌道ノ始終點ノ地名、地番並其ノ經過町村名
五　軌道ヲ敷設スベキ道路ノ延長、一般幅員及計畫幅員
六　線路ノ延長及單線、複線等ノ別
七　軌間及車輛ノ最大幅員
八　動力(人力、馬力、蒸汽、電氣等ノ別)、電氣ヲ動力トスルモノニシテ自ラ發電設備ヲ有スルモノニ在リテハ原動力ノ種類(火力、水力ノ別)、他ヨリ電力ノ供給ヲ受クルモノニ在リテハ供給者名

第三條　線路豫測圖ハ縮尺二萬五千分一以上ノ平面圖トシ線路ノ經過町村名、地形、一キロメートル毎及單線複線等ノ分界點ノキロメートル程並沿線人家連檐ノ狀況ヲ記シ縮尺、方位ヲ示スベシ

第四條　樺太廳長官特許申請書ヲ受付タルトキハ左ノ事項ニ關スル調査書ヲ添ヘ特許ノ許否ニ關スル意見ヲ附シ之ヲ進達スベシ

一　申請者ノ資産及信用程度
二　事業ノ成否
三　事業ノ效果
四　他ノ鐵道、軌道、索道又ハ自動車等(未開業ノモノヲ含ム)ニ及ボス影響
五　他ノ鐵道、軌道、索道又ハ自動車等ノ競願アルトキハ其ノ名稱、區間、申請者名及申請書ノ受付年月日

第五條　特許失效シタルトキハ遲滯ナク樺太廳長官ヲ經由シ特許狀ヲ返納スベシ

附則

本令ハ昭和六年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

間建設費概算書

延長　キロメートル

軌道

項	數量	單價	金額	摘要
測量及監督費	キロメートル	圓	圓	
用地費	平方メートル			
土工費	立方メートル			
路面費	平方メートル			
橋梁溝橋費	メートル			
隧道費	メートル			
軌道費	キロメートル			
停留場費	箇所			
車輛費	輛			
諸建物費	キロメートル			
通信線路費	キロメートル			
電力線路費	キロメートル			
發電所費	キロワット			
變電所費	キロワット			
●●●●●●●●●				
總係費	キロメートル			
豫備費				
合計				
一キロメートル當				

備考　用地費、土工費、橋梁溝橋費、隧道費及軌道費ニ在リテハ併用軌道及新設軌道ニ區別記載スベシ

〔樺法〕

第二號樣式

運輸事業收支概算表

軌道　キロメートル

動力　延長

軌道　メートル　區間

	數量	金額	割合	摘要
旅客				
人キロメートル當				
一キロメートル當				
一日一キロメートル當				
荷物				
トンキロメートル當				
一キロメートル當				
一日一キロメートル當				
旅客收入				
一キロメートル當				
一日一キロメートル當				
荷物收入				
一キロメートル當				
一日一キロメートル當				
雜收入				
收入合計				
一日一キロメートル當				
營業費				
一日一キロメートル當				
益金				
建設費				
建設費ニ對スル益金割合				

〔樺法〕

●軌道法施行規則

昭和六年十一月十日
廳令第四十四號

軌道法施行規則左ノ通定ム

軌道法施行規則

第一條　特許ヲ受ケタル者會社ノ發起人又ハ組合員ナルトキハ發起人又ハ法人ニ非サル組合ノ組合員ノ加入又ハ脱退(死亡及除名ヲ含ム)ハ樺太廳長官ニ之ヲ屆出ツヘシ

第二條　工事施行ノ認可ヲ受クル前ニ於テ起業目論見書ノ記載事項ヲ變更セムトスルトキハ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ商號又ハ名稱、主タル事務所ノ設置地及電力供給者ノ變更ハ之ヲ屆出ツヘシ

第三條　工事施行認可申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ

一　線路實測圖
二　工事方法書
三　建設費豫算書(第一號樣式)
四　特許ヲ受ケタル者會社ノ發起人ナルトキハ定款及會社設立登記謄本

第四條　線路實測圖ハ左ノ三種トス

一　平面圖

縮尺ハ二千五百分一以上トシ線路ノ左右各四十米以内ノ地形ヲ明ニシ軌道ノ中心線、線路ノ單線複線等ノ分界點ノ粁程、道路水路等ノ附換、人家連檐又ハ連檐スベキ箇所、行政區劃ノ境界、縮尺及方位ヲ示スベシ

線路ノ中心線ニハ二百米毎ニ粁程ヲ記シ曲線ノ半徑、交角、停留場ノ位置、名稱及中心粁程ヲ記スヘシ

二　縱斷面圖

縮尺ハ橫平面ト同一、縱二百分一以上トシ中心線ノ地盤高及施工基面高ヲ二十米毎ニ記シ隧道ノ長、橋梁（溝渠ヲ含ム以下同シ）ノ徑間及徑間數、桁ノ種類及材質、停留場ノ名稱及中心粁程、交通頻繁ナル踏切道竝線路ノ勾配ヲ記シ縮尺ヲ示スヘシ

三　軌道ヲ敷設スル道路ノ橫斷定規圖

軌道ノ中心、車道歩道ノ區別、橫斷勾配、路上建設物ノ位置、車體外有效幅員ヲ記スヘシ

第五條　工事方法書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　動力

二　軌間

三　單線、複線等ノ別

四　軌道ノ中心間隔

五　最小曲線半徑

六　最急勾配

七　土工定規　第二號樣式ニ依ル圖面添附（新設軌道ニ限ル）

（イ）線路施工基面ノ幅　築堤、切取等ヲ區別シ側溝ヲ除キタル幅ヲ記載スルコト

（ロ）築堤及切取斜面ノ勾配　高又ハ地質ニ應スル斜面ノ勾配ヲ記載スルコト

（ハ）用地ノ限界　築堤法尻又ハ切取法肩ヨリ用地ノ境界迄ノ距離ヲ乾地、濕地ニ區別シ記載スルコト

八　橋梁

（イ）橋臺、橋脚　粗石積、煉瓦積、混凝土工、木造等ノ別ヲ記載スルコト

（ロ）基礎　杭打混凝土工、煉瓦沈井工等ノ別ヲ記載スルコト

（ハ）桁　鋼、鐵筋混凝土、松等ノ別竝工事形桁、鈑桁、構桁等ノ別ヲ記載スルコト

（ニ）拱　煉瓦卷、鐵筋混凝土工等ノ別ヲ記載スルコト

（ホ）橋梁ノ所定動荷重及桁ノ最大應力　第三號樣式ニ依ル圖表添附

（ヘ）重要ナル架橋河川ノ平水位、最高水位及其ノ水位ト桁ノ下端トノ距離

（イ）乃至（ニ）ニ付テハ各部ノ材質及構造寸法ヲ示ス設計圖竝異ル徑間ヲ使用スル橋梁ニ在リテハ徑間配置圖ヲ各橋梁毎ニ添附スヘシ但シ模範設計ヲ定メ之ヲ適用スヘキ箇所ヲ示シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

九　隧道

（イ）各其ノ地質ニ應スル施行斷面　拱、側壁、仰拱及排水渠ノ材質及構造寸法ヲ圖面ニ依リ明示スルコト

（ロ）坑門　材質及構造寸法ヲ圖面ニ依リ明示スルコト

十　軌條、轉轍器、轍叉及枕木

（イ）軌條ノ重量　重量ノ異ル軌條ヲ使用スルトキハ各軌條ノ使用區間ヲ明示スルコト

（ロ）軌條及附屬品ノ材質及形狀　軌條又ハ附屬品ノ異ル毎ニ形狀寸法ヲ明示スル圖面添附

（ハ）轉轍器及轍叉ノ構造　轉轍器ニ在リテ重錘取柄式又ハ自動鎖機式等ノ別、轍叉ニ在リテハ番號ヲ記シ轉轍器尖端軌條ノ開キ竝轍叉翼軌條及護輪軌條ノ間隔等各部ノ寸法ヲ詳記セル圖面添附

（ニ）枕木ノ寸法及敷設間隔　軌條重量ノ異ル毎ニ中心距離ノ最大ナルモノヲ記載スルコト

十一　停留場

（イ）建造物、配線、用地境界及實測中心粁程　本屋、待合所、貨物庫、車庫、乘降場、貨物積卸場、常置信號機、跨線橋、地下道、轉車臺、給水器、石炭臺、灰坑等ノ位置、乘降場及貨物積卸場ノ長及幅、轍叉ノ番號、線路ノ配置、用地境界及實測中心粁程ヲ平面圖（縮尺千分ノ一）ニ依リ明示スルコト

（ロ）軌道ト乘降場及貨物積卸場トノ關係　橫斷面圖ニ依リ明示スルコト

（ハ）聯動裝置　圖表ヲ添附シ說明スルコト

十二　踏切ノ構造　圖面ニ依リ明示スルコト

十三　他ノ鐵道又ハ軌道トノ交叉方法　交叉設計圖ヲ添附シ停車場、信號所以外ニ於テ人力、馬力ヲ動力トスル鐵道又ハ軌道ト平面交叉ヲ爲ス場合ニ在リテハ其ノ保安設備ニ付說明スルコト

十四　閉塞信號機　設計及位置ヲ明示スル圖面ヲ添附シ作用ヲ說明スルコト

十五　車輛

（イ）機關車　四輪聯結六輪タンク機關車、六輪聯結十輪テンダー機關車等ノ別ヲ記載スルコト

一　形式

一　輪數

一　重量　運轉整備ノトキニ於ケル總重量ヲ噸ヲ以テ記載スルコト

一　働輪一對ノ軌條面最大壓力　運轉整備ノトキニ於ケル重量ヲ噸ヲ以テ記載スルコト

（ロ）客車及貨車　ボギー車、四輪車等ノ別ヲ記載スルコト

一　車種

一　輛數

一　自重　噸ヲ以テ記載スルコト

一　定員

一　荷重　噸ヲ以テ記載スルコト

（ハ）汽動車　機關車及客貨車ニ準シ記載スルコト

十六　特殊設計

電氣ヲ動力トスルモノニ在リテハ前項ノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　送電系統　發電所、變電所、蓄電所、配電所及電車線路間相互ノ送電關係ヲ圖面ニ依リ明示スルコト

二　電氣軌道ノ方式　直流、交流、架空單線式、架空複線式、第三軌條式等ノ別及電車線ノ電壓ヲ記載スルコト

三　發電所、變電所、蓄電所及配電所

（イ）所在地　郡、町、村、番地

（ロ）出力　最大出力、平均出力及最大出力ノ繼續時間ヲ記載スルコト

（ハ）原動機、發電機、電動發電機、回轉變流機、周波數變換機、變壓機、蓄電池、昇壓機等ノ種類、箇數、常用ト豫備トニ別ケ記載スルコト

容量　キロワット數、キロボルトアムペア又ハアムペア時數ヲ記載スルコト

電壓、電流、相及周波數　電線路毎ニ記載スルコト

四　送電線路及饋電線路

（イ）電氣方式　直流、交流ノ別竝相及及最大電壓ヲ記載スルコト

（ロ）電線路ノ構造

一　電線ノ種類　材質竝單一線、撚線、被覆線及太サ及裸線ノ別ヲ記載スルコト

二　架設方法　架空式ニ在リテハ木柱、鐵塔等ノ別、地中式ニ在リテハ暗渠、線渠、鐵柱、鐵塔、直接埋設等ノ別ヲ記載

スルコト

五　電車線路

（イ）架空複線式

電線ノ種類、太サ及吊架方法　スパン線式又ハブラケット式及直接吊線式又ハ剛線吊線式等ノ別ヲ記載シ其ノ構造寸法ヲ示ス圖面添附

一　支持物ノ種類　木柱、鐵柱、鐵塔等　建植方法　中央柱及側柱ノ別ヲ記載スルコト

一　徑間距離　平均及最大距離ヲ記載シ最大距離六十米以上ナルトキハ其ノ電線ノ強度及支持物ノ強度ニ關スル計算ヲ示スコト

一　他ノ建造物トノ關係上施設スヘキ設計　圖面ヲ添附シ說明スルコト

（ロ）架空單線式

一　（イ）ニ揭クル事項

一　軌條ノ接續方法　圖面ヲ添附シ說明スルコト

一　補助線及軌條ボンドノ種類及太サ

（ハ）第三軌條式

一　敷設方法　圖面ヲ添附シ說明スルコト

一　第三軌條ノ重量及形狀

一　第三軌條及軌道軌條ノ接續方法　圖面ヲ添附シ說明スルコト

一　軌條ボンドノ種類及太サ

六　電氣機關車及電車

（イ）電動機ノ種類、箇數、出力及電壓

（ロ）制御裝置ノ種類及制御器ノ箇數

（ハ）集電裝置及箇數

七　軌道ノ動力トシテ他ヨリ電力ノ供給ヲ受クル場合

（イ）供給電力ノ電氣方式、最大電壓、容量及受給時間

（ロ）送電上ノ責任分界點、電氣工作物ノ所有權分界點　圖面ニ依リ明示スルコト

（ハ）受電設備ノ大要　圖面ヲ添附シ說明スルコト

併用軌道ニ在リテハ前三項ニ規定スルモノヲ除クノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　併用軌道ノ延長及其ノ始終點ノ地名、地番

二　軌道ノ構造及道路ノ鋪裝　圖面ニ依リ明示スルコト

三　軌道ノ排水設備　圖面ニ依リ明示スルコト

第六條　他ノ鐵道又ハ軌道ト交叉又ハ連絡スル場合ニ於テハ交叉又ハ連絡ニ關スル協定書ノ謄本及鐵道ノ動力トシテ他ヨリ電力ノ供給ヲ受クル場合ニ於テハ供給契約書ノ謄本ヲ工事方法書ニ添附スヘシ

第七條　特許ヲ受ケタル軌道線路ノ全部ニ對シ工事施行ノ認可ヲ一時ニ申請スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ具シ分割シテ認可ヲ申請スルコトヲ得

第八條　工事施行ノ認可ヲ申請スル場合ニ於テ停留場、橋梁、車輛ニ關スル設計ヲ確定スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ具シ大體ノ設計ヲ定メテ之カ認可ヲ受クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ更ニ詳細ナル設計ヲ定メ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第九條　工事施行ノ認可ヲ受ケタルトキハ主任技術者ヲ置キ技術ニ關ス

（棒法）

ル事項ヲ擔任セシムヘシ

主任技術者ヲ置キタルトキハ遲滯ナク其ノ履歷書ヲ添附シ棒太鐵長官ニ之ヲ屆出ツヘシ之ヲ變更シタルトキハ亦同シ

主任技術者ヲ不適任ト認ムルトキハ棒太鐵長官ハ其ノ解任ヲ命スルコトアルヘシ

第十條　工事施行ノ認可ヲ受ケタル後線路ヲ變更セムトスルトキハ第四條ノ規定ニ準シ線路實測圖新舊對照圖添附ヲ、工事方法書ノ記載事項ヲ變更セムトスルトキハ第五條ノ規定ニ準シ變更セムトスル事項ニ關スル工事方法書停留場ノ變更ニ在リテハ新舊對照圖添附ヲ作製シ其ノ事由ヲ具シ棒太鐵長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ認可申請書ニハ工費豫算書ヲ添附シ工費支出ノ途ヲ明ニスヘシ但シ重要ナラサル變更ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　新設軌道ニ於ケル線路及工事方法書ニ記載シタル事項ノ變更ニシテ左ニ揭クルモノハ其ノ理由ヲ具シ新舊ヲ對照シ棒太鐵長官ニ之ヲ屆出ツヘシ

一　線路中心線ノ變更カ市街又ハ家屋稠密ノ地ニ在リテハ左右各二十米以內其ノ他ノ地ニ在リテハ各百米以內ナルトキ　圖面添附

二　曲線ノ半徑ヲ變更シテ之ヲ長カラシムルトキ又ハ軌間七百六十二粍ノモノニ在リテハ百六十米迄其ノ他ノモノニ在リテハ二百四十米迄之ヲ短縮スルトキ　圖面添附

三　施工基面高低ノ變更カ市街又ハ家屋稠密ノ地ニ在リテハ六百粍以內其ノ他ノ地ニ在リテハ千八百粍以內ナルトキ　圖面添附

四　線路ノ勾配ヲ變更シテ之ヲ緩ナラシムルトキ又ハ電氣ヲ動力トスルモノニ在リテハ千分ノ二十五迄其ノ他ノモノニ在リテハ千分ノ十七迄之ヲ急ナラシムルトキ　圖面添附

五　線路ノ勾配千分ノ五ヨリ急ナラサル箇所ニ於ケル停留場ノ中心杆程ノ變更カ市街又ハ家屋稠密ノ地ニ在リテハ二十米以內其ノ他ノ地ニ在リテハ百米以內ナルトキ　圖面添附

六　停留場ノ名稱變更

七　停留場ノ新設又ハ位置變更　圖面添附

八　踏切道ノ增減

九　六米以內ノ橋梁及百米以內ノ隧道ノ廢止竝認可ヲ得タル設計ト同一設計ニ依ル橋梁及隧道ノ新設又ハ伸縮　圖面添附

十　停留場ニ於ケル建造物及配線ノ伸縮增減竝用地境界ノ變更　圖面添附

洪水氾濫地域ニ於ケル線路及橋梁ノ變更ニ付テハ前條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第十二條　工事施行又ハ第十條第一項ノ認可申請書ヲ提出スルトキハ同時ニ軌道敷設ノ爲ニスル道路及河川ノ占用面積圖ヲ提出スヘシ

第十三條　軌道經營者工事ニ著手シ又ハ之ヲ竣工セシメタルトキハ遲滯ナク棒太鐵長官ニ屆出ツヘシ

第十四條　車輛ニ關シテハ其ノ製作又ハ購入前設計ヲ定メ左ノ事項ヲ記載シ棒太鐵長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ政府ノ鐵道所屬ノ車輛又ハ既認可ノ車輛ニシテ改造ヲ加ヘサルモノヲ購入スル場合ニ於テハ前使用者名、衆形式番號及番號ヲ記載シ左ノ事項ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

一　機關車　設計ノ異ル毎ニ設計書ヲ作製スルコト

（棒法）

（イ）形式　四輪聯結六輪タンク機關車、六輪聯結十輪テンダー機關車等ノ別ヲ記載スルコト

（ロ）輛數

（ハ）重量　運轉整備ノトキニ於ケル機關車及炭水車ノ各車輛一對ノ軌條面壓力ヲ瓲ヲ以テ記載スルコト

（ニ）主要寸法　平面、側面及端面竝要部ノ斷面ヲ示シ且主要ナル構造寸法ヲ記入シタル組立圖ヲ添附シ端面圖ニハ車輛定規トノ關係ヲ示スコト

一　最大寸法　長ハ前後緩衝器間ノ距離、幅ハ車體中心線ヨリ側部ニ於ケル最突出部迄ノ距離ノ二倍、高ハ軌條面迄ノ高部ヨリ高部迄ノ距離

一　車輪輪軸距　機關車及炭水車ヲ區別シ固定輪軸距、全輪軸距、機關車及炭水車ヲ合シタル全輪軸距

一　軌條面ヨリ緩衝器及聯結器ノ中心迄ノ高

一　兩側緩衝器中心間ノ距離

（ホ）汽罐ノ構造　罐胴、煙樞及火室ノ構造寸法竝各鈑ノ纖手及各種繫桿ノ構造配置ヲ示ス圖面添附

一　火床面積　平方米ヲ以テ記載スルコト

一　傳熱面積　總面積ヲ記載シ焰管ノ面積、火室ノ面積、過熱面積等ヲ區別シ平方米ヲ以テ記載スルコト

一　焰管ノ外徑及長　長ハ管銅ニテ計リタルモノヲ記載スルコト

一　實用最高汽壓　一平方糎ニ付瓲ヲ以テ記載スルコト

（ヘ）汽機ノ構造　汽筒ノ直徑及衝程ヲ記載シ汽筒及汽樞ノ構造竝摺動弁運動裝置ヲ圖面ニ依リ明示スルコト

（ト）臺框ノ構造　圖面ニ依リ明示スルコト

（チ）聯結桿及併行桿及併行ノ構造　圖面ニ依リ明示スルコト

（リ）トラックノ構造　圖面ニ依リ明示スルコト

（ヌ）車輪車軸ノ構造　車輪車軸圖、作圖上必要ナル寸法ヲ詳記シタル輪鐵ノ現尺斷面圖及車輪ト轍叉トノ關係ヲ明示セル斷面圖添附

一　車輪ノ直徑　働輪、導輪、從輪及炭水車ノ各輪ヲ區別シ記載スルコト

一　車輪一對ノ輪鐵內側距離　圖面ニ依リ明示スルコト

（ル）擔彈機ノ構造及裝置　兩側緩衝器、中央緩衝聯結器、自動聯結器、螺旋聯結器等ノ別ヲ記載シ其ノ構造ヲ圖面ニ依リ明示スルコト

（ヲ）緩衝器、聯結器ノ種類及構造　兩側緩衝器、中央緩衝聯結器、自動聯結器、螺旋聯結器等ノ別ヲ記載シ其ノ構造寸法ヲ記入シタル組立圖ヲ添附シ端面圖ニハ車輛定規トノ關係ヲ示スコト

（ワ）制動機ノ種類及裝置　手用、蒸氣、眞空制動機等ノ別ヲ記載シ制動裝置圖添附

（カ）燃料槽ノ容積　立方米ヲ以テ及水槽容積　立方米ヲ以テ記載スルコト

（ヨ）牽引重量　一時間三十二粁ノ速度ニテ千分ノ十勾配ヲ上ルトキ計算上牽引シ得ヘキ重量ヲ瓲ヲ以テ記載スルコト

但シ軌間七百六十二粍ノ軌道ニ在リテハ十六粁ノ速度ニ依リ計算スルコト

（タ）特殊設計　圖面ヲ添附シ構造設計ノ異ル每ニ設計書ヲ作成スルコト

二　客車及貨車

（イ）車種　ボギー車、四輪車等ノ別、客車ニ在リテハ特等、並等、手小荷物緩急車等、貨車ニ在リテハ有蓋、無蓋、貨物緩急車等ノ別ヲ記載スルコト

（ロ）輛數　瓲ヲ以テ記載スルコト

（ハ）自重　瓲ヲ以テ記載スルコト

（ニ）定員　座席定員及起立定員ヲ等級別ニ記載スルコト

（ホ）定員一人ニ對スル客室面積　等級ニ依リ區別シ平方米ヲ以テ記載スルコト

（ヘ）積載容積及荷重　郵便室、手小荷物室等ヲ區別シ積載容積ハ立方米、荷重ハ瓲ヲ以テ記載スルコト

（ト）主要寸法　平面、側面及端面竝要部ノ斷面ヲ示シ且主要ナル構造寸法ヲ記入シタル組立圖ヲ添附シ端面圖ニハ車輛定規トノ關係ヲ示スコト

一　最大寸法　長ハ前後緩衝器間ノ距離、幅ハ車體中心線ヨリ側部ニ於ケル最突出部迄ノ距離ノ二倍、高ハ軌條面迄ノ高部ヨリ最高部迄ノ距離

一　車體內寸法　客車ニ在リテハ各客室、郵便室、手小荷物室、車掌室ヲ貨車ニ在リテハ車掌室アルモノハ之ヲ區別シ長、幅及高ヲ記載スルコト

一　固定輪軸距及ボギー中心間ノ距離

一　軌條面ヨリ緩衝器聯結器ノ中心迄ノ高　空車ノトキ

一　兩側緩衝器中心間ノ距離

（チ）臺框ノ構造　圖面ニ依リ明示スルコト

（リ）トラックノ構造　圖面ニ依リ明示スルコト

（ヌ）車輪車軸ノ構造　車輪車軸圖、作圖上必要ナル寸法ヲ詳記シタル輪鐵ノ現尺斷面圖及車輪ト轍叉トノ關係ヲ明示セル斷面圖添附

一　車輪ノ直徑

一　車輪一對ノ輪鐵內側距離

（ル）擔彈機ノ構造及裝置　圖面ニ依リ明示スルコト

（ヲ）緩衝器及聯結器ノ種類及構造　兩側緩衝器、中央緩衝聯結器、自動聯結器、螺旋聯結器、連環聯結器等ノ別ヲ記載シ其ノ構造ヲ圖面ニ依リ明示スルコト

（ワ）制動機ノ種類及裝置　手用、壓搾空氣、車側制動機等ノ別ヲ記載シ制動裝置圖添附

（カ）客車內點燈ノ種類及設備　電燈ニ在リテハ電線接續圖添附

（ヨ）特殊設計　圖面ヲ添附シ構造裝置ヲ說明スルコト

三　汽動車　機關車及客貨車ニ準シ記載スルコト

四　電氣機關車及電車

（イ）第一號及第二號ニ揭クル事項

（ロ）電動機ノ構造　圖面添附　種類、箇數、出力、齒車ノ比　電動機及働輪ノ回轉數ノ割合及電壓ヲ記載スルコト

（ハ）制御品ノ種類、箇數及裝置

（ニ）聚電裝置ノ構造　圖面添附　種類及箇數

（ホ）車內電線接續　圖面ニ依リ明示スルコト

車輛ノ圖面ニハ第四號樣式ニ依ル主要材料表ヲ添附スヘシ

第十五條　前條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル後車輛ノ設計ヲ變更セムトスルトキハ新舊ヲ對照シ其ノ理由及圖面ヲ具シ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ左ニ揭クルモノハ其ノ理由ヲ具シ之ヲ屆出ッヘシ

一　認可ヲ受ケタル設計ト同一設計ニ依ル車輛ノ增加及改造

二　認可ヲ受ケタル設計ト同一設計ニ依ル客車及貨車ノ車種變更

三　客車內點燈ノ種類及設備ノ變更　電燈ニ在リテハ電線接續圖添附

四　定員又ハ定員一人ニ對スル客室面積ノ變更
五　吊革又ハ網棚ノ設置、廢止又ハ變更及座席、煖房其ノ他客車内設備ノ輕微ナル變更　必要ニ應シ圖面添附

第十六條　軌道經營者運輸ヲ開始シタルトキハ遲滯ナク棒太廳長官ニ之ヲ屆出ツヘシ

第十七條　假設工事ヲ施行セムトスルトキハ其ノ理由、工事設計書及圖面ヲ具シ使用期間ヲ定メ棒太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ
天災事變ノ際一時ノ用ニ供スル爲假設工事ヲ施行シタルトキハ其ノ使用期間ヲ定メ之ヲ屆出ツヘシ

第十八條　他ノ鐵道又ハ軌道ノ車輛ヲ運轉セムトスルトキハ該車輛ノ屬スル鐵道又ハ軌道及車輛一對ノ軌條面最大壓力ヲ記載シ棒太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ
機關車ニ在リテハ前項ノ外形式番號及番號ヲ附記スヘシ

第十九條　株金金額拂込前ノ資本增加ノ認可申請書ニハ其ノ理由ヲ具シ資本增加ヲ決議シタル株主總會ノ議事及決議ノ要領書株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ同意書ノ謄本添附ヲ添附シ延長線路ノ工事施行ノ認可申請書又ハ改良工事ノ認可申請書ト同時ニ之ヲ提出スヘシ

第二十條　後配株發行ノ認可申請書ニハ其ノ理由ヲ具シ地方鐵道法第六條ノ三ノ規定ニ準シ株式申込證ニ記載スヘキ事項ヲ記載シタル書類及後配株發行ヲ決議シタル株主總會ノ議事及決議ノ要領書株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ同意書ノ謄本添附ヲ添附シ延長線路ノ工事施行ノ認可申請書ト同時ニ之ヲ提出スヘシ
後配株ノ期間ヲ伸長セムトスルトキハ其ノ理由ヲ具シ後配株主總會ノ

議事及決議ノ要領書ヲ添附シ棒太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條　地方鐵道法第六條ノ三第三號ノ規定ニ準スルトキノ延長線ノ工事ノ大要ニ付テハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一　線路ノ延長及單線、複線等ノ別
二　期間
三　動力
四　停留場ノ豫定位置
五　開業豫定時期
六　建設費豫算額

第二十二條　會社合併ノ認可申請書ニハ合併ノ事由及方法ヲ具シ合併契約書ノ謄本ヲ添附シ棒太廳長官ニ之ヲ提出スヘシ

第二十三條　軌道ノ讓渡、貸借又ハ營業若ハ運轉ノ管理ノ委託若ハ受託ノ許可申請書ハ連署ノ上左ノ書類ヲ添附シ棒太廳長官ニ之ヲ提出スヘシ
一　株主總會ノ議事及決議ノ要領書株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ同意書ノ謄本添附
二　組合員又ハ社員ノ同意書ノ謄本
三　讓渡、貸借又ハ管理委託ニ關スル契約書ノ謄本

第二十四條　車輛ノ讓渡、廢止又ハ貸渡ヲ爲シタルトキハ棒太廳長官ニ之ヲ屆出ツヘシ但シ二月以内ノ貸渡ハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條　旅客運賃ノ認可申請書ニハ料制ニ在リテハ一料當及運賃、區間制ニ在リテハ區間ノ運賃、均一制ニ在リテハ均一運賃及運賃計算ノ方法ヲ記載シ棒太廳長官ニ之ヲ提出スヘシ
前項ノ申請書ニハ料制及區間制ニ在リテハ實測換算中心料程表（第五

〔棒法〕

號樣式）營業料程表（第六號樣式）及旅客運賃表（第七號樣式）ヲ添附スヘシ

第二十六條　荷物運賃ノ認可申請書ニハ手荷物、荷物等ヲ區別シ其ノ品種等級ニ依リ料制ニ在リテハ一料當運賃、區間制ニ在リテハ區間ノ運賃、均一制ニ在リテハ均一運賃計算ノ方法ヲ記載シ棒太廳長官ニ之ヲ提出スヘシ
荷物運賃ニ關シ別ニ營業料程ヲ制定セムトスルトキハ其ノ增加割合ヲ前項ノ申請書ニ記載シ其ノ計算方法ヲ附記シ荷物營業料程表（第八號樣式）ヲ添附スヘシ

第二十七條　旅客運賃又ハ荷物運賃ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ變更後ニ於ケル收支豫算書ヲ添附シ棒太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十八條　運輸ニ關スル料金ノ認可申請書ニハ其ノ種類及金額ヲ記載シ棒太廳長官ニ之ヲ提出スヘシ
運輸ニ關スル料金ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ棒太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十九條　前四條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル運賃又ハ料金ヲ實施シタルトキハ遲滯ナク其ノ月日ヲ棒太廳長官ニ屆出ツヘシ

第三十條　運轉速度及度數ノ認可申請書ニハ運轉速度及度數表（第九號樣式）ヲ添附シ棒太廳長官ニ之ヲ提出スヘシ
前項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル運轉速度ヲ增加シ又ハ度數ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ棒太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ
前二項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル事項ヲ實施シタルトキ及發著時刻ヲ變更シタルトキハ發著時刻表（第十號樣式）ヲ添附シ遲滯ナク其ノ月日ヲ棒太廳長官ニ屆出ツヘシ

第三十一條　軌道法第十八條第一項ノ規定ニ依ル買收ノ認可申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ
一　買收ノ事由書
二　買收物件ノ範圍ニ關スル調書
三　買收價格算出說明書
四　買收ニ關シ軌道經營者ト爲シタル交涉ノ顚末書
五　買收代價支拂ニ關スル說明書支拂ノ方法時期等ヲ記載スルコト
六　買收ニ關スル公共團體ノ議會ノ決議書謄本
七　買收後ニ於ケル軌道事業計畫書及收支豫算書
八　公共團體ノ當該年度歲入出豫算書

第三十二條　營業ノ休止又ハ廢止ノ許可申請書ハ其ノ理由ヲ具シ棒太廳長官ニ之ヲ提出スヘシ
會社解散ノ決議認可申請書ニハ其ノ理由ヲ具シ社員ノ同意書又ハ株主總會ノ議事及決議ノ要領書株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ同意書ノ謄本添附ヲ添附シ棒太廳長官ニ之ヲ提出スヘシ

第三十三條　第十九條、第二十條、第二十三條及前條ノ株主總會竝後配株主總會ノ議事及決議ノ要領書ニハ左ノ事項（後配株主總會ニ在リテハ後配株ニ關スル事項）ヲ附記スヘシ
一　資本ノ總額
二　株式ノ總數
三　株主ノ總數
四　出席株主ノ總數

五　出席株主ノ有スル株式ノ總數

第三十四條　車輛ノ衝突、顚覆其ノ他旅客ニ死傷ヲ生シタル重大ナル運轉事故ハ即時電信、電話又ハ口頭ヲ以テ樺太廳長官ニ報告スルノ外七日以內ニ第十一號樣式ニ依リ樺太廳長官ニ之ヲ屆出ツヘシ

前項以外ノ事項ハ一月分ヲ取纏メ翌月十五日限リ第十二號樣式ニ依リ樺太廳長官ニ之ヲ屆出ツヘシ

第三十五條　他ノ鐵道又ハ軌道ト連絡運輸又ハ直通運輸ヲ爲ストキハ左ノ事項ヲ記載シ契約書ノ謄本ヲ添附シ實施後一週間內ニ樺太廳長官ニ之ヲ屆出ツヘシ

一　連帶驛名

二　旅客及荷物ノ取扱方法

三　賃金割賦方法

四　共用停留場、倉庫等ニ關スル使用料其ノ他ノ事項

五　線路及車輛ノ使用料竝運轉料ニ關スル事項

六　運輸上ノ責任負擔方法

七　運輸開始ノ年月日

第三十六條　軌道經營者ハ每營業年度經過後二月內ニ營業報告書及統計報告書ヲ調製シ樺太廳長官ニ之ヲ提出スヘシ

第三十七條　軌道會社ハ商法ニ依ル登記ヲ爲シタルトキ又ハ定款ヲ變更シタルトキハ樺太廳長官ニ之ヲ屆出ツヘシ

第三十八條　地方鐵道法第三十二條第二項ノ規定ニ準スルトキノ建設費ハ軌道及其ノ附屬物件ヲ建設又ハ取得スル爲必要ナル實費決算額トス

一部買收ノ場合ニ於テハ買收及殘存區間ノ建設費ハ各區間ニ付之ヲ計算シ各區間ニ關聯スル建設費ハ左ノ各號ニ依リ各區間ニ付之ヲ分割ス

一　線路測量費ハ各區間ノ粁數ニ依ル百分率

二　車輛費、電車庫費、器械場費、發電所費及變電所費ハ各區間ノ最近營業年度末ヨリ遡リ三年間、運輸開始後三年ヲ經過セサルモノニ在リテハ運輸開始ノ日ヨリ買收ノ日迄ニ於ケル車輛走行粁ニ依ル百分率

三　前二號以外ノモノニ付テハ各區間ニ於ケル建設費決算額（前二號ニ依リテ分割シタル金額ヲ含ム）ノ割合ニ依ル百分率

第三十九條　地方鐵道法第三十二條第二項ノ規定ニ準スルトキノ營業收入ハ客車收入、貨車收入其ノ他運輸營業上ノ諸收入トシ營業費ハ軌道及其ノ附屬物件ノ保存復舊ノ費用、諸稅其ノ他運輸營業上ノ諸費用トス

一部買收ノ場合ニ於テハ買收及殘存區間ノ營業收入及營業費ハ營業年度每ニ各區間ニ付之ヲ計算シ各區間ニ跨ル營業收入及營業費ハ左ノ各號ニ依リ營業年度每ニ各區間ニ付之ヲ分割ス

一　客車收入ハ買收及殘存區間ニ跨ル旅客ノ各區間ニ於ケル延人粁數ニ依ル百分率

二　貨車收入ハ買收及殘存區間ニ跨ル貨物ノ各區間ニ於ケル延噸粁數ニ依ル百分率

三　前二號ニ揭クルモノ以外ノ收入ハ買收及殘存各區間ニ於ケル他ノ收入總額ニ依ル百分率

四　營業費ハ買收及殘存各區間ニ於ケル營業收入ニ依ル百分率

第四十條　軌道會計規程第九條乃至第十一條ノ規定ハ前二條ノ規定ニ依ル建設費、營業收入及營業費ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第四十一條　地方鐵道法第三十五條ノ二第二項及第三十六條ノ二第三項ノ規定ニ準スルトキノ配當ノ認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ當該期ノ貸借對照表及收支計算書ヲ添附シ之ヲ提出スヘシ

一　概算交付金ノ處分案

二　債務アルトキハ其ノ金額、償還方法及期日竝次ノ配當期迄ニ支拂フヘキ利子金額

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

間建設費豫算書

延長　　　　粁

軌　　　道

項	目	數量	平均單價	金高	合計
測量及監督費		粁	圓	圓	圓
用地費					
	線路用地	平方米			
	道路用地	〃			
	停留場用地	〃			
	川道附替用地	〃			
	發電所用地	〃			
	變電所用地	〃			
	雜費				
土工費					
	線路切取	立方米			
	線路築堤	〃			
	川道附換	〃			
	踏切道	〃			
	土留石垣	平方米			
路面費					

項	目	數量	平均單價	金高	合計
溝橋費			圓	圓	圓
	開渠	箇所			
	暗渠	〃			
伏樋費		粁			
停留場費					
	何停留場	箇所			
	何停留場外何箇所	〃			
車輛費					
	(蒸氣)(電氣)機關車	輛			
	(電動)(附隨)客車	〃			
	(電動)(附隨)貨車	〃			
	汽動車	〃			
器械費		粁			
諸建物費		〃			
運送費		〃			
建築用具費		〃			

	項目	單位
	鋪裝	平方米
	排水設備	米
	地下工作物整理	〃
	踏切工	平方米
橋梁費		
	何川橋梁	米
	何川拱橋	〃
	何川外何箇所	〃
隧道費		
	何隧道	米
	何隧道外何箇所	〃
軌道費		
	軌條及附屬品	粁
	轉轍器及轍叉	組
	枕木	挺
	道床	粁
	敷設費	〃
	雜費	
柵垣及境界杭費		〃
通信線路費		〃
電力線路費		
	送電線	粁
	饋電線	〃
	電車線	〃
	電柱	〃
	架線材料	〃
	ボンド	〃
	電氣信號	〃
	工費	〃
發電所費		キロワット
變電所費		〃
總係費		
豫備費		
合計		
一粁當		

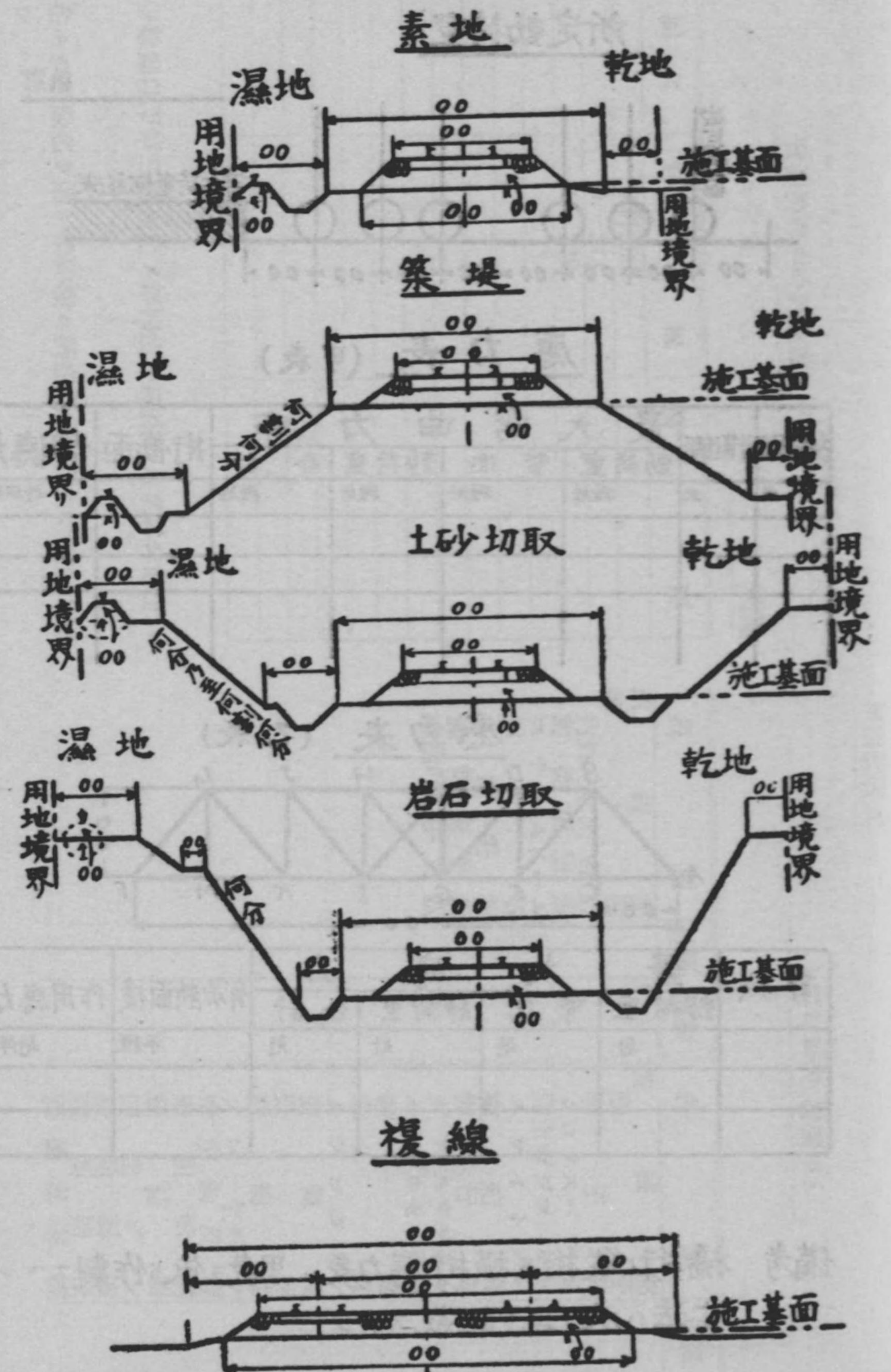
備考　建設資金出資ノ方法ヲ記載スヘシ

〔鐵法〕

第二號様式

土工定規

縮尺何分之一



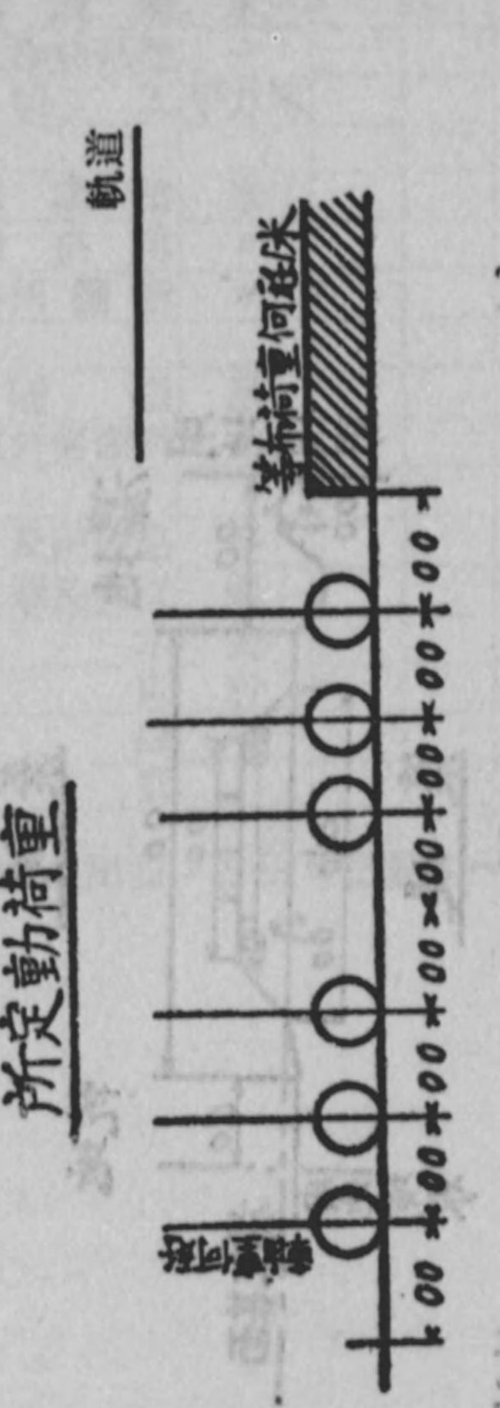
備考　寸法ハ糎ヲ以テ記載スヘシ

〔鐵法〕

第三號樣式

軌道

所定動荷重



應力表（甲表）

徑間	計算徑間	最大彎曲力率				桁斷面	作用應力
		動荷重	撃衝	靜荷重	合計		
米	米	瓲米	瓲米	瓲米	瓲米		瓲/平糎

應力表（乙表）

部材	最大應力				有効斷面積	作用應力
	動荷重	撃衝	靜荷重	合計		
	瓲	瓲	瓲	瓲	平糎	瓲/平糎

備考　橋桁ノ縱桁及横桁ノ應力表ハ甲表ニ依リ作製スヘシ
寸法ハ米ヲ以テ記載スヘシ

〔様式〕

〔様式〕

第四號樣式

主要材料表（機關車）

軌道

名稱	材質	摘要	名稱	材質	摘要
汽罐部			機械部		
罐胴			喞子桿		
内外火室各鈑			喞子		
前後焔管鈑			クロツスヘツド		
スチームドーム			同上ガジョンピン		
焔管			スライトバー		
各種繋桿			聯結桿		
罐胴繼手鋲			併行桿		
罐胴繼手目鈑			ヴアルウギーヤ		
			ホヰールセンター		
			輪鐵		
			車軸		
			クランクピン		
			擔彈機		
			臺框架		
			緩衝		
			ブレーキギーヤ		
			牽引鉤及桿		
			牽引彈機		
			聯結器		
			同上ピン		
			緩衝器頭		
			緩衝器筐		
			緩衝器彈機		

第五號樣式

實測換算中心粁程表

軌道

停留場名	粁程	摘要
	0.粁320	
	0. 511	
	1. 239	

備考

1. 粁程ハ少數點以下第三位ニ止メ第四位ハ四捨五入ヲ爲シ計上スヘシ
2. 停留場名ニハ振假名ヲ附シ摘要欄ニ所在地（郡町村大字名）ヲ記載スヘシ

第六號樣式

營業粁程表

軌道

停留場名	粁 0.9	2.6	5.1	6.6							
	停留場名	1.7	4.3	5.7							
		停留場名	2.5	4.0							
			停留場名	1.5							
				停留場名							
									支		
										線	

備　考
1. 營業粁程ハ小數點以下第一位ニ止メ第二位以下ハ四捨五入ヲ爲シ計上スヘシ
2. 起點停留場ト他ノ停留場トノ營業粁程ハ第五號樣式所載各停留場ノ實測換算中心粁程ヨリ起點停留場ノ實測換算中心粁程ヲ控除シ殘餘ノ粁程ヲ換算スヘシ
3. 起點停留場ニ非ザル各停留場相互間ノ營業粁程ハ前號ノ營業粁程ヲ差引算出スヘシ
4. 支線ノ營業粁程ハ前各號ニ依リ算出シ支線各停留場ト幹線各停留場相互間ノ營業粁程ハ各停留場ヨリ分岐點ニ至ル營業粁程ヲ合計シ順次記載スヘシ

〔雜出〕

〔雜出〕

第七號樣式

旅客運賃表

軌道

停留場名	錢 3	7	13	17					
	停留場名	5	11	15					
		停留場名	7	10					
			停留場名	4					
				停留場名					
							支		
								線	

備　考
1. 運賃表ハ各等別ニ調製スヘシ
2. 區間制運賃ニ在リテハ下ノ例示ニ依リ運賃區間ノ停留場名ヲ標示ス

3. 粁制運賃ニ在リテハ下記樣式ニ依リ一粁當ノ運賃ヲ表示スヘシ

對粁運賃表

軌道

營業粁程	運賃 三等	二等	一等
0.　0.4	1 錢	2 錢	3 錢
0.5　0.8	2	4	6
0.9　1.2	3	6	9
1.3　1.6	4	7	11

運賃計算ノ方法

三等運賃ハ營業粁程ニ　錢　厘ヲ乘ス
二等運賃ハ三等運賃ノ　割增
一等運賃ハ三等運賃ノ　割增

計算上生シタル厘位ハ之ヲ｛錢位ニ切上ク／切捨ツ／四捨五入ス

第八號樣式

荷物營業粁程表

軌道

停留場名	2	4	8	10					
	停留場名	3	7	9					
		停留場名	4	6					
			停留場名	3					
				停留場名					
							支		
								線	

備考

荷物營業粁程ハ第六號樣式ニ依ル營業粁程表ノ各停留場間營業粁程ヲ割增シ計算上生シタル端數ノ取捨ヲ說明スヘシ

第九號樣式

運轉速度及度數表

軌道

停留場間	粁程	速度				度數					
		(車輛ノ種別)				(車輛ノ種別)				總計	
		運轉時分	平均速度			最大	最小			最大	最小
停留場名 停留場名	粁										

備考 1. 粁程ハ總テ營業粁程ヲ以テ記載スヘシ
2. 停留場名ハ一運轉系統ニ於ケル平均速度十六粁以下ナルトキハ兩端停留場名ヲ、十六粁ヲ超ユルトキハ各停留場名ヲ記載スヘシ
3. 速度及度數ハ旅客(急行又ハ普通)及混合等車輛ノ種別アル場合ニハ各別ニ記載スヘシ
4. 運轉時分ハ停車時分ヲ除キ車輛ニ依リ同一區間ノ運轉時分ヲ異ニスルトキハ最小時分ニ依リ記載スヘシ

〔裏ニ〕

〔裏ニ〕

第十號樣式

發著時刻表

軌道

下リ				累計粁程	停留場名	區間粁程	上リ			
1 ※混 午前	3 急客 午前	21 貨 午後	5 普 午後				2 ※混 午前			
	1 .20					0.9				
	24 25			0.9		1.7				
	— 31			2.6		2.5				
	×40 42			5.5		1.5				
	47 48			6.6		2.1				
	— 55			8.7		2.4				
	12.03 05			11.1		2.6				
	14 15			13.7		2.4				
	22 23			16.1						

備考 1. 粁程ハ總テ營業粁程ヲ以テ記載スヘシ
2. 符號ヲ以テ車輛運行ノ種別ヲ示ストキハ欄外ニ其ノ凡例(例※印ハ不定期車輛ノ如キ)ヲ記載スヘシ
3. 時刻ハ上段ヲ著、下段ヲ發(上リ車輛ハ其ノ反對)トスヘシ
4. 通過車輛ハ發時刻ノミヲ記載シ著時刻ノ段ニ——ヲ記入スヘシ

5. 車輛カ行違ヲ爲ス著時刻ニハ×印ヲ附スヘシ
6. 停車時間一分未滿ノ場合ニハ著發共同一時分ヲ記載シ欄外ニ「著發同時分ヲ記載セルモノハ發時刻何秒前ニ到著スルモノトス」ト記載スヘシ
7. 支線ノ時刻ハ別ニ記載スヘシ
8. 等間隔時分ヲ以テ運轉スル場合ニ在リテハ最初ノ上下各一箇車輛ノ發著時刻ヲ明記シ（間隔時分ヲ異ニスル毎ニ各別ニ）其ノ他ノ車輛ノ發著時刻ノ記載ヲ省略スルコトヲ得
9. 本表ハ各運轉系統ニ於ケル始發終發時刻及停車時分ヲ記載シ（成ルヘク運轉系統圖ヲ添附スルコト）之ニ代フルコトヲ得

第十一號樣式（半紙判形）

年　月　日

宛名

軌道代表者

事故屆

事故ノ種類及原因	
發生日時分	
場所	
當該車輛	
現場ノ狀況及當時ノ處置	
損害ノ程度	
進行停止時間	
當務者處分ノ顚末	

備考

一、事故ノ種類ハ左ノ如ク區別シテ之ヲ記載スヘシ

車輛ノ衝突　衝突シタル車輛ノ種類及衝突ノ種別ヲ記載スヘシ

車輛ノ接觸　同上

脫線　車輛ノ種類ヲ記載スヘシ

顚覆　同上

傾倒　同上

車輛ノ分離　同上

車輛ノ異線進入　同上

車輛ノ不良　車輛ノ種類及其ノ輛數ヲ記載スヘシ

車輛逸走　同上

線路障害　天災事變ニ因リ車輛運轉ニ支障ヲ及ホシタル事項ヲ記載スヘシ

車輛妨害　故意ニ車輛ノ運轉ヲ支障シタル一切ノ事項ヲ記載スヘシ

電氣設備ノ故障　車輛ノ運轉ニ支障ヲ及ホシタル事項ヲ記載スヘシ

火災　車輛、建造物及沿線被害物ノ種類ヲ記載スヘシ

死傷　乘客、係員及公衆ニ區別シ記載スヘシ

二、場所ハ停留場名又ハ起點ヨリノ粁程（何停留場間ヲ記載スヘシ）

三、當該車輛ハ其ノ種類及番號ヲ記載スヘシ

四、現場ノ狀況及當時ノ處置ハ詳細ニ說明シ必要ニ依リ圖面ヲ添附スヘシ

五、當務者處分ノ顚末ハ解職、降職、減給、譴責等ノ別ニ依リ記載スヘシ但シ處分未了ノ場合ハ其ノ旨ヲ附記シ處分結了ト同時ニ之ヲ追報スヘシ

第十二號樣式（半紙判形）

年　月　日

宛名

軌道代表者

月分事故屆

事故ノ種類及原因	發生日時分	場所	當該車輛	現場ノ狀況及損害ノ程度	進行停止時間	當務者處分ノ顚末

備考　第十一號樣式備考ニ同シ

〔樺法〕

●軌道建設規程

昭和六年十一月十日
廳令第三十九號

軌道建設規程左ノ通定ム

軌道建設規程

第一章　總則

第一條　軌道ノ建設ハ本令ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第二條　車輛ノ運轉ニ常用スル線路ヲ本線路ト謂ヒ其ノ他ノ線路ヲ側線ト謂フ

第三條　道路上其ノ他公衆ノ通行スル場所ニ敷設スル軌道ヲ併用軌道ト謂ヒ其ノ他ノ軌道ヲ新設軌道ト謂フ

第二章　線路及建造物

第一節　軌間、軌道ノ高度及輪緣路

第四條　軌間ハ直線ニ於テ軌條頭ノ內側ヨリ內側迄ノ距離ニ依リ之ヲ測定ス

第五條　軌間ハ七百六十二粍、一米〇六七、一米四三五ト爲スヘシ

第六條　併用軌道ノ曲線ニ於テ軌間ニ擴度ヲ附スル場合ハ左ノ制限ニ依

〔樺法〕

ルヘシ

一　軌間一米〇六七若ハ一米四三五ニシテ曲線ノ半徑百二十米以下ノモノニ在リテハ二十五粍以内

二　軌間七百六十二粍ニシテ曲線ノ半徑六十米以下ノモノニ在リテハ十三粍以内

第七條　新設軌道ノ曲線ニ在リテハ左ノ區別ニ依リ軌間ニ相當ノ擴度ヲ附スヘシ但シ轉轍器ニ附帶スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　軌間一米〇六七及一米四三五ニシテ曲線ノ半徑六百米以下ノモノニ在リテハ二十五粍以内

二　軌間七百六十二粍ニシテ曲線ノ半徑四百米以下ノモノニ在リテハ十六粍以内

第八條　新設軌道ノ軌條ノ高度ハ左ノ制限ニ依ルヘシ

一　直線ニ在リテハ兩軌條面ノ高ヲ均クスルコトヲ要ス但シ曲線ニ於ケル高度ヲ遞減スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

二　曲線ニ在リテハ轉轍器ニ附帶スル場合ヲ除クノ外外側軌條ニ相當ノ高度ヲ附シ曲線ニ接續スル直線又ハ緩和曲線ニ於テ之ヲ遞減スヘシ

第九條　輪緣路ハ車輛ノ輪緣ニ對シ適當ノ大サヲ有セシムヘシ

市街地ニ於ケル併用軌道ニシテ交通特ニ頻繁ナル箇所、轉轍器又ハ轍叉ヲ設置スル箇所ニ在リテハ溝軌條ヲ用キ若ハ之ニ準スヘキ施設ヲ爲スヘシ

第十條　併用軌道ハ道路ノ中央ニ之ヲ敷設シ左ニ揭クル車體外有效幅員ヲ存スヘシ

道路ノ種別	車道歩道ノ區別アル道路ノ車道各側	兩側人家連檐又ハ連檐スヘキ場所	其ノ他ノ場所
特ニ主要ナル街路	四米五五以上	——	——
主要ナル街路特ニ主要ナル道路	三米六四以上	四米五五以上	四米一〇以上
其ノ他ノ道路	——	三米六四以上	——

第十一條　前條ノ其ノ他ノ道路ニ於テハ左ニ揭クル車體外有效幅員ヲ存シ軌道ヲ其ノ一方ニ偏シテ敷設スルコトヲ得

車道歩道ノ區別ナキ道路			
兩側人家連檐又ハ連檐スヘキ場所	其ノ他ノ場所		
一側	他ノ一側	一側	他ノ一側
三米六四以上	一米八二以上	三米六四以上	〇米九一以上

第十二條　本線路ニ於テハ並行セル兩軌道中心間ノ間隔ハ車輛ノ最大幅員ニ四百粍ヲ加ヘタルモノヨリ小ナルコトヲ得ス

本線路ニ於テハ車輛ト工作物トノ間隔ハ二百三十粍ヨリ小ナルコトヲ得ス

本線路ノ曲線ニ於テハ前二項ニ規定スル間隔ハ之レニ兩車輛ノ偏倚スル寸法ヲ加ヘタルモノヨリ小ナルコトヲ得ス

第十三條　併用軌道ニ於テハ軌條間ノ全部及左右各六百十粍ハ其ノ軌道

〔棒法〕

ヲ敷設スル道路ノ路面ト同一構造トシ軌條面ト道路面ト高低ナカラシムヘシ

第三節　電車柱、排水設備及地下工作物ニ對スル防備

第十四條　道路ニ建設スル電車柱ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ側柱式ト爲スヘシ

側柱ハ車道歩道ノ區別アル箇所ニ於テハ歩道ノ車道側ニ之ヲ建設スヘシ

中央柱式ニ依ル電車柱ニハ點燈ノ設備ヲ爲スヘシ

第十五條　併用軌道ニ於テハ排水ノ設備ヲ爲スヘシ

第十六條　軌道ヲ地下工作物ト交叉又ハ接近シテ敷設スル爲其ノ工作物ヲ防護スル必要アルトキハ適當ノ設備ヲ爲スヘシ

軌道ハ人孔、制水弁等ノ操業ニ障碍ヲ與ヘサル適當ノ距離ヲ存シ之ヲ敷設スヘシ

第四節　曲線及勾配

第十七條　本線路曲線半徑ハ十一米ヨリ小ナルコトヲ得ス

第十八條　本線路ノ勾配ハ千分ノ四十ヨリ急ナルコトヲ得ス但シ特殊ノ箇所ニ於テハ千分ノ六十七迄ト爲スコトヲ得

停留場ニ於ケル本線路ノ勾配ハ千分ノ十ヨリ急ナルコトヲ得ス

第五節　施行基面

第十九條　新設軌道ニ於ケル軌道中心ヨリ施工基面緣端迄ノ距離ハ軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ一米八三以上、軌間七百六十二粍ノモノニ在リテハ一米五二以上トス

第六節　軌道及橋梁

第二十條　枕木下面ヨリ施工基面迄ノ道床ノ厚ハ軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ百粍以上、軌間七百六十二粍ノモノニ在リテハ七十六粍以上トス

第二十一條　軌道及橋梁ノ各部ハ動荷重ニ耐フル負擔力ヲ有スルコトヲ要ス

第二十二條　新設軌道ノ橋梁ニシテ交通頻繁ナル道路上又ハ水面上ニ架設スルモノニ在リテハ物件ノ墜落ヲ防ク爲車輛ノ全幅員及其ノ兩側各三百粍以上之ヲ蓋フコトヲ要ス

第七節　待避所

第二十三條　新設軌道ニ於テハ排水ノ設備ヲ爲スヘシ

第二十四條　軌道ト道路トノ平面交叉ノ交角ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外三十度以上ト爲スヘシ

第二十五條　踏切道ハ軌條間ノ全部及其ノ左右各六百十粍ニ木石其ノ他適當ナル材料ヲ敷キ軌條面ト道路面ト高低ナカラシムヘシ

新設軌道ノ踏切道ニハ通行人ノ注意ヲ惹クヘキ警標ヲ設ケ交通頻繁ナル箇所ニハ門扉其ノ他相當ノ保安設備ヲ爲スヘシ

第九節　保安裝置

第二十六條　線路カ本線路ヨリ分岐シ又ハ本線路カ鐵道、軌道ト平面交叉ヲ爲ス箇所ニハ相當ノ保安裝置ヲ爲スヘシ新設軌道ノ停留場ニ於テ車輛ノ行違ヲ爲スモノニ付亦同シ

第十節　車輛ノ逸出防備

第二十七條　車輛カ本線路ニ逸出スル虞アル線路ニハ相當ノ防止設備ヲ爲スヘシ

第二十八條　新設軌道ニ於ケル線路ノ終端ニハ車止ヲ設クルコトヲ要ス

第十一節　線路ノ防備

第二十九條　新設軌道ニ於ケル人又ハ牛馬等ノ線路ニ踏入ル虞アル場所及保安上必要ナル場所ニハ堤塘、柵垣又ハ溝渠ヲ設クルコトヲ要ス

第十二節　機關車其他ノ設備

第三十條　機關車ヲ收容スル爲相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第三十一條　發電所及變電所ニハ相當ノ警備機械ヲ備フルコトヲ要ス

第三章　車輛

第一節　裝置

第三十二條　車輛ニハ適當ナル制動機ヲ裝置スヘシ但シ貨車ニ在リテハ特別ノ事由アル場合ニ限リ之ヲ省略スルコトヲ得

動力車ニハ手用制動機ヲ裝置スヘシ但シ特殊ノ軌道ニ使用スルモノニ在リテハ手用制動機及動力制動機ヲ備フヘシ

第三十三條　車輛ニハ救助器、擔彈機、音響器及乘務員間ノ合圖器ヲ裝置スヘシ但シ人力又ハ馬力ヲ動力トスル車輛及新設軌道ノミヲ運轉スル車輛ニ在リテハ救助器ヲ裝置スルコトヲ要セス

客車ニハ前項ニ規定スルモノノ外乘降用把手及車室保護棒ヲ裝置スヘシ二車以上連結スル車輛ニハ彈性ノ緩衝器及聯結器ヲ裝置スヘシ

第三十四條　客車內ニハ點燈ノ設備ヲ爲スヘシ但シ瓦斯燈又ハ電燈ナルトキハ豫備燈ノ設備ヲ爲スヘシ

第二節　車輪

第三十五條　車輪輪緣ノ幅ハ左ノ寸法ニ依ルヘシ

一　軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ百五粍以上百三十粍以下

二　軌間七百六十二粍ノモノニ在リテハ八十五粍以上百十五粍以下

三　主トシテ溝軌條ヲ使用スル線路ニ在リテハ七十五粍以上百十五粍以下

第三十六條　車輪輪緣ノ高ハ輪緣中央ノ踏面ヨリ測リ常ニ左ノ寸法ヲ保タシムヘシ

一　軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ十九粍以上三十粍以下

二　軌間七百六十二粍ノモノニ在リテハ十三粍以上二十五粍以下

輪緣ノ厚ハ輪緣中央ノ踏面ヨリ十粍下位ニ於テ測リ常ニ左ノ寸法ヲ保タシムヘシ

一　軌間一米〇六七及一米四三五ノモノニ在リテハ十六粍以上

二　軌間七百六十二粍ノモノニ在リテハ十三粍以上

三　主トシテ溝軌條ヲ使用スル線路ニ在リテハ十粍以上

第三節　機關車及電車

第三十七條　蒸汽機關車ニハ左ノ裝置ヲ爲スヘシ

一　給水器、驗水器、安全栓各二箇ヲ備フルコト

二　可鎖栓、實用最高汽壓ヲ特記シタル驗壓器各一箇ヲ備フルコト

三　煙室ニハ火粉止ヲ灰箱ニハ灰燼止ヲ備フルコト

【棒法】

四　火室側控ニ知ラセ孔ヲ設クルコト

第三十八條　電氣機關車及電車ニハ左ノ裝置ヲ爲スヘシ

一　自動遮斷器ヲ備フルコト

二　特別ノ場合ヲ除クノ外前後ニ制御器ヲ備フルコト

三　架空線式ノ場合ニ在リテハ避雷器ヲ備フルコト

第四節　客車及汽動車

第三十九條　客車內ノ面積ハ乘客定員一人ニ付平均零平方米二八ヨリ小ナルコトヲ得ス但シ起立乘客ニ對スル相當ノ設備アル場合ニ限リ之ヲ零平方米一八迄縮小スルコトヲ得

第四十條　客車ノ乘降踏段ノ蹴上ハ三百八十粍以內、有效蹴込ハ二百十五粍以上タルコトヲ要ス

第四十一條　客車ノ出入口ノ戶ハ有效開キ五百五十粍以上タルコトヲ要ス乘降臺ノ有效長ニ付亦同シ

第四十二條　汽動車ニハ蒸汽機關車及客車ニ關スル規定ヲ準用ス

第四章　雜則

第四十三條　第五條乃至第八條、第十二條、第十九條、第二十條、第二十三條、第二十五條第二項、第二十六條乃至第三十一條、第三十五條、第三十六條及第三十九條乃至第四十一條ノ規定ハ人力又ハ馬力ヲ動力トスル軌道ニ之ヲ適用セス

第四十四條　特別ノ事由アル場合ニ於テハ樺太廳長官ハ本令ニ依ラサル設計ヲ命スルコトヲ得

特別ノ事由アル場合ニ於テハ樺太廳長官ノ許可ヲ受ケ前各條ニ規定スル設計ニ依ラサルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

【棒法】

●軌道運輸規程

昭和六年十一月十日
廳令第四十號

軌道運輸規程左ノ通定ム

軌道運輸規程

第一章　總則

第一條　軌道ノ運輸ハ本令ノ定ムル所ニ依ルヘシ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ樺太廳長官ノ許可ヲ受ケ本令ニ依ラサルコトヲ得

樺太廳長官ハ軌道ノ狀況ニ依リ本令ニ依ラサル特殊ノ運輸ヲ命スルコトヲ得

第二條　運賃料金其ノ他ノ運送條件ハ公告ヲ爲シタル後ニ非サレハ之ヲ實施スルコトヲ得ス

運賃又ハ料金ノ增加ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ前項ノ公告ハ二週間以上之ヲ爲スコトヲ要ス

第三條　軌道ハ見易キ場所ニ客車ノ運轉時刻表又ハ運轉系統、運賃表竝旅客及公衆ノ取締ニ關スル法令ノ摘要ヲ揭示スヘシ

第四條　停留場ニハ見易キ場所ニ其ノ名稱ヲ示スヘシ

第五條　樺太廳鐵道令第八條及第十七條、樺太廳鐵道運輸規程第二條ノ規定ハ軌道ノ運輸ニ付之ヲ準用ス

第二章　旅客運送

第六條　旅客ノ同伴スル四年未滿ノ小兒ハ無賃ニテ之ヲ運送スヘシ四年以上十二年未滿ノ小兒ハ半賃ヲ以テ之ヲ運送スヘシ但シ主トシテ市街地內ノ運輸ヲ目的トスル軌道及均一運賃制ヲ採ル軌道ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　旅客ハ市街地ヲ運轉スル客車內ニ於テハ喫煙ヲ爲スヘカラス軌道カ指定スル客車內亦同シ

第八條　旅客ハ軌道係員ヨリ乘車券ノ檢查及取集ヲ求メラレタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

無效ノ乘車券ヲ以テ乘車シタル旅客ニ對シテハ普通運賃ノ倍額ヲ請求スルコトヲ得

第九條　旅客ハ火藥類其ノ他危害ヲ他ニ及ホス虞アル物品ヲ客車內ニ持込ムコトヲ得ス但シ少量ノ銃用火藥類及綏燃導火線ヲ携帶スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十條　樺太廳鐵道運輸規程第十六條及第三十三條ノ規定ハ軌道ノ旅客運送ニ付之ヲ準用ス

第三章　荷物運送

第十一條　長尺物、重量品、嵩大品、危害ヲ他ニ及ホス虞アル物品、臭氣ヲ發シ若ハ不潔ナル物品ハ旅客ト同一車輛ヲ以テ之ヲ運送スルコトヲ得ス

第十二條　軌道ハ火藥類其ノ他爆發質危險品ヲ運送スルコトヲ得ス

第十三條　死體ヲ託送セムトスル者ハ死亡證書ヲ呈示シ其ノ寫ヲ提出スヘシ

死體ノ運送ニハ託送人ニ於テ附添人ヲ附シ之カ積卸ヲ爲サシムヘシ

第十四條　犬其ノ他ノ小動物ハ逸出ノ慮ナキ容器ニ容ルルニ非サレハ之ヲ託送スルコトヲ得ス

第十五條　運送狀ノ交付ヲ請求セサル荷物ノ到達後六時間內ニ引取ラサルトキハ保管料ヲ請求スルコトヲ得

第十六條　樺太廳鐵道令第九條乃至第十二條、第十五條、第十六條、樺太廳運輸規程第五十八條、第六十二條、第六十五條、第七十二條、第八十五條、第八十六條、第八十九條乃至第九十三條、第九十五條、第九十八條、第九十九條、第百一條、第百九條、第百十條ノ規定ハ軌道ノ荷物運送ニ付之ヲ準用ス但シ樺太廳鐵道令第十五條中引渡期間滿了後トアルハ人力、馬力ノミヲ以テ動力ト爲ス軌道ニ付テハ引渡ヲ爲スヘカリシ日後トス

樺太廳鐵道令第十三條乃至第十四條、樺太廳鐵道運輸規程第百四條乃至第百八條ノ規定ハ蒸氣、電氣、瓦斯倫ヲ以テ動力ト爲ス軌道ノ荷物運送ニ付之ヲ準用ス

樺太廳鐵道令第十三條及第十三條ノ二、樺太廳鐵道運輸規程第百四條乃至第百六條ノ規定ハ人力、馬力ノミヲ以テ動力ト爲ス軌道ノ託送手荷物及動物運送ニ付之ヲ準用ス

第四章　罰則

第十七條　運送品ノ種類及性質ヲ詐稱シタル者ハ科料ニ處ス

第十八條　火藥類其ノ他爆發質危險品ノ種類及性質ヲ詐稱シ又ハ第十一條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條　軌道係員ノ制止ニ反シ左ノ所爲ヲ爲シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　客車ノ乘降口以外ヨリ乘降シタルトキ

二　旅客ノ乘用ニ供セサル場所ニ乘車シタルトキ

三　喫煙禁止ノ車內ニ於テ喫煙シタルトキ

第二十條　軌道係員ノ許諾ヲ受ケスシテ新設軌道內ニ立入リタル者ハ科料ニ處ス踏切番人ノ制止ニ反シ踏切道ニ立入リタル者亦同シ

第二十一條　前二條ノ罪ヲ犯シ又ハ車內ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ軌道係員ハ之ヲ車外又ハ軌道地外ニ退去セシムルコトヲ得

第二十二條　軌道係員職務取扱中旅客若ハ公衆ニ對シ失行アリタルトキハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●軌道運轉信號保安規程

昭和六年十一月十日
廳令第四十一號

軌道運轉信號保安規程左ノ通定ム

第一章　總則

第一條　軌道ノ運轉、信號及保安ハ本令ノ定ムル所ニ依ルヘシ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ樺太廳長官ノ許可ヲ受ケ本令ニ依ラサルコトヲ得

樺太廳長官ハ軌道ノ狀況ニ依リ本令ニ依ラサル特別ノ運轉、信號及保安ヲ命スルコトヲ得

第二條　第四條、第五條、第十八條、第二十條、第三章及第四章ノ規程ハ人力及馬力ヲ動力トスル軌道ニハ之ヲ適用セス

第二章　運轉

第一節　線路

第三條　線路ハ車輛ヲ安全且正確ニ運轉スルコトヲ得ヘキ狀態ニ之ヲ保持スルコトヲ要ス

第四條　本線路ニ於ケル轉轍器ノ取柄ハ車輛ノ對向通過ノ際之ヲ支持スヘシ但シ鎖錠其ノ他ノ安全裝置ヲ爲シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五條　新設軌道ニ於ケル交通頻繁ニシテ遠方ヨリ展望スルコト能ハサル踏切道其ノ他必要ナル踏切道ニハ車輛運轉中番人ヲ置キ之ヲ看守セシムヘシ但シ夜間交通稀ナル際ハ此ノ限ニ在ラス

第二節　車輛

第六條　車輛ハ安全ニ運轉スルコトヲ得ヘキモノノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス

第七條　製作又ハ購入シタル車輛、重要ナル改造又ハ修繕ヲ爲シタル車輛及六月以上使用ヲ停止シタル車輛ハ其ノ各部ノ檢查ヲ爲シタル後ニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第八條　蒸氣機關車及汽動車ニ付テハ左ノ定期檢查ヲ行フヘシ

一　使用ノ狀況ニ依リ三年ヲ超エサル期間毎ニ重要ナル部分ヲ取外シテ各部ノ檢查及洗繰ノ試驗ヲ行ヒ試運轉ヲ爲スコト

二　六月ヲ超エサル期間毎ニ汽笛及汽罐ノ內部、蒸汽管、放汽管、節

汽笛、安全弁及検壓器ノ検査ヲ爲スコト
三　毎月少クトモ一回火室内部、可鎔栓、火粉止器、検水器、給水器及制動器ノ検査ヲ爲スコト
前項ノ規定ハ瓦斯機關車及瓦斯動車ノ定期検査ニ付之ヲ準用ス

第九條　客車及貨車ニ付テハ使用ノ狀況ニ依リ客車ニ在リテハ一年半、貨車ニ在リテハ三年ヲ超エサル期間毎ニ重要ナル部分ヲ取外シテ定期検査ヲ行ヒ試運轉ヲ爲スヘシ

第十條　第七條乃至第九條ノ規定ニ依リ施行シタル検査及試驗ノ年月日及成績ハ之ヲ帳簿ニ記錄スヘシ

第十一條　車輛ハ使用ノ狀況ニ依リ毎日少クトモ一回其ノ要部ヲ點検スヘシ

第十二條　車輛ニハ左ノ事項ヲ標記スヘシ
一　所屬軌道ノ名稱又ハ徽章
二　番號
三　製造ノ年
四　等級、旅客定員、荷重及自重
五　第八條第一項第一號及第九條ノ規定ニ依リ施行シタル最近検査ノ年月日

第三節　車輛運轉

第十三條　併用軌道ニ於テハ車輛ヲ聯結シテ運轉スルコトヲ得ス但シ機關車ニ客車又ハ貨車一輛ヲ聯結スル場合ハ此限ニ在ラス

第十四條　動力車ノ停止中機關手又ハ運轉手其ノ位置ヲ離ルルトキハ制動機ヲ緊締シ其ノ他自動防止ノ手段ヲ爲シ置クヘシ

第十五條　客車ニハ外側見易キ場所ニ其ノ行先ヲ明示スヘシ
客車内ニハ夜間點燈スヘシ晝間ニ於テ隧道通過ニ二分時以上ヲ要スルトキ亦同シ

第十六條　車輛ハ停留場内ノ運轉其ノ他特別ノ場合ヲ除クノ外左方ノ線路ヲ進行スヘシ

第十七條　併用軌道ニ於ケル車輛ノ運轉速度ハ一時間平均十六粁、最高二十四粁ヲ超ユルコトヲ得ス

第十八條　車輛ヲ聯結シテ運轉スル場合ニ於テハ線路ノ勾配千分ノ十ヨリ急ニシテ其ノ延長四百米以上連續スル區間アルトキハ最後部ニ手用制動機ノ裝置アル車輛ヲ聯結スヘシ但シ最後部ノ車輛カ貨車ニシテ之ニ隣接スル車輛ニ手用制動機ノ裝置アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條　車輛ニハ夜間左ノ標識ヲ揭クヘシ晝間ニ於テ隧道通過ニ二分時以上ヲ要スルトキ亦同シ
一　車輛ノ平均運轉速度一時間十六粁ヲ超ユル場合
前部ニ白色燈後部ニ赤色燈
各一箇
二　前號以外ノ場合
前部ニ白色燈　一箇

第二十條　車輛ノ運轉保安ヲ施行セサル單線ニ於テ同一方向ニ二箇以上ノ車輛ヲ引續キ運轉スルトキハ必要ニ應シ最後發以外ノ車輛ニハ其ノ前部ニ左ノ標識ヲ揭クヘシ
晝間　赤色圓板　一箇
夜間　赤色燈　一箇

〔緯法〕

第二十一條　天候ノ狀況ニ依リ相當距離ヨリ晝間ノ信號現示ヲ認識シ難キトキハ夜間ノ現示法式ニ依ルヘシ隧道内ニ於テ現示スル信號亦同シ

第二十二條　信號ヲ現示スヘキ場所ニ所定ノ信號ノ現示ナキトキハ停止信號ト看做スヘシ

第二十三條　信號ハ二箇以上ノ線路又ハ二種以上ノ目的ニ之ヲ兼用スルコトヲ得ス

第二節　常置信號機

第二十四條　常置信號機ハ柱上ニ裝置セル腕又ハ燈ヲ以テ車輛ニ對シ運轉ノ條件ヲ指示スルモノニシテ其ノ種類左ノ如シ
一　場内信號機　停留場ニ進入セムトスル車輛ニ對シ其ノ進入ノ可否ヲ表示ス
二　出發信號機　停留場ヨリ進行セムトスル車輛ニ對シ其ノ進行ノ可否ヲ表示ス
前項以外ノ常置信號機ヲ設ケムトスルトキハ其ノ信號ノ現示法式ヲ定メ樺太廳長官ニ認可ヲ受クヘシ

第三節　手信號

第二十五條　同一柱ニ於テ同一種類ノ信號二箇以上ヲ設クルトキハ最上位ニアルモノハ最左側ノ線路ニ屬シ以下順次右方ノ線路ニ屬ス

第二十六條　場内信號機及出發信號機ハ停止信號ヲ現示スルヲ定位トス

第二十七條　場内信號機及出發信號機ハ向テ之ヲ視ルトキ左ノ法式ニ依リ信號ヲ現示ス

停止信號
晝間　左腕ノ位置水平又ハ赤色燈
夜間　赤色燈

進行信號
晝間　左腕ノ位置下向四十五度又ハ綠色燈
夜間　綠色燈

第二十八條　場内信號機及出發信號機ノ腕ハ長方形トシ其ノ表面ヲ赤色、背面ヲ白色トシ腕端ニ近ク之ト竝行シテ表面ニ白色線、背面ニ黑色線ヲ畫ス

第三節　手信號

第二十九條　手信號ハ信號機ナキ場合又ハ之ヲ用フルコト能ハサル場合ニ於テ使用スルモノニシテ左ノ方式ニ依リ信號ヲ現示ス

停止信號
晝間　赤色旗ヲ提示ス但シ巳ムコトヲ得サル場合ニハ兩腕ヲ高ク擧ケ又ハ綠色旗以外ノ任意ノ物體ヲ急激ニ振リ廻シテ之ニ代フルコトヲ得
夜間　赤色燈ヲ提示ス但シ巳ムコトヲ得サル場合ニハ綠色燈以外ノ任意ノ燈ヲ急激ニ振リ廻シテ之ニ代フルコトヲ得

進行信號
晝間　綠色旗ヲ提示ス但シ巳ムコトヲ得サル場合ニハ片腕ヲ高ク擧ケテ之ニ代フルコトヲ得
夜間　綠色燈ヲ提示ス

徐行信號
晝間　橙黃色旗ヲ提示ス但シ巳ムコトヲ得サル場合ニハ頭上ニ高ク

〔緯法〕

赤色旗及綠色旗ヲ交叉シテ之ニ代フルコトヲ得

夜間　橙黃色燈ヲ提示ス但シ已ムコトヲ得サル場合ニハ綠色燈ヲ明滅シテ之ニ代フルコトヲ得

第四節　發雷信號

第三十條　發雷信號ハ雷管ノ爆音ニ依リ停止信號ヲ現示ス

第三十一條　雷管ハ相當ノ距離ヲ隔テ二箇以上ヲ軌條ニ裝置スヘシ但シ併用軌道ニ於テハ之カ裝置ヲ爲スヘカラス

第四章　保安

第一節　通則

第三十二條　車輛ノ運轉保安ハ通票式又ハ票券式ニ依ルヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ指導法ニ依ルコトヲ得

一　一時線路ヲ中斷シ又ハ複線ニ於テ一線ヲ閉塞シタルトキ

二　通票ノ破損又ハ喪失シタルトキ

第三十三條　左ノ場合ニ於テハ車輛ノ運轉保安ヲ施行セサルコトヲ得

一　全線ヲ通シ二箇以上ノ車輛ヲ運轉セサルトキ

二　車輛ノ平均運轉速度一時間十六粁ヲ超エサルトキ

第三十四條　軌道經營者ハ車輛ノ運轉保安ノ法式又ハ車輛ノ運轉保安ヲ施行セサル理由ヲ具シ棒太廳長官ニ之ヲ屆出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第二節　通票式

第三十五條　車輛ハ當該閉塞區間ノ通票ヲ携帶スルニ非サレハ其ノ區間ヲ運轉スルコトヲ得ス

第三十六條　通票式ヲ施行スル區間ノ兩端ノ停留場名ヲ記スヘシ

第三十七條　通票ニハ當該閉塞區間ノ兩端ノ停留場名ヲ記スヘシ

隣接閉塞區間ノ通票ハ其ノ形狀ヲ異ニスヘシ

第三節　票券式

第三十八條　票券式ハ線路ノ標準勾配千分ノ二十ヨリ緩ナル區間ニ限リ之ヲ施行スルコトヲ得

第三十九條　車輛ハ當該保安區間ノ通票又ハ通券ヲ携帶スルニ非サレハ其ノ區間ヲ運轉スルコトヲ得ス

第四十條　票券式ヲ施行スル區間ニハ通票及通券ヲ備フヘシ

通票ハ一保安區間一箇トス

通券ハ各保安區間ノ兩端ノ停留場ニ之ヲ備フヘシ

第四十一條　通票ニハ當該保安區間ノ兩端ノ停留場名ヲ記スヘシ

隣接保安區間ノ通票ハ其ノ形狀ヲ異ニスヘシ

第四十二條　通券ニハ當該保安區間ノ兩端ノ停留場名ヲ記スヘシ

隣接保安區間ノ通券ハ其ノ色ヲ異ニスヘシ

第四十三條　通券ハ當該保安區間ノ通票ヲ以テスルニ非サレハ開クコトヲ得サル通券函ニ之ヲ保管スヘシ

通券ハ車輛ニ授與スルトキニ非サレハ通券函ヨリ之ヲ取出スコトヲ得ス

第四十四條　通券ハ同一保安區間ニ二箇以上ノ車輛ヲ同一方向ニ運轉スル場合ニ於テ先發車輛ニ限リ之ヲ使用スヘシ

發行車輛ハ先發車輛ノ出發後五分時ヲ經過スルニ非サレハ之ヲ出發セシムルコトヲ得ス

第四十五條　通券ヲ携帶スル車輛ハ退行スルコトヲ得ス

第四十六條　車輛ノ乘務員ハ當該保安區間ノ通票ヲ確認スルニ非サレハ通券ヲ受領スルコトヲ得ス

第四節　指導法

第四十七條　車輛ハ指導者乘込ムカ又ハ指導券ヲ携帶スルニ非サレハ指導法ヲ施行スル區間ヲ運轉スルコトヲ得ス

第四十八條　指導者ハ一區間一人トシ赤色ノ腕章ヲ附スヘシ

第四十九條　指導者ノ氏名及擔當區間ハ指導者ノ乘込前之ヲ關係係員ニ告知スヘシ

第五十條　指導者ハ指導券ヲ發行スルコトヲ得但シ通票式ヲ施行スル區間ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第五十一條　車輛ノ乘務員ハ指導者ヨリ直接指導券ノ交付ヲ受クルニ非サレハ之ヲ受領スルコトヲ得ス

第五十二條　指導法ヲ廢止セムトスル場合ニ於テハ指導法ニ依リ最終ニ運轉スル車輛ニハ指導者ヲ乘込マシメ且廢止後ニ施行スル保安法式ヲ併用スヘシ

前項ノ場合ヲ除クノ外指導法ト他ノ保安法式トヲ併用スルコトヲ得ス

第五十三條　第四十二條、第四十四條及第四十五條ノ規定ハ指導券ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●軌道係員規程

昭和六年十一月十日
鐵令第四十二號

〔棒法〕

軌道係員規程左ノ通定ム

軌道係員規程

第一條　軌道係員ノ職制ニ付テハ本令ニ特別ノ定メアル場合ノ外棒太地方鐵道係員職制ヲ準用ス

第二條　軌道經營者ハ機關手、運轉手及車掌ノ採用ニ關スル規程ヲ定メ棒太廳長官ニ之ヲ屆出ツヘシ

第三條　旅客及公衆ニ對シ職務ヲ行フ軌道係員ハ一定ノ制服ヲ著用スヘシ

第四條　軌道係員ハ職務上ノ義務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠リ又ハ失行アリタルトキハ懲戒ヲ受ク

軌道經營者ハ懲戒ニ關スル規程ヲ定メ棒太廳長官ニ之ヲ屆出ツヘシ

第五條　前各條ノ規定ハ人力及馬力ヲ動力トスル軌道ニハ之ヲ適用セス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●軌道會計規程

昭和六年十一月十日
廳令第四十三號

軌道會計規程左ノ通定ム

軌道會計規程

第一條　軌道ノ會計ハ本令ニ依リ之ヲ整理スヘシ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ棒太廳長官ノ許可ヲ受ケ本令ニ依ラサルコトヲ得　棒太廳長官ハ必要アリト認ムルトキハ本令ニ依ラサル特別ノ整理ヲ命スルコトヲ得

第二條　軌道ノ會計年度ハ一年又ハ六月トス

第三條　軌道及附屬物件ノ建設及改良ニ要スル費用、貯藏物品ノ購入代金、借入金ノ償還金、借入金ノ運輸開始前ニ屬スル利子等ノ資本金、借入金其ノ他ノ資金ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第四條　軌道及附屬物件ノ保存費其ノ他ノ營業費、建設及改良ノ費用ニ充當シタル借入金ノ運輸開始後ニ屬スル利子、株式公賣ニ因リテ生スル差損金等ハ營業收入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第五條　資本減少ニ因リテ生スル差益金ハ缺損ノ塡補又ハ財產價額ノ消却ニ充當スルノ外之ヲ處分スルコトヲ得ス

第六條　運輸開始前ニ於ケル雜收入ハ之ヲ借入金ノ利子支拂ニ充當スヘシ　前項ニ依リ借入金ノ利子支拂ニ充當シタル殘額ハ之ヲ商法第百九十六條ノ規定ニ依ル利息配當ニ充當スヘシ　前二項ノ規定ニ依リ利子支拂又ハ利息配當ニ充當シタル金額ハ之ヲ建設費ニ算入スルコトヲ得ス

第七條　貯藏物品ハ原價ヲ以テ之ヲ出納スヘシ

第八條　財產目錄ニ記載スル有價證券以外ノ財產ノ價額ハ實費決算額ヲ超ユルコトヲ得ス　財產價額ヲ消却シタルトキハ消却額ヲ原價ヨリ控除シタル殘額ヲ以テ實費決算額トス

第九條　建設及營業ニ關聯スル費用ハ當該營業年度ニ於ケル建設費及營業費ノ決算額ノ割合ニ依リ百分率ヲ以テ分割スヘシ但シ全部ヲ營業費ニ算入スルコトヲ妨ケス

第十條　軌道經營者カ他ノ事業ヲ營ム場合ニ於テハ軌道及他ノ事業ニ關聯スル興業費、營業費又ハ營業收入ハ當該營業年度ニ於ケル興業費又ハ營業收入ノ決算額ノ割合ニ依リ百分率ヲ以テ之ヲ分割スヘシ　軌道及他ノ事業ノ興業及營業ニ關聯スル費用ハ當該營業年度ニ於ケル興業費及營業費ノ決算額ノ割合ニ依リ百分率ヲ以テ之ヲ分割スヘシ但シ全部ヲ營業費ニ算入スルコトヲ妨ケス

第十一條　第九條ノ規定ハ軌道經營者カ他ノ事業ヲ營ム場合ニ於ケル他ノ事業ノ興業及營業ニ關聯スル費用ニ付之ヲ準用ス

第十二條　區間ヲ分チテ建設費ヲ整理スル場合ニ於テ各區間ニ關聯スル建設費ハ當該營業年度ニ於ケル各區間ノ建設費ノ決算額ノ割合ニ依リ百分率ヲ以テ之ヲ分割スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●軌道ノ抵當ニ關スル件

明治四十二年四月十三日
法律第二十八號

【緯法】

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル軌道ノ抵當ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總、內、遞、司、大臣副署）

第一條　軌道ノ抵當ニ關シテハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外鐵道抵當法ヲ準用ス

第二條　軌道財團ハ左ニ揭クルモノニシテ軌道財團ノ所有者ニ屬スルモノヲ以テ之ヲ組成ス

一　軌道線路、其ノ他ノ軌道用地及其ノ上ニ存スル工作物竝之ニ屬スル器具機械

二　工場、倉庫、厩舍、發電所、變壓所、配電所、事務所、舍宅其ノ他工事又ハ運輸ニ要スル建物及其ノ敷地竝之ニ屬スル器具機械

三　用水ニ關スル工作物及其ノ敷地竝之ニ屬スル器具機械

四　軌道用通信、信號又ハ送電ニ要スル工作物及其ノ敷地竝之ニ屬スル器具機械

五　前四號ニ揭ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上ニ存スル地上權、登記シタル賃借權及前四號ニ揭ケタル土地ノ爲ニ存スル地役權

六　車輛及馬匹竝之ニ屬スル器具機械

七　保線其ノ他ノ修繕ニ要スル材料及器具機械

軌道營業者カ軌道ニ要スル電氣ノ餘力ヲ以テ電氣供給ノ業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ供給ノ爲要スル第二號乃至第五號及第七號ニ揭ケタルモノヲ軌道財團ニ屬セシムルコトヲ得

第三條　公共團體カ軌道及附屬物件ヲ買上ケタル場合ニ於テハ鐵道抵當法第二十六條ノ規定ヲ準用ス

特許ニ附シタル條件ニ依リ軌道財團ニ屬スルモノヲ無償ニテ國又ハ公共團體ニ引渡スヘキトキハ其ノ財團ヲ目的トスル抵當權ハ消滅ス

第四條　軌道營業者カ株式會社ニ非サル場合ニ於ケル軌道ノ抵當ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十二年七月勅令第百九十一號ヲ以テ同年同月二十二日ヨリ施行）

●軌道抵當取扱規則

昭和七年六月十五日
鐵令第十五號

軌道抵當取扱規則左ノ通定ム

軌道抵當取扱規則

第一條　軌道抵當權設定ノ認可申請書ニハ抵當負債ヲ要スル事由ヲ記載シ會社ノ取締役署名捺印シ棒太鐵道長官ニ之ヲ提出スヘシ

第二條　軌道抵當權設定ノ認可申請書ニハ抵當證書又ハ信託證書及軌道財團目錄ノ外何左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　抵當證書又ハ信託證書ノ謄本

二　株主總會ノ議事及決議ノ要領書

三　最終ノ貸借對照表

四　元利支拂ノ豫算

五　株金總額及拂込額ノ登記抄本

六　社債ノ總額及其ノ償還ヲ了ヘサル金額ノ登記抄本
七　物件擔保ノ負債アルトキハ其ノ總額及償還ヲ了ヘサル金額ノ登記抄本又ハ證明書

前項ニ依リ差出シタル抵當證書又ハ信託證書ハ抵當權設定ノ認可アリタルトキハ認可ノ證印ヲ附シテ之ヲ還付ス

第三條　軌道抵當權設定ノ認可申請前會社ノ申請ニ因リ豫メ軌道財團ノ公告ヲ爲シタル場合ニ於テ鐵道抵當法第八條ニ準シ軌道財團目錄ヲ差出シタルモノニ付テハ軌道抵當權設定ノ認可申請書ニ軌道財團目錄ヲ添附スルコトヲ要セス

第四條　第二以下ノ順位ノ抵當權設定ノ認可申請書ニハ抵當權者ニ對スル催告ノ始末書及催告アリタルコトヲ證スル書面又ハ抵當權者ノ同意アリタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條　第二條第一項第四號ニ記載セル事項ヲ變更セムトスルトキハ認可ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ變更ノ事項カ株主總會ノ決議ヲ要スルモノニ係ルトキハ認可申請書ニ株主總會ノ議事及決議ノ要領書ヲ添附スルコトヲ要ス

第六條　抵當證書又ハ信託證書ニ記載シタル事項變更ノ認可申請書ニハ契約證書及其ノ謄本ヲ添附シ會社ノ取締役之ニ署名捺印スヘシ

第二條第二項及前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

抵當證書又ハ信託證書ニ記載シタル事項ノ變更ニシテ契約ニ基カサル場合ニ於テハ變更ノ事由竝年月日ヲ記載シ利害關係人署名捺印シテ屆出ツヘシ

第七條　軌道抵當權設定ノ認可申請前ニ於ケル軌道財團公告ノ申請書ニハ抵當負債ヲ要スル事由及其ノ總額ヲ記載シ會社ノ取締役之ニ署名捺印シテ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ軌道財團目錄ノ外第二條第一項第三號及第四號ニ揭クル書類ヲ添附スヘシ

第八條　鐵道抵當法第二十六條ニ準スル場合ニ於テ其ノ債務ニ付据置年限經過後ニ於ケル辨濟期ニ關シ特約アルトキハ抵當權設定後二十箇年ニ滿ツル迄其ノ特約ニ依ルモノトス

第九條　軌道抵當原簿ハ別記第一號樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十條　軌道財團目錄ハ別記第二號樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

但シ馬匹ノ財團目錄ハ別記第三號樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十一條　軌道財團目錄ニハ其ノ枚數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ會社ノ取締役之ニ署名捺印シ且每葉ノ綴目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條　軌道財團目錄ニ記載シタル事項ノ變更又ハ消滅ノ屆書ニハ變更又ハ消滅ノ事由ヲ記載シ會社ノ取締役之ニ署名捺印スヘシ

前項ノ屆書ハ軌道財團目錄ノ樣式ニ依リ揭クヘキ事項ヲ記載シ目錄ノ部門及舊事項ヲ附記スヘシ

馬匹、保線其ノ他ノ修繕ニ要スル材料及未開業線ノ軌道財團ニ屬スルモノニ付テハ決算期每ニ之カ調査ヲ爲シ變更及消滅ノ屆出ヲ爲スヘシ

第十三條　軌道抵當權設定ノ登錄申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ債權者及會社ノ取締役之ニ署名捺印スヘシ

一　軌道財團ニ屬スル線路ノ表示

二　抵當權者、債務者及軌道財團ノ所有者ノ名稱及住所
三　抵當權ノ順位
四　債權額及償還ノ方法竝期限
五　利率及利息支拂ノ方法竝期限
六　免許ニ附シタル條件
七　抵當權ヲ設定シタルコト
八　抵當權設定認可ノ年月日
九　登錄稅額

第十四條　登錄ハ申請書受付ノ順序ニ依リテ之ヲ爲ス

第十五條　登錄申請書其ノ他ノ書面ノ受領證ニハ受付ノ年月日及受付番號ヲ記載シ之ヲ申請者ニ交付スヘシ

前項ノ受領證ハ登錄濟書ヲ交付スルトキハ之ヲ還納セシムヘシ

第十六條　第十三條ノ規定ハ登錄シタル事項ノ變更又ハ消滅ノ登錄申請ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ登錄申請書ハ正本一通及副本一通ヲ差出スヘシ

第十七條　軌道抵當原簿ニ登錄ヲ完了シタルトキハ抵當權設定ノ場合ニ於テハ抵當證書又ハ信託證書ニ、登錄事項ノ變更又ハ消滅ノ場合ニ於テハ申請書ノ副本ニ登錄番號、申請書受付ノ年月日、受付番號及登錄濟ノ旨ヲ記載シ官印ヲ押捺シテ之ヲ申請者ニ還付スヘシ

第十八條　登錄稅法施行規則第四條ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ徵收シタルトキハ登錄官吏ハ後ニ登錄又ハ登記ヲ申請スヘキ官廳ノ數ニ應シ課稅價格ヲ記載シタル登錄稅ノ受領證ヲ申請人ニ交付スヘシ但シ二通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附スヘシ

登錄稅法施行規則第四條ノ場合ニ於テ既ニ他ノ官廳ニ於テ登記又ハ登錄ヲ受ケタルトキハ登錄申請書ニ當該官廳ノ交付シタル登錄稅ノ受領證ヲ添附スヘシ

第十九條　登錄ヲ完了シタル後其ノ登錄ニ付錯誤又ハ遺漏ノ訂正ヲ申請スル場合ニ於テ登錄上利害ノ關係ヲ有スル者アルトキハ申請書ニ署名捺印シ又ハ其ノ承諾書若ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ書類ヲ添附スヘシ

第二十條　軌道抵當原簿ノ謄本若ハ抄本ノ交附又ハ軌道抵當原簿若ハ軌道財團目錄ノ閱覽ヲ請求スル者ハ申請書ニ署名捺印シテ之ヲ差出スヘシ但シ抄本ヲ請求スル場合ニ於テハ抄本ノ交付ヲ請求スル部分ヲ記載スヘシ

第二十一條　軌道抵當原簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者ハ其ノ用紙一枚ニ付手數料金十錢ヲ納ムヘシ但シ一枚ニ滿タサルモノト雖仍之ヲ一枚ニ計算ス

第二十二條　鐵道抵當法第二十條第二項ニ準シテ求ムル裁定ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ正副二通ヲ差出スヘシ

一　申請者及對手人ノ名稱、住所
二　裁定事件ノ表示
三　申請ノ要旨及理由

第二十三條　前條ノ申請書ヲ受取リタルトキハ其ノ副本ヲ對手人ニ送付シ相當ノ期限ヲ指定シ答辯書ヲ差出サシムヘシ但シ裁定申請カ其ノ理由ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

必要ト認ムルトキハ期限ヲ附シテ更ニ申請者、對手人ヨリ辯駁書、答

辯書ヲ差出サシムルコトヲ得

第二十四條　答辯書又ハ辯駁書ニハ左ノ事項ヲ記載シ二通ヲ差出スヘシ

一　申請者及對手人ノ名稱、住所

二　裁定事件ノ表示

三　答辯又ハ辯駁ノ要旨及理由

第二十五條　必要ト認ムルトキ又ハ當時者一方ノ申立アルトキハ口頭審理ヲ爲スコトヲ得

第二十六條　裁定申請者若ハ對手人期間内ニ答辯書若ハ辯駁書ヲ差出ササルトキ又ハ指定ノ審理期日ニ出頭セサルトキハ相手方ノ意見ヲ聽キ裁定ヲ爲スコトヲ得

第二十七條　第二十二條乃至第二十六條ノ規定ハ管理人ノ計算報告書ニ對スル異議ノ裁定ニ之ヲ準用ス

第二十八條　執行力アル正本付與ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請者署名捺印シ抵當證書又ハ信託證書及之ニ記載ノ事項ヲ變更シタル契約書ヲ添附シテ之ヲ差出スヘシ

一　債務者及軌道財團所有者ノ名稱及住所

二　强制執行ヲ要スル事由

第二十九條　管理人推薦ノ申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人之ニ署名捺印スヘシ

一　管理人タルヘキ者ノ名稱、住所

二　管理人タルニ適當ト認メタル事由及經歷

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別　記）

第一號樣式

軌道抵當原簿

樺太廳鐵道事務所

登錄番號	第　　號

表題部	
第一號　財團所屬線路	
第二號　免許條件	
第三號　軌道財團所有者ノ名稱及住所	
第四號　債務者ノ名稱及住所	
第五號　抵當權者ノ名稱及住所	
第六號　抵當權ノ順位	
第七號　債權額	
第八號　元金償還ノ方法竝期限	
第九號　利率	
第十號　利息支拂ノ方法竝期限	
第十一號　抵當權設定ノ認可年月日	
第十二號　抵當權ヲ設定シタル事	
第十三號　以上登錄ノ年月日	
備考	

〔樺法〕

（第二號樣式）

軌道財團目錄

某軌道株式會社

線路

區間	本線 單線	本線 複線	本線 三線以上	軌道總長 本線	軌道總長 側線	軌間	軌條重量
、、、、間	一〇、〇五五粁	一二、四四五粁	五、一二五粁	五〇、三二〇粁	五、五四〇粁	一、〇六七米	三五粁
、、、、間	五、〇〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	一七、〇〇〇	二、〇三五	〇、七六二	一五

〔樺法〕

軌道用地

區間	線路	停留場	工場	舍宅	何々
、、、、間	一二、三四五、六七（アール）	三五七、一九（アール）	二四、六八（アール）	九八、七六（アール）	五四、三二（アール）

【縮法】

備考
一、面積ノ單位ハ反、畝、歩又ハ坪ヲ以テ記載シアールニ代フルコトヲ得
二、軌道用地ハ使用地ノ種類ニ應シ總面積ヲ記載スヘシ

【縮法】

軌道用地以外ノ用地

郡	町村	大字、字	番地	地目	面積	使用種類
、、、郡	、、、村	、、、、、、、、、、	一二一、	宅地	一二、二三	工場用
、、、郡	、、、村	、、、、、、、、、、	一二三、	宅地	一三、一一	工場用
、、、郡	、、、村	、、、、、、、、、、	二一五、	宅地	一五、六五	工場用
						用水用
						舍宅用
						本社用
						事務所用
						何々用

備考
一、面積ノ單位ハ坪ヲ以テ記載シアールニ代フルコトヲ得
二、軌道用地以外ノ用地ハ郡町村ノ順序ニ依リ種類ヲ追フテ一筆毎ニ之ヲ記載スヘシ

地上權、貸借權、地役權

郡町村	大字、字	番地	地目	面積	用方	期限	使用料金	權利種別	設定及登記年月日	土地所有者氏名
、、、郡	、、、、、	三四五	田	一五〇、〇〇（アール）	線路用	昭和二十五年マテ	壹箇年壹アールニ付金八拾圓五拾錢	地上權	大正十年五月十一日	鈴木又兵衛
、、町	、、									
、、、郡	、、、、、、	七一一〇	畑	三〇〇、〇〇	工場用	昭和五十五年マテ	壹箇年壹アールニ付金六拾圓貳拾錢	貸借權	昭和五年三月十日	古井新作
、、町										

備考

一、面積ノ單位ハ坪ヲ以テ記載シアールニ代フルコトヲ得
二、權利ノ種類ニ依リ一筆毎ニ之ヲ記載スヘシ

橋梁

名稱	粁程	橋臺橋脚構造	何線式及列數	徑間長	徑間數
、、、架道橋	二、一二三（近）	工字桁、鋼	單線式　五列	五、〇（米）	一
、、軌道跨線橋	一五、四五六	版桁、鋼	煉瓦造	八、〇	一五
、、、、川	二〇、七八九	拱、混凝土	石造	六、〇	一
、、、、川	三一、三二一	プラット式構桁鐵	複線式　一列	三〇、〇	一〇
			混凝土造		
			單線式　一列		
			石及煉瓦混造		
			同　上		

備考

徑間三米六六未滿ノモノハ次表ニ之ヲ記載スヘシ

溝橋

區間	徑間	箇所
、、、間	○米九一乃至三米六五	八五

隧道

名稱	粁程	構造	單線又ハ複線	延長
、、、	自一、一二三 至一、六九三	石及煉瓦混造	複線	五七〇、〇米
、、、	自二〇、〇〇〇 至二〇、五五五	煉瓦造	單線	五五五、〇

電線

種類	區間	線數	延長	所屬器具機械
電信線	、、、、、、、、間	二	一三二、軒四五六	一〇〇臺
電話線	、、、、、、、、間	三	一三二、七五八	一五〇
ブロック線	、、、、、、、、間	二	、、、、、、	一〇〇
電車用架空線	、、、、、、、、間	單線	、、、、、、	
送電線	、、、、、、、、間	三	、、、、、、	

建物其他工作物種類

種類	構造	面積又ハ延長等	所在地郡	所屬器具機械
停車場本屋	煉瓦造瓦葺平家	合セテ七〇〇、〇平方米	所在地郡、町村番地	椅子、、脚、机、、脚、金庫、、箇、、、其他器具一切
附屬建物	木造亞鉛葺平家三棟			
乘降場	擁壁石造	一五〇、〇米		
附屬上屋	木造柿葺平家	五〇、〇平方米	同	所
發電所	木造瓦葺二階家	一六五、〇平方米	同	橫置二回膨脹凝汽機關、、臺、水管式汽罐、、臺、橫置給水喞筒、、臺、交流發電機、、臺、變壓器、、臺、配電盤、、、面、、其他器具機械一切
	煉瓦造瓦葺平家	外二階六〇、〇平方米		
原動機室	、、、、、、、、			竪置二回膨脹汽關、、臺、コルニツシュ汽罐、、箇、ウオーシントン給水喞筒、、臺、直流發電機、、臺、ルーツ送風機、、臺、其他器具機械一切
煙突	煉火造八角	高一三〇、〇米		
		底部面積七、六平方米		
鑄物工場	、、、、、、、、			熔鐵爐、、臺、木製扛重機、、臺、、、、其他器具機械一切
木型工場	、、、、、、、、			木削旋盤、、臺、、、、其他器具機械一切
鍛冶工場	、、、、、、、、			火床、、、箇、金敷、、、箇、水力壓搾機、、、臺、汽槌、、、臺、鐵製扛重機、、、臺、、、、其他器具機械一切
機械工場	、、、、、、、、			旋盤、、、臺、プレーニング機械、、臺、車輪旋盤、、、臺、ミリング機械、、、臺、穿孔盤、、、臺、シエーピング機械、、、臺、スロッチング機械、、、臺、車軸嵌入機械、、、臺、其他器具機械一切
組立工場	、、、、、、、、			

製罐工場	、	、、、	、	、
木工場	、	、、、	、	、
塗工場	、	、、、	、	、

備考

一、面積ノ單位ハ坪ヲ以テ記載シ平方米ニ代フルコトヲ得

二、建物及工作物ハ停留場本屋、乘降場、機關庫、客車庫、信號所、變壓所本社、事務所、工場（各種ニ區別シ）舍宅、倉庫、給水場、轉車臺、遷車盤、貨物揚卸場、棧橋、用水池等重ナルモノヲ揭ケ一棟又ハ一箇毎ニ種類ヲ追テ之ヲ記載シ又所屬器具機械ハ出力（キロワット）又ハ馬數等ノ明瞭ナルモノハ之ヲ附記スヘシ

三、附屬建物ハ本建物ノ欄ニ其棟數及面積ヲ合記シ小建造物ノ末尾ノ欄ニ其棟數及面積ヲ合記スヘシ

四、所屬器具機械ハ重ナルモノノ種類數量ヲ揭ケ「其他器具機械一切」ト記載スヘシ以下諸表亦同シ

煙突ハ獨立セル大ナルモノヲ記載シ各建造物ニ附屬セルモノノ如キハ之ヲ記載スルニ及ハス

易搬扛重機、、、臺、穿孔及副裁盤、、、臺、水力鈑綴機、、、臺、、、、其他器具機械一切									
帶鋸機械、、臺、丸鋸機械、、、臺、、、、其他器具機械一切									
ペイントミル、、、、臺、、、、、其他器具機械一切									

機關車

種類	形式	番號	製造所名	製造年	重量	輪數	所屬器具機械
テンダーエンジン	六輪聯動單式八輪車	一	米國ボルター	一八八〇	三二、噸一五	一	ジヤック、スパンナ、油差等其他器具一切
タンクエンジン	四輪聯動單式四輪車	一五乃至二〇	米國ボールドウヰン	一八九八	二二、一五	五	
テンダーエンジン	八輪聯動單式十輪車	五〇一 同	上	一八九八	五八、一二	二	

客車

種類	形式	記號番號	製造所名	製造年	定員	郵便室容積	輪數	所屬器具機械
一等	八輪ボギー	い 乃至七	、、工場	明治二十五年	五〇		五	眞空制動機、煖房器、燈器等一切
二、三等合造	八輪ボギー	に、さ 三〇	、、、、	二等 三六 三等 五六		二、三立方米	一 同	手用制動機、燈器等一切
緩急合造郵便車	四輪車	ゆ、り 乃至 三 八	、、、、			一、二立方米	五	壓搾空氣制動機、コンプローラー、電動機、、、箇燈器等一切
一等	四輪電動車	て 乃至 五 八	、、、、		五〇		三	

貨車

種類	形式	記號番號	製造所名	製造年	荷重	輪數	所屬器具機械
貨車緩急車	八輪ボギー車	ワフ一	、、、工場	明治二十二年	五、噸〇〇	二	手用制動機及信號燈
有蓋貨車	四輪車	ワ八、四八八乃至八、五〇三	、、、、、	、、、、	七、〇〇	一五	車側制動機
無蓋貨車	四枚側四輪車	ト四二二乃至四三七	、、、、、	、、、、	七、〇〇	一五	眞空制動機
土運車	二枚側四輪車	リ五〇一乃至五一〇	、、、、、	、、、、	四、〇〇	一〇	車側制動機

〔横法〕

保線材料及器具機械

材料名稱	現在數	所在地
軌條	十米(三十呎) 九米二(二十五呎)	一、〇〇〇本 五〇〇本	、、、停留場內
枕木	普通 ボイント用 橋梁用	三、〇〇〇挺 一、二〇〇挺 一、〇〇〇挺	、、、、、、 、、、、、、 、、、、、、
砂利		三〇立方米	、、、停留場附近
石材		一、〇〇〇立方米	、、、、、、

〔横法〕

器具機械名稱	現在數	所在地
杭打器械	一〇臺	、、倉庫
フロック	五〇箇	、、、、
シヨベル	一〇〇箇	、、、、
ジヤツク、トラベリング	五箇	、、、、

【縮法】

備考

一、線路ニ要スル材料ハ軌條、枕木、砂利、鐵材、煉瓦、セメント等重ナルモノヲ記載スヘシ

二、保線材料及器具機械ハ表記ノ外末尾ニ其ノ他一切所屬ノ旨ヲ記載スヘシ

【縮法】

電氣供給用電線路

種類	區間及電氣供給區域	線條數	支持物	亘長	所屬器具機械
送電線	何々發電所ヨリ何々變電所ニ至ル間	三	專用	、、	
送電線	何々變電所ヨリ何々、、ニ至ル間	六	專用	、、、、、、	
配電線	供給區域何々市內一圓	三條乃至、、條	專用一部何々會社電燈線ヲ添架セシム	、、、、、、	柱上變壓器、、箇
、、	、、、、、、	、、	、、	、、、、、、	、、

【縮法】

（第三號樣式）

馬匹						
種類	名稱	性	毛色	年齡	體尺	產地	特徵
內國種	、、	牡	青	五歲	一米五一	熊本縣	頸ニ毛旋アリ
雜種	、、	、、	、、	、、	、、	、、	、、、
外國種	、、	、、	、、	、、	、、	、、	、、、

●御召列車取扱規程

昭和八年七月十九日
訓第百二十五號

鐵道事務所

御召列車取扱規程左ノ通定ム

御召列車取扱規程

第一章　通則

第一條　御召列車ニ對スル奉送迎者ノ入場方ハ別ニ定ムル處ニ依ル

第二條　御召列車ノ發著又ハ通過スル際ハ驛長ニ於テ特ニ注意ヲ加ヘ作業上已ムヲ得ザル職員以外ハ乘降場及其ノ附近ニ出入セシムベカラズ但シ當務以外ノ職員ニシテ引卒者ヲ有スル規律アル團體ヲ組織シ反對側ノ乘降場又ハ列車ノ通過ニ妨ゲナキ場所ニ於テ相當ノ距離ヲ隔テ整列奉送迎ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條　御召列車ニハ本令中特ニ規定セル者及別ニ規定スル職員ノ外乘込マシムベカラズ

第四條　御召列車ニ對スル職員ノ敬禮ハ棒太廳鐵道事務所職員禮式規程ニ依リ最敬禮ヲ行フベシ但シ制服ヲ著用セザル職員ハ右手ヲ以テ脫帽（帽ノ裏ヲ現スベカラズ）スルト同時ニ兩手ヲ垂下シテ直立シ体ノ上部ヲ少シク前方ニ傾ケ敬禮スベシ

停車場ニ於ケル御車寄ヨリ便殿、便殿ヨリ御乘降場ニ至ル御通路ハ室外ト看做ス

第五條　奉送迎竝御召列車關係職員ハ制服ヲ著用スベシ但シ制服ヲ著用セザルコトヲ得ル職員ハ通常服ヲ用フルコトヲ得

第六條　御召列車運轉ノ際左ノ職員ハ一切敬禮ヲ行フヲ要セズ專心各自

〔棒法〕

ノ本務ニ從事スベシ

一、御召列車竝之ト行違若ハ待避スル列車ノ乘務員

二、御召列車ノ通過スル驛場所ノ驛長

三、御召列車ノ發著又ハ通過スル驛場所ノ乘降場竝構內ニ於テ御召列車ノ運轉ニ關スル當務ノ職員

四、線路ノ監視ニ從事スル職員

第七條　御召列車ノ發著又ハ通過スル沿道ニ於ケル職員ハ不敬ニ亘ル体裁ナキ樣各上長ニ於テ取締ヲ爲スベシ

第八條　御召列車ニ對シテハ階上其ノ他高所ヨリ見下スベカラズ

第九條　御乘降又ハ御乘換ノ驛ニ在リテハ御休憩所ヲ設ケ置クベシ

第二章　運轉

第十條　御召列車ニハ貫通制動機ヲ使用ス

第十一條　御召列車及御召列車編成車輛ハ各部ヲ入念檢査シ特ニ聯結器及車軸等ニ注意スベシ

第十二條　御召車及御召列車編成車輛ニハ熟練ナル檢車從事員ヲ指定シ置キ御召列車運轉ノ際全區間ニ亘リ當該列車ニ乘務シ之ガ檢査、注油ヲ擔當セシムベシ

第十三條　御召列車ニ使用スル機關車ハ最良ノモノヲ選定スベシ

第十四條　御召列車運轉區間ノ各機關庫ニ於テハ當日豫備トシテ機關車一輛ニ點火シ乘務員ト共ニ何時ニテモ執務ニ差支ナキ樣準備シ置クベシ

第十五條　御召列車ノ入換ニ際シテハ轉轍器作用ノ完全ナルヲ確認スル、ハ勿論車輛附屬品其ノ他ニシテ苟モ作業上ニ支障ヲ來スベキ虞アルモ

〔棒法〕

第十六條　御召列車ノ運轉スル本線ニ接續スル側線ニ留置ノ車輛ハ必ズ曲止ヲ爲シ尙車輪止ノ設ケアルモノハ必ズ之ヲ閉塞シ置クベシ

第十七條　御召列車ノ停止スル各驛ニ於テハ所長ノ指定シタル職員及驛長、機關庫主任竝保線區主任立會ヒノ上鑒メ停止位置ヲ測定シ置キ前部機關車ノ前頭端梁ヲ標準トシ兩側ニ停止手信號ヲ以テ停止ノ位置ヲ現示シ尙機關手側ニ於テ機關手座席位置ニ相當スル箇所ニ適當ノ標示ヲ爲シ機關手ハ同位置ニ於テ機關車ヲ停止セシムベシ

第十八條　御召列車ニ使用スル機關車（補助機關車ヲ含ム）乘務員及列車乘務員ハ最モ熟練ナル者ヲ選ビ且其ノ機關車ニハ所長ノ指定シタル監督員添乘シ特ニ運轉方注意監督スベシ

前項機關車乘務員ハ機關手二名機關助手一名トス但シ機關手ノ內一名ハ機關手見習ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十九條　御召列車ニハ使用機關車所管機關庫ノ組立工一名ヲ乘込マシムベシ

第二十條　御召車ニ先發シ又ハ單線ニ於テ行違フ列車ノ機關車ニハ熟練ナル機關手ヲ乘務セシメ且熟練ナル檢車手及組立工各一名該列車ニ乘込マシムベシ但シ指導機關車ヲ先發運轉セシムルトキハ該機關車ニハ檢車手乘務ヲ要セズ

第二十一條　御召車ハ可成列車ノ中央ニ聯結スヘシ但シ特ニ聯結位置ヲ指定シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條　御召列車ノ機關手ハ機關車緩急車間ノ聯結器ニ注意スベシ

各車輛間ノ聯結器ニ注意スベシ

第二十三條　御召列車三分間以上停車スル驛（三分間未滿ノ停車驛ト雖機關車ヲ解結スルトキ亦同ジ）ニ於テハ該列車ノ前後部緩急車ノ乘降場側ニ赤色旗又ハ赤色燈ヲ掲出シ發車準備終了ノ上先ヅ後部ノ赤色旗又ハ赤色燈ヲ撤去シ前部ハ之ヲ確認シタル後撤去スベシ但シ乘降場ガ曲線ノ爲見透シ難キトキハ後部ニ限リ兩側ニ赤色旗又ハ赤色燈ヲ掲出スルモノトス

前項ノ場合ニ於テ前部赤色旗又ハ赤色燈ノ現示及撤去ハ御召列車乘組ノ首席檢車從事員ニ於テ機關車監督員ト打合セノ上之ヲ爲スベシ此ノ場合機關車監督員ハ列車蛇管、蒸氣煖房器（蒸氣煖房使用ノ列車）電鈴及電線ノ聯結作業ノ終了セシコトヲ機關手ニ通告スベシ

第二十四條　御召列車ノ機關車附換ヲ爲ス驛ニ於テハ其ノ聯結又ハ解放ノ緊機關手ハ御召列車ニ激動ヲ生ゼシメザル樣注意シ車掌ハ列車兩端ノ手用制動機ヲ緊締シテ列車ノ自動ヲ警防シ機關車ノ附換終了後直ニ制動機ヲ緩解スベシ又御下車ノ驛ニ在リテハ御降車ノ後ニ非サレバ列車ヨリ機關車ヲ解放スベカラズ

第二十五條　御召列車ノ停止中ニハ供奉員ノ出入スルコトアルベキニ付驛長ハ發車ノ際注意ヲ加ヘ出發合圖ヲ爲スベシ

第二十六條　御召列車ノ運轉區間ニ於ケル電信電話回線ニテハ通常電報ノ通信又ハ通話ヲ爲スベカラズ但シ二回線以上アル區間ニ於テハ最短電信電話回線ノミハ此ノ限ニ在ラズ

第二十七條　御召列車ノ運轉スル區間ニ在リテハ如何ナル驛ト雖御召列車及其ノ先發列車ニ對シ「列車進入シ得ルヤ」ノ信號ニ承認ヲ與ヘタル時ハ標太國有鐵道運轉取扱心得第五十條及第五十一條ノ場合ト雖當該進入線路ニ亘リ入換ヲ爲スコトヲ許サズ

第二十八條　御召列車ノ通過スル對向轉轍器ニ聯動裝置ナキモノハ該列車通過時刻十分前ノ停車驛ト雖後部緩急車ノ乘降場側ニ赤色旗又ハ赤色燈ヲ掲出シ發車準備終了ノ上先ヅ後部ノ赤色旗又ハ赤色燈ヲ撤去シ前部ハ之ヲ確認シタル後撤去スベシ但シ乘降場ガ曲線ノ爲見透シ難キトキハ後部ニ限リ兩側ニ赤色旗又ハ赤色燈ヲ掲出スルモノトス

第二十九條　御召列車ノ通過スル背向轉轍器ニ聯動裝置ナキモノハ該列車通過時刻十分前ニ於テ正當方位ニ鎖錠スルカ又ハ其ノ取柄ヲ支持セシメ若ハ鍵柄ヲ踏ミ押ヘシムベシ

第三十條　御召列車ノ停車場構内ヲ通過スルトキハ規定ノ速度ヲ超過セザル樣注意運轉スベシ

第三十一條　御召列車ノ機關車ニハ最良炭ヲ使用シ煙筒ヨリ黒煙ヲ噴出セシメザル樣特ニ注意スベシ

第三十二條　御召列車ト行違若ハ待避スル列車及驛所在ノ機關車竝驛構内工場等ニ於テハ御召列車發著ノ間際ニハ煙筒ヨリ黒煙ヲ噴出サシメザルハ勿論已ムヲ得ザル場合ノ外氣笛ヲ吹鳴スベカラズ

又機關車停止中ニ在リテハ乘務員ハ嚴肅ニ乘務ノ位置ニ在ルベシ

前項ノ場合御召列車ノ著發線ニ接セル線路ニ於ケル列車ノ停止位置ハ左ノ各號ニ依ルベシ

一、御召列車ト相對スル位置ニハ絕對ニ機關車ヲ停止セシメザルコト

二、御召列車ト相對スル位置ニハ成ルベク列車ヲ停止セシメザルコト

第三十三條　御召列車ノ運轉スル區間ニ在リテハ如何ナル驛ト雖御召列車ノ先發セルコトニ特ニ注意スベシ

第三十四條　御召列車ノ通過スル停車場又ハ信號所ニ於テハ先發列車定時ノトキハ「○」ヲ遲延シタルトキハ其ノ遲延時分ヲ相當ノ紙片ニ記入

【棒法】

シ適任者ヲシテ當該乘降場ニ於テ之ヲ表示セシムベシ

對向列車ノ運轉狀況ニ付テモ特ニ指定シタル場合ハ前項ニヨリ之ヲ表示スヘシ此ノ場合ニ在リテハ先發列車ニ對スル表示ヲ爲サザルモノトス

第三十五條　御召列車ト行違若ハ待避スル列車ニハ危險品、臭氣アル貨物及汚穢物搭載車、家畜搭載車竝材木其ノ他運轉中移動ノ爲メ支障ヲ釀スノ虞アル無蓋貨車ヲ聯結スベカラズ

御召列車ノ運轉スル驛構内線路附近ニハ前項記載ノ貨物類ヲ留置スベカラズ

第三十六條　御召列車ハ行違線路側（列車進行ノ方向ニ於ケル右側）ノ圓板又ハ側燈ヲ掲出セズ

御召列車ト行違ヲ爲ス各列車ハ豫メ行違線路側ノ圓板又ハ側燈ヲ後部車掌ニ於テ撤去スベシ

第三十七條　御召列車ト行違若ハ待避スル列車ニ於テハ驛長及車掌ハ旅客ニ御召列車ノ運轉アルベキ旨ヲ通告シ謹嚴ヲ守ラシメ窓戸ハ閉鎖スルヲ要セズト雖窓外ニ頭部ヲ差出ス如キコトナキ樣注意スベシ但シ停車場ニ停車中、車掌ハ緩急車外ニ在リテ嚴肅ニ列車ヲ監守スベシ

第三十八條　上下ニ於テ交叉スル線路ノ上方又ハ下方ニ御召列車ノ運轉スル場合ハ同時ニ他方ノ線ニ列車ヲ運轉セシメザル樣最寄驛長ニ於テ手配スベシ

第三十九條　御召列車ノ運轉スル線路ニ近ク併行シタル線路ヲ同一方向ニ向ヒ運轉セントスル列車アルトキハ御召列車ノ後方ニ相當間隔ヲ保持シテ運轉セシムベシ但シ其ノ方向ガ反對ナル場合ニハ其ノ速度一時間二十四粁以内ニ減ジ特ニ注意運轉スベシ

第四十條　御召列車ニハ電燈使用ノ準備ヲ爲スベシ

第四十一條　御召列車ノ前後緩急車ニハ相互通話シ得ベキ樣電話機ヲ裝置スベシ

第四十二條　御召列車及指導列車（軍行機關車ヲ含ム）ニハ携帶電話機ヲ搭載シ之ガ取扱者トシテ通信工手一名乘務セシムベシ

第四十三條　御召列車ノ機關車及之ニ隣接スル客車相互間ニハ通信シ得ベキ裝置ヲ施スベシ但シ運轉中解放スベキ補助機關車ニハ之ヲ省略スルコトヲ得

第四十四條　御召列車ノ運轉スベキ線路ニ接近シテ設ケラレタル給水用「ホース」又ハ樋其他御召列車通過ノ際支障ヲ釀ス虞アルモノハ夫々緊縛又ハ撤去スル等驛長ニ於テ注意ヲ加ヘ倘乘降場ニ手荷物車ノ類ヲ留置スベカラズ

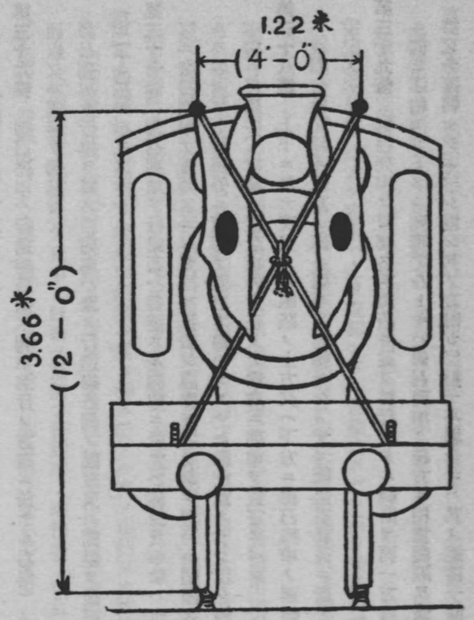
第四十五條　御召列車運轉區間ニ於テハ當日試運轉及工事用列車ヲ運轉シ若ハ「ツロリー」ノ使用等ヲ爲スベカラズ但シ御召列車通過後ハ此ノ限ニ在ラズ

第四十六條　停車場機内踏切ニシテ常ニ番人ヲ附セザルモノハ總テ番人ヲ配置スベシ

第四十七條　御召列車夜間運轉ノ際ハ到著線路ニ接近シテ提灯ヲ携帶セシムベカラズ

第四十八條　御召列車ノ機關車ニハ左側寸法ニ據リ國旗ヲ掲出スヘシ

【棒法】



旗ノ寸法

長　一米（四十吋）

幅　七六〇粍（三十吋）

第三章　保線

第四十九條　御召列車ノ通過スベキ線路ニ於ケル工事ハ勿論線路ニ接近シテ施行スル各種ノ工事ハ御召列車通過ノ前日迄ニ總テ之ヲ休止シ特ニ命ゼラレタル者ハ各其ノ狀態ヲ檢査シ列車ノ通過ヲ安全ナラシムベシ

第五十條　御召列車運轉區間ニ於テハ轉轍器及轍叉、轉轍器標識、聯動機、信號機、隧道、橋梁、跨線橋竝其ノ他緊要又ハ特殊ノ建造物ハ保線係長ニ於テ御召列車通過ノ前日迄ニ其ノ狀態ヲ檢査シ且一般軌道ノ整備ニ注意スベシ

第五十一條　御召列車ノ通過スベキ線路ニ接近シテ設ケラレタル假設物ニシテ傾頽又ハ轉覆ノ虞アルモノハ御召列車通過ノ前日迄ニ之ヲ取除キ若ハ傾頽轉覆セザル方法ヲ以テ堅固ニ防護シ置クベシ

第五十二條　御召列車ノ通過スベキ線路ハ其ノ直線ナルト曲線ナルトニ拘ラズ連絡ヲ採リ得ベキ適當ノ位置ニ線路工手一名ヅツヲ配置シ隧道、踏切、橋梁及必要ト認ムル切取箇所ニハ特ニ番人ヲ配置スベシ但シ配置ノ線路工手、番人ニハ相當ノ手信號旗ヲ携帶セシメ且線路工手長又ハ線路工手ヲシテ斷エズ線路ヲ巡檢セシムベシ

第五十三條　御召列車運轉中保線區主任又ハ保線手ハ其ノ受持區間ノ線路ヲ巡視警戒シ其ノ安全ヲ保持スベシ

第五十四條　隧道又ハ橋梁警備者及踏切看手ハ御召列車通過時刻十分前ニ隧道、橋梁、踏切及其ノ附近ヲ巡視警戒シ列車ガ近寄リタルトキハ姿勢ヲ整ヘ白色旗又ハ白色燈ヲ現示スベシ

第五十五條　踏切道、跨線道路橋ハ御召列車通過時刻十分前ヨリ公衆ノ通行ヲ停止スベシ

第五十六條　御召列車運轉區間ニ於ケル主要ナル各驛ニハ「ツロリー」及線路修理ニ要スル機械器具材料ヲ準備シ事故發生ニ臨ミ應急機敏ノ處理ヲ缺カザル樣手配スベシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十四年六月訓令第百四十三號御召列車取扱規程ハ之ヲ廢止ス

〔樺法〕

第三章　港灣　船舶

●開港港則

明治三十一年七月八日
勅第百三十九號

改正　明三二年八月勅令三六〇號、一〇月四〇三號、三三年五月二五二號、三七年四月一〇六號、三九年五月九七號、四〇年一一月三三三號、四一年四月七五號、四二年三月二七號、四三年五月二五四號、大元年一一月四五號、六年四月三八號、八年七月三三七號、一一年二月二三號、一三年三月四七號、一五年一〇月三二八號、昭二年一二月三五一號、五年二月二三號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ開港港則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（外、內、大、遞、大臣副署）

開港港則

第一條　左ニ記載スル外國通商ヲ許シタル諸港ノ經界ハ左ノ如ク之ヲ定ム

横濱ノ港界ハ十二天鼻ヨリ北四十六度東五海里ニ引キタル一線及該線ノ北東端ヨリ正北ニ引キタル一線以內

神戸ノ港界ハ新在家ノ東角ヨリ南十五度西ニ引キタル一線ト和田岬ヨリ北八十四度三十四分東ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界トナシタル面積內

新潟ノ港界ハ燈臺ヲ中心トシ二海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧內ニ含マル

夷港ノ港界ハ椎泊村ヨリ北五十里村外堺マテ引キタル一線ト加茂湖東岸湊町ヨリ同湖北西岸加茂村マテ引キタル一線トノ內ニ含マル

大阪ノ港界ハ神崎川口東岸ヨリ南西微南ニ引キタル一線ト大和川口南岸ヨリ正西ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界トナシタル面積內

長崎ノ港界ハ小瀨戸浦ノ南東端ヨリ鼠島ノ外端ヲ經テ蔭ノ尾島長刀埼ニ引キタル一線ト蔭ノ尾島三角點（一五四呎）ヨリ正南ニ向ヒ香燒島ニ引キタル一線及香燒島石燈籠ノ鼻ヨリ深堀村堂ノ埼ニ引キタル一線以內

函館ノ港界ハ阿野間崎ヨリ南方沖合半海里ノ所ヨリ上磯村有川口ノ東岸マテ引キタル一線內ニ含マル

清水ノ港界ハ眞埼ヨリ正北ニ引キタル一線以內

武豐ノ港界ハ布土村ヨリ正東ニ引キタル一線以內

名古屋ノ港界ハ西突堤燈臺ヲ中心トシテ二海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧內

四日市ノ港界ハ燈臺ヲ中心トシテ二海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧內

宇野ノ港界ハ高邊岬（高邊山三角點ヨリ南三十度東）ヨリ下烏島ノ西端及飛洲ヲ經テ蛸埼（五一米三角點ヨリ正東）ニ引キタル一線以內

尾道糸崎ノ港界ハ犬吠山ノ山頂ヨリ若子島三角點（三九〇呎）ニ引キタル一線、岩子島鷄小島ヨリ向島布刈鼻ニ引キタル一線、向島大磯鼻ヨリ戸崎ニ引キタル一線及向島松ケ鼻ヲ中心トシテ八鏈ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧以內

德山ノ港界ハ仙島ノ洲鼻ト蛇島ノ北東端トノ連結線ヲ兩岸ニ延長シタル一線以內

今治ノ港界ハ蒼社川口ノ東岸ヨリ正北ニ引キタル一線ト大濱燈臺ヨ

〔樺法〕

リ南六十度東ニ引キタル一線トノ二線ヲ經界トナシタル面積内

下關ノ港界ハ彦島弟子待ノ鼻ヨリ巖流島ノ南東端マテ夫ヨリ北東微北ニ向ヒ引キタル一線及彦島浦士浦ノ鼻ヨリ北東ニ引キタル一線以内

萩ノ港界ハ大瀬鼻ヨリ笠山ノ山頂ニ引キタル一線以内

門司ノ港界ハ白木埼ノ北西四鏈ノ所ヨリ門司埼ニ引キタル一線ト白木埼ノ北西四鏈ノ所ヨリ正南四鏈ノ所ニ引キタル一線及其線ノ南端ヨリ一番橋川口ニ引キタル一線トノ三線ヲ經界トナシタル面積内

若松ノ港界ハ燈臺ヲ中心トシテ二海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内

博多ノ港界ハ殘島ノ北端ヨリ湍切ニ引キタル一線及小戸鼻ヨリ殘島ノ南端ニ引キタル一線以内

唐津ノ港界ハ高島ノ北端ヨリ西北西ニ引キタル一線ト同島ノ南東端ヨリ正南ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界トナシタル面積内

住ノ江ノ港界ハ船津川口ノ西岸ノ南端ヨリ正西ニ引キタル一線以内

口ノ津ノ港界ハ宮崎鼻ヨリ正南ニ引キタル一線ト白間埼ヨリ正東ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界トナシタル面積内

三池ノ港界ハ北突堤燈臺ヲ中心トシテ一海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内

三角ノ港界ハ瀨戸ノ鼻ヨリ大矢野島コンピラ鼻マテ際崎ノ鼻ヨリ戸馳島野埼マテ同島兎鼻ヨリ千束島六四郎鼻マテ夫ヨリ大矢野島塔ケ埼マテ引キタル四線以内

鹿兒島ノ港界ハ一丁臺場南端ノ燈臺ヲ中心トシテ一海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内

鰹節ノ港界ハ虎埼ヨリ耶良埼（一名長瀞迦鼻）ニ引キタル一線以内

那覇ノ港界ハ先原埼ヨリ干ノ瀨ノ北端ニ引キタル一線及安里川口ヨリ干ノ瀨ノ北端ニ引キタル一線以内

濱田ノ港界ハ黑埼ヨリ馬島ノ西端ニ引キタル一線ト馬島ノ北端（千疊敷鼻）ヨリ入道鼻ニ引キタル一線以内

境ノ港界ハ境港燈臺ヲ中心トシテ二海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内及外ノ江ノ西端ヨリ正北ニ引キタル一線以東

宮津ノ港界ハ片島鼻ヨリ日置埼ニ引キタル一線以内

敦賀ノ港界ハ赤埼ヨリ經子埼ニ引キタル一線以内

七尾ノ港界ハ能登島松ケ埼ヨリ南東ニ引キタル一線以西及屏風埼峽以東

伏木ノ港界ハ燈臺ヲ中心トシテ一海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内

船川ノ港界ハ生鼻埼ヨリ正南ニ引キタル一線ト南平澤ノ南東角ヨリ正東ニ引キタル一線トノ二線ヲ經界トナシタル面積内

青森ノ港界ハ鼻繰岬ヨリ正西ニ引キタル一線以内

小樽ノ港界ハ平磯岬ヨリカヤシバ岬ニ引キタル一線以内

根室ノ港界ハ辨天島燈臺ヲ中心トシテ一海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内

釧路ノ港界ハ燈臺ヨリ正西二海里ニ引キタル一線以北及該線ノ西端ヨリ正北ニ引キタル一線以東

室蘭ノ港界ハエンルム埼ヨリ大黑島ヲ經テホテイシ埼ニ引キタル一線以内

〔棒法〕

大泊ノ港界ハ燈竿ヲ中心トシテ二海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内

眞岡ノ港界ハ導標ノ紅光燈ヲ中心トシテ一海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内

第二條　各船舶ハ入港スルニ當リ其國旗及信號符字ヲ揭クヘシ定期郵便船ハ會社旗ヲ以テ信號符字ニ代用スルコトヲ得

右國旗及信號符字又ハ會社旗ハ船舶ノ著港ヲ港長ニ屆出タル後ニアラサレハ之ヲ引下スヘカラス

著港屆ハ日曜日及大祭日ヲ除クノ外著港後二十四時間内ニ之ヲ差出スヘシ但シ著港屆ヲ差出シタル後ニアラサレハ如何ナル船舶タリトモ稅關手續ノ便利ヲ與ヘサルモノトス

第三條　各船長ハ其著港ニ際シ自由交通ノ許可ヲ受クルマテハ其船舶ト他ノ船舶或ハ陸地トノ間ニ於ケル一切ノ交通ヲ差止ムヘシ

第四條　港長ノ端艇ハ港ノ入口近傍ニ出向キ居リ港長ハ各船舶ノ入港スルニ當リ其泊船所ヲ示定スヘシ而シテ各船舶ハ止ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外特許ナクシテ其泊船所ヲ去ルヘカラス但シ港長ニ於テ必要ト認ムルトキハ船舶ヲシテ其泊船所ヲ移サシムルコトヲ得

第五條　港長ハ其執務ノ間常ニ制服ヲ著ケ其端艇ニハ別紙雛形ノ如キ旗ヲ揭クヘシ

港長ハ何時タリトモ船舶ノ運動繫船ノ適否及碇泊所ニ關スル指揮カ果シテ實行セラレ居ルヤ否ヲ檢査スルコトヲ得

第六條　如何ナル船舶モ公ケノ航路ニ投錨シ若クハ其他航海ノ自由ヲ障碍スヘカラス

第十九類　交通　第三章　港灣　船舶

〔棒法〕

「ヂブ、ブームス」ヲ掲キ出シタル船舶ニシテ其「ヂブ、ブームス」カ航海ノ自由ヲ障碍スルトキハ港長ノ請求ニ從ヒ之ヲ取込ムヘシ

第七條　港界内ニ碇泊シ又ハ運航スル各船舶ハ日沒ト日出ノ間ニハ海上衝突豫防ニ關スル法令ニ規定シタル各種ノ船燈ヲ揭クヘシ

第八條　暴風雨ノ來ラムトスルトキ或ハ警報信號ヲ揭ケタルトキハ各船舶ニ於テ直ニ一箇又ハ一箇以上ノ豫備錨ヲ投下スルノ準備ヲ爲スヘシ尤モ汽船ハ此外別ニ蒸氣ヲ發生セシムヘシ

第九條　常用ニ超過シ爆發物又ハ容易ニ燃燒スヘキ物料ヲ積載シタル一切ノ船舶ハ港界外ニ來リ其處ニテ港長ノ指揮ヲ待ツヘシ斯ク指揮ヲ待ツ間右船舶ハ日出ト日沒ノ間ニハBノ信號日沒ト日出ノ間ニハ紅燈ヲ前檣ノ頂上ニ揭クヘシ

各船舶ハ港長ノ指定シタル場所ニアラサレハ前記ノ物料ヲ積入レ又ハ荷卸スヘカラス

港長ハ港界内ニ於テ前項ノ場所ヲ指定シ難シト認ムルトキハ港界外ニ於テ適當ノ場所ヲ指定スルコトヲ得

前項ニ依リ指定シタル場所ハ港界内ニ在ルモノト看做ス

第十條　休繫中又ハ修繕中ノ船舶及總テ「ヤット」、貨庫船、貨船及端艇等ハ特ニ港長ノ指定シタル泊船所ニ碇泊スヘシ

第十一條　船舶カ港界内ニ於テ火ヲ失シタルトキハ救援ノ來ルマテ船鐘ヲ打鳴スヘシ且ツ日出ト日沒ノ間ニハNMノ信號ヲ揭ケ日沒ト日出ノ間ニハ斷エス紅燈ヲ上下スヘシ

警察官ノ救援ヲ要スルトキハ日出ト日沒ノ間ニハGノ信號ヲ揭ケ日沒ト日出ノ間ニハ藍火若クハ閃火ヲ示スヘシ

前記ノ如キ信號ニ用ユル場合ノ外港長ノ允許ヲ得ルニアラサレハ港界内ニ於テ銃砲及煙火等ヲ發スルコトヲ得ス

第十二條　帝國政府ニ於テ流行病若クハ傳染病（虎烈剌、天然痘、黃熱、猩紅熱、「ペスト」ノ類）アル地ト布告シタル地ヨリ來著シ又ハ航海中船中ニ該病アリタル船舶ハ港界外ニ來リ日出ト日沒ノ間ニハ黃旗ヲ日沒ト日出ノ間ニハ紅白二燈ヲ上下ニ連ネ前檣ノ頂上ニ揭クヘシ又前記ノ船舶ハ當該衞生官吏ノ臨檢ヲ受クヘシ

衞生官吏臨檢ノ爲メ其船舶ニ近寄リタルトキハ適當ノ豫防ヲ施シ得ル爲メニ航海中現ニ該病發生ノ有無及該病ノ性質如何ヲ該官吏ニ通知スヘシ

右船舶ハ自由交通ノ允許ヲ受クルマテ黃旗若クハ前記ノ燈火ヲ引下スヘカラス且ツ當該衞生官吏ノ允許ヲ得ルニアラサレハ何人タリトモ上陸セシメ又ハ一切他ノ船舶ト交通スルヲ許サス

前數項ノ規定ハ港界内ニ碇泊スル船舶中ニ於テ前記ノ流行病及傳染病ノ内何病ニテモ發生シタルトキニ之ヲ適用ス

右船舶ハ港長ヨリ其旨命令ニ接スルトキハ其泊船所ヲ移轉スヘシ

牛羊等傳染病アル地ヨリ來著シ又ハ航海中該病ヲ發生シタル船舶ハ當該衞生官吏ノ允許ヲ得ルニアラサレハ牛羊等又ハ其死體、皮革又ハ骨ヲ陸揚シ又ハ他船ニ積換ユルコトヲ許サス

第十三條　港界内ニ於テ死體、荷足、灰燼、塵芥等ヲ海中ニ投棄スヘカラス

石炭、荷足其他之ニ類スル物料ヲ積卸スルトキハ其海中ニ脫落スルヲ防ク爲メ必要ノ豫防ヲ爲スヘシ

何船舶ニテモ港ニ害アル一切ノ物料ヲ海中ニ投棄シ又ハ怠慢ニ依リ脫落セシメタルトキハ港長ヨリ其旨命令ニ接セハ該船舶ニ於テ之ヲ取除クヘシ若シ取除カサルニ於テハ港長ハ該船舶ノ費用ヲ以テ之ヲ取除カシムルコトヲ得

第十四條　船舶出港セントスルトキハ其旨（港務局）ニ屆出テ且ツ出帆旗ヲ引揭クヘシ

一定ノ時日ニ出帆スル汽船ハ其著港及出帆ニ對シ單ニ一回ノ屆出ヲ爲スヲ以テ足レリトス

第十五條　一港内又ハ其附近ノ公ケノ航路ノ妨害トナルヘキ總テノ雖破物又ハ其他ノ物件ハ港長ノ指定セル時間内ニ其所有主ニ於テ之ヲ取除クヘシ若シ港長ノ指定セル時間内ニ此命令ヲ遵行セサルニ於テハ港長ハ所有主ノ費用ヲ以テ之ヲ取除カシメ又ハ破壞セシムルコトヲ得

第十六條　（港務局）ハ定期郵便汽船ノ爲メニ適切ニシテ且ツ充分ナル浮標ノ繫船器若干ヲ備ヘ置キ之ヲ使用スル所ノ船舶ヲシテ成規ノ使用料ヲ拂ハシムヘシ

第十七條　燈船、信號用浮標又ハ立標ニハ鏈、綱其他ノ船具ヲ繫クヘカラス

船舶若シ燈船、浮標、立標、埠頭及其他ノ遺棄物ニ乘掛ケ又ハ之ヲ毀損シタルトキハ其修繕又ハ再設ノ爲メニ必要ノ費用ハ該船舶ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第十八條　本則ノ規定ヲ犯シタルトキハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條　船舶ニ科スル罰金、使用料又ハ費用ニ付テハ船長モ亦其責ヲ

（棒法）

負フモノトス

第二十條　本則ニ依リ船舶ニ科シタル罰金、使用料又ハ費用ヲ完納スルカ或ハ之ニ對シ港長ノ滿足スヘキ擔保物ヲ港長ニ差出スニアラサレハ其船舶ノ出港ヲ許サス

第二十一條　本則ニ於テ港長ト稱スルハ助役及代理者ヲモ包含シ船長ト稱スルハ其名稱ノ何タルヲ問ハス船舶ヲ指揮監督スル者ノ義ニシテ港ト稱スルハ本則第一條中ニ列記セル諸港ノ一ヲ指ス

第二十二條　各港ニ於テ其一部分ヲ軍艦ノ碇泊所トシテ取除ケ置クヘシ

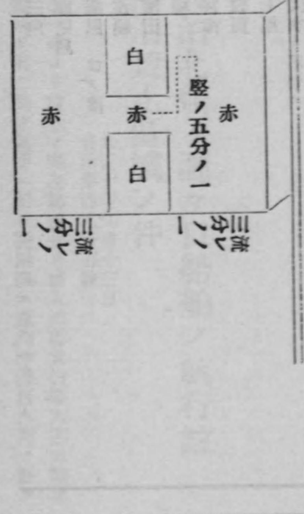
第二十三條　本則ノ規定中軍艦ニ適用セラルヘキモノハ第四條、六條、十二條、二十一條ノ規定及第十三條第一項及第二項ノ規定ニ限ル

第二十四條　本則施行ノ時期及場所ハ遞信大臣之ヲ告示ス

本則實施ニ關スル細則ハ遞信大臣之ヲ發布ス

（別紙）

第五條ノ旗章雛形



●開港及開港ニ於テ輸出スヘキ貨物ノ指定ニ關スル件

（棒法）

明治三十二年七月十三日
勅令第三百四十二號

改正　明三二年一二月勅令四六〇號、三六年一月四號、三七年四月一〇四號、三八年九月二一〇號、三九年三月三〇號、六月一五七號、四〇年一〇月三〇號、一一月三四〇號、四一年三月三四號、四二年三月二四號、四三年五月二五二號、四四年六月一八七號、大三年七月一五四號、六年八月一一三號、八年七月三三八號、一一年二月二一號、三月二九號、昭二年一二月三五二號、五年二月二二號

第一條　從來ノ開港（神奈川縣横濱、長崎縣長崎、北海道函館、兵庫縣神戸、新潟縣新潟、新潟縣夷及大阪府大阪）ノ外左ノ諸港ヲ開港トス

廳府縣	港名
靜岡	清水
愛知	武豐　名古屋
三重	四日市
岡山	宇野
廣島	尾道糸崎
愛媛	今治
山口	德山　下關　萩
福岡	門司　若松　博多　三池
佐賀	唐津　住ノ江

熊本	三角
鹿兒島	鹿兒島
長崎	嚴原　口ノ津
沖繩	那覇
島根	濱田
鳥取	境
京都	宮津
福井	敦賀
石川	七尾
富山	伏木
秋田	船川
青森	青森
北海道	小樽　根室　釧路　室蘭
樺太	大泊　眞岡

第二條　（削除）

第三條　第一條ノ各港ニ於テ滿二年毎ノ輸出入貨物ノ價格五萬圓ニ達セサルトキハ之ヲ閉鎖ス

第一條ノ各港ハ交通ノ發達ニ因リ其ノ附近ノ地ニ新ニ開港ヲ設クル場合ニ於テ將來存置ノ必要ナシト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス之ヲ閉鎖スルコトヲ得

閉鎖ノ時期ハ三箇月前大藏大臣之ヲ公告スヘシ

附　則

本令ハ關稅法施行ノ日ヨリ施行ス　（明治三十二年八月四日ヨリ施行）

●船入澗取締規則

大正元年十二月二十八日
遞令第十二號

改正　大二年三月遞令一號、七年六月一八號、昭三年三月七號

船入澗取締規則

第一條　本則ハ樺太廳ニ於テ、又ハ樺太廳長官ノ許可ヲ受ケ、修築シタル船入澗ニ之ヲ適用ス

船入澗ノ區域ハ標杭ヲ以テ之ヲ表示ス

第二條　船入澗ハ支廳長之ヲ管理ス

第三條　左ノ事項ハ所轄警察官署ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

一　工作物ヲ設クルトキ

二　舟艇ノ引揚又ハ引卸ヲ爲スコト

三　煙火其ノ他火器ヲ弄スルトキ

四　木材ヲ水面ト直接ニ揚卸スルトキ

五　前各號ノ外舟艇ノ出入碇泊又ハ荷役ニ支障アル事項

第四條　船入澗ニ出入スル舟艇ハ海上衝突豫防法ノ定ムル所ニ依リ船燈ヲ揭クヘシ

第五條　舟艇ハ航路ニ支障ナキ場所ニ碇泊繫留スヘシ

所轄警察官署ハ必要ト認ムルトキハ其ノ位置ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第六條　火藥類又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ヲ搭載スル舟艇ハ所轄警察官署ニ屆出テ其ノ指示スル場所ニ碇泊スヘシ

第七條　船入澗ノ外側、之ニ連亙スル護岸壁又ハ標木浮標等ニ舟艇木材

【樺法】

等ヲ繫留スヘカラス

第八條　重量又ハ長大ノ物件ヲ揚卸スルトキハ埠頭及物揚場ヲ毀損セサル樣豫メ相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第九條　故意又ハ懈怠ニ因リ埠頭物揚場又ハ其ノ他ノ營造物ヲ毀損シタルトキハ其ノ修繕ヲ爲サシメ又ハ修繕ニ必要ナル費用ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

第十條　貨物其ノ他ノ物件ヲ海中ニ脫落シタルトキハ之ヲ除去セシメ又ハ除去ニ必要ナル費用ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

第十一條　船入澗ニ荷足、塵芥、瓦礫又ハ禽獸ノ死屍等ヲ投棄スヘカラス

第十二條　第三條、第四條、第五條第一項、第六條乃至第八條及第十一條ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス第五條第二項ノ命令ニ從ハサル者亦同シ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●大泊北船入澗々口船舶ノ航行竝停泊禁止區域ノ件

大正十年九月十三日
告示第百六十五號

大正十年九月十一日ヨリ當分ノ內左記圖面ノ通大泊郡大泊町大字大泊北船入澗々口南端ヨリ南二間ノ個所ニ於テ護岸線ニ直角沖合百六間ノ點ヲ基點トシ北七度四十分西ノ方向ニ長百二十間幅七間ノ區域內船舶ノ航行竝碇泊ヲ禁止ス

禁示區域ノ南端ニ晝間ハ北側ニ紅色、南側ニ綠色ノ浮標、夜間ハ同色ノ洋燈ヲ以テ之ヲ標示ス

（圖面省略）

【樺法】

●船舶法（抄錄）

明治三十二年三月八日
法律第四十六號

改正　時ス

船舶法

第一條　左ノ船舶ヲ以テ日本船舶トス

一　日本ノ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶

二　日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶

三　日本ニ本店ヲ有スル商事會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及ヒ株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶

四　日本ニ主タル事務所ヲ有スル法人ニシテ其代表者ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶

舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立シタル合資會社ニ在リテハ業務擔當社員ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶ヲ以テ日本船舶トス

第二條　日本船舶ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲クルコトヲ得ス

第三條　日本船舶ニ非サレハ不開港場ニ寄港シ又ハ日本各港ノ間ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スコトヲ得ス但法律若クハ條約ニ別段ノ定アルトキ、海難若クハ捕獲ヲ避ケントスルトキ又ハ主務大臣ノ特許ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第二十二條　日本船舶ニ非スシテ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ船長ヲ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ情狀重キトキハ其船舶ヲ沒收ス但捕獲ヲ避ケントスル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ此限ニ在ラス

日本船舶カ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ニ非サル旗章ヲ掲ケタルトキ亦前項ニ同シ

第二十三條　第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處シ情狀重キトキハ其船舶ヲ沒收ス

●出入船舶屆出規則

大正十三年十月九日
遞令第三十五號

出入船舶ニ關スル屆出規則左ノ通改正ス

出入船舶屆出規則

第一條　樺太ニ出入スル汽船及帆船ノ船長ハ別記第一號及第二號樣式ニ依リ各其ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆出ハ入港ノ場合ニ在リテハ即時、出港ノ場合ニ在リテハ出港前ニ於テシ、警察官署所在地外ノ地ニ在リテハ受持警部補派出所、巡査部長派出所、巡査駐在所ヲ經由スヘシ

第二條　前條ノ屆出ヲ爲サス又ハ虛僞ノ屆出ヲ爲シタル者ハ七十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式ノ一（用紙半紙罫紙）

入港屆

一　船舶ノ種類
二　船名
三　船主ノ氏名
四　船籍地
五　總噸數及登簿噸數又ハ石數
六　船員ノ數
七　陸揚スヘキ荷物　別紙目錄ノ通
八　上陸スヘキ船客　別紙名簿ノ通
九　發航地竝其ノ年月日時
十　寄港地
十一　入港年月日時

右及御屆候也

年　月　日

船長　氏　　名印

警察（分）署長殿

（裏法）

第一號樣式ノ二（用紙半紙罫紙）

揚荷目錄

品目	單位稱呼	數量	換算噸數	價格	仕出地	備考
			噸	圓		
計						

記載例

一　品目ハ具體的ニ記載スヘシ
二　數量ハ一般取引上使用スル單位、稱呼ヲ用ヰ換算噸數ハ噸以下二位迄トシ價格ハ厘位ヲ切捨ツヘシ
三　樺太產ト其ノ他ノ區別ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第一號樣式ノ三（用紙半紙罫紙）

船客名簿

等級	乘船地	本籍又ハ國籍	住所	職業	男女ノ別	氏名	年齡

第二號樣式ノ一（用紙半紙罫紙）

出港屆

一　船舶ノ種類
二　船名
三　船主ノ氏名
四　船籍地
五　總噸數及登簿噸數又ハ石數
六　船員ノ數
七　陸揚スヘキ荷物　別紙目錄ノ通
八　上陸スヘキ船客　別紙名簿ノ通
九　發航地竝其ノ年月日時
十　寄港地
十一　入港年月日時

右及御屆候也

年　月　日

船長　氏　　名印

警察（分）署長殿

（裏法）

第二號樣式ノ二（用紙半紙罫紙）

積荷目錄

品目	單位稱呼	數量	換算噸數	價格	仕向地	備考
			噸	圓		
計						

記載例

一　品目ハ具體的ニ記載スヘシ
二　數量ハ一般取引上使用スル單位、稱呼ヲ用ヰ換算噸數ハ噸以下二位迄トシ價格ハ厘位ヲ切捨ツヘシ
三　樺太產ト其ノ他ノ區別ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第二號樣式ノ三（用紙半紙罫紙）

船客名簿

等級	上陸地	本籍又ハ國籍	住所	職業	男女ノ別	氏名	年齢

●樺太航海補助規程

昭和八年一月十五日
廳令第一號

樺太航海補助規程左ノ通定ム

樺太航海補助規程

第一條　樺太各地間及樺太ト他ノ地方間ノ航路ニ於ケル定期航海ニシテ拓殖上必要アリト認ムルモノニ對シ本令ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ航海補助金ヲ交付ス

本令ニ於テ補助航海ト稱スルハ前項ノ規定ニ依リ補助金ノ交付ヲ受クル定期航海ヲ謂ヒ受命者ト稱スルハ補助航海ニ從事スル者ヲ謂フ

第二條　補助航海ニ從事セムトスル者ハ毎年一月二十日迄ニ左ノ事項ヲ記載シタル願書ヲ樺太廳長官ニ提出スヘシ

一　航海ノ起點、終點及寄港地

二　航海ノ期間、回數及補助金額

前項ノ願書ニハ第一號樣式ニ依ル使用船舶件名書及第二號樣式ニ依ル營業目論見書ヲ添附スヘシ

商事會社ニ在リテハ前項ノ書類ノ外會社ノ種類、社員又ハ株主ノ氏名、定款、業務ヲ執行スル社員又ハ取締役及監査役ノ氏名ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ

第三條　樺太廳長官ハ前條ノ書類ヲ審査シ補助航海ニ從事セシムルニ適當ナリト認ムル者ニ對シ補助航海命令書ヲ下付ス

補助航海命令書ニハ航海ニ從事スヘキ線路、航海ノ起點、終點、寄港地、期間、回數、使用船舶及航海補助金額其ノ他樺太廳長官ニ於テ必要ト認ムル事項ヲ定ム

本令ニ於テ受命線路ト稱スルハ補助航海ニ從事スヘキコトヲ命セラレタル線路ヲ謂フ

第四條　航海補助金ハ使用船舶、航海運數、航海回數其ノ他必要ト認ムル事項ニ付キ審査シ其ノ金額ヲ定ム

第五條　航海補助金ハ一航海ヲ終リタル毎ニ受命者ノ請求ニ依リ之ヲ分割支給ス但シ一航海ノ補助金ハ航海回數ヲ以テ補助金額ヲ除シ圓位ニ止メ端數ハ之ヲ最終ノ支給額ニ加算ス

天災其ノ他ノ已ムヲ得サル事由ニ因リ又ハ樺太廳長官ノ命令ニ依リ航海終了セサル場合ニ於テハ其ノ全部又ハ一部ヲ終了シタルモノト看做シ補助金ヲ支給スルコトアルヘシ

第六條　受命者ハ豫メ補助航海線路ノ船舶發著日時表ヲ提出シ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

樺太廳長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ發著日時表ノ變更ヲ命スルコト

アルヘシ

天災其ノ他ノ已ムヲ得サル事由ニ因リ發著日時表ニ依ル發著ノ日ニ連連ヲ生スルニ至リタルトキハ受命者ハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ發著日ノ變更ニ付樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ其ノ遲速二日以内ナル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ具シ樺太廳長官ニ屆出ツルヲ以テ足ル

第七條　受命者ハ使用船舶カ受命線路ノ起點、終點及寄港地ニ發著スルトキハ發著日時ニ對スル最寄郵便局ノ證明ヲ受クヘシ但シ郵便局ノ證明ヲ受クルコト能ハサル事由アルトキハ最寄警察官吏ノ證明ヲ以テ代フルコトヲ得

第八條　樺太廳長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ補助金額ノ範圍内ニ於テ航海ノ起點、終點若ハ寄港地ヲ變更セシメ又ハ臨時航海ヲ命スルコトアルヘシ

第九條　受命者ニ於テ航海ノ起點、終點ヲ變更シ又ハ寄港ヲ省略セムトスルトキハ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ航海運數減少シタルトキハ補助金額ヲ減スルコトアルヘシ

第十條　受命者ニ於テ其ノ船舶ヲ所定ノ寄港地外ニ寄港セシメムトスルトキハ豫メ其ノ寄港日時ヲ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

第十一條　受命者ハ旅客貨物ノ運賃表ヲ提出シ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

樺太移住民ニシテ制規ノ割引乘船券ヲ所持スル者ノ乘船賃、家具農具類、食糧品ノ運賃及手荷物制限外重量ニ對スル運賃ハ定額ノ五割引ト爲スヘシ

【樺法】

樺太廳長官ハ前項ノ外種類ヲ指定シテ旅客及貨物運賃ヲ低減セシメ又ハ其ノ取扱方ヲ指示スルコトアルヘシ

第十二條　受命者ハ第三條ノ規定ニ依リ定メラレタル船舶ヲ以テ其ノ受命線路ニ於ケル郵便物ヲ無賃ニテ遞送スヘシ郵便物ノ取扱手續及郵便物ノ受授ヲ爲スヘキ港名ハ樺太廳長官別ニ之ヲ定ム

前項ニ於テ郵便物ト稱スルハ郵便法、郵便ニ關スル條約其ノ他將來公布ニ係ル法律、命令又ハ條約ニ依リ郵便物トシテ取扱フモノ及其ノ運搬ニ要スル諸器具ヲ謂フ

第十三條　郵便物ノ遞送及第十二條ノ規定ニ依ル各港ニ於テ郵便物ノ船積、陸揚ニ要スル費用ハ受命者ノ負擔トス

第十四條　郵便物ハ盜難、遺氣、火災其ノ他損害ノ虞ナキ安全ナル場所ニ保管スヘシ

受命者ハ樺太廳長官ノ指定シタル使用船舶ニ旅客ノ最モ認メ易ク且安全ナル場所ヲ擇ヒ郵便函ヲ堅固ニ取付ケルヘシ

前項ノ郵便函ノ設置及修繕ニ要スル費用ハ受命者ノ負擔トス

第十五條　遞送ヲ爲スヘキ郵便物及前條ニ規定スル郵便函ニ投入ノ郵便物ハ當該船舶ノ船長、一等運轉士又ハ事務長之カ取扱ヲ爲スヘシ郵便函ノ開閉ニ付テモ亦同シ

第十六條　受命者ハ郵便物遞送中ナルト船積又ハ陸揚中ナルトヲ問ハス之ヲ紛失又ハ毀損セシメタルトキハ天災其ノ他ノ已ムヲ得サル事由ニ因ル場合ヲ除クノ外損害賠償ノ責ニ任スヘシ

船舶ノ遭難其ノ他ノ事由ニ因リ所定ノ船舶ヲ以テ郵便物ヲ遞送スルコト能ハサルトキハ受命者ハ自己ノ負擔ヲ以テ適當ノ方法ニ依リ之ヲ遞

送スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ其ノ遷送ノ方法ヲ速ニ樺太廳長官ニ報告スヘシ

第十七條　受命者郵便物遷送ノ命令ニ違反シタル爲樺太廳長官ニ於テ他ノ船舶ヲ以テ該郵便物ヲ遷送セシメタルニ因リ生シタル費用及損害ハ受命者之ヲ辨償スヘシ

第十八條　郵便物ノ遷送ニ使用スル船舶ニシテ第十二條ニ依ル指定港ニ出入スルトキハ郵便旗章ヲ揭揚スヘシ

第十九條　樺太廳警察官吏（警部以下）樺太沿岸ヲ公務旅行ノ爲乘船スルトキハ食料ノ外無賃トスヘシ

水產物檢查員樺太沿岸ヲ公務旅行ノ爲乘船スルトキハ其ノ乘船賃ハ定額ノ半減トスヘシ

第二十條　受命者ニ於テ使用船舶ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由及第一號樣式ニ依ル代船ノ件名書ヲ具シ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條　樺太廳長官ハ隨時所屬職員ヲ派遣シテ船舶ヲ檢查セシメ必要ト認ムルトキハ其ノ修繕又ハ變更ヲ命スルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ期間內ニ完全ニ之ヲ修理シ又ハ樺太廳長官ノ承認ヲ經タル船舶ヲ以テ之ヲ補充スヘシ

第二十二條　受命者ハ樺太廳長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ航海期間中其ノ船舶ヲ他人ニ讓渡シ又ハ貸渡スルコトヲ得ス

受命者ハ樺太廳長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ補助航海命令書ニ於テ定メラレタル義務ノ下請負ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第二十三條　受命者ハ左記事項ヲ船舶內旅客ノ認メ易キ場所ニ揭示スヘシ

一　船舶發著日時表及旅客貨物運賃表

二　申告簿保管者ノ氏名及旅客ノ請求ニ應シ之ヲ提出スヘキ旨ノ記載事項

前項第二號ノ申告簿ハ受命者ニ於テ之ヲ設ケ航海終了後樺太廳長官ニ提出シ其ノ檢閱ヲ受クヘシ

第二十四條　樺太廳長官ハ隨時所屬職員ヲ派遣シテ業務ノ實況ヲ視察セシムルコトアルヘシ

受命者及當該船舶ノ船長ハ前項官吏ノ質問ニ應シ業務上一切ノ事項ヲ開陳シ帳簿ヲ檢閱ニ供スヘシ

第一項ニ於テ規定スル職員ハ無賃ヲ以テ乘船セシメ內國旅費規則及樺太廳職員內國旅費規則ニ依リ規定スル等級ノ待遇ヲ爲スヘシ

第二十五條　樺太廳長官ハ補助航海ニ於ケル業務ノ實況ニ依リ必要ト認ムルトキハ其ノ事由ヲ示シ補助金額ヲ改訂シ又ハ補助航海命令書ニ定ムル義務ヲ加重スルコトアルヘシ

第二十六條　受命者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ一航海ニ對スル補助金額ノ百分ノ十以內ノ違約金ヲ徵收スルコトアルヘシ

一　認可ヲ受ケスシテ所定ノ航海ヲ闕キ若ハ寄港地ニ寄港セサルトキ

二　認可ヲ受ケスシテ使用船舶ヲ變更シタルトキ

三　第二十二條ノ規定ニ違反シタルトキ

四　郵便物ノ遷送ニ關スル命令ニ違反シタルトキ

第二十七條　受命者船舶發著日時表及旅客貨物ノ運賃表ヲ所定ノ場所ニ揭示セス又ハ其ノ定額ヲ超過セル運賃ヲ請求シタルトキハ金三百圓以下ノ違約金ヲ徵收スルコトアルヘシ

第二十八條　受命者正當ノ事由ナクシテ航海ヲ遲延シタルトキハ遲延日數一日ニ付其ノ航海ニ對スル補助金額ノ百分ノ一以內ノ違約金ヲ徵收スルコトアルヘシ

第二十九條　受命者ニ於テ本令及補助航海命令書ニ定ムル義務ヲ怠リ又ハ其ノ義務ヲ履行スルニ不適當ナリト認ムヘキ事實アリタルトキハ樺太廳長官ハ補助航海命令ヲ取消スコトアルヘシ

第三十條　違約金又ハ辨償金ハ受命者ニ交付スヘキ航海補助金ト相殺シ其ノ交付スヘキ補助金ナキカ又ハ不足ナルトキハ受命者ヨリ之ヲ追徵ス

第三十一條　受命者ハ一航海終了每ニ其ノ各寄港地ニ於テ積込又ハ陸揚シタル貨物ノ數量（箇數及噸數）及旅客ノ員數（各等級別）竝航海日誌ノ要領、海水ノ溫度、潮流ノ方向及流氷ノ狀況等ヲ具シ郵便局ノ發著證明書ヲ添附シ航海實蹟報告書ヲ樺太廳長官ニ提出スヘシ

第三十二條　受命者ハ受命航路ニ於ケル夏期、冬期各航海終了後直ニ第三號樣式ノ收支計算書ヲ調製シ樺太廳長官ニ提出スヘシ

第三十三條　受命者ニシテ受命期間中住所、氏名及第二條第三項ニ規定スル事項ニ變更アリタルトキハ其ノ旨遲滯ナク樺太廳長官ニ屆出ッヘシ

第三十四條　冬期海陸聯絡ノ爲碎氷事業ニ從事スル者ニ對スル補助金ノ交付ニ付テハ第二十條、第二十一條、第二十二條、第二十五條、第二十六條、第二十九條及第三十條ノ規定ヲ準用ス

附　則

第三十五條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十九類　交通　第三章　港灣　船舶

第三十六條　第二條ニ定ムル願書提出期限ハ昭和八年度ニ限リ二月十日迄トス

第三十七條　本令施行ノ際現ニ補助ヲ受クルモノニ在リテハ其ノ補助期間滿了前ニ於テハ本令ニ依ルノ限ニ在ラス

第一號樣式

使用（又ハ代船）船舶件名書

一　船名

二　總噸數

三　速力

四　船體ノ構造及船內裝置ノ概要

五　機關ノ種類

六　製造所名

七　進水年月日

八　船籍及所有者氏名

右之通ニ候也

年　月　日

氏名　印

第二號樣式

何線營業目論見書

一　起點、終點及寄港地ニ於ケル海陸聯絡設備

イ　何　地

ロ　何岸壁ニ繫著又ハ回漕業者何某ト艀聯絡上ノ契約ヲ爲ス等

二　旅客貨物運搬見込（一航海分及一箇年分）

イ　旅客員數

一等客　何人

二等客　何人

三等客　何人

ロ　貨物員數

何　品　何箇又ハ何噸

三　收支豫算（一航海分及一箇年分）

イ　收　入

運　賃

旅客運賃

貨物運賃

其ノ他（何々ト詳記ノコト）

ロ　支　出

旅客、貨物取扱費

船　費

其ノ他（何々ト詳記ノコト）

差引損益

四　營業事務所所在地及主タル事務員ノ氏名

イ　本　店

ロ　支　店

ハ　出張所

ニ　代理店

右之通ニ候也

年　月　日　　氏　名　印

第三號樣式

自年月日
至年月日何線收支計算書

收　入

運　賃

旅客運賃

貨物運賃

其ノ他

支　出

貨物費

貨物取扱費

貨物辨償金

運賃割戻金

旅客費

旅客取扱費

運賃割戻金

船　費

〔樣法〕

船員給料及手當金

船員其ノ他ノ賄費

燃　料　費

需用品費

艤裝品費

稅金及港費

修　繕　費

保　險　料

其　ノ　他

店　費

海陸施設費

收支差引損益

諸積立金

收支再差引損益

政府補助金

差引純損益

右之通ニ候也

年　月　日　　氏　名　印

〔樣法〕

第四章　航空

●航空法

大正十年四月九日
法律第五十四號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル航空法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總、海、大、陸、內、遞、大臣副署）

航空法

第一章　總則

第一條　本法ニ於テ航空機トハ人ノ搭乘シ得ル氣球、凧、航空船及飛行機ヲ謂フ

本法ニ於テ航空トハ陸上又ハ水上ノ滑走ヲ、離陸又ハ着陸トハ離水又ハ着水ヲ包含ス

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ所有スル航空機ハ之ヲ日本航空機トス

一　日本國又ハ日本ノ公共團體

二　日本臣民

三　日本法令ニ依リ設立シタル會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民タルモノ

四　前後ニ揭ケル法人以外ノ法人ニシテ日本法令ニ依リ設立シ其ノ代表者ノ全員カ日本臣民タルモノ

第三條　本法ハ本章及第四十一條乃至第四十三條ノ規定ヲ除クノ外軍用航空機ニ之ヲ適用セス

國ノ使用ニ供スル航空機ニ付テハ第二十一條、第二十八條乃至第三十條、第三十三條、第三十四條及第四十條ノ規定ニ關シ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第四條　航空ニ關シ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第二章　航空機ノ檢査及登錄

第五條　航空機ヲ製造スル者ハ其ノ設計、材料、部分品、技功及製品ニ付行政官廳ノ檢査ヲ受クヘシ

堪航證明書ナキ航空機ノ所有者ハ其ノ航空機ニ付行政官廳ノ檢査ヲ受クヘシ

前二項ノ檢査ニ合格シタル航空機ニ對シテハ堪航證明書ヲ交付ス

第一項及第二項ノ規定ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル航空機ニ之ヲ適用セス

第六條　堪航證明書ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ

一　堪航證明書ニ記載シタル有效期間ヲ經過シタルトキ

二　第十四條第一項ノ規定ニ依リ航空機ノ使用ノ禁止ヲ命シタルトキ

前項第一號ノ有效期間ハ前條ノ檢査ニ合格シタル日ヨリ起算シ六月以內ニ於テ行政官廳之ヲ定ムル有效期間ハ第十一條ノ檢査ノ結果ニ依リ檢査ノ日ヨリ起算シ六月以內ニ於テ行政官廳之ヲ延長スルコトヲ得

第七條　第五條ノ檢査ニ合格シタル航空機ノ所有者ハ行政官廳ニ其ノ航空機ノ登錄ヲ申請スルコトヲ得

航空機ノ登錄事項ハ航空機ノ所有者ノ氏名名稱、登錄記號其ノ他命令

【轉法】

ヲ以テ定ムル事項トス

登錄シタル事項ニ變更アリタルトキハ航空機ノ所有者ハ其ノ日ヨリ起算シ十四日以內ニ行政官廳ニ變更ノ登錄ヲ申請スヘシ

登錄シタル航空機ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ航空機ノ所有者ノ氏名名稱、登錄記號其ノ他ノ登錄事項ヲ記載シタル登錄證明書ヲ交付ス

第八條　航空機カ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ際ノ航空機ノ所有者ハ其ノ日ヨリ起算シ十四日以內ニ行政官廳ニ堪航證明書ヲ返付スヘシ

一　滅失又ハ破壞シタルトキ

二　解撤セラレタルトキ

三　其ノ堪航證明書カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ

登錄シタル航空機カ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ際ノ航空機ノ所有者ハ其ノ日ヨリ起算シ十四日以內ニ行政官廳ニ登錄證明書ヲ返付スヘシ

一　滅失又ハ破壞シタルトキ

二　解撤セラレタルトキ

三　日本國籍ヲ喪失シタルトキ

四　其ノ堪航證明書カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ同時ニ抹消登錄ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ抹消登錄ノ申請ナキトキ又ハ第二項第四號ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ職權ヲ以テ抹消ノ登錄ヲ爲スコトヲ得

第九條　登錄シタル航空機ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ國籍記號、登錄記號竝所有者ノ氏名名稱及住所ヲ表示スヘシ

第十條　航空機ハ前條ノ規定ニ依ル表示ヲ爲シ且堪航證明書及登錄證明書ヲ備附クルニ非サレハ之ヲ航空ノ用ニ供スルコトヲ得ス

第十一條　行政官廳ハ定期又ハ臨時ニ航空機ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

第十二條　第五條第一項第二項及第十條ノ規定ハ航空機ノ試驗ノ爲飛行場又ハ命令ヲ以テ定ムル場所ニ於テ航空スル航空機ニ關シテハ之ヲ適用セス

第十三條　第五條、第七條、第八條及第十一條ニ規定スルモノノ外航空機ノ檢査又ハ登錄ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　行政官廳ハ第十一條ノ檢査ノ結果ニ基キ其ノ他航空機ノ現狀ニ因リ必要アルトキハ航空機ノ使用ノ制限、停止又ハ禁止ヲ命スルコトヲ得

行政官廳ハ前項ノ規定ニ依リ制限ヲ命シタルトキハ堪航證明書ニ制限事項ヲ附記シ停止ヲ命シタルトキハ停止中堪航證明書ヲ領置ス

第三章　乘員

第十五條　航空機ノ乘員ニ非サレハ航空機ニ搭乘シテ其ノ運航ニ從事スルコトヲ得ス

乘員ハ技倆證明書及航空免狀ヲ有スルコトヲ要ス

第十六條　技倆證明書ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ行フ考查ニ合格シタル者ニ之ヲ交付ス技倆證明書ヲ有スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ航空免狀ノ交付ヲ受クルコトヲ得

第十七條　乘員ハ技倆證明書及航空免狀ヲ携帶スルニ非サレハ運航ニ從事スルコトヲ得ス

第十八條　行政官廳ハ乘員ニ對シ定期又ハ臨時ニ檢査ヲ爲スコトヲ得

第十九條　第十五條第一項ノ規定ハ飛行場又ハ命令ヲ以テ定ムル場所ニ於テ航空機ニ搭乘シテ運航練習ヲ爲ス者及運航練習ノ爲乘員ト同乘シ共同シテ運航ニ從事スル者ニ之ヲ適用セス

第二十條　行政官廳ハ乘員引續キ六月以上運航ニ從事セサルトキ、第十八條ノ檢査ノ結果ニ基キ必要アルトキ又ハ保安上必要アルトキハ就業ノ制限、停止又ハ禁止ヲ命スルコトヲ得

行政官廳ハ前項ノ規定ニ依リ制限ヲ命シタルトキハ航空免狀ニ制限事項ヲ附記シ停止ヲ命シタルトキハ停止中航空免狀ヲ領置ス

第一項ノ規定ニ依リ禁止ヲ命セラレタル乘員ハ其ノ日ヨリ起算シ十四日以內ニ行政官廳ニ航空免狀ヲ返付スヘシ

第四章　飛行場及其ノ經營者

第二十一條　飛行場ヲ設置セムトスル者、其ノ區域ヲ變更セムトスル者又ハ公共ノ用ニ供スル飛行場ヲ廢止セムトスル者ハ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ公共ノ用ニ供スル飛行場ヲ公共ノ用ニ供セサル飛行場ニ變更シ又ハ公共ノ用ニ供セサル飛行場ヲ公共ノ用ニ供スル飛行場ニ變更セムトスル者亦同シ

第二十二條　公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ航空ニ必要ナル設備ヲ爲スヘシ

第二十三條　公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ飛行場ヲ他ノ目的ニ使用シ又ハ使用セシムルコトヲ得ス

第二十四條　行政官廳ハ飛行場ノ境界ヨリ外方五百「メートル」ノ區域內ニ於テ航空ノ障礙ト爲ルヘキモノアルトキハ飛行場ノ經營者ニ對シ必要ナル航空標識ノ設置ヲ命スルコトヲ得

飛行場ノ經營者ハ前項ノ航空標識ノ設置又ハ維持ノ爲必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ日出後日沒前ニ限リ他人ノ土地ニ立入リ若ハ障礙ト爲ルヘキ物件ヲ除去シ又ハ必要ナル土地若ハ物件ヲ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ經營者ハ豫メ其ノ土地又ハ物件ノ占有者ニ其ノ旨通知スヘシ

飛行場ノ經營者ハ第一項ノ航空標識ノ維持ノ爲緊急ノ必要アルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス他人ノ土地ニ立入リ若ハ障礙ト爲ルヘキ物件ヲ除去シ又ハ必要ナル土地若ハ物件ヲ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ經營者ハ遲滯ナク其ノ旨行政官廳ニ屆出テ且其ノ土地又ハ物件ノ占有者ニ通知スヘシ

第二十五條　前條ノ規定ニ依ル立入、除去又ハ使用ニ因リ生シタル損害ハ飛行場ノ經營者之ヲ補償スヘシ

前項ノ規定ニ依ル補償ノ金額ニ關シ協議調ハサルトキハ行政官廳ノ決定ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ決定ニ不服アル者ハ其ノ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三月以內ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十六條　第二十四條第二項第三項及前條ノ規定ハ許可又ハ屆出ニ關スル規定ヲ除クノ外軍用ニ供スル飛行場ノ境界ヨリ外方五百「メートル」ノ區域內ニ於テ航空ノ障礙ト爲ルヘキモノアルトキ必要ナル航空標識ヲ設置又ハ維持スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條　公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ハ他人ノ運航スル航空船

〔譯法〕

又ハ飛行機ニ對シ其ノ飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸スルコトヲ拒ムコトヲ得ス但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ經營者其ノ飛行場ノ使用ニ對シ使用料ヲ請求セムトスルトキハ豫メ其ノ額ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十八條　公共ノ用ニ供セサル飛行場ノ經營者ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他人ノ運航スル他人ニ屬スル航空機ヲシテ其ノ飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸セシムルコトヲ得ス

第五章　航空及運送

第二十九條　航空船及飛行機ハ陸上ニ在リテハ飛行場ニ非サル場所、水上ニ在リテハ命令ヲ以テ禁止スル場所ニ於テ離陸又ハ著陸スルコトヲ得ス但シ故障若ハ避難ノ爲其ノ他已ムコトヲ得サル事由アルトキ又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十條　故ナク皇居、禁苑、離宮、行在所若ハ神宮ノ上空ニ於テ又ハ皇陵ノ上空千「メートル」以下ニ於テ航空機ノ運航ヲ爲スコトヲ得ス

前項ニ揭クル場所ノ外航空ニ關スル制限又ハ禁止ヲ必要トスル場所ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條　戰時又ハ事變ニ際シ必要アルトキハ行政官廳ハ航空機ノ航空ヲ禁止スルコトヲ得

第三十二條　日本航空機ニ非サル航空機ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ航空ノ用ニ供スルコトヲ得ス

第三十三條　日本國外ヨリ發航シテ日本國內ニ至リ若ハ日本國內ヨリ發航シテ日本國外ニ至ル航空機又ハ日本國外ヨリ發航シ著陸スルコトナクシテ日本國ヲ通過シ日本國外ニ至ル航空機ハ行政官廳ノ指定スル航空路ニ由リ航空スヘシ

第三十四條　日本國外ヨリ發航シテ日本國內ニ至リ又ハ日本國內ヨリ發航シテ日本國外ニ至ル航空機ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外行政官廳ノ指定スル飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸スヘシ

第三十五條　日本航空機ニ非サル航空機ニ依リ有償ニテ日本各地ノ間ニ於テ旅客又ハ貨物ノ運送ヲ爲スコトヲ得ス但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條　行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ日本航空機ニ依リ運送業ヲ營ムコトヲ得ス

第六章　雜則

第三十七條　航空標識ノ用地又ハ公共ノ用ニ供スル飛行場ノ用地トスル爲必要ナル土地及水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ハ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ニ關シテハ土地收用法ヲ適用ス

第三十八條　公共ノ用ニ供スル飛行場ノ用地ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ因リ其ノ地租ヲ免除ス但シ一時ノ使用ニ供スルモノ又ハ有料借地ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條　關稅法中船舶、船長、船用品及海路運送竝之ニ關スル犯則事件ノ調査、處分及處罰ニ付テノ規定ハ航空機、航空機ノ長、航空機ノ機用品及航空機ニ依ル外國貨物ノ運送竝之ニ關スル犯則事件ノ調査、處分及處罰ニ付之ヲ準用ス但シ關稅法中開港トアルハ第三十四條ノ飛行場トス

第四十條　第三十三條ノ航空機カ故障又ハ避難ノ爲其ノ他已ムコトヲ得

〔譯法〕

サル事由ニ因リ第三十四條ニ規定スル著陸ノ場所以外ニ著陸シタルトキハ稅關官吏其ノ地ニ在ル場合ニ於テハ稅關官吏ニ、稅關官吏其ノ地ニ在ラサル場合ニ於テハ警察官吏ニ遲滯ナク屆出ツヘシ

前項ニ規定スル航空機ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ離陸スルコトヲ得ス

第四十一條　日本國外ヨリ發航シテ日本國內ニ至ル航空機ニ關シテハ傳染病豫防ノ爲檢疫ヲ施行ス

前項ノ檢疫ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十二條　前條ノ規定ハ內地、朝鮮、臺灣相互間ニ付之ヲ準用ス

前項ノ內地ニハ樺太ヲ包含ス

第四十三條　航空機ノ救難及之ニ關スル處罰ニ付テハ水難救護法ヲ準用ス

第四十四條　左ノ事項ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

一　航空機ニ備附クヘキ日誌其ノ他ノ帳簿書類及附屬品其ノ他ノ物件ニ關スル事項

二　保安上又ハ軍事上ノ必要ノ爲航空機ニ搭載スルコトヲ制限又ハ禁止スル火藥類、寫眞機其ノ他ノ物件ニ關スル事項

三　航空機ニ關スル燈火及信號ニ關スル事項

四　航空ニ關スル保安上必要ナル制限及航空機ト航空機又ハ船舶トノ衝突豫防ニ關スル事項

五　航空標識及其ノ設置ニ關スル事項

六　飛行場ノ設備ニ關スル事項

第四十五條　當該官吏ハ其ノ職權ノ執行ニ必要ナリト認ムルトキハ航空機、飛行場又ハ格納庫ニ臨檢シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ備附ヲ要スル帳簿書類及物件ニ關シ檢查ヲ爲スコトヲ得

第四十七條　朝鮮及臺灣ニ於テハ第三十七條第二項、第三十八條及第四十三條ノ規定ニ關シ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七章　罰則

第四十八條　航空標識ヲ損壞シタル者又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ無效タラシメタル者ハ、三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十九條　詐僞ノ信號ヲ爲シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ航空ノ危險ヲ生セシメタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第五十條　現ニ航空ノ用ニ供スル航空機ヲ墜落、顚覆若ハ覆沒セシメ又ハ破壞シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

前條ノ罪ヲ犯シ因テ現ニ航空ノ用ニ供スル航空機ノ墜落、顚覆、覆沒又ハ破壞ヲ致シタル者亦前項ノ例ニ同シ

第五十一條　前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第五十二條　過失ニ因リ航空ノ危險ヲ生セシメ又ハ現ニ航空ノ用ニ供スル航空機ノ墜落、顚覆、覆沒又ハ破壞ヲ致シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

其ノ業務ニ從事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條　詐術ヲ用ヒ第五條若ハ第十一條ノ檢查ヲ受ケ又ハ不實ノ事

項ヲ登錄セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條　第四十九條、第五十條第一項及前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス。

第五十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第五條又ハ第十一條ノ檢查ニ合格セサル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者又ハ第三十二條ノ規定ニ違反シタル者

二　第十四條第一項ノ規定ニ依リ行政官廳ノ爲シタル命令ニ違反シタル者

三　第九條ノ規定ニ違反シテ國籍記號若ハ登錄記號ヲ表示セサル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者又ハ虛僞ノ國籍記號若ハ登錄記號ヲ表示シタル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者

第五十六條　第十五條第一項ノ規定ニ違反シタル者又ハ第二十條第一項ノ規定ニ依リ爲シタル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十七條　第三十條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第三十條第二項ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止ニ違反シタル者、第三十一條ノ規定ニ依ル禁止ニ違反シタル者又ハ第三十三條ノ規定ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十八條　第二十九條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第四十五條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ命令ニ違反シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第二十四條第一項ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者

二　故ナク當該官吏ノ臨檢若ハ檢查ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者

第六十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第九條ノ規定ニ違反シテ航空機所有者ノ氏名名稱若ハ住所ヲ表示セサル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者又ハ虛僞ノ氏名名稱若ハ住所ヲ表示シタル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者

二　第十條ノ規定ニ違反シテ堪航證明書又ハ登錄證明書ヲ備附ケサル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者

三　第十七條ノ規定ニ違反シタル者

第六十一條　第二十一條、第二十二條、第二十七條第一項、第二十八條、第三十四條乃至第三十六條又ハ第四十條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第二十三條ノ規定ニ違反シタル者

二　第二十七條第二項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケスシテ使用料ノ請求ヲ爲シタル者

第六十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ過料ニ處ス

一　第五條第一項又ハ第二項ノ規定ニ違反シタル者

二　第七條第三項又ハ第八條第三項ノ規定ニ依ル登錄ノ申請ヲ怠リタル者

三　第八條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル堪航證明書又ハ登錄證明書

ノ返付ヲ怠リタル者

四　第二十條第三項ノ規定ニ依ル航空発航ノ返付ヲ怠リタル者

五　第四十條第一項ノ規定ニ依ル国出ヲ怠リタル者

前項ニ規定スル過料ハ法人ニ在リテハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ之ヲ適用ス

第六十四條　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ノ過料ニ付之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム　（昭和二年五月勅令第百四號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行）

第二十類　通信　電氣　瓦斯

第二十類　通信　電氣　瓦斯

第一章　通信

一節　通則

○明治四十年勅令第六十四號ノ施行ニ關スル件〔明四〇、廳令二八〕……一
○月掛貯金ヲ當分ノ內樺太ニ施行セサルノ件〔昭三、廳令三〕……一
○通信業務ノ執行ニ關スル諸規則及其ノ令達ニ關スル件〔明四〇、遞信大臣訓令通一三〇一〕……一
○郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信電話ノ事務ニ關シテハ遞信省ノ規程令達通牒ニ準據スルノ件〔明四〇、廳訓六三〕……一
○樺太廳郵便局所事務取扱時間〔大一二、告示一五〕……二
○郵便局ニ於ケル電報ノ時間外取扱ニ關スル件〔昭四、告示二〇一〕……三
○電信取扱所ニ於ケル電報配達及電報ノ時間外取扱ニ關スル件〔昭四、告示二〇〇〕……三
○通常郵便物市內特別取扱規則ニ依ル差出郵便局〔昭四、告示一六六〕……三
○監視施行細則〔昭二、訓令四六〇〕……四
○通信區內巡視規程〔昭四、訓令五九〕……九
○郵便局沿革誌記備規程〔昭四、訓令五七〕……一一
○特定郵便局々務原簿設備規程〔昭四、訓令五八〕……一七
○局勢一覽表設備規程〔昭三、訓令三五〇〕……二五
○地況調査規程〔昭四、訓令四三〕……三一
○特定局業務研究會規程〔昭四、訓令五五〕……三三
○郵便電信電話等ニ關スル料金徵收囑託ニ關スル件〔大五、勅二〇〇〕……三四
○大正五年八月勅令第二百號郵便電信電話等ニ關スル料金ノ徵收囑託ノ件〔大六、內務省地方局長通牒〕……三五
○郵便電信電話料金滯納者財產差押官吏證票ノ件〔明四一、廳令一〕……三五
○樺太廳遞信公報規程〔大一〇、廳訓六八〕……三六
○通信統計報告規程〔大二、訓令八九〕……三七

二節　郵便

○郵便法〔明三三、法五四〕……四八
○鐵道船舶郵便法〔明三三、法五六〕……五二
○郵便規則（抄錄）〔明三三、遞令四二〕……五四
○航空郵便規則、日滿郵便規則ニ依ル航空郵便物及外國郵便規則ニ依リ本邦ノ航空郵便線路ニテ遞送スル航空郵便物取扱ノ件〔昭四、訓令五九七〕……五五
○樺太航海補助規程第十二條ニ依ル船舶遞送郵便物取扱手續〔昭八、告示五七〕……五五

○郵便行嚢整理規程〔大一五、訓令一三一〕……六二
○不能還付郵便物處理手續〔大一〇、鐵訓六六〕……六七
○郵便物ノ配達ニ關スル件〔明四〇、鐵令三〇〕……六八
○遞送人衆掌集配規程〔昭三、訓令三四九〕……六九
○遞送集配受眞規程〔昭四、告示一三四〕……七〇
○駐在集配郵便物受授及保管手續〔昭三、訓令三二八〕……七二
○郵便私書函設備並貸與手續〔昭三、訓令六六〕……七八
○郵便私書函使用料ノ件〔明四三、鐵令二八〕……八〇
○樺太ニ於テハ別使配達經船配達ヲ爲サザル件〔明四三、遞告一一六九〕……八一
○內地ヨリ朝鮮及樺太ニ宛テタル郵便物ノ配達及集金郵便ニ依ル現金取立ニ關スル取扱方〔明四四、遞告一一八八〕……八一
○郵便集配度數及時刻規定ノ件〔明四二、訓一四六〕……八一
○速達郵便物ヲ取扱ハサルノ件〔昭四、鐵令四四〕……八一
○特殊通信日附印使用〔昭七、告示一四九〕……八一
○郵便函、郵便切手類及收入印紙賣捌所配置手續〔大一五、訓二八〇〕……八三
○郵便切手類及收入印紙買受代金取扱ノ件〔大二、鐵令四四〕……八六
○郵便切手及收入印紙類ノ配給局及配給區域ニ關スル件〔大五、鐵訓一六〕……八六
○郵便切手及收入印紙類ノ賣捌方ニ關スル件〔大五、鐵令一九〕……八六
○郵便切手類及收入印紙類買受郵便局指定ニ關スル件〔大一二、鐵令九〕……八六
○僞造變造ノ郵便切手類官沒處分ノ件〔大五、鐵令二四〕……八七
○僞造變造ノ郵便切手類官沒處分規程〔大五、鐵令二八〕……八七
○繪葉書發賣ニ關スル件〔大四、鐵令二九〕……八七
○樺太廳發行ノ郵便繪葉書ノ件〔大一二、鐵令一〇〕……八八
○年賀郵便物引受期間〔昭六、鐵令四五〕……八八
○年末年首普通通常郵便物取扱規程〔昭六、訓令二七四〕……八八
○「クリスマス」及新年祝賀特別外國電報ノ郵便送達ヲ爲ス電信官署名及其ノ受持區域〔昭八、告二四九〕……九四
○郵便取扱規程附錄第二十三號ノ件〔昭六、訓令一九五〕……九四

第三節　郵便爲替　郵便貯金

○郵便爲替法〔明三三、法五五〕……九七
○郵便貯金法〔明三八、法二三〕……九八
○內地、臺灣、朝鮮、樺太、南洋群島、滿洲ニ在ル郵便局所ト各其ノ次外ニ在ル郵便局所トノ間ニ取組ム電信爲替料金〔大三、遞令五五〕……一〇〇
○簡易生命保險及郵便年金事務郵便振替貯金特別取扱規則〔昭三、鐵令三六〕……一〇〇
○簡易生命保險及郵便年金事務郵便振替貯金特別取扱規程〔昭三、訓令四八三〕……一〇一

〔樺法〕

第四節　電信　電話

○電信法〔明三三、法五九〕……一〇八
○無線電信法〔大四、法二六〕……一一一
○無線電信法施行ニ關スル件〔大四、鐵令三〇〕……一一五
○無線電信電話事務取扱ニ關スル件〔大四、鐵訓三七〕……一一五
○私設電信私設無線電信公衆通信取扱規則ニ依ル取扱費額ノ件〔大一四、鐵令一四〕……一一五
○私設無線電信規則第二十九條ニ依ル無線電信監視局指定ノ件〔大一〇、告示一五四〕……一一六
○海底電信線保護萬國聯合條約罰則ヲ樺太ニ施行ノ件〔大五、勅一八六〕……一一六
○電信線電話線建設條例ヲ樺太ニ施行スルノ件〔昭六、勅一三一〕……一一六
○電信線電話線建設條例〔明二三、法五八〕……一一六
○電報特別配達規則〔明四二、鐵令三二〕……一一七
○電報特別配達料金徵收ノ件〔明四二、訓二一七〕……一一八
○電信事務ニ關スル簿冊設備規程〔大一五、訓令一二三〕……一一八
○電報直配達區域〔大五、訓令一一九〕……一二七
○電話區電話呼出區域〔昭八、訓一三五〕……一二七
○歐文電報配達特別受持區域〔昭四、訓令五六四〕……一二七
○電報料金後納規則〔大八、鐵令三八〕……一二七
○電報料金後納取扱規程〔大八、鐵訓六六〕……一二九
○後納電報取扱局指定ノ件〔大八、告示一五三〕……一三〇
○氣象局報取扱規程〔昭六、訓令二〇五〕……一三〇
○氣象局報ヲ發受スベキ箇所〔大一五、告示一五〇〕……一三一
○電話至急開通ヲ抽籤ニ附スル場合ノ件〔大一二、鐵令三二〕……一三二
○寄附開通電話加入名義變更等ニ關スル件〔大一五、鐵令一〇〕……一三二
○電話又ハ郵便電信ニ關シ緊急ヲ要スル場合ニ限リ無料通話ノ件〔明四〇、鐵訓一一三〕……一三三
○電話及電話通話ニ關スル料金ノ件〔大八、鐵令一三〕……一三三
○電話使用料等ニ關スル土地種別〔大九、告示七七〕……一三五
○特設電話料金據置ノ件〔大一三、鐵令五〕……一三五
○公衆電話料金取集規程〔大八、鐵訓二〇〕……九類一章二節收入ニ輯ム

第五節　雜則

○特定局長會規程〔昭三、訓令九〕……一三五
○通信手規則〔明四〇、鐵訓三四〕……一三六
○通信工手同見習及通信技工規則〔明四〇、鐵訓三五〕……一四一
○信使規程〔明四三、鐵訓三四〕……一四七
○電話取扱所電話取扱人規程〔昭二、訓令四〇一〕……一四七
○局舍ニ關スル件〔大二、訓令二三七〕……一四九

第二章　電氣　瓦斯

第一節　電氣

○電氣事業取締規則〔大六、勅令二五〕……一五〇
○電氣事業取締規則第二十八條ニ依ル標旗及標燈〔大六、告示一〇一〕……一七四
○電氣測定法ヲ樺太ニ施行スルノ件〔昭六、勅二一四〕……一七四
○電氣測定法〔明四三、法二六〕……一七五
○電氣測定法第十一條ニ依ル電氣單位ノ倍數及分數ノ名稱、不變電流以外ノ場合ニ於ケル電流、電壓及電力ノ計算方法竝同法第一條ニ揭ケタル以外ノ電氣單位ニ關スル件〔昭六、勅令三四〕……一七六
○電氣測定法ニ依ル計算方法及電氣單位〔明四三、遞令一一七〕……一七六
○電氣計器使用規則〔昭二、勅令二二〕……一七七

第二節　瓦斯

○瓦斯事業取締規則〔大八、勅令三〇〕……一七九
○瓦斯事業取締規則施行心得〔大八、訓令四八〕……一八一

第二十類　通信　電氣　瓦斯

第一章　通信

第一節　通則

●明治四十年勅令第六十四號（郵便法、郵便爲替法、郵便貯金法、鐵道船舶郵便法及電信法ヲ樺太ニ施行）ノ施行ニ關スル件

明治四十年四月一日
勅令第二十八號

明治四十年勅令第六十四號施行ニ關シテハ特ニ規定スルモノノ外遞信省令及告示ニ依ル

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ施行ス

●月掛貯金ヲ當分ノ內樺太ニ施行セサルノ件

昭和三年二月一日
勅令第三號

郵便貯金規則中月掛貯金ニ關スル制度ハ當分ノ內樺太ニ之ヲ施行セス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●通信業務ノ執行ニ關スル諸規則及其ノ他ノ令達ニ關スル件

明治四十年四月
遞信大臣訓令通第千三百一號

樺太廳

其廳ニ於ケル通信業務ノ執行ニ關シテハ當省ニ於テ現ニ施行シ及將來發布スル諸規則及其他ノ令達ニ準據スヘシ
前項ノ諸規則及其他ノ令達ニシテ特殊ノ事由ニ依リ其廳ニ於テ之ヲ施行セサルトキ又ハ特別ノ規定ヲ設ケタルトキハ直ニ之ヲ報告スヘシ但シ內地ニ關係ヲ有スル事項ニ付テハ豫メ其事由ヲ詳具シ認可ヲ受クヘシ
郵便法及電信法其ノ他通信法規中主務大臣ニ於テ指定シ又ハ命令スヘキ事項ハ其ノ廳ニ於テ處理スヘシ

●郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信電話ノ事務ニ關シテハ遞信省ノ規程令達通牒ニ準據スルノ件

明治四十年四月
勅訓令第六十三號

〔樺太廳郵便電信局〕

郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信電話ノ事務ニ關シテハ特ニ規定スルモ

ノノ外當分ノ内遞信省所定ノ規程令達其ノ他通牒等ニ準據スル義ト心得ヘシ

●樺太廳郵便局所事務取扱時間

大正十二年二月
告示第十五號

改正　大一二年三月告示一八號、一三年八月一二八號、一四年五月六九號、一五年五月八〇號、昭四年二月一四號、八年一二月二三號

樺太廳郵便局所ニ於ケル事務取扱時間ハ特ニ定ムルモノノ外左ノ如シ

一、郵便受付

豐原大泊眞岡泊居各郵便局	午前八時ヨリ午後十時迄	但シ休日及休暇日（十二月二十九日ヨリ三十一日迄ヲ除ク）ハ午後三時迄トス
前記以外ノ郵便局	午前八時ヨリ午後八時迄	但シ休日及休暇日（十二月二十九日ヨリ三十一日迄ヲ除ク）ハ正午迄トス

集配事務ヲ取扱フ郵便局ハ受付時間ニ拘ラス別配達郵便物、引受時刻證明郵便物、約束郵便物及郵便ニ依リ續信又ハ配達スル電報ヲ封入シタル書留郵便物ノ引受ヲ爲ス

二、郵便爲替、郵便貯金其ノ他各種現金受拂

一月一日ヨリ一月三十一日迄	午前十時ヨリ午後二時迄
二月一日ヨリ二月末日迄	午前十時ヨリ午後三時迄
三月一日ヨリ四月三十日迄	午前九時ヨリ午後四時迄
五月一日ヨリ十月三十一日迄	午前八時ヨリ午後四時迄
	但シ土曜日ハ午後三時迄トス
十一月一日ヨリ十二月三十一日迄	午前九時ヨリ午後三時迄
	但シ十二月二十九日ヨリ同三十一日迄ノ期間ハ日曜日又ハ土曜日ト雖午後四時迄トス

但シ大正元年勅令第十九號ニ依ル休日、一月一日、一月二日、始政紀念日及日曜日ハ當該局前ニ取扱ヲ爲スヘキ旨掲示シタル場合ノ外之ヲ取扱ハス

三、電報

郵便集配事務ヲ取扱フ郵便局	毎年三月一日ヨリ十月三十一日迄	午前六時ヨリ午後八時迄
	毎年十一月一日ヨリ翌年二月末日迄	午前七時ヨリ午後八時迄
郵便集配事務ヲ取扱ハサル郵便局	毎年三月一日ヨリ十月三十一日迄	午前七時ヨリ午後八時迄
	毎年十一月一日ヨリ翌年二月末日迄	午前八時ヨリ午後八時迄
電信取扱所		午前八時ヨリ午後八時迄

四、電話通話及呼出

郵便集配事務ヲ取扱フ郵便局	毎年三月一日ヨリ十月三十一日迄	午前六時ヨリ午後八時迄
	毎年十一月一日ヨリ翌年二月末日迄	午前七時ヨリ午後八時迄
郵便集配事務ヲ取扱ハサル郵便局及電話取扱所	毎年三月一日ヨリ十月三十一日迄	午前七時ヨリ午後八時迄
	毎年十一月一日ヨリ翌年二月末日迄	午前八時ヨリ午後八時迄

〔樺法〕

午後八時ヨリ午後十時マテ及午前七時ヨリ事務取扱ヲ開始スル期間ハ午前六時ヨリ午前七時マテ又午前八時ヨリ事務取扱ヲ開始スル期間ハ午前七時ヨリ午前八時マテハ特ニ定ムルモノノ外至急通話又ハ夜間至急通話ニ限リ之ヲ取扱フ

電話加入者相互間通話及公衆電話所ニ於ケル通話ハ前記取扱時間ニ拘ラス何時ニテモ之ヲ取扱フ通話及呼出ノ取扱ニ關シ當該郵便局ノ取扱時間内ト雖關係郵便局ノ取扱時間ニ制限アルトキハ其制限ニ依ル

本告示ハ大正十二年三月一日ヨリ之ヲ施行ス
大正九年一月樺太廳告示第四號ハ之ヲ廢止ス

●郵便局ニ於ケル電報ノ時間外取扱ニ關スル件

昭和四年九月二十六日
告示第二百一號

特ニ指定シタル郵便局ノ内郵便集配事務ヲ取扱ハサル郵便局ニ於テハ別ニ指定スルモノヲ除クノ外電報ノ時間外取扱ハ之ヲ爲サス

●電信取扱所ニ於ケル電報配達及電報ノ時間外取扱ニ關スル件

昭和四年九月二十六日
告示第二百號

電信取扱所ニ於テハ特ニ指定スルモノヲ除クノ外電報配達及電報ノ時間外取扱ヲ爲サス

●通常郵便物市内特別取扱規則ニ依ル差出郵便局

昭和四年八月二十一日
告示第百六十六號

通常郵便物市内特別取扱規則第八條ノ差出郵便局ヲ左ノ通指定シ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

記

豐原郵便局	野田郵便局
大泊郵便局	落合郵便局
眞岡郵便局	知取郵便局
本斗郵便局	惠須取郵便局
泊居郵便局	留多加郵便局
敷香郵便局	
鵜泊郵便局	
大泊楠渓郵便局	

〔樺法〕

●監視施行細則

昭和二年十一月四日
訓令第四百六十號

内務部　郵便局

監視施行細則左ノ通定ム

右訓令ス

監視施行細則

第一條　監視執行ニ關シテハ監視員規程ニ據ルノ外本細則ニ據ルヘシ

第二條　特定郵便局ニ於ケル監視員ノ數ハ一名以上トシ各局適宜之ヲ定ムヘシ但專務者ヲ置カス他ノ吏員ヲシテ之ヲ兼務セシムルコトヲ得

第三條　特定ノ郵便局ニ於テ二局以上合同シ專務監視員ヲ置カムトスルトキハ服務ノ方法及規約ヲ定メ關係局長連署認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

前項ノ專務監視員ヲ廢止シタルトキハ直ニ報告スヘシ

第四條　監視員規程第六條ニ依リ監視員巡回度數及其ノ區域ノ報告ハ附錄第一號樣式ニ據ルヘシ之ヲ變更シタル場合亦同シ

第五條　局舍又ハ附隨舍内適宜ノ箇所ニ監視簿（附錄第二號樣式）ヲ備付クヘシ但之ニ代ルヘキ監督機ヲ設備シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項監視簿ハ特定郵便局ニ在リテハ其ノ設備ヲ省略スルコトヲ得

第六條　郵便電信電話ニ關スル探問回數及通數ハ左記各號ニ依ルヘシ

一、普通通常郵便物ニ對シテハ配達區毎ニ市内一箇月三回二十一通以上市外ハ三箇月三回十五通以上トス

二、普通小包郵便ニ對シテハ配達區毎ニ（通常ト兼行地ヲ含ムヲ以下同シ）市内ハ一箇月三回十二通以上市外ハ同三箇月三回六通以上トス但通常ト兼行地ニ在リテハ其ノ通數ヲ二分ノ一ニ減少スルコトヲ得

三、電報ニ對シテハ直配達區域内ハ一箇月ノ配達回數三百回迄一ヶ月九通以上トシ以上五百回迄毎ニ三通以上ヲ增ス直配達區域外ハ同三十回又ハ其ノ端數毎ニ三ヶ月二通以上トス

四、電話ニ對シテハ電話加入者數六百未滿ハ一箇月ニ加入者數ノ十分ノ一以上加入者數六百ヲ超ユルトキハ一ヶ月ニ同十五分ノ一以上トス

前項ノ場合ニ於テ郵便物數又ハ電報配達回數ガ探問通數ニ達セサルトキハ適宜其ノ通數ヲ定ムヘシ

第七條　前條ノ探問回數及通數ハ之ヲ三分シ其ノ一ヲ實地探問トシ他ノ二ヲ通信探問トスヘシ

第八條　探問數ノ算出ハ郵便配達區及電話加入者數ハ現在數ニ依リ電報ハ前年度ニ於ケル平均配達回數ニ依ルヘシ年度中途ニ電報配達事務開始ノ場合ハ開始後一箇月間ノ回數ニ依ルヘシ但開始後一箇月間ハ適宜探問ヲ爲スヘシ

第九條　探問ハ一方ニ偏セス區内全般ノ實績ヲ知ルニ努ムルハ勿論ナルモ抜書ハ主トシテ通信手ノ配達上ノ錯誤ヲ釀シ易キカ又ハ配達ヲ嫌厭スルカ如キ場所ニ宛テタルモノヲ擇フヘシ

第十條　實地探問ハ附錄第三號樣式ノ探問紙ヲ使用スヘシ

第十一條　監視員ノ監視事項ニシテ處理ヲ要スルモノ及通信探問紙ノ返送ヲ受ケタルモノニシテ申告事項アルトキハ直ニ其ノ事實ヲ調査ノ上相當處理シ探問紙ハ別ニ之ヲ整理保存スヘシ

〔裏面ニ續ク〕

第十二條　處理濟ノ實地探問紙ハ之ヲ各探問ノ區別毎ニ區分シ一ヶ月分宛取纏メ附錄第四號樣式ノ表紙ヲ附シ整理保存スヘシ

第十三條　監視員服務細則第十九條ニ依ル監視日誌及外勤監視員ノ設備スル帳簿ハ第五號樣式ニ依ルヘシ

第十四條　郵便函ヲ點檢シタルトキハ郵便函點檢證印帳（附錄第六號樣式）ニ其ノ證印ヲ押捺スヘシ

第十五條　取集探問ハ郵便函點檢ノ際取集探問紙（附錄第七號樣式）ニ拔書シ局ノ上引受主任ト協議シ其ノ取集ノ正否ヲ調査スヘシ若局前差立ツルモノナルトキハ當該取集探問紙ヲ所屬局ニ宛テ同一便ノ取集ニ係ル他ノ郵便函ニ投入スヘシ

第十六條　臨時特命事項ノ處理ニハ監視員特命事項用箋（附錄第八號樣式）及監視員特命事項處理簿（附錄第九號樣式）ヲ使用スヘシ

第十七條　本細則ニ依ル帳簿式紙ノ保存期限ハ一年トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附錄第一號

第　號　　年　月　日

何局長

遞信課長宛

〔樣法〕

監視巡回區域及度數報告

巡回區名	郵便區	市内	市外	直配達區内	電話加入區域	備考
	區域	度數	區域	度數	區域	度數	

附錄第二號

監視簿

局長	主事	月日	時刻									
			時	時	時	時	時	時	時	時	時	時

附錄第三號

實地探問紙

區別	市内外　第　區 電報直配達區域内外
郵便物種別	
電報著信月日番號又ハ電話番號	
探問日附印	
監視員印	

受取人宿所氏名又ハ加入者住所氏名	差出人宿所氏名	申告要領

推定配達日時	實際配達日時	交換取扱ノ適否	加入者ノ機械取扱及保守ノ適否
月　日午前後　時　分	月　日午前後　時　分		

受領者又ハ加入者印

【樺法】

附錄第四號

昭和　年　月分

實地探問紙綴

（郵便通常）

（同小包）

（電信電話）

何郵便局

附錄第五號甲

內勤監視日誌

年　月　日　監視員職氏名印

監視事項	記事
風紀衛生	
火防夜警及門衛	

附錄第五號乙

外勤監視簿

監視員職氏名印

監視事項	記事
年月日	午前後　時　分出發　午前後　時　分歸局
傭人ノ勤怠品行及服務方	
傭人溜所	
構内及建物内外ノ巡邏	
窓口及公衆室	
消耗品使用方	
共ノ他雜件	
郵便物、電報、前納通話券及現金取扱上ノ監視並探問	
郵便函保護點檢	
郵便切手類賣捌所郵便集配所	
取集貯金取扱場所	
電話加入者ノ電話機使用方及保護ノ適否	
公衆電話機ノ保護點檢	
傭人ノ服務	

【樺法】

其ノ他雜件	

附錄第六號

郵便函點檢證印票

證印						備考
						監視員印

附錄第七號

取集探問紙

監視員印

取集區名	郵便函位置	郵便物種別	受取人居所氏名	差出人居所氏名	引受主任印

附錄第八號

監視員特命事項用箋

記事					
拔書日時	月　日　午前後　時　分				

局長	主事	任	特命月日	月日	復命月日	月日
件名	關係局名文書番號					
特命事項						
復命事項						

〔樺法〕

附錄第九號

監視員特命事項處理簿

月日	局長	主事	監視員	件名	關係局名文書番號	監視員受領月日	同上受領印	復命月日	主任受領印

〔樺法〕

●通信區內巡視規程

昭和四年三月三十一日
訓令第五十九號

內務部　郵便局（無集配局ヲ除ク）

通信區內巡視規程左ノ通定ム

通信區內巡視規程

第一條　郵便局長ハ本規程ノ定ムル所ニ依リ其ノ通信區內ヲ巡視スヘシ
但シ局長事故アルトキハ其ノ局員ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第二條　巡視ハ年二回トシ一月ヨリ二月及八月ヨリ九月迄ノ間ニ各一回施行スヘシ

第三條　特定郵便局長及其ノ局員ハ本規程ニ依リ巡視スルモ別ニ旅費ヲ支給セス

第四條　巡視ノ際ハ地況及交通ノ狀態ヲ精査シ尙左記事項ヲ調査スヘシ

一、郵便函
　イ、郵便函配置及位置ノ適否
　ロ、郵便函ノ毀損若ハ塗色剝落不體裁ノ有無
二、郵便切手類收入印紙賣捌所
　イ、賣捌所配置及位置ノ適否
　ロ、標札ノ正否並揭出場所ノ適否
　ハ、切手類及收入印紙—準備並保管方ノ適否
三、郵便集配所、通信手駐在所、郵便交換所
　イ、集配所、駐在所及交換所位置ノ適否
　ロ、標札ノ正否並揭出場所ノ適否
　ハ、郵便物ノ受授及保管方ノ適否
四、通信區劃、集配區劃、集配順路、集配度數

イ、通信區劃（市內外區劃電報配達區內外電話普通及特別加入區域呼出地域等ヲ含ム）ハ地況及通信關係等ニ照シ其ノ適否

ロ、集配區劃ハ集配線路ノ一周里程、道路ノ難易、郵便物數等ニ照シ其ノ適否

ハ、集配巡路ハ道路及通信關係等ニ照シ其ノ適否

ニ、集配度數集配時刻及集配方法ハ地況通信力ニ照シ其ノ適否

第五條　巡視ヲ了シタルトキハ十日以內ニ附錄樣式ニ依リ報告スヘシ

第六條　巡視ノ結果指揮又ハ改良ヲ要スト認メタルモノハ別ニ資料ヲ具シ上申スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年七月樺太廳訓令第三十號ハ之ヲ廢止ス

附錄樣式（半紙）

第　號　　年　月　日　　郵便局長

長官宛

通信區內巡視報告

巡視年月日		巡視者官職氏名	
調査事項	記事	處理顚末	
地況及交通狀態			
郵便函配置及位置ノ適否			
郵便函ノ毀損若ハ塗色剝落不體裁ノ有無			
賣捌所配置及位置ノ適否			
同上標札ノ正否竝揭出場所ノ適否			
切手類及收入印紙ノ準備竝保管方ノ適否			
集配所駐在所及交換所位置ノ適否			
同上標札ノ正否竝揭出場所ノ適否			
郵便物ノ受渡及保管方ノ適否			
通信區劃ノ適否			
集配區劃ノ適否			
集配順路ノ適否			
集配度數集配時刻集配方法ノ適否			
其ノ他參考事項			

記入心得

一、記事欄ニハ調查事項ニ對スル要旨ヲ簡明ニ記載スヘシ

二、處理顚末欄ニハ自局限リ處理シタルモノハ其ノ顚末又ハ別途上申ノモノハ其ノ旨簡記スヘシ

〔縮法〕

●郵便局沿革誌設備規程

昭和四年三月三十一日
訓令第五十七號
內務部　郵便局（特定郵便局ヲ除ク）

郵便局沿革誌設備規程左ノ通定ム

郵便局沿革誌設備規程

第一條　郵便局（特定郵便局ヲ除ク）ニ於テ本令ニ依リ沿革誌ヲ設備シ業務ニ關スル既往ノ變遷及現在ノ狀況ヲ明ナラシムヘシ

第二條　沿革誌ニ記載スヘキ事項左ノ如シ

一、目次
二、局ノ沿革
三、局舍
四、取扱事務
五、局長
六、職員
七、定員定率
八、郵便區
九、電信區
一〇、電話區
一一、郵便線路
一二、電信電話回線
一三、郵便函及切手類賣捌人
一四、局所外貯金預入取扱場所
一五、資金過超金受授
一六、區內ノ狀勢
一七、重要記事

第三條　前條記載事項ハ一事項毎ニ別口座ヲ設ケ異動アル毎ニ記入シ得ル樣一枚以上ノ餘白ヲ存シ置クヘシ

第四條　沿革誌ノ用紙ハ美濃判トシ強靭ナルモノヲ選ヒ且強質ナル表紙ヲ附スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條ノ記載事項ハ判明シ得ル限リ既往ニ遡リ調查記載シ止ムヲ得サルモノニ限リ判明セル時期ヲ基トシ記載シ其ノ旨附記スヘシ

〔縮法〕

一、目次

項目	事項	頁數
局ノ沿革		
局舍		

取扱事務		

二、局ノ沿革

年月日	局所名	等級	集配度數	監督廳名	記事
何年何月何日	何々	支局		棒太廳郵便電信局	
何年何月何日	何々	特定局		棒太廳官制改正	
何年何月何日	何々	普通局		棒太廳	

三、局舎

年月日	位置	敷地總坪數	建物			
			構造	建坪	用途	記事
何年何月何日	何々	何坪	西洋形木造二階建	何坪何合	事務室	
〃	何々	何坪	何	々何坪	同	狹隘ノ爲移轉
〃		日本形平家建	何坪	物置	増築	

四、取扱事務

年月日	告示番號	種別	制限	備考
何年何月何日		一郵便		
何年何月何日		五爲替貯金		
何年何月何日		一二三電信	内國和文	何年何月何日内外和歐文取扱開始
何年何月何日		六四電話通話		

五、局長

年月日	位勳官名	等級又ハ俸給	氏名	生年月日	轉免			
					年月日	事由	前任地	前官職	備考
何年何月何日	從七位勳何某	何級俸		何年何月何日	何年何月何日	何局長ニ轉	何々		

六、主事又ハ庶務主任

年月日	位勳官名	等級又ハ俸給	官名氏名	生年月日	轉免			
					年月日	事由	前任地	前官職	備考

一、主事、庶務主任ハ各別口座ヲ設クヘシ

七、定員(定率)

執行年月日	書記			技手	書記補			電話事務員			通信事務員	電話主事補	通信手		信	給	小	備考
	郵便	電信	庶務	電話	郵便	電信	庶務	郵便	電信	庶務			郵便	電信	使	仕	使	

一、定員定率ハ各別口座ヲ設クヘシ

一、通信手欄ニハ取締役人員ヲ「內取締何名」ト再掲スヘシ

八、郵便區

年月日	郵便區		區數及集配度數			市外集配度數增減回地								備考
	市內	市外	市內		市外									
			取集	配達										
何年月日	何町一圓	何郡何村	二區三度	五區三度	一度地三區 二度地二區 三度地一區	何村大字何	何村大字何	二度地	三度地	以下做之		月十五度地	無集配地	集金郵便ヲ爲サザル地	遞送兼掌地		
何年月日	何郡何村ノ內大字何																市外ノ一部ヲ市內ニ組替ヘラル

一、通常小包各別ノ場合ハ小包ハ左側ニ朱書スヘシ

一、集配所アルトキハ備考欄ニ所在地名取扱人名ヲ記入スヘシ

九、電信區

年月日	直配達區內	直配達區外	備考
	何々町(村)字何々	何々町(村)字何々	

一〇、電話區

年月日	普通加入區域	特別加入區域	呼出地域	加入區域外通話區域	備考

一一、郵便線路

年月日	線路名	便種	里程	便數	遞送種別	同時間	同猶豫時間	備考
何年月日	何間通常	往復	二′、二″〇、五‴〇	二	一號人夫 二號駄馬			開始

一、交換所アルトキハ其ノ所在地取扱人ヲ備考欄ニ記入スヘシ

一二、電信電話回線

年月日	電信電話ノ區別	回線名	接續局名	通信方式又ハ回線方式	備考
年月日	電信	何々線	何、何	電話通信	新設
年月日	同	何々線	何、何	音響、單信	

一三、郵便函及印紙切手類賣捌人

區名	函場位置	函ノ種別	證印番號	設置年月日	廢止年月日	賣捌所位置	賣捌人氏名職業	免許證番號	許可年月日	廢止年月日	備考

一、市內市外各別口座ヲ設クヘシ
一、位置欄ハ字名番地迄詳記スヘシ

一四、局所外貯金預入取扱場所

開設年月日	廢止年月日	更員出張所	通信手取集所	摘要

一五、資金過超金受授

異動年月日	資金過超金受授 局名	便種	資金過超金 局名	便種	資金過超金被受授 局名	便種	摘要

一六、區內ノ狀勢

年月日	記事

一七、重要記事

年月日	記事

〔樣法〕

〔樣法〕

●特定郵便局々務原簿設備規程

昭和四年三月三十一日
訓令第五十八號

內務部　特定郵便局

特定郵便局々務原簿設備規程

第一條　特定郵便局々務原簿設備規程ハ附錄樣式ノ局務原簿ヲ設備シ局務ニ關スル既往ノ變遷及現在ノ狀況ヲ明カナラシムヘシ

第二條　局務原簿ニ記載スヘキ事項左ノ如シ但シ自局ニ關係ナキ事項ハ之ヲ省略スヘシ

一、目次
二、局舍及事務
三、局長
四、身元引受人保證人
五、通信雇員
六、傭人
七、駐在官及駐在員
八、郵便區
九、電信區
一〇、電話區
一一、郵便線路
一二、電信電話回線
一三、郵便函及切手類賣捌人
一四、局所外貯金預入取扱場所
一五、資金過超金受授
一六、經費

第三條　前條ノ記載事項ハ一事項毎ニ別口座ヲ設ケ且異動アル毎ニ直ニ記入シ得ル樣一枚以上ノ餘白ヲ存シ置クヘシ

第四條　記載事項ハ事實ノ資料ニ基キ簡明ニ楷書ヲ以テ記載シ其ノ令達通牒等ニ依ルモノハ文書日附番號其ノ他後日參照上必要ナル事項ヲ摘要欄ニ記入スヘシ

第五條　記載事項中改正變更等アリタルモノハ判讀シ得ル程度ニ朱ノ縱線二條ヲ以テ抹消スヘシ

第六條　局務原簿ノ用紙ハ美濃判トシ强靱ナルモノヲ選ヒ且强實ノ表紙ヲ附スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附錄樣式

一、目次

項目	事項	頁數
二	局舍及事務	一
三	局長	五
四	……	八
五	……	一〇

二、局舍及事務

局名	所在地	局舍移轉年月日	異動事由	開廢事務限年月日	摘要
何	何郡何町村何番地	何年何月何日	置局	何年何月何日開始	郵便
々	何郡何町村何番地	何年何月何日	局舍狹隘ノ爲移轉	同	爲替貯金
々	何郡何町村何番地	何年何月何日	電信	同	外國和文及內外歐文取扱ハス
			廢止	同	連ト樺太何
			電話廢止	何年何月何日	

記入心得

一、爲替貯金ノ摘要欄ニハ爲替貯金記號及局番號ヲ記入スルコト

三、局長

異動年月日	位勳	手當等級	原籍族籍	現住所	氏名	生年月日	象職	摘要
何年何月何日	正勳六	七年 七五〇圓	何郡何町村何番地士族	何郡何町村何番地	某	何年何月何日	何郡何町村會議員	局長又ハ家族ノ營業
何年何月何日								局長
何年何月何日		三級						農業
何年何月何日								妻
								賣藥業
								開業
							何郡何町村會議員辭任	昇給

記入心得

一、局長住所ト同一場所ニアラサル所ニテ營業スル場合ハ摘要欄ニ其ノ位置ヲモ記入スルコト

一、他職兼務並營業ニシテ許可ヲ受タルモノハ摘要欄ニ其ノ指令ノ日附及番號ヲ記入スルコト

四、身元引受人及保證人

引受人又ハ保證人ノ別	氏名	生年月日	原籍族籍	現住所	職業	摘要
引受人	某	何年何月何日	何郡何町村何番地士族	何郡何町村何番地	農業	引受人又ハ保證人ヲ定メタル年月日
保證人	某	何年何月何日	何郡何町村何番地士族	何郡何町村何番地	官吏	選定
引受人	某	何年何月何日	何郡何町村何番地士族	何郡何町村何番地	商業	選定
						變更

五、通信屬員

採用年月日	位勳	原族	籍	現住所	職名	氏名	生年月日	資格	退職年月日	摘要
何年何月何日	八	士族	地	何郡何町村何番地	通信事務員	某	何年何月何日	何年何月何日講習生卒業又ハ特別檢定試驗合格等	何年何月何日	家事上ノ都合ニ依リ通信手ヨリ轉

記入心得

一、採用轉免ノ都度記入スルコト

一、臨時雇員ハ記入スルニ及ハス

一、退職ノ場合ハ退職事由ヲ摘要欄ニ詳細記入スルコト

六、傭人

採用年月日	位勳	原族	籍	現住所	職名	氏名	生年月日	退職年月日	摘要

記入心得

一、採用轉免ノ都度記入スルコト

一、臨時通信手ハ記入スルニ及ハス

一、退職ノ場合ハ退職事由ヲ摘要欄ニ詳細記入スルコト

七、駐在官及駐在員

駐在ヲ命セラレタル年月日	擔當區域又ハ受持區域	所屬廳名	官職	氏名	摘要
何年何月何日	自何々至何々	樺太廳	通信工員	某	
何年何月何日	自何々至何々	同	通信工手	某	

八、郵便區

異動年月日	郵便區	區數及集配度數				市外集配度數增減回數				摘要
		市內	市外							
		取集配達	市外							
		二區	五區	一度地	三區	何々字	何村字	何村字	何村字	
何年何月何日	何郡何村何々	三度	三度	二度地	二區	何々及	何々	何々	何村字何々	
	同町村一圓			三度地	一區	何々				

以下做之	二度地	三度地

月十五度地	無集配地	集金郵便ノ遞送兼取立ヲ爲サル地	掌地	摘要

記入心得

一、通常小包各別ノ場合ハ小包ハ左側ニ朱書スルコト

一、集配所アルトキハ摘要欄ニ所在地名取扱人名記入スルコト

九、電信區

異動年月日	直配達區內	直配達區外	摘要
何年何月何日	何村字何々	何村字何々	

一〇、電話區

異動年月日	普通加入區域	特別加入區域	呼出地域	加入區域外通話區域	摘要
何年何月何日	何村字何々	何村字何々	何村字何々	何村字何々	

記入心得

一、特設電話ノ加入區域ハ普通加入區域欄ニ又同區域外加入ハ特別加入區域欄ニ記入スルコト

一一、郵便線路

異動年月日	線路名	便種	里程	便數	遞送種別	同時間	同猶豫時間	摘要
何年何月何日	何々間通常小包	往復	五、三、二〇	一人夫	四、五〇	、一〇	開始（變更）廢止	

〔棒法〕

記入心得

一、交換所アルトキハ其ノ所在地名取扱人名ヲ摘要欄ニ記入スルコト

一二、電信電話回線

異動年月日	電信電話ノ區別	回線名	接續局名	通信方式又ハ回線方式	摘要
何年何月何日	電信	何々線	何局何局何々	電話通信新設	
何年何月何日	電話	何々線	何局何局何々	單獨	
何年何月何日	電信	何々線	何局何局何々	音響單信變更	

〔棒法〕

記入心得

一、電信電話共用線ハ區別欄ニ共用ト附記スルコト

一、接續局名欄ニハ回線ノ上部局ヨリ順次（自局名ヲモ）記入スルコト

一三、郵便函及切手類賣捌人

市内外ノ別	函場位置	函ノ種別	證印番號	設置年月日	廢止年月日	賣捌所位置	賣捌人氏名職業	免許證番號	許可年月日	廢止年月日	摘要

記入心得

一、位置欄ニハ字名番地迄詳細記入スルコト

一、單獨收入印紙賣捌ニ對シテハ摘要欄ニ「印紙」ト朱記スルコト

一四、局所外貯金預入取扱場所

吏員出張			通信手取集	
開設廢止	摘要		開設廢止	摘要
年月日			年月日	

一五、資金過超金受授

異動	資金過超金受授					資金過超金被受授				
年月日	資金種別	局名便	過超金	摘要		資金種別	局名便	過超金	摘要	
何年何月何日	何々	現金遞送便	何々			何々	現金遞送便	何々		
	何々	現金遞送便	何々			何々	現金遞送便	何々		

〔樺法〕

記入心得

一、受授局名欄ニハ自局ノ受授局名ヲ被受授局名欄ニハ自局カ受授局トシテ受授スヘキ局名ヲ記入シ臨時資金交付局ニハ「臨時」ト朱ヲ以テ冒記スルコト

一、便種ノ欄ニハ日本銀行現金遞送銀行爲替銀行並爲替直納直渡便等區別ヲ記入スルコト

一六、經費

異動	事務費							集配費			計	摘要
年月日	事務員給料	雜費	局舍料	吏員通信工手及技工駐在雜費	遞送費			郵便集配費	電報配達費			

〔樺法〕

●局勢一覽表設備規程

昭和三年六月二十日
訓令第三百五十號

改正　昭七年七月訓令一六五號

局勢一覽表設備規程左ノ通定ム

右訓令ス

内務部　郵便局

局勢一覽表設備規程

第一條　各郵便局ハ別表樣式ノ局勢一覽表竝累年比較表ヲ設備スヘシ但シ用紙ハ樺太廳ヨリ之ヲ交付ス

第二條　局勢一覽表ハ毎月十日迄ニ前月中ノ各計數ヲ相當欄ニ記入シ年度末ニ至リ其ノ總數ヲ揭記スヘシ

第三條　累年比較表ハ毎年四月末日迄ニ前年度分ヲ局勢一覽表ニ據リ同表該當事項以外ハ相當調査ノ上揭記スヘシ

第四條　本表ノ記入方竝同表調製上ノ注意事項ニ關シテハ業務概要表記入心得ヲ適用ス

第五條　本表ハ黑色インキヲ用ヒ數字ハ亞剌比亞字體ヲ以テ明瞭ニ記入シ三位毎ニ句點ヲ附スヘシ

第六條　年度內ニ於テ事務ノ開始又ハ廢止セラレタル事項アルトキハ本

表該當欄ニ其ノ開廢ノ前後ニ於ケル差異ヲ生ジタル其ノ要旨ヲ備考欄ニ記載シ置クベシ

第七條　每月ノ取扱數ニ著シキ增減ヲ生ジタル其ノ他局務上特ニ參考ニ資スベキ事項アルトキハ總テ其ノ要旨ヲ備考欄ニ記載シ置クベシ

第八條　局勢一覽表ハ年次ヲ逐ヒ累年比較シ得ル樣常ニ編纂シ局務上ノ參考資料トシテ永久保存スベシ

第九條　本令ニ依ル調表ハ監察員ノ檢查ヲ經タル後遲滯ナク提出シ其ノ謄本ハ局長ニ供スベシ

附　則

本令ハ昭和三年四月分ヨリ之ヲ適用ス

別表樣式

種別 / 月別	通常郵便 引受 總數	通常郵便 引受 總數中 市內	通常郵便 引受 總數中 書留	通常郵便 引受 總數中 價格表記	通常郵便 引受 集金郵便	通常郵便 配達 總數	通常郵便 配達 總數中 市內	通常郵便 配達 總數中 書留	通常郵便 配達 總數中 價格表記	通常郵便 配達 集金郵便	小包郵便 引受 總數	小包郵便 引受 前欄中書留	小包郵便 引受 前欄中價格表記	小包郵便 配達 總數	小包郵便 配達 前欄中書留	小包郵便 配達 前欄中價格表記	電報 內國 發信通數	電報 內國 著信通數	電報 外國 發信通數	電報 外國 著信通數	電報 中繼信通數（外國ハ朱書）
四月																					
五月																					
六月																					
七月																					
八月																					
九月																					
十月																					
十一月																					
十二月																					
一月																					
二月																					
三月																					
總計																					

（裏ニ續ク）

（表ヨリ續ク）

昭和　年度局勢一覽表

種別 / 月別	電話 通話時（呼）數 市內 加入者相互間	電話 通話時（呼）數 市內 非加入者發時數	電話 通話時（呼）數 市外 加入者發時數	電話 通話時（呼）數 市外 非加入者發時數	電話 呼出 請求件數 加入者發	電話 呼出 請求件數 非加入者發	電話 呼出 前納通話券送達數	內國爲替 振出 口數	內國爲替 振出 金額	內國爲替 拂渡 口數	內國爲替 拂渡 金額	外國爲替 振出 口數	外國爲替 振出 金額	外國爲替 拂渡 口數	外國爲替 拂渡 金額	貯金 新入規人預員	貯金 預入 口數	貯金 預入 金額	貯金 拂戻 口數	貯金 拂戻 金額
四月																				
五月																				
六月																				
七月																				
八月																				
九月																				
十月																				
十一月																				
十二月																				
一月																				
二月																				
三月																				
總計																				

種別／月別	證券 新入規人預員	證券 受入 口數	證券 受入 金額	證券 拂出 口數	證券 拂出 金額	振替貯金 新入規人加員	振替貯金 拂込 口數	振替貯金 拂込 金額	振替貯金 拂出 口數	振替貯金 拂出 金額	年金恩給 拂渡 口數	年金恩給 拂渡 金額	歲入歲出金 受入 口數	歲入歲出金 受入 金額	歲入歲出金 拂渡 口數	歲入歲出金 拂渡 金額	保險契約申込 口數	保險契約申込 保險料額	保險契約申込 保險金額
四月																			
五月																			
六月																			
七月																			
八月																			
九月																			
十月																			
十一月																			
十二月																			
一月																			
二月																			
三月																			
總計																			

種別／月別	保險 保險料徵收(第二回以後) 口數	保險 保險料徵收(第二回以後) 金額	保險 保險金及還付金拂渡 口數	保險 保險金及還付金拂渡 金額	會計 切手類賣捌代 定價	會計 切手類賣捌代 割引	會計 印紙賣捌代 定價	會計 印紙賣捌代 割引
四月								
五月								
六月								
七月								
八月								
九月								
十月								
十一月								
十二月								
一月								
二月								
三月								
總計								

年度末調査		
保險契約受持	件數	
	保險料額	
	保險金額	
年金掛金拂込受持	件數	
	掛金額	
	年金額	
年金支拂受持	件數	
	年金額	
備考		

累年比較表

種別／年度			年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度
區內	戶數											
	人口											
郵便物數	通常	引受										
		配達										
	小包	引受										
		配達										
電報	發信											
	著信											
電話	加入者數											
	市內呼數											
	市外時數											
爲替	振替	口數										
		金額										
	拂渡	口數										
		金額										
貯金	新規預入人員											
	預入	口數										
		金額										
	拂戾	口數										
		金額										
振替貯金	拂込	口數										
		金額										
	拂出	口數										
		金額										

注意

一、金額ハ圓位以下四捨五入トス

一、電話「加入者」保險「契約受持」年金「掛金拂込受持」及「支拂受持」ノ各欄ハ年度末現在トシ其他ハ年度中ノ總數トス

一、其ノ他ノ記入方ハ業務概要表記入心得ニ準スルコト

別 \ 年度			年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度
年金恩給	拂渡	口數										
		金額										
預入預出金	受入	口數										
		金額										
	拂渡	口數										
		金額										
簡易保險	年度中申込	件數										
		保險料										
		保險金額										
	年度末現在受持契約	件數										
		保險料										
		保險金額										
	保險料保險金	入										
	保險金保險金額	出										
會計	切手類賣額											
	印紙類賣額											

●地況調査規程

昭和四年三月二十日
訓令第四十三號　内務部　郵便局

地況調査規程左ノ通定ム

地況調査規程

第一條　郵便局ハ毎年自八月一日至八月五日間ニ於ケル自局取扱郵便物數、爲替貯金口數及電報通數等ヲ區内各字別ニ別紙樣式ニヨリ調査報告スヘシ

第二條　前條ノ調査ハ左記各號ニ據ル

一、無集配局ハ調査期間終了後三日以内ニ集配受持局ヘ通報スルコト

二、電信取扱所取扱ニ係ルモノハ集配受持局ニ於テ調査スルコト

三、集配局ハ自局及自局區内無集配局竝電信取扱所取扱ニシテ他ノ郵便區内在住者ニ係ルモノハ其ノ集配受持局(當廳管内ニ限ル)ヘ適宜ノ樣式ニ依リ期間終了後五日以内ニ通報スルコト

四、集配局ハ自局取扱數ニ自局區内ノ無集配局及電信取扱所又ハ他ノ集配局ヨリ通報ヲ受ケタル數トヲ合セ其ノ月三十日迄ニ報告スヘシ

第三條　前條ノ物數口數及通數ハ左記各號ニ分類スヘシ

一、普通々常郵便物ノ引受數ハ各郵便函每ニ爲スコト

二、特殊通常集金及小包郵便物ノ引受數ハ差出人ノ居所ニ依ルコト

三、配達郵便物ハ受取人ノ居所ニ依ルコト

四、爲替貯金及振替貯金受入口數ハ振出預入人ノ居所ニ依ルコト

五、前號ノ拂渡口數ハ受取人ノ居所ニ依ルコト

六、電報ノ通數ハ發受信人ノ居所ニ依ルコト

第四條　平常ニ比シ著シク增減アルモノハ其ノ事由ヲ調査備考欄又ハ餘白ニ詳記スヘシ

第五條　調書ハ内務部遞信課宛發送スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正二年十一月訓第十六號ハ之ヲ廢止ス

雛形

別			
市内外ノ別			
町村名			
大字名			
字			
戸數			
人口			
郵便函數			
集配度數			
通常郵便	普通	引受	
		配達	
	特殊	引受	
		配達	
集金	引受		
	配達		
小包	引受		
	配達		
爲替貯金	爲替	受	
		拂	
	貯金	受	
		拂	
	振替	受	
		拂	
電信	發信		
	着信		
官公署其ノ他特殊營造物名			
職業別戸數			
主要物産ノ種類數量及價格			
所轄局及他ノ最近局トノ距離			
備考			

何　年　月　自　日　至　日　五日間調査　　何々郵便局

地況調書

記入心得

一、町村字名ハ廳法規輯覽（上卷第五類地方制度第一章郡町村參照）所載ノ町村及大字竝字ノ名稱區域ニヨリ自局郵便區市内外ノ順ニ記入ノコト

二、大字若ハ字ニシテ公稱ニ依リ難キモノハ俗稱ニヨリ記載シ「俗」ノ字ヲ冠記スルコト

三、市内ハ「内」市外ハ其ノ區名ヲモ併記シ「外一」「外二」ノ如ク簡記スルコト

四、戸數人口ニハ最近ノモノヲ警察又ハ役場等ニ就キ調査スルコト

五、市外地ニシテ二字以上連續シテ一部落ヲ爲セルモノハ字名ヲ連記シ其ノ下部ニ〉ヲ附シ一部落トシテ調査スルコト

六、集配度數ハ毎日便ニアラサル個所ハ「月何度」ト記入シ駐在集配地ハ「駐」ト遞送兼掌地ハ「遞」ト冠記スルコト

七、無集配局ハ物數、口數通數ニ限リ字毎ニ調査スルコト

八、電信取扱所ニ對シテハ發著通數ニ限リ適宜ノ方法ニヨリ調査スルコト

九、無集配局及電信取扱所又ハ他ノ集配局ヨリ通報ヲ受ケタル數ハ自局取扱數ニ合算記入シ更ニ當該欄上部ニ朱書再掲ノ上備考欄ニハ「何局分計上」ト記入スルコト但他局數多數ノ場合ハ各局取扱數ヲ合計記入シ備考欄ニ「何局外何局分計上」ト記入スルコト

一〇、引受普通々常郵便物ハ差出人ノ肩書地名ニ依リ調査ヲナサス郵便局又ハ郵便函ヨリ引受ケタルモノヲ其ノ郵便局又ハ郵便函所在地ノ引受物數トシテ記入スルコト但シ局内差入口ニ投入ノモノハ局前郵便函ト看做シ其ノ物數ニハ「局内」ト冠記スルコト

一一、無料郵便物事故持戻郵便物及再配達郵便物ハ調査ヲ要セス

一二、集金郵便物ノ配達欄ニハ取立ノ濟否ニ不拘取立ニ附シタル數ヲ記入スルコト

一三、爲替貯金及振替貯金以外ハ調査ヲ要セス

一四、電報ハ有料ニ限ル

一五、郵便規則第七十三條適用部落名ハ市内外ノ欄ニ「△」ヲ附シ交付ノ物數ハ配達ノ欄ニ記入スルコト

一六、官公署其ノ物特殊營造物欄ニハ官公署、學校、會社、病院、工場、社寺等其ノ他通信關係上重要ナルモノノ名稱ヲ記入スルコト

〔樺法〕

一七、職業別戸數欄ニハ「農五商二」ノ如ク簡記スルコト

一八、市内外共各字毎ニ縱線ヲ記入區別スルコト

一九、市内外別ニ計數ヲ朱書スルコト

二〇、各種取扱數ハ亞剌比亞數字ニヨリ記入スルコト

●特定局業務研究會規程

昭和四年三月三十一日
訓令第五十五號

内務部　特定郵便局

特定局業務研究會規程左ノ通定ム

特定局業務研究會規程

第一條　特定郵便局共同シテ業務上ニ關シ研究ヲ爲サムトスルトキハ本令ニ依リ會則ヲ設ケ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更又ハ廢止セムトスルトキ亦同シ

第二條　特定局業務研究會（以下單ニ研究會ト稱ス）ハ特定局長會ニ於テ定ムル各部會區域内ノ各局ヲ一團トシテ之ヲ組織シ特定局長會第何部業務研究會ト稱スヘシ但シ交通ノ關係其ノ他特殊ノ事情アルモノハ之ニ據ラサルコトヲ得

第三條　特定局業務研究會ハ特定局長會ニ隷屬スヘシ

第四條　研究會ニ左ノ役員ヲ置クヘシ

會　長　一名

幹　事　一名

書　記　若干名

會長ハ區域ノ屬スル特定局長會部會長ヲ幹事ハ同副會長ヲ以テ之ニ充テ書記ハ區域内ノ局員中ヨリ會長毎年之ヲ指名スヘシ

第五條　會長ハ會ヲ代表シ會務ヲ統理シ會議ノ際ハ議長トナル

幹事ハ會長ヲ補佐シ會長ノ命ヲ受ケ會務ヲ掌理シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ受ケ會務ニ從事ス

第六條　研究會ハ毎年一回以上開會スヘシ

第七條　二以上ノ研究會聯合シテ開會セムトスルトキハ樺太廳長官ノ許可ヲ受クヘシ

第八條　研究會ヲ開會セムトスルトキハ其ノ會期及會場ヲ具シ開會前二十日迄ニ研究事項ハ開會前十日迄ニ到達スル樣樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

前項ノ會期ハ都合ニ依リ樺太廳長官ニ於テ之ヲ變更セシムルコトアルヘシ

第九條　特定局長ハ研究會ニ自局員一名以上出席セシムル義務アルモノトス

前項義務ノ違反者ニ對シテハ一回ニ付金三圓以内ノ謝金ヲ徵スヘキ規約ヲ設クルコトヲ得

〔樺法〕

第十條　特定局長ハ本會ニ出席シ議事ニ參與スルコトヲ得

第十一條　會議ノ狀況其ノ決議事項及出席並缺席局名ハ閉會後五日以內ニ之ヲ樺太廳長官並特定局長會長ニ報告スヘシ但シ樺太廳長官ヘノ報告ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第十二條　研究會ニ於テ決議シタル事項ヲ實施セムトスルトキハ附錄第一號樣式ニ依リ樺太廳長官ノ指揮ヲ受クヘシ

第十三條　研究會ハ業務上ニ關シ特定局長會ニ建議スルコトヲ得

第十四條　研究會ヨリ發スル文書ハ總テ會長ノ名ヲ用ヰ特定局長會ヲ經由スヘシ

第十五條　樺太廳長官ハ廳員ヲシテ研究會ニ臨席セシメ業務ノ講習及執務上ニ關スル講演ヲ爲サシメ又ハ問題ヲ課シテ質問シ若ハ答案ヲ徵セシムルコトアルヘシ

第十六條　研究會ニ關スル經費ハ其ノ會ノ負擔トス

附　則

本令ハ昭和四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附錄第一號樣式

番號　申請年月日

特定局長會經由

第何部業務研究會會長

何局長　氏　名

樺太長官宛

決議事項實施方申請ノ件

（月日何處ニテ開催）

右別紙ノ通リ決議候ニ付實施致度候間何分ノ御指揮相仰度此段及申請候也

（別紙決議書）

郵便（又ハ何々）ノ部

研究問題	決議
（一）何々…… …… （說明ヲ要スルモノハ此處ニ詳記スルコト） （二）何々…… ……	何々 何々

此欄ハ餘白トナシ置クコト

備考

一、研究問題ハ郵便、爲替貯金、電信電話保險及庶務會計ノ各種別每ニ配列シ冒頭ニ題名ヲ附スルコト

●郵便電信電話等ニ關スル料金徵收囑託ニ關スル件

大正五年八月十四日
勅令第二百號

改正　大一一年四月勅令一九二號

〔樺法〕

郵便電信電話等ニ關スル料金ノ徵收囑託ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總內、遞、外、大臣副署）

內地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州及南洋群島ニ於ケル郵便、電信及電話官署ハ相互ニ、郵便、電信、電話、無線電信及無線電話ニ關スル料金ノ徵收ヲ囑託スルコトヲ得

前項ノ囑託ニ依リ生シタル費用ハ囑託ヲ受ケタル官署ノ支辨トス

●大正五年八月勅令第二百號郵便電信電話等ニ關スル料金ノ徵收囑託ノ件

大正六年一月內務省五、遞地第四號
內務省地方局長通牒

內務省ト遞信省間協定事項

一　本令ニ依リ徵收處分ヲ囑託スルハ囑託廳ニ於テ既ニ督促狀ヲ發シタル場合ニ限リ其ノ囑託スル徵收金ノ範圍ハ滯納料金、督促手數料及延滯金トス

前記滯納料金、督促手數料及延滯金ノ額ハ總テ當該督促狀ニ記載シタル所ニ依リ計算ス

二　徵收處分ヲ囑託セムトスルトキハ其ノ要旨ヲ記載シタル書類ニ納入告知書及督促狀ノ各寫ヲ添附シ左ノ官署ニ宛テ送付スルモノトス

（甲）內地官署ニ對シ囑託スル場合

納人又ハ差押フヘキ財產所在地ヲ管轄スル遞信局又ハ管理事務分掌一等郵便局

（乙）內地外官署ニ對シ囑託スル場合

朝鮮ニ在リテハ遞信局、臺灣ニ在リテハ民政部通信局、關東州ニ在リテハ通信管理局、樺太ニ在リテハ同廳內務部

三　受託廳ニ於テハ必要ニ應シ財產差押ヲ執行シ其ノ徵收シタル現金ハ便宜歲入歲出外現金（遞信省部內ニ於テハ雜部金ノ計算科目ヲ以テ計理ノ見込トス）トシテ取扱ヒ無料通常爲替ニ依リ之ヲ囑託廳ニ送付スルモノトス但シ其ノ徵收シタル處分費ハ自廳ノ歲入ニ立ツルモノトス

前記徵收金ヲ送付スル場合ニ於テハ受託廳出納官吏ハ其ノ送付證（樣式適宜以下倣之）ヲ囑託廳ニ囑託廳出納官吏ハ其ノ領收證ヲ受託廳ニ送付スルモノトス

四　受託廳ニ於テハ納人所在不明又ハ無資力等ニ依リ徵收不能ノモノハ其ノ旨囑託廳ニ回報スルモノトス但シ豫メ其ノ所在不明又ハ無資力等ノ事實判明セルモノハ囑託廳ニ於テ之カ囑託ヲナササルモノトス

五　第一項及第二項ニ依リ徵收處分ノ囑託アリタル場合ト雖當該納人又ハ差押フヘキ財產ノ所在地カ郵便電信電話官署ノ所在地ヨリ餘リニ遠隔ナルカ又ハ其ノ他特殊ノ事由ニ依リ囑託ニ應シ兼ヌルトキハ其ノ事由ヲ具シテ囑託廳ニ協議スルヲ妨ケサルモノトス

●郵便電信電話料金滯納者財產差押官吏證票ノ件

明治四十一年一月三十日
遞令第一號

〔樺法〕

（明治三十三年九月遞信省令第六十七號郵納料徴收規程第三條）ニ依ル證票左ノ通定ム

郵便電信電話料金滯納者財産差押官吏證票雛形

寸

第　號

（何々局）

官　氏　名

郵便電信電話料金滯納者財産差押官吏之證

昭和　年　月　日

樺太廳印

寸

●樺太廳遞信公報規程

大正十年十月四日
廳訓令第六十八號

改正　昭八年一二月訓令六三號

内務部　郵便局所

第一條　樺太廳内務部遞信課（以下單ニ遞信課ト稱ス）ハ樺太廳遞信公報（以下單ニ公報ト稱ス）ヲ發行シ通信業務ニ關スル令達通牒其ノ他必要ナル事項ヲ掲載ス

第二條　公報登載種目左ノ如シ

一　廳令
二　訓令（一般ニ周知スルヲ必要ト認メタルモノ）
三　告示
四　通牒、照會
五　指令回答（一部局ノ請願照會ニ對スル指令回答ニシテ一般ノ參考ニ資スヘキモノ）
六　告知（遞信課關係ノ）
七　敍任辭令（モノニ限ル）
八　統計
九　彙報

第三條　公報ハ發行期日ヲ豫定セス必要ニ應シ發行配付ス

第四條　遞信課ニ公報取扱主任ヲ置キ公報ノ編輯及發行ニ關スル事務ヲ取扱ハシム

第五條　公報ニ掲載ヲ要スルモノハ立案者ニ於テ欄外ニ要掲公報登載ト朱書スヘシ

第六條　郵便局長ハ其ノ土地ノ狀況及一般事務ノ參考トナルヘキ事項ニシテ公報掲載ヲ必要ト認ムルモノアルトキハ遞信課ニ報告スヘシ

第七條　公報掲載原稿ハ公報取扱主任ニ於テ掲載事項ヲ整理シ緩急ヲ調査シ至急ヲ要スルモノハ直ニ其ノ他ハ原稿ノ充實ヲ俟テ發行ノ手續ヲナスヘシ

第八條　公報掲載ヲ終リタル成案ハ其ノ餘白ニ公報ノ發行月日番號ヲ記入シテ之ヲ立案者ニ返付スヘシ

〔樺法〕

第九條　公報原稿ハ其ノ發行ノ日ヨリ滿一ヶ年間公報取締主任ニ於テ保管シ期間經過後ハ棄却ノ手續ヲナスヘシ

第十條　公報ノ配布ヲ受ケタルトキハ回覽ノ上順次編綴シ曆年毎ニ表紙ヲ附シ保存スヘシ

第十一條　公報配布箇所及部數ハ別ニ之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正十年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●通信統計報告規程

大正二年五月
訓令第八十九號

改正　大九年八月遞訓令三〇號、一一年八月一二五號、一三年六月五三號、昭五年一月三四號、五月一五七號

内務部　郵便局

通信統計報告規程左ノ通相定メ大正二年五月分ヨリ之ヲ施行ス

通信統計報告規程

第一條　郵便局長ハ本規定ニ依リ別表各號ノ報告書ヲ其ノ樣式及調査期ニ依リ調製シ發送期限迄ニ樺太廳（第一部）通信課ニ提出スヘシ

第二條　本規程ニ依ル報告事項中數量ノ增減其ノ他ニ關シ特ニ說明ヲ要スルモノアルトキハ當該報告表ノ備考欄ニ其ノ要領ヲ記載スヘシ

第三條　本規程ニ依ル報告事項ハ總テ本邦數字ヲ以テ明瞭ニ記載シ合計欄ニハ朱書スヘシ

第四條　報告表中或部分ニ於テ報告スヘキ事實ナキトキハ其ノ部分ニ斜線ヲ書スヘシ

〔樺法〕

樣式番號	報告表名	調査期	發送期限	發送局
一	引受普通々常郵便物數報告表	毎年引受配達三月中	翌月五日	集配局一般
二	配達特殊及特別取扱通常郵便物數報告表	毎月中	同	郵便局一般
三	小包郵便物數報告表	同	同	同
四	通話及呼出數報告表	同	同	通話事務取扱局
五	引受有料郵便料金及金額報告表	毎年五月中	同	郵便局一般
六	發著地別小包郵便物數報告表	毎月中	同	同
七	現在員竝給與額報告表	年度末	四月十日	同
八	印紙切手賣捌所及郵便函數報告表	同	同	集配局一般
九	電線託送電報通數報告表	年度中	同	託送電報取扱局
一〇	局收入額報告表	同	同	普通局
一一	歲入歲出金取扱高報告表	毎月中	翌月五日	同

第一號

局引受配達普通々常郵便物數報告表

昭和　年　月分

月分	實數	一ヶ年度推算數	備考

調製及檢査印	日附印

記入心得

一、提出期限ハ引受配達共調査翌月ノ五日トス

一、引受調査月ニハ配達ヲ配達調査月ニハ引受ヲ調査セサルモノトス

局特殊及特別取扱通常郵便物數報告表

年　月分

引受之部				配達之部					
書留	有料	再掲	内容證明	書留	價格表記	前欄代金引換再掲引換不能	集金取立郵便取立不能	備考	調製及檢査印
	無料		訴訟及特許書類						
價格表記	有料		航空郵便						日附印
	無料		切手別納郵便						
合計			約束郵便						
前欄	代金引換		市内郵便						
引受時證明	別配達		集金證書						
配達證明			郵便證券						
			計						

提出期限翌月五日

記入心得

一、同一ノ郵便物ニシテ二種以上ノ特殊取扱ヲナシタルトキハ其ノ取扱種類ニ從ヒ各別ニ記入スルコト

一、無集配局ニテハ配達欄ヘハ代金引換ノミ記入スルコト

第三號

局小包郵便物數報告表

引受ノ部																備考
種別	普通	書留	價格表記		總計	前欄中再掲										
			通貨	其他		代金引換		別配達	配達證明	航空郵便						
						書留	價格表記									
有料																
無料																
計																

配達（交付）之部																
種別	普通	書留	價格表記	總計	前欄中再掲											
					代金引換				留置				私書函渡	調製及檢査印		
					書留		價格表記		普通	通知						
					引換	引換不能	引換	引換不能								
個數															日附印	

提出期限翌月五日

年　月分

四〇

一、記入心得ハ第二號表ニ準ス

〔樺法〕

第四號

日附印

通話及呼出數報告表

種別	度數	時數	備考
加入者相互間呼數			
加入者相互間通話度數			
市内 非加入者發信通話度數 有料			
市内 非加入者發信通話度數 無料			
市内 非加入者發信通話時數 有料			
市内 非加入者發信通話時數 無料			
市内 呼出請求件數 有料			
市内 呼出請求件數 無料			
市内 發信通話料 有 加入者發信			
市内 發信通話料 有 非加入者發信			
市内 發信通話度數 無料			
市外 發信通話時數 有 加入者發信			
市外 發信通話時數 有 非加入者發信			
市外 發信通話時數 無料			
市外 呼出請求件數			
市外 中繼度數			

調製及檢査印

記入心得　加入者相互間呼數及同通話度數ハ毎月十、二十ノ兩日分ヲ調査シ其ノ一日平均數ニ其ノ月日數ヲ乘シタルモノヲ記入スヘシ

注意　毎月中ヲ調査シ翌月五日限リ提出スヘシ

（昭和　年　月分）

〔樺法〕

四一

第五號

附日印

調製及檢查印

引受有料郵便料金及金額報告表

特殊通常郵便之部	價格通貨	
	表記料 其他	
	別配達料	
	內容證明料	
	航空取扱料	
	同速達料	
	價格表通貨	
	記金額 其他	
	代金引換書留	
	換金額 價格表記	
	集金郵便取立書 證券	
	金額	

小包郵便ノ部	普通 同一郵便區市內	
	小包料 其他	
	書留 同一郵便區市內	
	小包料 其他	
	價格通貨	
	表記料 其ノ他	
	別配達料	
	航空取扱料	
	同速達料	
	價格表通貨	
	記金額 其他	
	代金引換書留	
	換金額 價格表記	

記入心得

一、普通小包料ノ欄ニハ價格表記トナシタル小包ノ普通小包料ヲモ合算スヘシ

二、其ノ他第二號表ニ準ス

提出期翌月五日

〔棒法〕

第六號

提出日附日印

發著地別小包郵便物數報告表

（表面）

（一）引受ノ部

大正　年　月分　郵便局

名宛地	總個數	上欄中再揭						引換不能ノ爲引換局ヨリ還付ノモノ		
	（普通小包ヲ含ム）	價格表記		代金引換		別配達				
	個數	金額		個數	金額	個數	金額	個數	金額	
內地			圓		圓					圓
朝鮮										
臺灣										
樺太										
南洋群島										
關東廳管內 租借地										
關東廳管內 租借地外										
外國										
計										

○毎月中ヲ調査シ翌月五日限提出スヘシ

〔棒法〕

（裏面）

（二）記載ノ部

差出地	總個數（書狀ヲ合算ス小包ヲ）	上 書留 価格表記 個數	上 書留 価格表記 金額	中 書留 代金引換 引換不能 個數	中 書留 代金引換 引換不能 金額	再 書留 交付 個數	再 書留 交付 金額	別配達 個數
内地			圓		圓		圓	
朝鮮								
臺灣								
樺太								
南洋群島								
關東管轄區域内 租借地								
關東管轄區域内 租借地外								
外國								
計								

シヘス括弧＝朱書ス、印＝明瞭ニ、印附日出提ノ○

〔裏紙〕

〔裏紙〕

提出日附印

第七號　　年度末現在

現在員竝給與額報告表

種別	員數	年度中給與額 俸給給料	諸手當	合計
局長	奏任			
判任				
吏員	奏任			
判任	男			
判任	女			
雇員	男			
雇員	女			
計				
傭人	選送人			
傭人	集配人			
傭人	其他 男			
傭人	其他 女			
傭人	計			
總計				

注意　每年度分ヲ調査シ四月十日限リ提出スヘシ

提出日附印

第八號　　年度末現在

印紙切手賣捌所及郵便函數報告表

大正

種別 ＼ 市内外ノ別	市内	市外	合計
収入印紙賣捌所			
郵便切手賣捌所			
郵便函 柱函			
郵便函 掛函			
私書函 設備數			
私書函 貸與數			

注意　每年度末現在ヲ調査シ四月十日限リ提出スヘシ

第九號

電線託送電報通數報告表

電話加入者	同上以外ノ者	合計	備考
發信通數			
著信通數			
總計			

大正　年度中

第十號

局收入額報告表

種別		金額	備考
切手收入	郵便切手類賣捌枚數		
	同上價格		
	同上代金		
郵便收入			
電信收入			
電話收入			

大正　年度

第十一號

局歲入歲出金取扱高報告表

提出日附印

大正　年度　月分

歲入 種目	金額	歲出 科目	金額	備考
切手類收入		現業費		
約束郵便料		遞信費		
託送電報料		奏任俸給		
後納電報料		判任俸給		
外國電報料		事務費		
電話使用料		郵便費		
電話料		電信電話費		
計		計		
印紙收入				
合計				

注意　毎月分ヲ調査シ翌月五日限提出スヘシ

記入心得

一、歲入ハ總テ調定額ヲ記入スヘシ

二、本欄以外ノ歲入ハ備考欄ニ記入スヘシ

第二節　郵便

●郵便法

明治三十三年三月十三日
法律第五十四號

改正　明四〇年三月法律七號、大五年三月一七號、昭六年三月四號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル郵便法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總、遞、大臣副署）

郵便法

第一條　郵便ハ政府之ヲ管掌ス

第二條　何人ト雖信書ノ送達ヲ營業ト爲スコトヲ得ス

運送營業者、其ノ代表者又ハ代理人其ノ他ノ從業者ハ其ノ運送方法ニ依リ他人ノ爲ニ信書ノ送達ヲ爲スコトヲ得ス但シ貨物ニ添附スル無封ノ添狀又ハ送狀ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　運送營業者ハ郵便官署ノ要求アルトキハ其ノ運送方法ニ依リ郵便物ノ運送ヲ拒ムコトヲ得ス此ノ場合ニ於テ郵便官署ハ相當ノ運送料金ヲ支給ス

第四條　職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人及郵便專用車馬等ハ道路ニ障碍アリテ通行シ難キ場合ニ於テ垣壁又ハ欄柵ナキ宅地田畑其ノ他ノ場所ヲ通行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ郵便官署ハ被害者ノ請求ニ因リ其ノ損害ノ賠償ヲ爲スヘシ

第五條　職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人及郵便專用舟車馬等事故ニ遭遇シタル場合ニ於テ郵便遞送人郵便集配人又ハ郵便吏員ヨリ助力ヲ求メラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス此ノ場合ニ於テ郵便官署ハ助力者ノ請求ニ因リ相當ノ報酬ヲ爲スヘシ

第六條　職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人及郵便專用舟車馬等ニ對シテハ渡津、運河、道路、橋梁其ノ他ノ場所ニ於ケル通行錢ヲ請求スルコトヲ得ス

職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人ハ何時ニテモ渡津ノ出船ヲ求ムルコトヲ得

第七條　郵便專用ノ物件及現ニ郵便ノ用ニ供スル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

郵便專用ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受クルコトナシ

郵便物及其ノ取扱ニ必要ナル物件ハ海損ヲ分擔セス

第八條　郵便官署ハ郵便物ノ遞送中又ハ其ノ發送ノ準備完了ノ後ニ限リ其ノ差押ヲ拒ムコトヲ得

第九條　郵便物檢疫ヲ受クヘキ場合ニ於テハ他ノ物件ニ先チテ直ニ檢疫ヲ受ク

第十條　郵便取扱ニ關シ無能力者ノ郵便官署ニ對シテ爲シタル行爲ハ能力者ノ爲シタルモノト看做ス

第十條ノ二　郵便ニ依ル取立金ハ拂渡其ノ他ノ處分ニ關シテハ之ヲ郵便爲替金トシ郵便爲替法ヲ適用ス

第十一條　郵便官署ハ郵便物ノ受取人ノ眞僞ヲ調査スル爲受取人ヲシテ必要ナル證明ヲ爲サシムルコトヲ得

第十二條　郵便物ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外其ノ宛所ニ配達ス

第十三條　郵便物ハ命令ヲ以テ定ムル場合ニ限リ差出人ノ請求ニ因リ之ヲ還付スルコトヲ得

第十四條　宛所ニ配達シ又ハ受取人ニ交付スルコト能ハサル郵便物ハ差出人ニ還付ス其ノ差出人ニ還付スルコト能ハサルモノハ主務大臣ノ指定シタル郵便官署ニ於テ之ヲ開披スルコトヲ得

第十五條　前條ニ依リ開披シタル郵便物ニシテ尙配達還付ヲ爲スコト能ハサルモノハ郵便官署ニ於テ之ヲ保管ス

保管ノ郵便物ニシテ有價物ニ非サルモノハ其ノ保管開始ノ日ヨリ三箇月內ニ交付ヲ請求スル者ナキトキハ之ヲ棄却シ其ノ有價物ニシテ滅失若ハ毀損ノ虞アルモノ又ハ其ノ保管ニ過分ノ費用ヲ要スルモノナルトキハ之ヲ賣却シ其ノ代金ヲ保管ス但シ賣却ニ要シタル費用ハ賣却代金ヲ以テ之ニ充ツ

有價物及賣却代金ハ郵便物ノ保管開始ノ日ヨリ一箇年內ニ交付ヲ請求スル者ナキトキハ國庫ニ歸屬ス

第十六條　郵便官署ハ郵便物引受ノ際郵便禁制品ヲ封入シ又ハ成規ニ違反シタルモノアリト認ムルトキハ差出人ニ其ノ開示ヲ求ムルコトヲ得差出人前項ノ開示ヲ拒ミタルトキハ其ノ郵便物ノ取扱ヲ拒絕ス

第十六條ノ二　郵便官署ハ其ノ取扱中ニ係ル郵便物ニシテ郵便禁制品ヲ封入シ又ハ成規ニ違反シタルモノアリト認ムルトキハ差出人又ハ受取人ニ其ノ開示ヲ求ムルコトヲ得

差出人若ハ受取人前項ノ開示ヲ拒ミタルトキ又ハ差出人若ハ受取人ニ其ノ開示ヲ求ムルコト能ハサルトキハ主務大臣ノ指定シタル郵便官署ニ於テ其ノ郵便物ヲ開披スルコトヲ得

第十七條　郵便物ハ通常郵便物及小包郵便物トス

第十八條　通常郵便物ノ種類及料金ハ左ノ如シ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ料金ヲ低減スルコトヲ得

【横法】

第一種	書狀	重量十五グラム又ハ其ノ端數毎ニ	金三錢
第二種	郵便葉書	一通（常葉書）	金二錢五厘
		二往復（葉書）	金三錢
		三封緘（葉書）	金三錢
第三種	定期刊行物	重量七十五グラム又ハ其ノ端數毎ニ	金五厘
	書籍、印刷物、業務用書類、寫眞、書畫、圖畫、商品見本及雛形、博物學上ノ標本	重量百十グラム又ハ其ノ端數毎ニ	金二錢
第四種	農產物種子	重量百十グラム又ハ其ノ端數毎ニ	金一錢

前項各種ニ該當セサル物件及該當スルモ封緘シタルモノハ第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

異種ノ郵便物ヲ合裝シタルモノハ其ノ種類中ノ最高料金ヲ納付スヘキ郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス但シ第二種郵便物ヲ他種ノ郵便物ト合裝スルトキハ第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

郵便業書ノ表面又ハ第三種乃至第五種ノ郵便物ニ通信文ヲ記載シタルモノハ特ニ命令ヲ以テ規定シタル場合ヲ除クノ外第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

第十九條　小包郵便物ノ料金竝郵便物ノ特殊取扱ニ關スル料金ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第二十條　信書ハ小包郵便物ト爲シ又ハ小包郵便物ニ合裝スルコトヲ得ス但シ無封ノ添狀又ハ送狀ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條　第三種郵便物ト爲スヘキ定期刊行物ハ主務官署ノ認可ヲ受ケタルモノニ限ル

第二十二條　郵便禁制品ノ種類及郵便物ノ容積、重量、包裝等ニ關スル制限ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第二十三條　受取人ハ郵便料ヲ完納シタル郵便物ノ受取ヲ拒ムコトヲ得ス

差出人ハ還付郵便物ノ受取ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十四條　郵便ニ關スル既納及過納ノ料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ還付セス

第二十五條　命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外郵便料未納又ハ不足ノ郵便物ハ受取人其ノ不納額二倍ノ料金ヲ納付シテ之ヲ受取ルコトヲ得其ノ納付ヲ拒ミタルトキハ差出人ニ還付シ差出人ヨリ之ヲ徵收ス受取人不明其ノ他ノ事由ニ因リ之ヲ差出人ニ還付スル場合亦同シ

第二十六條　郵便ニ關スル料金納付ノ義務ハ其ノ納付スヘキ日ヨリ六箇月內ニ納付ノ告知ヲ受ケサルニ因リテ消滅ス

第二十七條　郵便ニ關スル料金ノ不納金額ハ郵便官署ニ於テ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收ス

前項ノ不納金額ニ付郵便官署ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

第二十八條　郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信、電話、無線電信、無線電話、年金恩給支給、國庫金受拂又ハ收入印紙賣捌ノ事務ニ關スル郵便物ハ命令ノ定ムル所ニ依リ無料ト爲スコトヲ得

第二十九條　郵便ニ關スル料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ヲ以テ納付スヘシ

第三十條　郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ハ政府之ヲ發行ス

第三十一條　郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ノ汚穢毀損シタルモノハ其ノ效用ヲ失フ

第三十二條　成規ノ手續ヲ經テ郵便物ヲ交付シタルトキハ正當ノ交付ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十三條　成規ニ依リ差出シタル郵便物ノ取扱ニ關シ郵便官署ハ左ノ場合ニ限リ其ノ損害ヲ賠償ス

一　書留通常郵便物ヲ亡失シタルトキ

二　書留小包郵便物若ハ價格表記郵便物ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ

三　郵便ニ依ル取立金ノ證券ヲ亡失シ又ハ其ノ效力ヲ失ハシメタルトキ

四　代金引換郵便物ノ取立金ノ取立ヲ爲サスシテ之ヲ交付シタルトキ

賠償金額ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第三十四條　郵便物交付ノ際外部ニ破損ノ痕跡ナク且重量ニ變易ナキトキハ損害ナキモノト看做ス

第三十五條　第三十三條ノ場合ト雖左ノ事項ニ該當スルトキハ損害賠償ノ限ニ在ラス

一　差出人又ハ受取人ノ過失ニ因リタルトキ

二　不可抗力ニ因リタルトキ

三　其ノ郵便物ノ性質又ハ瑕疵ニ因リタルトキ

第三十六條　郵便物ノ差出人又ハ受取人ハ其ノ郵便物ニ郵便官署ノ賠償スヘキ損害アリト認ムルトキハ其ノ受取ヲ拒ムコトヲ得但シ郵便物受取ノ後ハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三十七條　第三十三條ニ依ル損害賠償ハ差出人又ハ其ノ承諾ヲ得タル受取人之ヲ請求スルコトヲ得

第三十八條　本法ニ依ル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ハ主務大臣ノ指定シタル郵便官署ニ對シ左ノ期間內之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

一　第四條ニ依ル賠償及第五條ニ依ル報酬ハ其ノ事實アリタル日ヨリ三箇月

二　第三十三條ニ依ル賠償ハ郵便物差出ノ日ヨリ一箇年

第三十九條　郵便官署ノ損害賠償又ハ報酬ニ關スル決定ニ對シ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以內ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四十條　郵便官署ニ於テ損害賠償ヲ爲シタル後其ノ郵便物ヲ發見シタルトキハ之ヲ其ノ賠償受領者ニ通知スヘシ此ノ場合ニ於テ賠償受領者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以內ニ賠償金ノ全部又ハ一部ヲ返付シテ其ノ郵便物ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第四十一條　第二條ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役及千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ金錢物品ヲ收得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第四十二條　何人ト雖第三條ノ場合ニ於テ郵便物ノ運送ヲ拒ミ又ハ其ノ運送ヲ爲ササル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條　第四條ノ場合ニ於テ通行ヲ拒ミ又ハ第五條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ助力ヲ拒ミ又ハ第六條ノ場合ニ於テ通行錢ヲ强要シ若ハ正當ノ事由ナクシテ渡津ノ出船ヲ拒ミ又ハ第二十三條ニ違反シテ郵便物ノ受取ヲ拒ミタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十四條　郵便官署ノ取扱中ニ係ル郵便物ノ秘密ヲ侵シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第二百五十八條又ハ第二百五十九條ニ該當スル場合ニ於テハ同條ノ刑ニ處ス

第四十五條　郵便官署ノ取扱中ニ係ル信書ノ秘密ヲ侵シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

郵便事務ニ從事スル者前項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第四十五條（削除）

第四十六條　郵便禁制品ヲ郵便物トシテ差出シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ其ノ物件ヲ沒收ス

第四十七條　不法ニ郵便ニ關スル料金ヲ免シ又ハ他人ヲシテ之ヲ免レシメタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

郵便事務ニ從事スル者前項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條　行使ノ目的ヲ以テ帝國政府若ハ郵便聯合條約國政府ノ發行スル郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ヲ僞造若ハ變造シ又ハ其ノ使用ノ痕跡ヲ除去シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

僞造、變造シ若ハ使用ノ痕跡ヲ除去シタル郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ輸入シ、人ニ交付シ若ハ其ノ交付ヲ受ケタル者ハ前項ニ同シ

第四十九條乃至**第五十一條**（削除）

第五十二條　郵便官署ノ取扱中ニ係ル郵便物ヲ正當ノ事由ナクシテ開披、毀損、隱匿若ハ放棄シ又ハ受取人ニ非サル者ニ交付シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第二百五十八條又ハ第二百五十九條ニ該當スル場合ニ於テハ同條ノ刑ニ處ス

第五十三條　郵便事務ニ從事スル者正當ノ理由ナクシテ郵便物ノ取扱ヲ

爲サス又ハ之ヲ遲延セシメタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

郵便事務ニ從事スル者重大ナル過失ニ因リ郵便物ヲ失ヒタルトキハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條　郵便專用ノ物件又ハ現ニ郵便ノ用ニ供スル物件ニ對シ損傷其ノ他郵便ノ障碍ト爲ルヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十五條　第四十一條、第四十四條、第四十七條、第四十八條、第五十二條及第五十四條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第四十八條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ用ニ供シタル物ハ之ヲ沒收ス

第五十五條ノ二　第四十八條ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ其ノ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

第五十五條ノ三　僞造、變造シ又ハ使用ノ痕跡ヲ除去シタル帝國政府又ハ郵便聯合條約國政府ノ發行スル郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ハ何人ニ屬スルヲ問ハス裁判ニ依リ沒收スル場合ノ外行政處分ヲ以テ之ヲ官沒ス

官沒ニ關スル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十六條　郵便物ニ關シ條約ニ別段ノ規定アルモノハ各其ノ規定ニ依ル

附則

第五十七條　本法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス　郵便條例中〔第十二章及第二百四十二條以外ノ條項〕小包郵便法及郵便聯合國郵便切手類保護法ハ之ヲ廢止ス

本法施行前ニ差出シタル郵便物ニ關シテハ郵便條例及小包郵便法ヲ適用ス

〔參照〕明治二十五年法律第二號小包郵便法、同年法律第三號郵便聯合國郵便切手類保護法

附則（大正五年法律第十七號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正五年七月勅令第百八十四號ヲ以テ同年八月一日ヨリ施行）

本法施行前ニ差出シタル郵便物、郵便ニ依ル取立金又ハ本法施行前ニ生シタル損害賠償ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

刑法施行法第二十六條第十號ハ之ヲ削ル

●鐵道船舶郵便法

明治三十三年三月十三日
法律第五十六號

改正　大五年三月法律一八號、八年四月五號、昭六年三月五號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル鐵道船舶郵便法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總、遞、大臣副署）

鐵道船舶郵便法

第一條　本法ニ於テ鐵道運送業者ト稱スルハ地方鐵道法ニ依リ鐵道ヲ以テ運送營業ヲ爲ス者ヲ謂ヒ船舶運送業者ト稱スルハ商法ニ依リ船舶ヲ以テ運送營業ヲ爲ス者ヲ謂フ

〔棒法〕

第二條　鐵道運送業者ハ郵便取扱ノ爲郵便官署ノ要求アルトキハ鐵道用地及停車場建物ノ一部ヲ供シ又ハ建物ノ建築若ハ改築ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ土地建物ノ使用料及建築改築ノ費用ハ郵便官署之ヲ支給ス

第三條　鐵道運送業者ハ郵便官署ノ要求アルトキハ定期列車毎ニ郵便車トシテ列車定數ノ總容積ノ五分ノ一迄ハ其ノ列車ノ一部ヲ供給シ又ハ郵便官署ノ交付ニ係ル同一容積以內ノ郵便車ヲ聯結スヘシ

船舶運送業者ハ郵便官署ノ要求アルトキハ其ノ船舶ニ相當ノ郵便船室ヲ供給スヘシ

第四條　郵便車ノ構造ハ通常客車ト同一タルコトヲ要ス

第五條　郵便車又ハ郵便船室ニハ郵便物郵便取扱員及其ノ監視員ノ外搭載スルコトヲ得ス

第六條　鐵道運送業者又ハ船舶運送業者ハ郵便官署ノ要求ニ應シ郵便車又ハ郵便船室ニ郵便物ノ取扱ニ必要ナル設備及維持ヲ爲スヘシ

鐵道運送業者ハ郵便官署ノ交付ニ係ル郵便車ヲ保管スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ設備維持及保管ニ要スル費用ハ郵便官署之ヲ支給ス

第七條　鐵道運送業者ハ列車仕立驛ニ於テ指定ノ郵便車ノ外臨時容積ノ增加ヲ要シ又ハ臨時郵便車ノ聯結ヲ要スル爲其ノ列車出發時刻三十分前迄ニ郵便官署ノ要求アルトキハ他ノ郵便車ヲ聯結シ又ハ通常客車ヲ其ノ代用ニ供スヘシ

第八條　鐵道運送業者ハ郵便官署ニ於テ郵便車ニ依ラサル郵便物ノ運送ヲ要求シタルトキハ特ニ指定シタル場合ヲ除クノ外旅客列車ニ依リ運送スル貨物ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ運送スヘシ

第九條　鐵道運送業者列車ノ發著時刻ヲ變更スルトキハ七日以前ニ之ヲ郵便官署ニ報告スヘシ但シ天災其ノ他避クヘカラサル事故ノ爲發著時刻ノ變更ヲ決定シタルトキハ直ニ報告スヘシ

第十條　郵便車ノ使用料金ハ其ノ供給スル容積ニ應シ當該鐵道運送業者ノ定メタル最低等級旅客一キロメートル運賃ノ左ノ割合ニ依ル

八立方メートル迄	一キロメートル每ニ	十割以內
十四立方メートル迄	一キロメートル每ニ	二十割以內
二十立方メートル迄	一キロメートル每ニ	三十割以內
二十八立方メートル迄	一キロメートル每ニ	五十割以內

二十八立方メートルヲ超過シタルトキハ全容積ニ對シ三立方メートル迄ニ付一キロメートル每ニ六割以內

郵便車ノ容積ハ各列車ニ於ケル郵便車總容積ヲ以テ之ヲ算定ス其ノ容積ノ算定方法ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

郵便車ニ依ラスシテ郵便物ヲ運送セシムル場合ニ於ケル運送料金ハ當該鐵道運送業者カ其ノ運送方法ニ付定メタル普通貨物運賃ノ最低額ノ半額以內トス

郵便官署ヨリ郵便車ヲ交付シタル場合ニ於テ鐵道運送業者ニ支給スヘキ金額ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十一條　船舶運送業者ハ船舶ニ搭載シタル郵便物ヲ其ノ目的地ニ於テ他ノ貨物ニ先チ陸揚スヘシ天災事變ノ爲航海ノ途中ニ於テ積替若ハ陸揚スルトキ亦同シ

第十二條　船舶運送業者ニ交付スヘキ運送料金ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

〔棒法〕

第十三條　郵便物搭載列車天災事變ノ爲其ノ進行ヲ停止シタルトキ又ハ郵便物搭載船舶航行中天災事變ニ因リ郵便物ヲ陸揚シタルトキハ鐵道運送業者又ハ船舶運送業者ハ郵便取扱員ノ在ラサル場合ニ限リ直ニ該郵便物ヲ附近郵便官署ニ送達スヘシ其ノ送達ニ要スル費用ハ之ヲ支給ス

第十四條　第三條ノ要求ニ應セサル者又ハ正當ノ理由ナクシテ第二條若ハ第七條ノ要求ニ應セサル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條　第六條第一項及第二項ニ違反シタル者又ハ正當ノ理由ナクシテ第八條ノ要求ニ應セサル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス第五條ニ違反シタル鐵道運送業者及船舶運送業者亦同シ

第十六條　第十三條ニ依ル送達ヲ爲ササル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條　鐵道運送業者又ハ船舶運送業者カ其ノ取扱中ニ係ル郵便物ヲ過失ニ因リ亡失又ハ毀損シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條　第九條又ハ第十一條ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第十九條　鐵道運送業者又ハ船舶運送業者ノ代表者又ハ代理人其ノ他ノ從業者カ第十四條乃至第十八條ニ該當スル行爲ヲ爲シタルトキハ各本條ノ刑ニ處ス

第二十條　軌道條例ニ依リ運送營業ヲ爲ス者ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第二十一條　鐵道又ハ航路若ハ船舶ニ關シ政府ヨリ補助ヲ受ケ若ハ受ケタル鐵道運送業者又ハ船舶運送業者ニ對シ特別ノ命令アルトキハ其ノ命令ニ依ル

附則

本法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●郵便規則（抄錄）

明治三十三年九月一日
遞信省令第四十二號

改正略ス

第一條　內地相互間並內地ト朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島相互間ニ發著スル郵便物ノ取扱ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル但シ名宛地內ノ取扱ニ關シテハ各其ノ宛地ニ施行スル法令ニ依ル

第六十三條ノ七　切手別納郵便物ハ郵便切手ヲ貼付セス郵便物ニ料金相當ノ郵便切手ヲ添ヘ之ヲ差出スヘシ

前項ノ郵便物ハ其ノ表面ニ差出人ニ於テ左記雛形ノ印章ヲ押捺スヘシ

直徑凡三センチメートル

差出局名
切手別納郵便

●航空郵便規則、日滿郵便規則ニ依ル航空郵便物及外國郵便規則ニ依リ本邦ノ航空郵便線路ニテ遞送スル航空郵便物取扱ノ件

昭和四年十二月十八日
訓令第五百九十七號

改正　昭八年五月訓第八〇號　集配郵便局

航空郵便規則、日滿郵便規則ニ依ル航空郵便物及外國郵便規則ニ依リ本邦ノ航空郵便線路ニテ遞送スル航空郵便物ハ昭和五年一月一日ヨリ左記ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

一、集配局（大泊局及本斗局ヲ除ク）ニ於テハ左ノ區別ニ依リ取扱ヒ左記所屬集中局ニ宛送付スヘシ

集中局	受持區域
本斗	本斗郡、眞岡郡、野田郡、泊居郡、久春內郡、鵜城郡、名好郡ノ各局
大泊	前記以外ノ各局

（イ）普通々常郵便物ハ別ニ區分シ把束トナスカ又ハ適宜ノ封筒ニ納入スヘシ

（ロ）書留及價格表記通常郵便物ハ他ノ書留及價格表記通常郵便物ト合セ赤行囊ニ納メ締切トナスヘシ

（ハ）小包郵便物ハ大行囊締切トナシ又締切數量ナキモノハ赤行囊ニ納メ他ノ小包又ハ通常郵便物ト合セ大行囊ニ納メ締切トナスヘシ

二、大泊局及本斗局ニ於テハ自局引受ニ係ルモノト繼越ニ係ルモノトヲ合セ左ノ區別ニ依リ取扱ヒ東京中央局ニ宛送付スヘシ

（イ）普通々常郵便物ハ別ニ區分シ把束トナスカ又ハ適宜ノ封筒ニ納入スヘシ

（ロ）書留及價格表記通常郵便物ハ別ニ區分シ赤行囊ニ納メ締切トナスヘシ

（ハ）前記（イ）及（ロ）ニ依リ取扱ヒタル郵便物ハ數量ノ多寡ニ不拘大行囊ニ納メ締切トナスヘシ

（ニ）小包郵便物ハ大行囊締切トナシ又締切數量ナキモノハ前記（ハ）ノ大行囊ニ併入スヘシ

三、航空郵便物ノ把束記票、航空郵便物ヲ納メタル封筒及行囊記票ニハ「航空」ト朱記スヘシ

●樺太航海補助規程第十二條ニ依ル船舶遞送郵便物取扱手續

昭和八年三月三十一日
告示第五十七號

樺太航海補助規程第十二條ニ依ル船舶遞送郵便物取扱手續左ノ通定メ昭和八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

樺太航海補助規程第十二條ニ依ル船舶遞送郵便物取扱手續

第一條　樺太航海補助規程第十二條ニ依ル郵便物ノ取扱方ニ關シテハ本

手續ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第二條　郵便物遞送ノ航路及沿線受渡局ハ別ニ之ヲ定ム

第三條　本手續中左ノ用語ハ下記ノ意義ヲ有ス

一　船舶郵便受渡所　郵便物遞送船舶ノ各航路出港地及入港地ニ於ケル運送業者ノ本店、支店又ハ代理店

二　出港地　各航路ノ起點地

三　入港地　各航路ノ寄港地及終點地ノ併稱

四　最終入港地　各航路ノ終點地

五　沿線受渡局　一ノ航路ニ於ケル出港地及入港地ニ於テ船舶又ハ船舶郵便受渡所ト郵便物ノ受渡ヲ爲スヘキ郵便局出張所ヲ包含ス以下倣之

第四條　郵便局、船舶郵便受渡所及船舶各相互間ノ郵便物遞送ハ各航路出港地及入港地ノ船舶郵便受渡所ニ於テ之ヲ執行スルモノトス

第五條　船舶郵便受渡所ハ遞送スヘキ郵便物ヲ受取ル爲船舶出港ノ時刻迄ニ積入得ヘキ相當ノ時刻ヲ計リ受取人ヲ當該郵便局ニ差向ケ其ノ受取人ヲシテ郵便行嚢送致證原符附錄第一號式ニ受領印ヲ押捺シ郵便物ヲ持戻ラシムヘシ

前項ノ持戻リタル郵便物ハ之ヲ受取リタルトキ之ニ添附ノ郵便行嚢送致證附錄第一號樣式ト對照シ其ノ送致證ト共ニ直ニ船舶ニ引渡スヘシ

第六條　船舶ニ於テ前條ノ郵便物ヲ受取リタルトキハ之ニ添附シタル郵便行嚢送致證ニ對照シ該證ニ受領印ヲ押捺シ之ヲ船舶郵便受渡所ニ返付スヘシ

第七條　船舶郵便受渡所ハ船舶入港ノ時刻ヲ計リ豫メ艀船出發ノ準備ヲ爲シ船舶入港ヲ認メタルトキハ速ニ艀船ヲ漕出シ船舶ヨリ郵便物ヲ受取リ持戻リ之ニ添附ノ郵便行嚢送致證及同原符ト共ニ當該郵便局ニ引渡シ送致證原符ハ受領印ヲ受ケ持戻ラシムヘシ

船舶入港スルモ相當時間内ニ郵便物受取ノ爲受取人出船セサルトキハ船舶ニ於テ郵便物ノ陸揚ヲ爲シ當該船舶郵便受渡所又ハ郵便局ニ引渡スヘシ

第八條　船舶ニ於テ前條ノ郵便物ヲ引渡ストキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　船舶郵便受渡所ニ引渡ストキハ郵便行嚢送致證及同原符ヲ添附シ附錄第二號ノ船舶郵便引渡簿ニ其ノ受領印ヲ押捺セシメタル上引渡スヘシ

二　船舶ヨリ郵便局ニ直接引渡ストキハ郵便行嚢送致證及同原符ヲ添附シ送致證原符ニ其ノ受領印ヲ受ケ持戻ラシムヘシ

第九條　船舶郵便受渡所ニ於テ第六條ノ郵便行嚢送致證及第七條第一項ノ郵便行嚢送致證原符ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ點檢シ六箇月間保存スヘシ

船舶ニ於テ前條第二號ノ郵便行嚢送致證原符ノ返付ヲ受ケタルトキハ之ヲ點檢シ六箇月間保存スヘシ

前條第一號ノ引渡簿ハ船舶ニ於テ六箇月間保存スヘシ

第十條　郵便物ヲ遞送スヘキ船舶ハ郵便物ノ積替ヲ終ヘスシテ出港スヘカラス但シ風波ノ爲郵便物ノ揚卸ヲ爲ス能ハサル場合又ハ出港定時刻前積入ヲ爲シ得ヘキ時限迄ニ郵便局ニ於テ郵便物ヲ引渡ササルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　郵便物ハ毀損、濡濕、盜難又ハ紛失其ノ他損害ノ虞ナカラシムヘシ

船中ニ於テハ前項損害ノ虞ナキ場所ヲ選定積載シ船長、一等運轉士又ハ事務長ヲシテ保護ニ當ラシムヘシ

第十二條　船舶ニ於テ郵便物遞送途中郵便物中ヨリ液體浸出シ又ハ行嚢ヲ濡濕シタルカ爲在中郵便物ヲ汚損スルノ虞アルコトヲ發見シタルトキハ船長、一等運轉士又ハ事務長ニ於テ濡濕ノ顛末ヲ詳記シタル書面ヲ添ヘ之ヲ最寄受渡局ニ引渡スヘシ

第十三條　船舶ニ於テ郵便物遞送途中郵便物ヨリ發火若ハ他ヨリ郵便物ニ火ヲ失シ又ハ前條ノ事故ニシテ事態重大ナルカ若ハ受渡局迄ノ距離遠隔ニシテ遞送途中甚シク郵便物ヲ汚損スヘシト思料スルトキハ船長、一等運轉士又ハ事務長ニ於テ立會人ヲ設ケ行嚢ヲ開披シ臨機應急ノ手當ヲ加ヘ再ヒ行嚢ニ納メ嚴重ニ封緘ヲ施シ當該開披者ノ認印ヲ以テ封印シ其ノ顛末ヲ詳記シタル船長、一等運轉士又ハ事務長ノ書面ヲ添ヘ之ヲ最寄受渡局ニ引渡スヘシ但シ充分ノ手當ヲ施シ事故再發ノ虞ナキトキハ名宛局ニ引渡スヘシ

第十四條　船舶ニ於テ郵便物遞送途中郵便行嚢ノ毀損アルヲ發見シタルトキハ在中郵便物脫出又ハ盜難ノ虞ナキ樣相當手當ヲ加ヘ其ノ顛末ヲ詳記シタル船長、一等運轉士又ハ事務長ノ書面ヲ添ヘ之ヲ名宛局ニ引渡スヘシ

第十五條　船舶郵便受渡所又ハ船舶ニ於テ郵便物受領後船舶出港前前三條ノ事故アルヲ發見シタルトキハ事由ヲ申出テ之ヲ差出郵便局ニ引渡シ關係證書、帳簿ノ訂正ヲ受クヘシ但シ船舶出港前該事故ヲ發見シタル場合ニ於テ本手續ノ爲其ノ出港ニ著シキ支障ヲ生スヘシト思料シタルトキハ前三條ノ例ニ依リ取扱フヘシ

第十六條　郵便物ヲ遞送スル船舶ニハ其ノ前檣ニ郵便旗附錄第三號雛形ヲ揭クヘシ但シ陸揚スヘキ郵便物ナキトキハ入港投錨前ニ取卸シ出港セムトスルトキハ郵便物積入ヲ爲シ得ヘキ時限前更ニ揭揚スヘシ

前項ノ船舶ニシテ夜中又ハ晝間濃霧雨雪中其ノ旗章ヲ識別シ能ハサル場合入港スルトキハ投錨ト同時ニ汽笛長聲四發ヲ一回限リ吹鳴スヘシ但シ前項但書ノ場合ハ吹鳴スヘカラス

第十七條　郵便物遞送用ノ艀船又ハ端艇ニハ雨潮其ノ他ノ汚損ヲ防クヘキ相當準備ヲ爲シ置クヘキモノトス

郵便物遞送用ノ艀船又ハ端艇ニハ晝間ハ郵便旗夜間ハ郵便徽章雛形ハ前條郵便旗ニヲ附シタル角燈又ハ提燈ヲ揭揚スヘシ同シ

第十八條　船舶郵便受渡所郵便局相互間ノ郵便物遞送ニハ夜間ハ郵便徽章ヲ附シタル角燈又ハ提燈ヲ携帶セシメ又雨雪ノトキハ濡濕ヲ防クヘキ桐油ヲ以テ郵便物ヲ包裝スヘシ

第十九條　船舶郵便受渡所船舶相互間ノ郵便物ヲ海上遞送スルトキハ船舶郵便受渡所主務員、船長、一等運轉士又ハ事務長若ハ各其ノ代理人ヲ附添ハシムヘシ

第二十條　郵便物ノ取扱方ハ船舶郵便受渡所事務員、船長、一等運轉士又ハ事務長若ハ各其ノ代理人ニ於テ執行スヘシ

第二十一條　陸上遞送人ニハ實直强壯ナル者ヲ選定スヘシ

第二十二條　遞送郵便物ハ他ノ貨物ニ先チ陸揚スヘシ天災事變其ノ他ノ事由ニ依リ航海途中ニ於テ積替又ハ陸揚スル時亦同シ

第二十三條　郵便物ノ陸上運送遲力ハ平時一時間六キロメートル海上運送ノ郵船、端艇ニ在リテハ平時一時間三海里トス

第二十四條　郵便物ハ差立郵便局ニ於テ郵便行嚢ニ納メ又小包郵便物ニシテ郵便行嚢ニ納メサルモノハ結束トシテ封印ヲ爲スニ依リ其ノ封印ノ儘取扱フヘシ

第二十五條　總テ郵便物受渡ノ場合ハ必ス受授者雙方立會ノ上郵便行嚢又ハ結束封印ヲ檢査シ差立局名引渡局名及員數等ヲ郵便行嚢送致證ニ對照ノ上受渡ヲ爲スヘシ

第二十六條　郵便函ヲ設置シアル船舶ニ在リテハ沿線受渡局所在地ヘ入港ノ際船長、一等運轉士又ハ事務長ニ於テ之ヲ開函シ該地若ハ船舶進行ノ反對方面ニ達スヘキ又ハ該地ヲ經過スヘキ郵便物ヲ取出シ郵便函ハ前ノ如ク閉鎖シ取出シタル郵便物ハ之ヲ郵便行嚢ニ納メ封印ヲ爲シ他ノ郵便物ト共ニ當該郵便局ニ引渡スヘシ

第二十七條　前條郵便物ノ包裝ニ用ユル郵便行嚢ハ最初ノ受渡局ヨリ「郵便函用何箇」ト記載シタル標札ヲ附シ差出シタルモノヲ使用スヘシ最終ノ受渡局ニ達シタルトキ前項郵便行嚢ノ殘餘アルトキハ之ヲ一ノ結束ト爲シ之ニ「郵便函用何箇不要」ト記シタル紙札ヲ附シ他ノ郵便物ト共ニ其ノ他ノ郵便局ニ引渡スヘシ

第二十八條　郵便函ノ鍵ハ船長、一等運轉士又ハ事務長ニ於テ之ヲ保管スヘシ

第二十九條　郵便函ヨリ取出シタル郵便物中他ノ郵便物ヲ汚損スル虞アルモノアルトキハ其ノ害ヲ防ク樣適當ノ手當ヲ爲スヘシ

第三十條　郵便物運送船舶ニシテ船體又ハ機關ノ破損其ノ他已ムヲ得サル事故ニ依リ規定ノ發著日時又ハ入港地等ヲ臨時變更スルカ若ハ休航シ又ハ他ノ船舶ヲ以テ代船セシムルトキハ其ノ事由發著日時變更ノトキハ其ノ變更シタル日時又ハ他ノ船舶代用ノトキハ其ノ代用船名共ヲ速ニ最初ノ受渡局ニ報告スヘシ

第三十一條　郵便物運送船舶航行中船體又ハ機關ノ破損其ノ他ノ事故ニ依リ航行スル能ハサル場合ニ於テハ其ノ郵便物ヲ陸揚シ其ノ地最寄ノ郵便局又ハ市町村役場ニ送致シ其ノ郵便物ノ安全ニ送達セラルヘキ臨機ノ處分ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ其ノ送致先ヨリ相當ノ受領證ヲ取リ置キ且速ニ電報ヲ以テ其ノ旨ヲ關係局ニ報告スヘシ

第三十二條　風波其ノ他ノ事故ニ依リ入港地ヲ臨時變更シタルトキハ其ノ豫定ノ入港地ニ於テ受渡ヲ爲スヘキ郵便物ハ速達上利便ト思料スル受渡局ヘ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ之ヲ送致シ前條ノ例ニ依リ取扱フヘシ

郵便行嚢送致證原符

（號數　　）

本證ノ宛名

有　證中在

種別		締切トセザルモノ	締切	積替又ハ保管	通常	小包	先渡引同上
大行嚢	數箇	通常					
		小包					
空行嚢束	結數箇						

締切大行嚢内譯	宛名	箇數 通常	箇數 小包	宛名	箇數 通常	箇數 小包

（摘要）　　差立日附印

郵便行嚢送致證

（號數　　）

本證ノ宛名

有　證中在

種別		締切トセザルモノ	締切	積替又ハ保管	通常	小包	先渡引同上
大行嚢	數箇	通常					
		小包					
空行嚢束	結數箇						

締切大行嚢内譯	宛名	箇數 通常	箇數 小包	宛名	箇數 通常	箇數 小包

（摘要）　　到著日附印　　差立日附印

（注意）

一　船舶運送郵便物差立ノ場合

1　郵便行嚢送致證及同原符ハ郵便局ニ於テ船舶運送郵便物ヲ差立

〔樣法〕

ツル場合ニ調製スルモノトス

2　船舶ニ於テ船舶郵便受渡所ノ持出人ヨリ郵便物ヲ受取リタルトキハ其ノ主務者ニ於テ郵便行嚢送致證餘白ニ受領證印ヲ爲シ直ニ返付スヘシ

二　船舶遞送郵便物到著ノ場合

1　郵便行嚢送致證及同原符ハ船舶ニ於テ到著郵便物ヲ船舶郵便受渡所又ハ郵便局ヘ引渡ノ都度調製スルモノニシテ本證ノ宛名及締切欄ノ記入ヲ爲シ差立日附印欄ニハ船名及差立日時ヲ記入シ船名ノ傍ニ取扱主務者ノ印ヲ押捺スルモノトス

2　船舶又ハ船舶郵便受渡所ヨリ郵便物ヲ郵便局ニ引渡ス場合ハ郵便行嚢送致證原符餘白ニ受領印又ハ日附印ヲ押捺セシムルモノトス

附錄第二號　通常郵便（小包郵便）引渡簿

通常郵便（小包郵便）引渡簿（何々）丸

郵便差立局	郵便引渡局／郵便行嚢數
合計	

船舶取扱主務者印

昭和（何）年（何）月（何）日午（前又ハ後）（何）時（何）分發

船舶發著及郵便物引渡日時	
船舶著	月　日　時　分
郵便引渡	月　日　時　分
船舶發	月　日　時　分

郵便物受領者印　　印

〔樺法〕

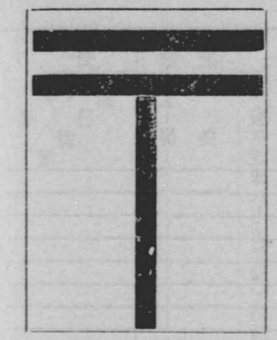
（注意）

一　此ノ帳簿ハ通常郵便ト小包郵便トヲ區別シ船舶ニ於テ郵便物ヲ船舶郵便受渡所又ハ郵便局ニ引渡ノ際式ノ如ク記入スルモノトス

二　船舶郵便函ヨリ取出シタル郵便物ヲ納ムル行嚢引渡ノ時ハ郵便差立局ノ欄ニ「船舶郵便函」ト記入スヘシ

三　郵便室行嚢及小包郵便ノ行嚢ニ納メサルモノアルトキハ行嚢數ノ欄ニ各其ノ結束ヲ以テ一箇トシテ計算シタル總數ヲ記シ其ノ傍ニ「內室何箇」又ハ「內結束何箇」（小包郵便ニ限リ）ト記入スヘシ

附錄第三號　（郵便旗雛形）



注意

白地ニ赤色ノ「T」形ヲ表示スルモノニシテ旗及「T」形ノ大キサハ體裁ヲ害セサル範圍ニ於テ適宜トス

●郵便行嚢整理規程

大正十五年五月三十一日
訓令第百三十一號

改正　昭五年六月訓令二六五號

內務部　郵便局

郵便行嚢整理規程左ノ通改正ス

郵便行嚢整理規程

第一條　郵便行嚢ノ整理ニ關シテハ本規程ノ定ムル所ニ依ルヘシ但シ郵便行嚢ノ種類、使用範圍及封緘方ニ關シテハ遞信省郵便行嚢規程第二章ニ準據スヘシ

第二條　郵便行嚢ハ常ニ重要ナルコトヲ念トシ其ノ出納ハ正確ヲ期スヘシ

郵便行嚢及其ノ附屬品ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ其ノ情狀ニ依リ損害ノ全部又ハ一部ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

第三條　郵便行嚢整理ノ爲大泊郵便局ヲ行嚢主管局（以下單ニ主管局ト稱ス）トシテ左ノ事項ヲ掌理セシム

一　各局ノ不足行嚢ノ補給

二　各局ノ過超行嚢ノ廻收

三　毀損行嚢ノ修補及處分

第四條　管內各局ト內地各局トノ行嚢ノ發著ハ遞信省郵務局ノ通知ニヨリ毎月之ヲ計算シ內地差立過超ノ場合ハ主管局ヨリ最近船便ヲ以テ之ヲ函館局ニ返遞シ又管內各局差立過超ノ場合ハ函館局ヨリ主管局ニ送付ヲ受クルモノトス

【棒法】

第五條　主管局ニ於テハ所管行嚢ノ出納ヲ證明スル爲行嚢出納帳簿及行嚢出納報告（附錄第二號炭酸紙使用）ニ定式ノ記入ヲナシ行嚢出納報告ハ翌日內務部遞信課（以下單ニ遞信課ト稱ス）ニ提出スヘシ

第六條　主管局ハ各局ヨリ送付ノ出納報告ニヨリ各局ト送受スル行嚢ノ著否ヲ調査スヘシ

第七條　主管局ハ毀損行嚢ニ對シ修理ヲ爲スモ再ヒ使用ニ堪ヘスト認ムルモノハ棄却行嚢トシテ處理スヘシ

棄却行嚢ハ行嚢修理ノ材料トスヘシ

第八條　行嚢常備數ハ別ニ之ヲ定ム

第九條　各局ニ於テハ遞送毎ニ發著行嚢ヲ調査シ毎日最終便ノ取扱ヲ終リタルトキニ行嚢出納帳及行嚢出納報告（附錄第一號炭酸紙使用）ニ定式ノ記入ヲナシ行嚢出納報告ハ一ヶ月上中下ノ三旬ニ分チ次旬二日以內ニ遞信課及主管局ニ提出スヘシ

第十條　各局ハ行嚢出納ノ狀況ニ依リ毎日最終便ノ取扱ヲ終リタル時刻ニ於テ行嚢常備數ヨリ超過シタル行嚢ハ超過行嚢トシテ遲滯ナク之ヲ主管局ニ送付スヘシ但シ次便ニ於テ直チニ不足ヲ生スル虞アルトキハ實際ノ狀況ニ依リ之カ送付ヲ停延スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ其ノ行嚢數ヲ當日出納報告摘要欄ニ記載スヘシ

第十一條　總テ行嚢常備數ニ不足ヲ生シタルトキハ之カ補給方ヲ主管局ニ請求スヘシ但シ他ニ補給ノ見込アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

行嚢不足ヲ生シ主管局ヨリ補給ヲ受クル迄ナキトキハ附近局相互間ニ於テ交互轉用スルコトヲ得此ノ場合ハ出納報告摘要欄ニ其ノ旨附記スヘシ

第十二條　行嚢ヲ送付スル場合ハ左記ニ依リ締括スヘシ

【棒法】

一　完全行嚢ト毀損行嚢ハ之ヲ區別スルコト

二　大行嚢ハ一個毎ニ又小行嚢ハ相當數肩ヲ合セ鄭重ニ折疊ムコト

第十三條　行嚢送付ノ場合ハ無料普通小包郵便物トシ宛名記票ハ大行嚢ニアリテハ成ルヘク其ノ記票剩ヲ利用スヘシ

第十四條　毀損行嚢ノミヲ締括シタルモノノ宛名記票ニハ「毀」ノ文字ヲ記載スヘシ

第十五條　行嚢ノ送付ヲ證明スル爲行嚢送付帳及同送付證（附錄第三號）ニ定式ノ記入ヲナシ送付證ハ行嚢ニ添附スヘシ但シ送付行嚢多數ノ場合ハ送付證ヲ添附シアル行嚢ノ外裝記票剩ニ「送付證添附」ト記入スヘシ

第十六條　無集配局ト集配受持局間ニ發著スル行嚢ハ每取集便ノ取扱ヲ終リタルトキニ於テ其ノ出納ヲ計算シ發送個數ニ比シ到著個數ノ多キモノハ次ノ取集便ヲ以テ相互ニ其ノ過超セル分ヲ返付スヘシ

附　則

本令ハ大正十五年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年四月遞訓令第三十七號郵便行嚢整理規程ハ之ヲ廢止ス

行囊出勢報告（紙）

摘要	入ノ部			出ノ部			殘高			常備高			過不足		
	並	赤	白	並	赤	白	並	赤	白	並	赤	白	並	赤	白
	便	便	便	便	便	便	便	便	便	便	便	便	便	便	便
	甲乙	甲乙	甲乙	甲乙	甲乙	甲乙	甲乙	甲乙	甲乙	甲乙	甲乙	甲乙	甲乙	甲乙	甲乙
月日															
月日															
月日															
月日															
月日															
月日															
月日															
月日															
月日															
計															

摘要

【樣法】

帳付送嚢行

要摘	白行嚢	赤行嚢	長行嚢	並行嚢	種別 甲	種別 乙	個數	印日附	任印 差立主	便名 差立	局名 到著	番號 差立
								印日 差立附				

證付送嚢行

印日附到著	白行嚢	赤行嚢	長行嚢	並行嚢	種別 甲	種別 乙	個數	印主任受取	要摘	任印 差立主	便名 差立	局名 到著	番號 差立
									印日 差立附				

記入心得

一　越高ノ欄ニハ前旬末日ノ殘高ヲ記入シ第二欄以下ノ記入ヲ要セス

二　殘高ノ第一欄ニハ前旬ノ越高ト入トヲ加ヘタルモノト出トノ差ヲ又第二欄以下ニハ前日ノ殘高ト入トヲ加ヘタルモノト出トノ差ヲ記入スヘシ

三　常備數ハ第一欄ニ記入シ第二欄以下ノ記入ヲ要セス

四　過不足ノ欄ニハ不足數ノミヲ記入スヘシ

五　必要ニ依リ過超行嚢ノ送付ヲ停延シタルトキハ又ハ附近局相互間ニ於テ行嚢ヲ交互ニ轉用シタルトキハ其ノ旨當日ノ摘要欄ニ記入スヘシ

六　摘要欄ニハ別ニ明示スルモノノ外後日ノ參考トナルヘキ事項ヲ記入スヘシ

七　個數ハ羅馬數字ヲ以テ記載スヘシ

記入心得

一　差立番號欄ニハ同一局ニ達スヘキ各行嚢ノ差立番號ヲ凡テ記載スルモノトス

二　摘要欄ニハ交付ノ場合ハ交付、毀損行嚢送付ノ場合ハ「毀損」ト記載スルノ外後日參照トナルヘキ事項ヲ記入スヘシ

【樣法】

主管局行嚢出納帳（報日）

種別				並 甲	並 乙	長	赤 甲	赤 乙	白	印	附	日	摘要
越高													
入ノ部	納付月日及局名	月	日 局										
		月	日 局										
		月	日 局										
		月	日 局										
		月	日 局										
		月	日 局										
		月	日 局										
		月	日 局										
		月	日 局										
		月	日 局										
		月	日 局										
	濟修理損毀												
	計合嚢行全完（一）												
	計合嚢行損毀												
出ノ部	補給局名	局											
		〃											
		〃											
		〃											
		〃											
		〃											
	還返省信還												
	計合（二）												
差引出入ノ（二）ト（一）ト													
常備嚢													
殘高													
毀損行嚢	越高												
	受入												
	棄却												
	引差出入												

〔棒法〕

記入心得

一　入ノ部納付局名ノ欄ニハ各局ヨリ過超及毀損行嚢トシテ納付ノモノヲ行嚢送付證ニヨリ送付月日及局名ヲ記入スヘシ

二　個數欄ニハ毀損行嚢ト完全行嚢トヲ別記シ毀損行嚢數右方ニ×印ヲ冠スコト

三　毀損修理濟欄ニハ主管局ニ於テ毀損行嚢ヲ修理シタル個數ヲ記入スヘシ

四　出ノ部、補給局名欄ニハ當日補給シタル局名ヲ記入スルコト

五　還信省返還欄ニハ毎月還信省郵務局ヨリノ通知ニヨリ返還シタル數ヲ記入スヘシ

六　出入差引欄ハ入ノ部完全行嚢合計ト出ノ部合計トノ差引ヲ記入スヘシ

七　常備數ノ欄ニハ當該局ニ於テ（大泊局）令達ヲ受ケタル數ヲ記入スヘシ

八　殘高ノ欄ニハ翌日ニ越スヘキ個數ヲ記入スヘシ

九　毀損行嚢越高欄ニハ修理未濟ニシテ前日ヨリ繰越シタル數ヲ記入スヘシ

一〇　受入ノ欄ニハ入ノ部毀損行嚢計ヲ轉記スヘシ

一一　棄却欄ニハ當日棄却處分濟ノ個數ヲ記入スヘシ

一二　出入差引欄ハ越高ト受入ノ合計ト入ノ部毀損行嚢修理濟ト棄却トノ合計ノ差引ヲ記入スヘシ

●不能還付郵便物處理手續

大正十年十月十二日
遞信令第六十六號

改正　昭七年八月訓令一八二號

内務部　郵便局

不能還付郵便物處理手續

規定アルモノ、外本手續ニ依リ處理スヘシ

第一條　還付シ能ハサル郵便物（以下不能還付郵便物ト稱ス）ノ取扱ニ關シテハ別段ノ定アルモノ、外本手續ニ依リ處理スヘシ

第二條　特定郵便局ニアラサル郵便局（以下普通局ト稱ス）ニ於テハ還信省管内ニ於ケル一二等局ト同樣ノ取扱ヲ爲スヘシ

第三條　不能還付郵便物ヲ郵便日記帳ニ記入スルヲ不便トスル局ハ不能還付郵便物登記簿（第一號樣式）ヲ設クヘシ

第四條　本廳ニ送付スル不能還付郵便物ハ送付書（第二號樣式）ヲ添附シ之ヲ内務部還信課ニ宛テ發送スヘシ

第五條　普通局ニ於テハ不能還付郵便物處理原簿ニ種類別月計ヲ付シ保管期間終了月日ヲ記入シ置クヘシ

〔棒法〕

第六條　普通局ニ於テ保管期間終了セル不能還付郵便物ハ立會者ヲ設ケ燒却シ原簿ニ其ノ旨記入シ置クヘシ

第七條　普通局ニ於テハ毎月不能還付郵便物處理數ヲ調査シ第三號樣式ニ依リ翌月七日迄ニ之ヲ報告スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス明治四十三年九月訓令第三五號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第一號樣式

不能還付郵便物登記簿

年月日	郵便物區別	受取人宿所氏名	差出人宿所氏名	遞信課送付月日	備考

第二號樣式

月　日　　局　名

內務部遞信課宛

不能還付郵便物送付書

郵便物種類	受取人宿所氏名	差出人宿所氏名	備考

●郵便物ノ配達ニ關スル件

明治四十年四月一日
勅令第三十號

改正　昭二年一二月勅令四〇號

樺太廳郵便局ニ於テハ郵便區市內及遞送沿線地域竝ニ別ニ指定スル地域ノ外郵便物ノ配達ヲナササルコトヲ得

前項ノ地域ハ樺太廳郵便局長之ヲ指定ス

第一項ニ依リ配達セサル郵便物ハ郵便局所ニ留置受取人ノ出頭ヲ待チテ之ヲ交附ス差出人ニ郵便物ヲ還付スル場合モ亦同シ

樺太廳郵便局ニ於テハ當分ノ內郵便物及電報ノ外別配達ヲ取扱ハス

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ施行ス

【樺法】

第三號樣式

年　月　日　　局　名

內務部遞信課宛

（何）月中不能還付郵便物處理報告

調査通數	送達通數									備考
一	二	三	四	五	脫出	計	一	二	三	四	五	脫出	計	備考
種	種	種	種	種	品		種	種	種	種	種	品		

●遞送人兼掌集配規程

昭和三年六月十八日
訓令第三百四十九號
內務部　郵便局（無集配局ヲ除ク）

遞送人兼掌集配規程左ノ通定ム

右訓令ス

遞送人兼掌集配規程

第一條　郵便集配規程第十三條第二項第二號ニ依ル駐在通信手ト集配受持局間ニ於ケル郵便物ノ媒介竝ニ遞送人兼掌集配（以下單ニ兼掌集配ト稱ス）トニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ據ル

本令ニ明文ナキ事項ハ一般規定竝ニ駐在集配郵便物受授及保管手續（以下單ニ駐在集配手續ト稱ス）ニ據ル

第二條　兼掌集配ヲ行フ郵便局兼掌集配區域竝其ノ遞送便ハ別ニ之ヲ指定ス

前項ノ郵便局ハ遞送線路又ハ遞送時刻等ノ關係ニ依リ集配受持局以外ノ郵便局ヲ指定スルコトアルヘシ

第三條　前條ノ遞送便ニハ必要ニ應シ遞送猶豫時間ヲ附與ス

第四條　兼掌集配ヲ行フ通信手ニハ其ノ集配受持局ニ於テ一般規定ニ據ル集配用物件ヲ交付スヘシ但シ通信手所屬局ニ於テ交付スルモノハ之ヲ除ク

第五條　他局通信手ヲシテ兼掌集配ヲ行ハシムル場合郵便物ノ受授ハ左記各號ニ據ルヘシ

一、自局ニ於ケル受授手續ハ一般ノ例ニ據ルノ外通信手トノ受授ヲ證明スル爲集配郵便物送達帳及同送達證ヲ調製シ送達證ハ之ヲ通信手ニ交付スヘシ特殊郵便配達證取立濟ノ集金郵便委託書料金取立書保險集金票及取立金竝事故郵便物其ノ他ノ物件ハ次ノ遞送便ニ依リ之ヲ受領スヘシ（駐在集配手續ニ依ルモノヲ使用以下倣之）ヲ調製

二、駐在通信手トノ間ニ送受スヘキ郵便物其ノ他ヲ集配所又ハ交換所ニ於テ受授セシムル場合ハ其ノ受授ヲ證明スル爲集配郵便物送達帳及同送達證ヲ調製シ送達證ハ之ヲ通信手ニ交付シ駐在通信手ト媒介ノ通信手トノ受授ノ例ニ準シ處理セシムヘシ

三、二以上ノ通信手ノ媒介ヲ經テ集配セシムヘキ郵便物其ノ他ヲ集配所又ハ交換所ニ於テ受授セシムル場合ハ前號ノ例ニ據ル

第六條　兼掌集配通信手屬局ヲタルトキハ一般ノ規定ニ據ルノ外前條第一號ノ場合ニ於テハ集配郵便物送達證ニ通信手ヲシテ相當事項ヲ記載差出サシメ現物ト對照勘合ヲ確メ嚴重保管ノ上次便遞送ノ際擔當通信手ニ之ヲ引渡スヘシ

第七條　兼掌地域內設置ノ郵便函ハ特ニ指定スル場合ヲ除クノ外通過ノ都度（往便復便共）開函セシムヘシ但シ同日遞送先ト反對ノ方面ニ向ケ同所ヲ通過スル兼掌集配通信手アル場合同方面ニ送達スル郵便物ハ把束ト爲シ郵便函ニ投入セシムヘシ

第八條　兼掌集配通信手ノ取集ニ係ル郵便物ハ其ノ取集郵便函カ他局區內ナル場合ニ於テモ總テ到著局（立寄局ノ場合其ノ立寄局ニ至ルマデ）ノ引受トシテ取扱フヘシ

第九條　二便以上ノ遞送便アル場合事故又ハ遲延等ノ爲指定遞送便ニ依

【樺法】

リ集配シ難キ場合ハ適宜兼掌遞送便ヲ變更シ又ハ二便以上ニ渉リ集配スルカ若ハ他局通信手ヲシテ集配セシメ其ノ旨關係遞送記事欄ニ記載スヘシ但シ事故其ノ他ノ爲常ニ指定遞送便ニ依リ集配シ難キトキハ其ノ旨内務部遞信課ニ報告スヘシ

前項ノ場合ニ於テ他ニ兼掌スヘキ遞送便ナキトキハ事故ノ解止ヲ俟テ次回遞送便ニ依リ集配スヘシ

第十一條　兼掌集配區ニアリテハ服務時間帳ノ記載ヲ省略スヘシ

第十二條　兼掌集配ニ要スル經費ハ特定郵便局ニ限リ通信手所屬局ヘ當該遞送費中ニ包含支給ス

第十三條　兼掌集配郵便物多量ノ爲當該遞送便ニ於ケル規定荷量ヲ超過シタル場合ハ特定郵便局ニ限リ其ノ超過量日ニ對シ特定郵便局渡切經費支給細則第五條ニ依リ過量遞送費ヲ支給ス

第十四條　本令中第十二條第十三條ヲ除ク外遞送受負者ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和三年七月十五日ヨリ之ヲ施行ス

遞送集配受負規程

昭和四年六月二十六日
告示第百三十四號

遞送集配受負規程左ノ通定メ昭和四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

遞送集配受負規程

第一條　郵便物郵便物ノ遞送集配上必要ナルノ遞送、集配及電報配達ノ受負ニ關シテハ本規程ノ定ムル所ニ據ル

第二條　本規程ニ於テ受負人ト稱スルハ郵便物ノ遞送、集配又ハ電報配達ノ受負ヲ爲ス者ヲ謂フ

第三條　左記各號ノ一ニ該當スルモノハ受負人タルコトヲ得ス

一　無能力者

二　故意ヲ以テ通信ニ關スル罪ヲ犯シタルモノ

三　前號以外ノ犯罪ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

四　相當ノ資產ヲ所有セサル者

五　破產ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者

六　本規程ニ違背シ其ノ受負ヲ解除セラレタル者

前項ノ規定ハ法人ニ在リテハ第一號乃至第三號、第五號及第六號ニ限リ其ノ代表者ニ之ヲ適用ス

第四條　受負人ハ所屬郵便、電信及電話官署以下單ニ所屬局所在地ニ住居スヘシ

前項ニ依リ難キモノハ所屬局所在地ニ事務所ヲ設クヘシ

第五條　受負ニ關スル事項及其ノ期間ハ棒太廳長官之ヲ定メテ受負人ニ命令ス其變更ヲ要スルトキ亦同シ

受負期間内ト雖モ受負事項ニ變更ヲ要スルトキハ其ノ受負ヲ解除スルコトアルヘシ

第六條　受負人前條ニ依リ命令書ノ交付ヲ受ケタルトキハ身元引受人ト連署シタル請書ヲ棒太廳長官ニ差出スヘシ

第七條　受負人ハ其ノ受負ニ關シ不可抗力ニ因ルノ外一切ノ責ニ任スヘシ遞送人又ハ配達人ノ爲シタル行爲ニ付テモ亦同シ

二人以上共同シテ受負ヲ爲ス場合ハ各自連帶シテ前項ノ責ニ任スヘシ

第八條　受負人ハ其ノ受負ニ關シ所轄局所ノ指揮ヲ受クヘシ

第九條　受負人左記各號ノ一ニ該當シタルトキハ其ノ受負ヲ解除ス但シ法人ノ代表者ニシテ本條ニ該當シタルトキ其ノ代表者ヲ變更シタル場合ハ此ノ限リニ在ラス

一　第三條第一項第一號乃至第五號

二　死亡、失踪又ハ法人ノ解散シタルトキ

三　職務ノ職廢又ハ疾病等ニ因リ棒太廳長官ニ於テ不適任ト認メタルトキ

第十條　受負人ハ身元引受人ヲ定ムヘシ但シ法人ニ限リ棒太廳長官ノ認定ニ依リ特ニ之ヲ免除スルコトアルヘシ

身元引受人ハ別紙書式ニ依ル保證書ヲ棒太廳長官ニ差出スヘシ

第十一條　左記各號ノ一ニ該當スル者ハ身元引受人ト爲スコトヲ得ス

一　第三條第一項各號及第二項

二　郵便、電信及電話官署ノ公務員又ハ遞送、集配受負人タル者若ハ其ノ身元引受人タルモノ

三　受負ヲ爲ス該當法人ノ社員、株主又ハ其ノ使用人

四　受負人ノ住所地若ハ其ノ附近ニ住居ヲ有セサル者

但シ事務所ヲ設ケタル受負人ノ身元引受人ニシテ其ノ事務所々在地ニ住所ヲ有スル者ハ此ノ限リニ在ラス

第十二條　身元引受人ハ受負人其ノ資格ヲ失ヒタルトキハ直ニ棒太廳ニ屆出テ更ニ受負人ノ撰定アルマデ遲滯ナク其ノ職務ヲ執行スヘシ

身元引受人ヲ有セサル法人解散シタルトキハ其ノ精算人又ハ破產管財人ヨリ直ニ其ノ事由ヲ棒太廳ニ屆出ツヘシ

第十三條　受負人又ハ身元引受人其ノ住所、事務所、氏名若ハ名稱ヲ變更シタルトキハ受負人ヨリ直ニ棒太廳ニ屆出ツヘシ法人ノ代表者ニ變更アリタルトキ若ハ其ノ氏名ヲ變更シタル場合亦同シ

第十四條　本規程ニ依リ棒太廳ヨリ受負人及身元引受人ニ交付シ又ハ受負人及身元引受人ヨリ棒太廳ニ差出ス書類ハ所屬局所ヲ經由スヘシ

第十五條　受負人ハ遞送人又ハ集配人ヲ採用シ別ニ定ムル通信手規則ニ從ヒ其ノ職務ヲ盡サシムヘシ

第十六條　左記各號ノ一ニ該當スル者及女子ハ遞送人又ハ集配人ト爲スコトヲ得ス

一　年齡十五歲未滿又ハ五十六歲以上ノ者但シ在職中五十六歲以上ニ及ヒタルモノハ此ノ限ニ在ラス

二　服務ニ堪ヘサル者

三　郵便物及電報ノ表書ヲ識ミ得サル者

四　通信手規則ニ違背シ其ノ職務ヲ免セラレ一箇年ヲ經サル者

五　第三條第一項第二號又ハ第三號ニ該當スル者

年齡滿五十六歲ヲ越ユルモ身體强健其ノ職務ニ堪ユル者ハ棒太廳長官ノ認可ヲ經テ遞送人又ハ集配人ト爲スコトヲ得

第十七條　遞送人又ハ集配人ヲ採用シタルトキハ其ノ都度住所氏名年齡及給料額ヲ所屬局所ニ屆出ツヘシ其ノ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事項ヲ又解傭シタルトキハ其ノ氏名ヲ直ニ屆出ツヘシ但シ受負期間六箇月ニ滿タサルモノハ此ノ限リニ在ラス

第十八條　受負人ハ遞送人、集配人第三條第一項第二號、第三號又ハ第

十六條第一項第二號ノ一ニ該當シタルトキハ直ニ之ヲ解艙スヘシ

遞送人又ハ集配人ニ不正ノ行爲アリト認メタルトキハ其ノ服務ヲ停止シ所屬局所ニ即報スヘシ

第十九條　郵便物ノ遞送、集配又ハ電報ノ配達ニ要スル物件ニシテ所屬局所ヨリ交付スルモノノ外ハ總テ受貭人ノ負擔トス

第二十條　身元引受人第十二條ニ依リ受貭人ノ職務ヲ執行シタルトキハ其ノ間ノ受貭料ハ之ヲ身元引受人ニ交付ス

第二十一條　受貭人カ遞送人、集配人ニ給料ヲ交付セサルニ因リ遞送人、集配人ヨリ申告アリタルトキハ樺太廳ハ之ヲ審査シ受貭人ニ支給スヘキ受貭料ノ內ヲ以テ直接遞送人又ハ集配人ニ交付スルコトアルヘシ

第二十二條　受貭人本規程又ハ受貭命令ニ違背シタルトキハ其ノ情狀ニ依リ受貭ヲ解除シ又ハ相當ノ謝金ヲ徵收スルコトアルヘシ

第二十三條　本規程ニ明文ナキ事項ハ郵便及電報ニ關スル一般ノ規定ニ依ルヘシ

別紙

保證書書式

保證書

㊞ 牧入印紙

住所

受貭人　氏名

右ノ者今般何郵便局何郵便局間郵便物遞送（又ハ何郵便局郵便集配又ハ何電報配達）受貭下命相成候ニ就テハ私儀身元引受人ニ相立遞送集配受貭規程ヲ遵守シ受貭人ニ於テ受貭ニ關シ生シタル義務ヲ履行セサルトキハ私代テ速ニ履行仕ルヘク候依テ保證書差出候也

年　月　日　住所　右身元引受人　氏名　印

樺太廳長官宛

●駐在集配郵便物受授及保管手續

昭和三年五月三十日
訓令第三百二十八號
內務部　郵便局（郵便區內ニアル無集配局ヲ除ク）

駐在集配郵便物受授及保管手續左ノ通定ム

駐在集配郵便物受授及保管手續

第一章　通則

第一條　駐在通信手（以下單ニ駐在人ト稱ス）ノ集配スヘキ郵便物其ノ他ノ受授及保管方ハ本令ニ依ル本令ニ明文ナキ事項ハ總テ一般ノ規定ニ依ル

第二條　郵便集配所（以下單ニ集配所ト稱ス）ニハ郵便物其ノ他ノ受授及區分ニ際シ通信ノ祕密ヲ保チ得ヘキ適當ノ設備ヲ爲サシムヘシ

第三條　駐在人ニハ集配受持局（以下單ニ受持局ト稱ス）ヨリ左ノ物品ヲ交付スヘシ

一、鎖鑰アル郵便物保管箱
二、集配鍛鞄口
三、郵便函鍵及證印肉池（駐在集配區ニ郵便函ノ設置アル地ニ限ル）
四、文房具
五、事故用附箋紙

【樺法】

六、封印紙及行嚢封緘糸
七、其ノ他必要ナル物件

第四條　受持局ハ左記各號ノ事項ヲ像メ駐在人ニ通達スヘシ其ノ異動アル場合亦同シ

一、集配區域、集配順路、集配度數、郵便函位置其ノ他集配上必要ナル事項
二、媒介通信手又ハ遞送受貭人（以下單ニ媒介人ト稱ス）ノ集配所到著概定時刻
三、駐在人ノ出發及歸著概定時刻
四、驛長ノ媒介ニ依ルモノニ對シテハ郵便物搭載列車ノ受授驛著發時刻

第五條　駐在人疾病其ノ他ノ事故ノ爲服務シ能ハサルトキハ可成速ニ其ノ旨受持局ニ屆出テシメ受持局ハ豫メ之カ代務者ヲ定メ置キ集配上支障ナキヲ期スヘシ

第二章　郵便物ノ受授

第六條　駐在人ハ媒介人到著概定時刻ヨリ凡ソ二十分前集配所ニ參著スヘシ但シ驛長ノ媒介ニ依ル場合ハ當該列車到著時刻ノ十分前迄ニ指定ノ停車場ニ參著スヘシ

第七條　受持局駐在人間郵便物ノ受授ニハ左記各號ノ場合ヲ除クノ外白行嚢ヲ使用スヘシ

一、驛長ノ媒介ニ依ルモノ又ハ郵便物多數ニシテ白行嚢ニ納メ難キ場合ハ大行嚢ヲ使用スヘシ
二、形狀長大ニシテ大行嚢ニ納メ難キ小包郵便物ハ結束トシテ送付スルコトヲ得

前項ノ行嚢及結束ハ駐在集配區毎ニ各別ニ何局何集配所又ハ何局行ト記載シタル木札若ハ布札ヲ結付スヘシ

第八條　受持局ハ配達郵便物其ノ他物件ノ送達ヲ證明スル爲各駐在集配區毎ニ別紙樣式ノ集配郵便物送達帳及同送達證（以下單ニ送達帳及送達證ト稱ス）ノ調製（炭酸紙使用）スヘシ

第九條　受持局ヨリ駐在人ニ交付スヘキ配達郵便物其ノ他ノ物件ハ左記各號ノ取扱ヲ爲スヘシ

一、各別ニ把束ヲ要スルモノ
イ、普通々常郵便物
ロ、特殊通常郵便物、未納及不足郵便物
ハ、集金郵便委託書及受領證書又ハ證券竝ニ振替貯金ニ依ル集金書、受領證又ハ證券
ニ、貯金取扱規程第五十條ニ依ル取集貯金預入申込書用紙竝ニ受領證及受領證原符又ハ同規程第五十六條ニ依ル返付通帳
ホ、保險集金票及保險料假領收證
二、現金及郵便切手類收入印紙等ノ物件ハ立會者ヲ設ケ適宜ノ封皮（封皮ヲ不便トスルトキハ赤行嚢ヲ使用）ニ納メ在中額ヲ表記シ立會者ト共ニ封印スヘシ

前項ノ取扱ヲ了シタルトキハ前條ノ送達帳及送達證ニ定式ノ記入ヲ爲シ媒介人（驛長媒介ノモノニ在リテハ當該受渡線擔當通信手トス）立會ノ上送達證及郵便物其ノ他ヲ行嚢ニ納メ封印ヲ施シ送達帳相當欄ニ立會者ノ認印ヲ徵スヘシ

第十條　媒介人ト駐在人トノ受授行嚢其ノ他受授方法ハ左記ニ據ルヘシ

【樺法】